一○○八年三月 鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (128)

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書XXV

仁田尾遺跡

(鹿児島市)

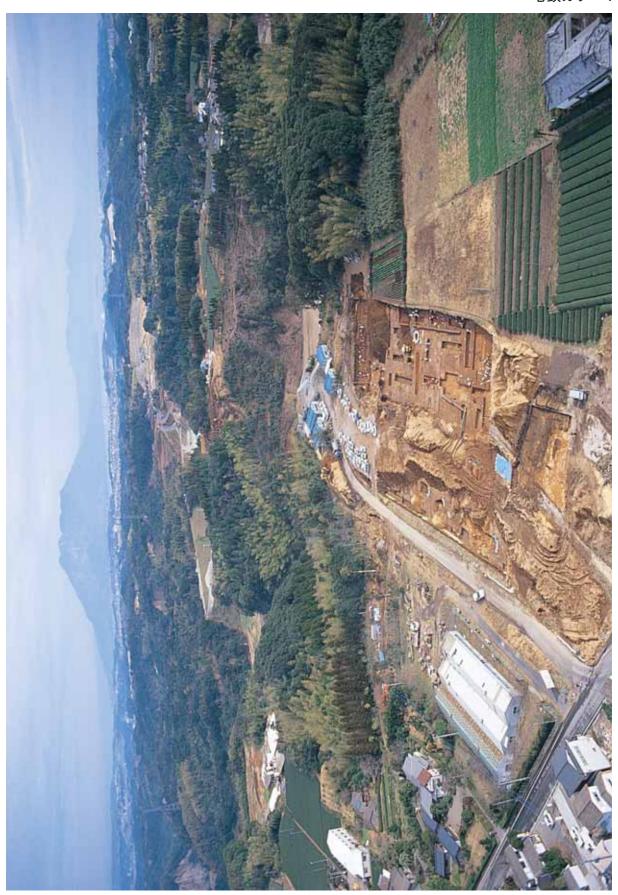
第1分冊(旧石器時代第1文化層編)

2008年 3 月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



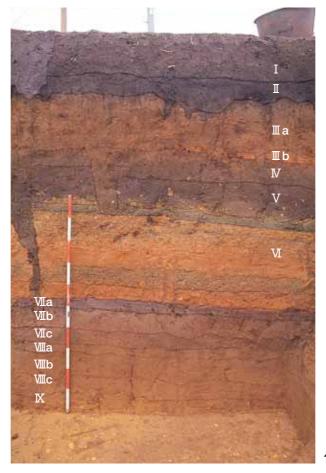
巻頭カラー 1



巻頭カラー 2



礫群の検出



仁田尾遺跡の土層



270



接合資料



序 文

この報告書は南九州西回り自動車道鹿児島道路(鹿児島IC~市来IC間)の建設に伴って、平成5年度から平成7年度にかけて実施した鹿児島市石谷町(旧日置郡松元町)に所在する仁田尾遺跡の発掘調査の記録です。

仁田尾遺跡は、旧石器時代ナイフ形石器文化期と細石刃文化期、そして縄文時代草創期~晩期と古墳時代・古代までの複合遺跡です。そのなかで旧石器時代のナイフ形石器文化と細石刃文化の両時期においては、多数の遺物集中ブロックが検出され、ナイフ形石器や細石刃などの石器は総数10万点を大きく上回る出土量であり、西日本最大規模級の遺跡として全国的に注目されました。

特に、細石刃文化期で発見された16基の落とし穴は、全国的にも貴重な遺構であり、当時の南九州ではすでに落とし穴猟が広く行われていたことを示し、その後に続く縄文時代落とし穴の出現を考えるうえで重要な資料といえます。

本報告書が、県民の皆様はじめ多くの方々に活用され、埋蔵文化財 に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及の一助にな れば幸いです。

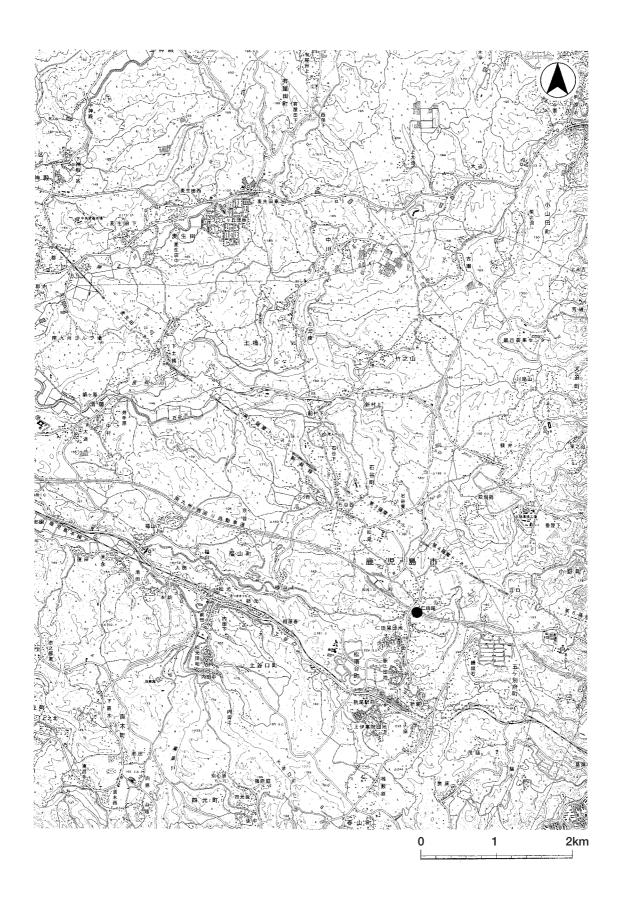
最後に、調査に当たりご協力いただいた国土交通省鹿児島国道事務 所や鹿児島市(旧松元町)教育委員会及び発掘調査に従事された地域 の方々に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 宮 原 景 信

報告 書抄録

				十八	—	12				
ふりが	なに	にたおいせき								
書	名仁	仁田尾遺跡								
副書	名南	九州西回	回り自動車	声道鹿児島	場道路建設に	こ伴う埋]蔵	文化財発掘調査報告書		
巻	次 X	ΧV								
シリーズ	名 鹿	B 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書								
シリーズ番	号 1	28								
編集者	名 宮	宮田栄二, 相美伊久雄, 池畑耕一, 馬籠亮道, 寒川明枝								
編集機	関鹿	児島県ゴ	7.埋蔵文化	比財センタ	<i>7</i> —					
所 在	地 〒	899 - 43	18 鹿児	島県霧島	市国分上野	原縄文	の幕	系2番1号 0995-48-	5811	
発行年月	日 西	曆2008年	三3月31日	1				1		_
ふりがな	ふり	がな	コ	ード	ية مال	<u></u>	∂ ∀	细 木 邯 昭	調査面積	細木 お田
所収遺跡名	所	在 地	市町村	遺跡番号	一 北 緯	東 ; 	経	調査期間	(m²)	調査起因
にたおいせき仁田尾遺跡	からに見いる。	thu か ご 県鹿児 Cressi 谷町	462021	6-152-0	31° 36'	130°	28'	確認調査 19920510~19920703 本調査 19930421~19940330 19940425~19950320 19950808~19960325	300㎡ 12,000㎡	南九州西回 り自動車道 鹿児島道路 建設
所収遺跡名	種別		主な時代	t	主な遺	<u> </u>		主な遺物		特記事項
仁田尾遺跡	散布地	ナイフ 旧石器 ナイフョ 旧石器 細石ス 草創期	時代Ⅲプ 了文化~約	文化 「文化 化終末期	礫群56基 ブロック62 礫群7基 ブロック8 落とし穴16 礫群 1基 溝状遺構 ブロック62 集石23基 土坑11基	6基 1条	1 名 権 荷 月 盲	ナイフ形石器, 台形石器 削器, 石核, 接合資料に 小型ナイフ, 小型台形石 レイパー, 石核ほか 細石刃, 細石刃核, スク 製形石器, 磨石, 敲石, 樂器, 磨製石斧, 石鏃, 十 前平式土器, 吉田式土器 土器, 深浦式土器, 船元	まか 一器, スク レイパー, 打製石斧, 無文土器 器, 曽畑式	
		縄文門 古墳~	·代早期~ ····································	-晚期	五元11年 掘立柱建物 落とし穴3		3 3	指宿式土器, 市来式土器 石鏃, 石匙, 石錐, 打撃 製石斧ほか ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	製石斧,磨	
遺跡の概要	世田尾遺跡は、旧石器時代ナイフ形石器文化期から中世までの複合遺跡である。旧石器時代はA T直上の狸谷型ナイフ形石器を主体とするものである。第Ⅲ文化層は旧石刃時代細石刃文化から一部縄文時代草創期を含むものであり、62か所のブロックが検出されるなど西日本最大規模の遺跡内容である。この文化層ではこれまでに例のない落とし穴が16基検出され注目された。									



仁田尾遺跡の位置図

例 言

- 1 本報告書は、南九州西回り自動車道鹿児島道路(鹿児島西IC~伊集院西IC)建設に伴う仁 田尾遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県鹿児島市石谷町(旧日置郡松元町石谷)仁田尾に所在する。
- 3 発掘調査は、建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所(現 国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所)から鹿児島県教育委員会が受託し、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 4 発掘調査は、平成5・6年度と、平成7年度は平成7年8月8日から平成8年3月25日まで実施し、整理作業及び報告書作成は、平成10年度と平成16~19年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで実施した。
- 5 遺物番号は、旧石器時代の各文化層及び縄文時代の各時期ごとに、通し番号とし、本文・表・ 挿図・図版の番号は一致する。また、遺物取上番号は、通し番号であり、本報告書ではそのまま 使用した。
- 6 挿図の縮尺は,各図面に示した。石器の挿図縮尺は, Ш層遺物はは5分の4, Ш層遺物は原寸, V~Ⅲ層遺物は3分の2もしくは3分の1を基本とする。
- 7 本書で用いたレベル数値は、当時の建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所が提示した工 事計画図面に基づく海抜絶対高である。
- 8 発掘調査における図面の作成,写真の撮影は,各調査年度の調査担当者が行った。空中写真撮 影は,有限会社スカイサーベイに委託した。
- 9 遺構実測図のトレースは、整理作業員の協力を得て宮田栄二が行った。
- 10 土器の実測・トレースは、整理作業員の協力を得て相美伊久雄が行った。
- 11 石器の実測・トレースは、株式会社九州文化財研究所、国際航空業株式会社、株式会社パスコ、 埋蔵文化財サポートシステムに委託し、監修は宮田栄二が行った。また、石器のなかで細石刃と 一部の石器については、埋蔵文化財センター石器実測斑が実測・トレースを行った。
- 12 石材別出土分布図,器種別出土分布図,縄文時代土器出土分布図,縄文時代石器種別出土分布図などのパソコンによる作図は内村光伸が作成した。
- 13 テフラの分析,炭化物の放射性炭素年代測定,植物珪酸体分析,花粉分析,炭化種実分析,黒曜石産地分析などは,株式会社古環境研究所,パリノ・サーヴェイ,パレオ・ラボ,遺物材料研究所,加速器分析研究所に委託した。また,土器付着物の年代測定は国立歴史民俗博物館・年代測定研究グループに依頼した。これらの分析結果は第IX章に掲載している。
- 14 遺物の写真撮影は、吉岡康弘・羽嶋敦洋・福薗慶明・寒川明枝が行った。
- 15 本書における執筆は、第1分冊を宮田栄二が、第2分冊を宮田が中心となり一部を馬籠亮道が担当した。第3分冊はWI章の縄文土器と、WI章を相美伊久雄が担当し、縄文時代石器は宮田が中心となり一部を池畑耕一が担当した。
- 16 本書の編集は、第1分冊と第3分冊を宮田が、第2分冊は井ノ上秀文と宮田が行った。第4分冊の写真図版編は寒川明枝が行った。
- 17 遺物は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する予定である。なお、仁田尾遺跡の遺物注記の略号は「NI」である。

目 次 (第1分冊)

巻頭カ	ラ	_	図	版
序文				

例言

目次	
第Ⅰ章 発掘調査の経過	1
第1節 調査に至るまでの経過	1
第2節 調査の組織	1
第3節 組織の経過と概要	6
第4節 西回り自動車道関連の遺跡と概要	9
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境	13
第1節 地理的環境	13
第2節 歴史的環境	16
第Ⅲ章 発掘調査の方法と層序	20
第1節 発掘調査の方法	2(
第2節 遺跡の層序	21
第Ⅳ章 旧石器時代Ⅰ文化層の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
第1節 調査の概要	36
1. 調査の概要	36
2. 旧石器時代 I 文化層の石器石材	36
第2節 検出遺構	38
1. I文化層のブロックとブロック群	38
2. 礫群	41
第3節 出土遺物と接合資料	83
1. Aブロック群の石器群···································	83
2. Bブロック群の石器群······ 14	4(
3. Cブロック群の石器群	66
4. Dブロック群の石器群	22
5. Eブロック群の石器群 26	6(
6. Fブロック群の石器群	12
第 4 節 小結	32

第2分冊

第 ∨章 旧石器時代 Ⅱ 文化層の遺構と遺物

第1節 調査の概要

第2節 検出遺構

1. Ⅱ文化層の石器群ブロック

2. 礫群

第3節 Ⅱ文化層の出土石器群

第4節 小結

第Ⅵ章 旧石器時代Ⅲ文化層の遺構と遺物

第1節 調査の概要

1. 調査の概要

2. Ⅲ文化層の石器石材

第2節 検出遺構

1. Ⅲ文化層のブロックとブロック群

2. 陥し穴状遺構

3. 溝状遺構

4. 礫群

第3節 出土遺物と接合資料

1. Aブロック群の石器群

2. Bブロック群の石器群

3. Cブロック群の石器群

4. Dブロック群の石器群

5. Eブロック群の石器群

6. Fブロック群の石器群

7. ブロック外の石器群

8. 出土細石刃

9. 出土石鏃

10. 出土土器

第4節 小結

1. 陥し穴について

2. 道状の遺構について

3. 接合資料と細石刃製作技術

第3分冊

第Ⅲ章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 縄文時代調査の概要

第2節 縄文時代早期の遺構と遺物

1. 検出遺構

2. 出土遺物

第3節 縄文時代前期の遺構と遺物

1. 概要

2. 検出遺構

3. 出土遺物

第4節 縄文時代中~後期の遺物

1. 縄文中期の土器

2. 縄文後期の土器

第5節 縄文時代晩期の遺構と遺物

1. 検出遺構

2. 出土遺物

第6節 縄文時代の小結

第11章 古墳時代~古代・中世の遺構と遺物

第1節 古墳時代の遺物

第2節 古代~中世の遺物

第3節 小結

第1X章 自然科学分析

第1節 土層とテフラ分析

第2節 礫群の年代測定1

第3節 植物珪酸体分析

第4節 プラントオパール定量分析

第5節 花粉分析

第6節 炭化種実同定

第7節 黒曜石製遺物の産地分析

第8節 出土土器の年代測定

第9節 礫群の年代測定2

第10節 出土貝殻の年代測定

第 X 章 仁田尾遺跡の総括

挿 図 目 次

第1分日	#	第34図	第 I 文化層47号・48号礫群55
第1図	調査の経過17	第35図	第 I 文化層 6 号・7 号・8 号礫群…56
第2図	調査の経過 28	第36図	第 I 文化層 9 号・10号・5 号礫群…57
第3図	南九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財	第37図	第 I 文化層26号·27号·11号·50号礫群···59
	発掘調査遺跡位置12	第38図	第 I 文化層17号礫群······60
第4図	仁田尾遺跡の位置13	第39図	第 I 文化層15号・16号・14号礫群…61
第5図	薩摩半島中部の地形区分図14	第40図	第 I 文化層31号·32号·12号·13号礫群···62
第6図	仁田尾遺跡の周辺地形15	第41図	第 I 文化層24号・25号礫群64
第7図	周辺の遺跡18	第42図	第 I 文化層23号・21号・22号礫群…65
第8図	仁田尾遺跡基本土層柱状図21	第43図	第 I 文化層28号・29号礫群66
第9図	仁田尾遺跡の土層(1)22	第44図	第 I 文化層18号・19号・20号礫群…67
第10図	仁田尾遺跡の土層(2)23	第45図	第 I 文化層30号礫群······68
第11図	仁田尾遺跡の土層(3)24	第46図	第 I 文化層51号・52号・53号礫群…69
第12図	仁田尾遺跡の土層(4)25	第47図	A-南側礫群 ······71
第13図	仁田尾遺跡の土層(5)26	第48図	A-中央部礫群間の接合 ······72
第14図	仁田尾遺跡の土層(6)27	第49図	A-西側礫群間の接合 ······73
第15図	仁田尾遺跡の土層(7)28	第50図	B-東側礫群74
第16図	仁田尾遺跡の土層(8)29	第51図	B-西側礫群間の接合75
第17図	仁田尾遺跡の土層(9)30	第52図	D-礫群間の接合76
第18図	仁田尾遺跡の土層(10)31	第53図	E-礫群間の接合77
第19図	仁田尾遺跡の土層(11)32	第54図	礫群重量組成グラフ(1)78
第20図	仁田尾遺跡の土層(12)33	第55図	礫群重量組成グラフ(2)79
第21図	仁田尾遺跡の土層(13)34	第56図	礫群重量組成グラフ(3)80
第22図	仁田尾遺跡の土層(14)35	第57図	礫群重量組成グラフ(4)81
第23図	第Ⅰ文化層のブロックと石材・・・・・・39	第58図	Aブロック群南東部のブロックと石材
第24図	第 I 文化層礫群分布図 ······43		分布図84
第25図	第 I 文化層49号・38号礫群45	第59図	第A-12・11・19ブロック主要石器出
第26図	第 I 文化層35号礫群······46		土分布図85
第27図	第 I 文化層36号·37号·44号·45号礫群···47	第60図	A-12·11·19ブロック器種別分布図 …86
第28図	第 I 文化層42号・43号礫群48	第61図	A-19・12ブロック出土石器87
第29図	第 I 文化層39号・40号・41号礫群…49	第62図	A-11ブロック出土石器 ······88
第30図	第 I 文化層33号・34号・46号礫群…50	第63図	A-10・20ブロック主要石器出土分布図 …90
第31図	第 I 文化層 2 号礫群······51	第64図	A-10・20ブロック器種別分布図91
第32図	第Ⅰ文化層1号・3号礫群52	第65図	A-20ブロック出土石器92
第33図	第 I 文化層 4 号礫群······54	第66図	A-20・10ブロック出土石器93

第67図	A-10・8ブロック出土石器 ······94	第100図	A-接合資料分布図(3) ·····134
第68図	A-8・13・9ブロック主要石器出土分	第101図	A-接合資料図(15) ······135
	布図96	第102図	A-接合資料分布図(4) ······136
第69図	A-8·13·9ブロック器種別分布図 …97	第103図	Aブロック群接合全体図137
第70図	A-9・8ブロック出土石器98	第104図	Bブロック群北西部のブロックと石材分
第71図	Aブロック群西側のブロックと石材分		布図138
	布図100	第105図	Bブロック群南東部のブロックと石材分
第72図	A-36・35・34ブロック主要石器出土分		布図139
	布図101	第106図	B-18・17ブロック主要石器出土分布図…141
第73図	A-36・35・34ブロック器種別分布図…102	第107図	B-18・17ブロック器種別分布図 …142
第74図	A-35・36ブロック出土石器103	第108図	B-18ブロック出土石器143
第75図	A-34ブロック出土石器104	第109図	B-18・17ブロック出土石器144
第76図	A-31・29・30ブロック主要石器出土分	第110図	B-16a・16b・16cブロック主要石器出
	布図106		土分布図146
第77図	A-31・29・30ブロック器種別分布図 …107	第111図	B-16a·16b·16cブロック器種別分布図…147
第78図	A-31ブロック出土石器108	第112図	B-16aブロック出土石器148
第79図	A-31・30ブロック出土石器109	第113図	B-16a・16b・16cブロック出土石器 …149
第80図	A-30・29ブロック出土石器110	第114図	B-23・14・27ブロック主要石器出土分
第81図	A-5・6 ブロック主要石器出土分布図…112		布図151
第82図	A-5・6 ブロック器種別分布図113	第115図	B-23・14ブロック出土石器152
第83図	A-5・6 ブロック出土石器114	第116図	B-23・14・27ブロック器種別分布図 …153
第84図	A-接合資料図(1) ······116	第117図	B-15・3ブロック主要石器出土分布図 …154
第85図	A-接合資料図(2) ······117	第118図	B-27・3ブロック出土石器155
第86図	A-接合資料図(3) ······118	第119図	B-接合資料図(1)157
第87図	A-接合資料図(4) ······119	第120図	B-接合資料図(2) ······158
第88図	A-接合資料分布図(1) ······120	第121図	B-接合資料図(3)159
第89図	A-接合資料図(5) ·····122	第122図	B-接合資料図(4)160
第90図	A-接合資料図(6) ·····123	第123図	B-接合資料分布図(1)161
第91図	A-接合資料図(7) ······124	第124図	B-接合資料図(5) ·····162
第92図	A-接合資料図(8) ·····125	第125図	B-接合資料図(6)163
第93図	A-接合資料図(9) ·····126	第126図	B-接合資料分布図(2)164
第94図	A-接合資料分布図(2) ·····127	第127図	Bブロック群接合全体図165
第95図	A-接合資料図(10) ······128	第128図	Cブロック群のブロックと石材分布図 …166
第96図	A-接合資料図(11) ·····129	第129図	C-4・7・1・2ブロック主要石器出土
第97図	A-接合資料図(12) ······131		分布図169
第98図	A-接合資料図(13) ·····132	第130図	C-4・7・1・2ブロック器種別分布図
第99図	A-接合資料図(14) ······133		170

第131図	C-4ブロック出土石器171	第167図	C-接合資料図(22) ······211
第132図	C-4・7ブロック出土石器172	第168図	C-接合資料図(23) ······212
第133図	C-7・2ブロック出土石器173	第169図	C-接合資料図(24) ······213
第134図	C-1・39ブロック出土石器174	第170図	C-接合資料図(25) ······214
第135図	C-39・38・40ブロック主要石器出土分	第171図	C-接合資料図(26) ······215
	布図176	第172図	C-接合資料図(27) ······216
第136図	C-39・38・40ブロック器種別分布図…177	第173図	C-接合資料分布図(6) ······217
第137図	C-37ブロック主要石器出土分布図…178	第174図	C-接合資料図(28) ······218
第138図	C-37ブロック器種別分布図178	第175図	C-接合資料図(29) ······219
第139図	C-38ブロック出土石器179	第176図	C-接合資料分布図(7) ······220
第140図	C-38・37ブロック出土石器180	第177図	Cブロック群接合全体図221
第141図	C-接合資料図(1) ·····182	第178図	Dブロック群のブロックと石材分布図 …223
第142図	C-接合資料図(2) ·····183	第179図	D-21ブロック主要石器出土分布図225
第143図	C-接合資料図(3) ·····184	第180図	D-21ブロック器種別分布図226
第144図	C-接合資料図(4) ·····185	第181図	D-21bブロック出土石器(1)227
第145図	C-接合資料分布図(1) ······186	第182図	D-21bブロック出土石器(2)228
第146図	C-接合資料図(5) ·····188	第183図	D-21bブロック出土石器(3)229
第147図	C-接合資料図(6) ·····189	第184図	D-21aブロック出土石器230
第148図	C-接合資料図(7) ·····190	第185図	D-24・28・25・26ブロック主要石器出
第149図	C-接合資料分布図(2) ·····191		土分布図233
第150図	C-接合資料図(8) ·····192	第186図	D-24・28・25・26ブロック器種別分
第151図	C-接合資料図(9) ·····193		布図234
第152図	C-接合資料分布図(3) ·····194	第187図	D-24ブロック出土石器235
第153図	C-接合資料図(10) ·····196	第188図	D-25ブロック出土石器(1) ······236
第154図	C-接合資料図(11) ·····197	第189図	D-25ブロック出土石器(2) ······237
第155図	C-接合資料図(12) ·····198	第190図	D-25ブロック出土石器(3) ······238
第156図	C-接合資料図(13) ·····199	第191図	D-28・26ブロック出土石器239
第157図	C-接合資料図(14) ······200	第192図	D-32・33ブロック主要石器出土分布図…241
第158図	C-接合資料分布図(4) ······201	第193図	D-32・33ブロック器種別分布図 …242
第159図	C-接合資料図(15) ·····203	第194図	D-32・33ブロック出土石器243
第160図	C-接合資料図(16) ·····204	第195図	D-接合資料図(1)245
第161図	C-接合資料図(17) ······205	第196図	D-接合資料図(2) ······246
第162図	C-接合資料図(18) ·····206	第197図	D-接合資料図(3) ·····247
第163図	C-接合資料図(19) ·····207	第198図	D-接合資料図(4)248
第164図	C-接合資料分布図(5) ······208	第199図	D-接合資料図(5)249
第165図	C-接合資料図(20) ······209	第200図	D-接合資料分布図(1) ······250
第166図	C-接合資料図(21) ······210	第201図	D-接合資料図(6) ······252

第202図	D-接合資料図(7) ······253	第237図	E-接合資料図(1) ·····298
第203図	D-接合資料図(8) ·····254	第238図	E-接合資料図(2) ·····299
第204図	D-接合資料図(9) ·····255	第239図	E-接合資料図(3) ·····300
第205図	D-接合資料図(10)256	第240図	E-接合資料図(4) ·····301
第206図	D-接合資料分布図(2) ······257	第241図	E-接合資料図(5)302
第207図	D-接合資料分布図(3) ······258	第242図	E-接合資料図(6) ·····303
第208図	Dブロック群接合全体図259	第243図	E-接合資料図(7) ·····304
第209図	Eブロック群のブロックと石材分布図 …261	第244図	E-接合資料図(8)305
第210図	E-22・41ブロック主要石器出土分布図…262	第245図	E-接合資料図(9) ·····306
第211図	E-22·41ブロック器種別出土分布図 …263	第246図	E-接合資料分布図(1) ······307
第212図	E-22ブロック出土石器264	第247図	E-接合資料分布図(2) ·····308
第213図	E-22・41ブロック出土石器265	第248図	E-接合資料分布図(3) ······309
第214図	E-41ブロック出土石器266	第249図	E-接合資料分布図(4) ······310
第215図	E-42ブロック出土石器(1)268	第250図	Eブロック群接合全体図311
第216図	E-42ブロック出土石器(2)269	第251図	A~Eのブロック外出土石器313
第217図	E-42・43ブロック剥片尖頭器・ナイフ	第252図	F-50·51ブロック石材別出土分布図 …314
	形石器出土分布図271	第253図	F-50·51ブロック器種別出土分布図 …315
第218図	E-42·43ブロック台形石器出土分布図…272	第254図	F-50・51ブロック出土石器316
第219図	E-42・43ブロック器種別出土分布図 …273	第255図	F-接合資料図(1)317
第220図	E-43ブロック出土石器(1)275	第256図	F-接合資料図(2) ······318
第221図	E-43ブロック出土石器(2)276	第257図	Aブロック群のナイフ形石器332
第222図	E-43ブロック出土石器(3)277	第258図	B・Cブロック群のナイフ形石器 …333
第223図	E-43ブロック出土石器(4)278	第259図	Dブロック群のナイフ形石器334
第224図	E-44・45・46ブロックナイフ形石器・	第2分冊	0
	台形石器出土分布図280	第260図	第Ⅱ文化層ブロック全体図2
第225図	E-44·45·46掻器·削器出土分布図 ·····281	第261図	第Ⅱ文化層礫群配置図3
第226図	E-44・45・46ブロック器種別分布図282	第262図	第 Ⅱ 文化層礫群 (1) (1号)4
第227図	E-44・45ブロック出土石器283	第263図	第Ⅱ文化層礫群(2)(2~5号)5
第228図	E-45ブロック出土石器(2)284	第264図	第 Ⅱ 文化層礫群 (3) (6号)6
第229図	E-45ブロック出土石器(3)285	第265図	第Ⅱ文化層礫群(4)(7号)7
第230図	E-45ブロック出土石器(4)286	第266図	第Ⅱ文化層1~4ブロック石材別出土分
第231図	E-47·48·49主要石器出土分布図 ······289		布図(1)9
第232図	E-47・48・49ブロック器種別分布図290	第267図	第Ⅱ文化層1~4ブロック石器出土分布
第233図	E-46・47ブロック出土石器292		図10
第234図	E-47ブロック出土石器(1)293	第268図	第 Ⅱ 文化層 1 ブロック出土石器 (1) …11
第235図	E-47ブロック出土石器(2)294	第269図	第 Ⅱ 文化層 1 ブロック出土石器 (2) …12
第236図	E-48・49ブロックほか出土石器295	第270図	第Ⅱ文化層 1 ブロック出土石器 (3) …13

第271図	第Ⅱ文化層 2 ブロック出土石器 (1) …15		(頁岩類)53
第272図	第Ⅱ文化層 2 ブロック出土石器 (2) …16	第301図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(5)
第273図	第 Ⅱ 文化層 2 ブロック出土石器 (3) …17		(ギョクズイ系)57
第274図	第Ⅱ文化層 3 ブロック出土石器18	第302図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(6)
第275図	第Ⅱ文化層4~6ブロック石材別出土		(砂岩・安山岩)59
	分布図(2)20	第303図	第Ⅲ文化層陥し穴の配置図61
第276図	第Ⅱ文化層4~6ブロック石器出土分	第304図	第Ⅲ文化層陥し穴(1)66
	布図21	第305図	第Ⅲ文化層陥し穴(2)67
第277図	第Ⅱ文化層 4ブロック出土石器22	第306図	第Ⅲ文化層陥し穴(3)68
第278図	第Ⅱ文化層 5・6 ブロック出土石器 …23	第307図	第Ⅲ文化層陥し穴(4)69
第279図	第 Ⅱ 文化層 6 ブロック出土石器 (2) …24	第308図	第Ⅲ文化層陥し穴(5)70
第280図	第Ⅱ文化層 6 ブロック出土石器(3) …25	第309図	第Ⅲ文化層陥し穴(6)71
第281図	第Ⅱ文化層 6 ブロック出土石器(4) …26	第310図	第Ⅲ文化層陥し穴(7)72
第282図	第Ⅱ文化層 6 ブロック出土石器(5) …27	第311図	第Ⅲ文化層陥し穴(8)73
第283図	第Ⅱ文化層6~8ブロック石材別出土	第312図	第Ⅲ文化層の溝状遺構74
	分布図(3)29	第313図	第Ⅲ文化層の礫群・・・・・・75
第284図	第Ⅱ文化層6~8ブロック石器出土分	第314図	第Ⅲ文化層1ブロック出土石器(1) …77
	布図30	第315図	第Ⅲ文化層1ブロック石材別出土分布図 …78
第285図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(1) …31	第316図	第Ⅲ文化層1ブロック石器出土分布図 …79
第286図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(2) …32	第317図	第Ⅲ文化層 1 ブロック出土石器(2) …80
第287図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(3) …33	第318図	第Ⅲ文化層 1 ブロック出土石器(3) …81
第288図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(4) …34	第319図	第Ⅲ文化層 1 ブロック出土石器 (4) …82
第289図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(5) …35	第320図	第Ⅲ文化層 1 ブロック出土石器(5) …84
第290図	第Ⅱ文化層 7 ブロック出土石器(6) …36	第321図	第Ⅲ文化層 1 ブロック出土石器 (6) …85
第291図	第Ⅱ文化層 8 ブロック出土石器37	第322図	第Ⅲ文化層1ブロック出土石器(7)…86
第292図	第Ⅱ文化層各ブロック出土礫石器(1)…39	第323図	第Ⅲ文化層 2・3ブロック石材別出土分
第293図	第Ⅱ文化層各ブロック出土礫石器(2)…40		布図87
第294図	第Ⅱ文化層石器接合図41	第324図	第Ⅲ文化層 2・3ブロック石器出土分布
第295図	ナイフ終末期の亀の甲型石核44		図88
第296図	仁田尾遺跡と石材産地47	第325図	第Ⅲ文化層 2 ブロック出土石器(1) …90
第297図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(1)	第326図	第Ⅲ文化層 2 ブロック出土石器(2) …91
	(三船産黒曜石)49	第327図	第Ⅲ文化層 2 ブロック出土石器(3) …92
第298図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(2)	第328図	第Ⅲ文化層 2 ブロック出土石器(4) …93
	(上牛鼻産黒曜石)51	第329図	第Ⅲ文化層 2 ブロック出土石器 (5) …94
第299図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(3)	第330図	第Ⅲ文化層 3 ブロック出土石器96
	(桑ノ木津留・腰岳・古里産黒曜石) …53	第331図	第Ⅲ文化層石器接合図(1)97
第300図	第Ⅲ文化層石材別出土分布図(4)	第332図	第Ⅲ文化層 4 ブロック石材別出土分布図98

第333図	第Ⅲ文化層4ブロック石器出土分布図・・・・・99	第364図	第Ⅲ文化層12ブロック出土石器(2)…134
第334図	第Ⅲ文化層 4 ブロック出土石器 (1) …100	第365図	第Ⅲ文化層12ブロック出土石器(3) …135
第335図	第Ⅲ文化層4ブロック出土石器(2) …101	第366図	第Ⅲ文化層13ブロック出土石器136
第336図	第Ⅲ文化層4ブロック出土石器(3) …102	第367図	第Ⅲ文化層13ブロック礫器集中137
第337図	第Ⅲ文化層4ブロック出土石器(4) …103	第368図	第Ⅲ文化層14・16ブロック石材別出土分
第338図	第Ⅲ文化層4ブロック出土石器(5) …104		布図139
第339図	第Ⅲ文化層4ブロック出土石器(6) …105	第369図	第Ⅲ文化層14・16ブロック石器出土分布
第340図	第Ⅲ文化層 5 ~ 7 ブロック石材別出土		図140
	分布図107	第370図	第Ⅲ文化層14ブロック出土石器(1) …141
第341図	第Ⅲ文化層 5 ~ 7 ブロック石器出土分	第371図	第Ⅲ文化層14ブロック出土石器(2) …142
	布図108	第372図	第Ⅲ文化層15ブロック出土石器143
第342図	第Ⅲ文化層5ブロック出土石器(1) …109	第373図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(1) …145
第343図	第Ⅲ文化層5ブロック出土石器(2) …110	第374図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(2) …146
第344図	第Ⅲ文化層5ブロック出土石器(3) …111	第375図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(3) …147
第345図	第Ⅲ文化層5ブロック出土石器(4) …112	第376図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(4) …148
第346図	第Ⅲ文化層6ブロック出土石器(1) …113	第377図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(5) …149
第347図	第Ⅲ文化層6ブロック出土石器(2) …114	第378図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(6) …150
第348図	第Ⅲ文化層6ブロック出土石器(3) …115	第379図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(7) …151
第349図	第Ⅲ文化層7ブロック出土石器(1) …117	第380図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(8) …152
第350図	第Ⅲ文化層7ブロック出土石器(2) …118	第381図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(9) …153
第351図	第Ⅲ文化層7ブロック出土石器(3) …119	第382図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(10) …154
第352図	第Ⅲ文化層7ブロック出土石器(4) …120	第383図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(11) …155
第353図	第Ⅲ文化層8~10ブロック石材別出土分	第384図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(12) …156
	布図122	第385図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(13) …157
第354図	第Ⅲ文化層8~10ブロック石器出土分布	第386図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(14) …159
	図123	第387図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(15) …160
第355図	第Ⅲ文化層10ブロック出土石器(1)…124	第388図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(16) …161
第356図	第Ⅲ文化層10ブロック出土石器(2)…125	第389図	第Ⅲ文化層16ブロック出土石器(17) …162
第357図	第Ⅲ文化層10ブロック出土石器(3)…126	第390図	第Ⅲ文化層16ブロック礫器・大型石核集
第358図	第Ⅲ文化層10ブロック出土石器(4)…127		中部163
第359図	第Ⅲ文化層11・12・13・15ブロック石材別	第391図	第Ⅲ文化層16ブロック接合図165
	出土分布図129	第392図	第Ⅲ文化層17・19・20・21ブロック石材別
第360図	第Ⅲ文化層11・12・13・15ブロック石器出		出土分布図166
	土分布図130	第393図	第Ⅲ文化層17・19・20・21ブロック石器出
第361図	第Ⅲ文化層11ブロック出土石器(1)…131		土分布図167
第362図	第Ⅲ文化層11ブロック出土石器(2)…132	第394図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(1) …168
第363図	第Ⅲ文化層12ブロック出土石器(1) …133	第395図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(2) …169

第396図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(3) …170	第429図	第Ⅲ文化層25ブロック出土石器(1) …206
第397図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(4) …171	第430図	第Ⅲ文化層25ブロック出土石器(2) …207
第398図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(5) …173	第431図	第Ⅲ文化層25ブロック出土石器(3) …208
第399図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(6) …174	第432図	第Ⅲ文化層25ブロック出土石器(4) …209
第400図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(7) …175	第433図	第Ⅲ文化層接合図(3) · · · · · · · · · · 210
第401図	第Ⅲ文化層17ブロック出土石器(8) …176	第434図	第Ⅲ文化層26・27ブロック石材別出土分
第402図	第Ⅲ文化層石器接合図(2)177		布図211
第403図	第Ⅲ文化層18ブロック石材別出土分布	第435図	第Ⅲ文化層26・27ブロック石器出土分布
	図178		図212
第404図	第Ⅲ文化層18ブロック石器出土分布図 …179	第436図	第Ⅲ文化層26ブロック出土石器(1) …213
第405図	第Ⅲ文化層18ブロック出土石器180	第437図	第Ⅲ文化層26ブロック出土石器(2) …214
第406図	第Ⅲ文化層19ブロック出土石器(1) …181	第438図	第Ⅲ文化層27・28ブロック出土石器 …215
第407図	第Ⅲ文化層19ブロック出土石器(2) …182	第439図	第Ⅲ文化層28ブロック石材別出土分布
第408図	第Ⅲ文化層19ブロック出土石器(3) …183		図216
第409図	第Ⅲ文化層19ブロック出土石器(4) …184	第440図	第Ⅲ文化層28ブロック石器出土分布図…216
第410図	第Ⅲ文化層20・21ブロック出土石器(1) …186	第441図	第Ⅲ文化層29・30ブロック石材別出土分
第411図	第Ⅲ文化層20ブロック出土石器(2) …187		布図217
第412図	第Ⅲ文化層20ブロック出土石器(3) …188	第442図	第Ⅲ文化層29・30ブロック石器出土分布
第413図	第Ⅲ文化層20・21ブロック出土石器(4) …189		図218
第414図	第Ⅲ文化層20・21ブロック出土石器(5) …190	第443図	第Ⅲ文化層29ブロック出土石器219
第415図	第Ⅲ文化層20・21ブロック出土石器(6) …191	第444図	第Ⅲ文化層30ブロック出土石器220
第416図	第Ⅲ文化層22ブロック石材別出土分布	第445図	第Ⅲ文化層31・32ブロック石材別出土分
	図192		布図221
第417図	第Ⅲ文化層22ブロック石器出土分布図…193	第446図	第Ⅲ文化層31・32ブロック石器出土分布
第418図	第Ⅲ文化層22ブロック出土石器(1) …194		図 ·······222
第419図	第Ⅲ文化層22ブロック出土石器(2) …195	第447図	第Ⅲ文化層31ブロック出土石器223
第420図	第Ⅲ文化層23・24・25ブロック石材別出	第448図	第Ⅲ文化層32・33ブロック出土石器…224
	土分布図197	第449図	第Ⅲ文化層33ブロック石材別出土分布
第421図	第Ⅲ文化層23・24・25ブロック石器出土		図225
	分布図198	第450図	第Ⅲ文化層33ブロック石器出土分布図 …225
第422図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(1) …199	第451図	第Ⅲ文化層34・35・40・43ブロック石材別
第423図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(2) …200		出土分布図227
第424図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(3) …201	第452図	第Ⅲ文化層34・35・40・43ブロック石器出
第425図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(4) …202		土分布図228
第426図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(5) …203	第453図	第Ⅲ文化層34ブロック出土石器(1) …229
第427図	第Ⅲ文化層23ブロック出土石器(6) …204	第454図	第Ⅲ文化層34ブロック出土石器(2) …230
第428図	第Ⅲ文化層24ブロック出土石器205	第455図	第Ⅲ文化層35ブロック出土石器231

第456図	第Ⅲ文化層35~39ブロック石材別出土		布図264
	分布図232	第486図	第Ⅲ文化層46・47ブロック石器出土分布
第457図	第Ⅲ文化層35~39ブロック石器出土分		図265
	布図233	第487図	第Ⅲ文化層46ブロック出土石器(1) …266
第458図	第Ⅲ文化層36ブロック出土石器234	第488図	第Ⅲ文化層46ブロック出土石器(2) …267
第459図	第Ⅲ文化層36・37ブロック出土石器 …235	第489図	第Ⅲ文化層46ブロック出土石器(3) …268
第460図	第Ⅲ文化層38ブロック出土石器(1) …237	第490図	第Ⅲ文化層46ブロック出土石器(4) …269
第461図	第Ⅲ文化層38ブロック出土石器(2) …238	第491図	第Ⅲ文化層46ブロック出土石器(5) …270
第462図	第Ⅲ文化層40ブロック出土石器(1) …239	第492図	第Ⅲ文化層47ブロック出土石器271
第463図	第Ⅲ文化層40ブロック出土石器(2) …240	第493図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(1) …272
第464図	第Ⅲ文化層41・42ブロック石材別出土分	第494図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(2) …273
	布図241	第495図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(3) …274
第465図	第Ⅲ文化層41・42ブロック石器出土分布	第496図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(4) …275
	図242	第497図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(5) …276
第466図	第Ⅲ文化層41ブロック出土石器(1) …243	第498図	第Ⅲ文化層48ブロック出土石器(6) …277
第467図	第Ⅲ文化層41ブロック出土石器(2) …244	第499図	第Ⅲ文化層48ブロック磨石集積278
第468図	第Ⅲ文化層41ブロック出土石器(3) …245	第500図	第Ⅲ文化層49ブロック石材別出土分布
第469図	第Ⅲ文化層41・42ブロック出土石器 …247		図 ······279
第470図	第Ⅲ文化層43ブロック出土石器248	第501図	第Ⅲ文化層49ブロック石器出土分布図
第471図	第Ⅲ文化層44ブロック石材別出土分布		280
	図249	第502図	第Ⅲ文化層49ブロック出土石器(1) …281
第472図	第Ⅲ文化層44ブロック石器出土分布図 …250	第503図	第Ⅲ文化層49ブロック出土石器(2) …282
第473図	第Ⅲ文化層44ブロック出土石器(1) …251	第504図	第Ⅲ文化層49ブロック出土石器(3) …283
第474図	第Ⅲ文化層44ブロック出土石器(2) …252	第505図	第Ⅲ文化層49ブロック出土石器(4) …284
第475図	第Ⅲ文化層44ブロック出土石器(3) …253	第506図	第Ⅲ文化層49ブロックブランク素材礫と
第476図	第Ⅲ文化層44ブロック出土石器(4) …254		その集中285
第477図	第Ⅲ文化層44ブロック出土石器(5) …255	第507図	第Ⅲ文化層50~53ブロック石材別出土
第478図	第Ⅲ文化層45・48ブロック石材別出土分		分布図287
	布図257	第508図	第Ⅲ文化層50~53ブロック石器出土分
第479図	第Ⅲ文化層45・48ブロック石器出土分布		布図288
	図258	第509図	第Ⅲ文化層50・51ブロック出土石器 …290
第480図	第Ⅲ文化層45ブロック出土石器(1) …259	第510図	第Ⅲ文化層51ブロック出土石器(2) …291
第481図	第Ⅲ文化層45ブロック出土石器(2) …260	第511図	第Ⅲ文化層51ブロック出土石器(3) …292
第482図	第Ⅲ文化層45ブロック出土石器(3) …261	第512図	第Ⅲ文化層52ブロック出土石器293
第483図	第Ⅲ文化層45ブロック出土石器(4) …262	第513図	第Ⅲ文化層石器接合図(5) ······294
第484図	第Ⅲ文化層石器接合図(4)263	第514図	第Ⅲ文化層53ブロック出土石器(1) …295
第485図	第Ⅲ文化層46・47ブロック石材別出土分	第515図	第Ⅲ文化層53ブロック出土石器(2) …296

第516図	第Ⅲ文化層53ブロック出土石器(3) …297	第548図	第Ⅲ文化層61ブロック出土石器(3) …333
第517図	第Ⅲ文化層53ブロック出土石器(4) …298	第549図	第Ⅲ文化層61ブロック出土石器(4) …334
第518図	第Ⅲ文化層53ブロック出土石器(5) …299	第550図	第Ⅲ文化層61ブロック出土石器(5) …335
第519図	第Ⅲ文化層54~56ブロック石材別出土	第551図	第Ⅲ文化層62ブロック石材別出土分布
	分布図300		⊠336
第520図	第Ⅲ文化層54~56ブロック石器出土分	第552図	第Ⅲ文化層62ブロック出土石器336
	布図301	第553図	第Ⅲ文化層ブロック外の出土石器(1) …337
第521図	第Ⅲ文化層54ブロック出土石器(1) …302	第554図	第Ⅲ文化層ブロック外の出土石器(2) …339
第522図	第Ⅲ文化層54ブロック出土石器(2) …304	第555図	第Ⅲ文化層ブロック外の出土石器(3) …340
第523図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(1) …305	第556図	第Ⅲ文化層出土斧形石器(1)341
第524図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(2) …306	第557図	第Ⅲ文化層出土斧形石器(2)・礫器(1) …342
第525図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(3) …307	第558図	第Ⅲ文化層出土礫器(2)343
第526図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(4) …308	第559図	第Ⅲ文化層出土礫器(3)344
第527図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(5) …309	第560図	第Ⅲ文化層出土礫器(4)345
第528図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(6) …310	第561図	第Ⅲ文化層出土礫器(5)346
第529図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(7) …311	第562図	第Ⅲ文化層出土大型石器(1) ·······347
第530図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(8) …312	第563図	第Ⅲ文化層出土大型石器(2) ·······348
第531図	第Ⅲ文化層55ブロック出土石器(9) …313	第564図	第Ⅲ文化層48ブロック磨石集積の磨石 …349
第532図	第Ⅲ文化層57~60ブロック石材別出土	第565図	第Ⅲ文化層の敲石類(1)350
	分布図315	第566図	第Ⅲ文化層の敲石類(2)351
第533図	第Ⅲ文化層57~60ブロック石器出土分	第567図	第Ⅲ文化層の敲石類(3)352
	布図316	第568図	第Ⅲ文化層の敲石類(4) · · · · · · 353
第534図	第Ⅲ文化層57・58ブロック出土石器 …317	第569図	第Ⅲ文化層出土の台石類(1)・・・・・・354
第535図	第Ⅲ文化層59ブロック出土石器(1) …318	第570図	第Ⅲ文化層出土の台石類(2)・・・・・・355
第536図	第Ⅲ文化層59ブロック出土石器(2) …319	第571図	細石刃石材別出土分布図1
第537図	第Ⅲ文化層59ブロック出土石器(3) …320		(三船産黒曜石)357
第538図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(1) …322	第572図	細石刃石材別出土分布図 2
第539図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(2) …323		(上牛鼻産黒曜石)358
第540図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(3) …324	第573図	細石刃石材別出土分布図3
第541図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(4) …325		(桑ノ木津留産黒曜石ほか)359
第542図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(5) …326	第574図	細石刃石材別出土分布図4
第543図	第Ⅲ文化層60ブロック出土石器(6) …327		(頁岩系石材)360
第544図	第Ⅲ文化層61ブロック石材別出土分布	第575図	細石刃石材別出土分布図5
	図328		(玉ズイ系石材)361
第545図	第Ⅲ文化層61ブロック石器出土分布図 …329	第576図	細石刃石材別出土分布図 6
第546図	第Ⅲ文化層61ブロック出土石器(1) …330		(砂岩·安山岩系石材) ······362
第547図	第Ⅲ文化層61ブロック出土石器(2) …331	第577図	細石刃全石材出土分布図363

第578図	第Ⅲ文化層出土細石刃(1) ······365	第610図 陥し穴の底面小穴差による配置40
第579図	第Ⅲ文化層出土細石刃(2)366	第611図 仁田尾遺跡の古道40
第580図	第Ⅲ文化層出土細石刃(3)367	第612図 同一母岩の細石刃核40
第581図	第Ⅲ文化層出土細石刃(4)368	第3分冊
第582図	第Ⅲ文化層出土細石刃(5)369	第613図 縄文時代早期遺構分布図
第583図	第Ⅲ文化層出土細石刃(6)370	第614図 縄文時代早期の土坑(1)
第584図	第Ⅲ文化層出土細石刃(7)371	第615図 縄文時代早期の土杭(2)
第585図	第Ⅲ文化層出土細石刃(8)372	第616図 縄文時代早期集石(1)
第586図	第Ⅲ文化層出土細石刃(9)373	第617図 縄文時代早期集石(2)
第587図	第Ⅲ文化層出土細石刃(10)374	第618図 縄文時代早期集石重量グラフ
第588図	第Ⅲ文化層出土細石刃(11)375	第619図 縄文早期土器出土分布図(1)1
第589図	第Ⅲ文化層出土細石刃(12)376	第620図 縄文早期土器出土分布図(2)1
第590図	第Ⅲ文化層出土細石刃(13)377	第621図 縄文早期土器出土分布図(3)
第591図	第Ⅲ文化層出土細石刃(14)378	第622図 縄文早期土器出土分布図(4)1
第592図	第Ⅲ文化層出土細石刃(15)379	第623図 縄文時代早期土器(1)
第593図	第Ⅲ文化層出土細石刃(16)380	第624図 縄文時代早期土器(2)
第594図	第Ⅲ文化層出土細石刃(17)381	第625図 縄文時代早期土器(3)
第595図	第Ⅲ文化層出土細石刃(18)382	第626図 縄文時代早期土器(4)
第596図	第Ⅲ文化層出土細石刃(19)383	第627図 縄文時代早期土器(5)
第597図	第Ⅲ文化層出土細石刃(20)384	第628図 縄文時代早期土器(6)
第598図	第Ⅲ文化層出土細石刃(21)386	第629図 縄文時代早期土器(7)
第599図	第Ⅲ文化層出土細石刃(22)388	第630図 縄文時代早期土器(8)
第600図	細石刃核石材別出土分布図1	第631図 縄文時代早期土器(9)2
	(三船産黒曜石)389	第632図 縄文時代早期(V層)の出土石器(1) …3
第601図	細石刃核石材別出土分布図2	第633図 縄文時代早期(V層)の出土石器(2) …3
	(上牛鼻産黒曜石)390	第634図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(1) …3
第602図	細石刃核石材別出土分布図3	第635図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(2) …3
	(桑ノ木津留産黒曜石ほか)391	第636図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(3) …3
第603図	細石刃核石材別出土分布図4	第637図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(4) …3
	(頁岩系石材)392	第638図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(5) …3
第604図	細石刃核石材別出土分布図5	第639図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(6) …4
	(砂岩・安山岩系石材)393	第640図 縄文時代早期(Ⅳ層)の出土石器(7) …4
第605図	細石刃核石材別出土分布図(全体) …394	第641図 縄文時代早期の石器出土分布図4
第606図	Ⅷ層出土石鏃(第Ⅱ文化層)395	第642図 前期集石分布図
第607図	Ⅷ層出土石鏃(第Ⅲ文化層)396	第643図 ピット列と配石遺構
第608図	第Ⅲ文化層出土土器397	第644図 縄文前期の土坑
第609図	第Ⅲ文化層出土石鏃と土器の分布図 …398	第645図 縄文前期集石(1)

第646図	縄文前期集石(2)49	第683図	縄文時代前期の出土石器(15)101
第647図	縄文前期集石(3)50	第684図	縄文時代前期石器出土分布図102
第648図	縄文前期集石(4)51	第685図	縄文中期土器出土分布図(1)107
第649図	縄文前期土器出土分布図(1)54	第686図	縄文中期土器出土分布図(2)109
第650図	縄文前期土器出土分布図(2)55	第687図	縄文中期土器出土分布図(3)111
第651図	縄文前期土器出土分布図(3)57	第688図	縄文時代中期の出土土器(1)・・・・・・112
第652図	縄文時代前期の土器(1)59	第689図	縄文時代中期の出土土器(2)・・・・・・113
第653図	縄文時代前期の土器(2)60	第690図	縄文時代中期の出土土器(3)114
第654図	縄文時代前期の土器(3)63	第691図	縄文時代中期の出土土器(4)115
第655図	縄文時代前期の土器(4)64	第692図	縄文時代中期の出土土器(5)116
第656図	縄文時代前期の土器(5)65	第693図	縄文時代中期の出土土器(6)117
第657図	縄文時代前期の土器(6)66	第694図	縄文時代中期の出土土器(7)118
第658図	縄文時代前期の土器(7)67	第695図	縄文後期土器出土分布図122
第659図	縄文時代前期の土器(8)68	第696図	縄文時代後期の出土土器(1)123
第660図	縄文時代前期の土器(9)69	第697図	縄文時代後期の出土土器(2)・・・・・・124
第661図	縄文時代前期の土器(10)70	第698図	縄文時代晩期の掘立柱建物跡125
第662図	縄文時代前期の土器(11)71	第699図	縄文時代晚期遺構分布図126
第663図	縄文時代前期の土器(12)72	第700図	縄文時代晩期の土坑128
第664図	縄文時代前期の土器(13)73	第701図	縄文時代晩期の陥し穴129
第665図	縄文時代前期の土器(14)74	第702図	縄文時代晩期の集石(1)130
第666図	縄文時代前期の土器(15)76	第703図	縄文時代晩期の集石(2)131
第667図	縄文時代前期の土器(16)77	第704図	縄文時代晩期の集石(3)132
第668図	縄文時代前期の土器(17)78	第705図	縄文時代晩期の集石(4)133
第669図	縄文時代前期の出土石器(1)86	第706図	縄文晩期集石重量グラフ134
第670図	縄文時代前期の出土石器(2)87	第707図	縄文晚期土器出土分布図(1)137
第671図	縄文時代前期の出土石器(3)88	第708図	縄文晚期土器出土分布図(2)139
第672図	縄文時代前期の出土石器(4)89	第709図	縄文晚期土器出土分布図(3)141
第673図	縄文時代前期の出土石器(5)90	第710図	縄文晚期土器出土分布図(4)143
第674図	縄文時代前期の出土石器(6)91	第711図	縄文晚期土器出土分布図(5)145
第675図	縄文時代前期の出土石器(7)92	第712図	縄文時代晩期の出土土器(1)146
第676図	縄文時代前期の出土石器(8)94	第713図	縄文時代晩期の出土土器(2)147
第677図	縄文時代前期の出土石器(9)95	第714図	縄文時代晩期の出土土器(3)148
第678図	縄文時代前期の出土石器(10)96	第715図	縄文時代晩期の出土土器(4)149
第679図	縄文時代前期の出土石器(11)97	第716図	縄文時代晩期の出土土器(5)150
第680図	縄文時代前期の出土石器(12)98	第717図	縄文時代晩期の出土土器(6)151
第681図	縄文時代前期の出土石器(13)99	第718図	縄文時代晩期の出土土器(7)152
第682図	縄文時代前期の出土石器(14)100	第719図	縄文時代晩期の出土土器(8)153

第720図	縄文時代晩期の出土土器(9)154		第748図	縄文時代晩期の出土石器(11)191
第721図	縄文時代晩期の出土土器(10)155		第749図	縄文時代晩期の出土石器(12)192
第722図	縄文時代晩期の出土土器(11)156		第750図	縄文時代晩期の出土石器(13)193
第723図	縄文時代晩期の出土土器(12)157		第751図	縄文時代晩期の出土石器(14)194
第724図	縄文時代晩期の出土土器(13)158		第752図	縄文時代晩期の出土石器(15)195
第725図	縄文時代晩期の出土土器(14)159		第753図	縄文時代晩期の出土石器(16)196
第726図	縄文時代晩期の出土土器(15)160		第754図	縄文時代晩期の出土石器(17)197
第727図	縄文時代晩期の出土土器(16)163		第755図	縄文時代晩期の出土石器(18)198
第728図	縄文時代晩期の出土土器(17)164		第756図	縄文時代晩期の出土石器(19)199
第729図	縄文時代晩期の出土土器(18)165		第757図	縄文時代晩期の出土石器(20)200
第730図	縄文時代晩期の出土土器(19)166		第758図	縄文時代晩期の出土石器(21)201
第731図	縄文時代晩期の出土土器(20)167		第759図	縄文時代晩期の出土石器(22)202
第732図	縄文時代晩期の出土土器(21)168		第760図	縄文時代晩期の出土石器(23)203
第733図	縄文時代型式不明土器出土分布図 …172		第761図	縄文時代晩期の出土石器(24)204
第734図	型式不明土器173		第762図	縄文時代晩期の出土石器(25)205
第735図	縄文時代土製品等出土分布図174		第763図	縄文晩期狩猟具・石鏃出土分布図
第736図	土製品175			209
第737図	縄文時代晚期遺構出土石器177		第764図	縄文晚期加工具出土分布図211
第738図	縄文時代晩期の出土石器(1)180		第765図	縄文晚期製粉具出土分布図213
第739図	縄文時代晩期の出土石器(2)181		第766図	縄文晚期石核出土分布215
第740図	縄文時代晩期の出土石器(3)182		第767図	施文過程からみた曽畑式土器(1) …222
第741図	縄文時代晩期の出土石器(4)183		第768図	施文過程からみた曽畑式土器(2) …223
第742図	縄文時代晩期の出土石器(5)184		第769図	古墳時代遺物分布図229
第743図	縄文時代晩期の出土石器(6)185		第770図	古墳時代の土器230
第744図	縄文時代晩期の出土石器(7)186		第771図	古代~中世遺物分布図232
第745図	縄文時代晩期の出土石器(8)187		第772図	古代・中世の土器(1)233
第746図	縄文時代晩期の出土石器 (9)188		第773図	古代・中世の土器(2)234
第747図	縄文時代晩期の出土石器(10)189			
	主	Ħ	\h	
	表	Ħ	次	
第1分冊	ł		第6表	第 I 文化層石器一覧表(3)······321
第1表	南九州西回り自動車道建設に伴う発掘		第7表	第 I 文化層石器一覧表(4)322
	調査遺跡一覧表11		第8表	第 I 文化層石器一覧表(5)323
第2表	周辺遺跡地名表19		第9表	第 I 文化層石器一覧表(6)324
第3表	第 I 文化層礫群一覧表82		第10表	第 I 文化層石器一覧表(7) ······325
第4表	第 I 文化層石器一覧表(1)······319		第11表	第 I 文化層石器一覧表(8) ······326
第5表	第 I 文化層石器一覧表(2)······320		第12表	第 I 文化層石器一覧表(9)······327

第13表	第 I 文化層石器一覧表(10) ······328	第51表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(14) …	…432
第14表	第 I 文化層石器一覧表(11) ·······329	第52表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(15) …	…433
第15表	第 I 文化層石器一覧表(12) ·······330	第53表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(16) …	434
第16表	第 I 文化層石器一覧表(13) ·······331	第54表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(17) …	…435
第2分冊	D	第55表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(18) …	…436
第17表	第Ⅱ文化層礫群一覧表 77	第56表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(19) …	…437
第18表	第Ⅱ文化層出土石器一覧表(1)43	第57表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(20) …	…438
第19表	第Ⅱ文化層出土石器一覧表(2)44	第58表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(21) …	···439
第20表	細石刃文化陥し穴一覧表65	第59表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(22) …	440
第21表	縄文草創期土器観察表397	第60表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(23) …	…441
第22表	第Ⅲ文化層出土石器組成表404	第61表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(24) …	…442
第23表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(1)404	第62表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(25) …	···443
第24表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(2)405	第63表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(26) …	…444
第25表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(3)406	第64表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(27) …	…445
第26表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(4)407	第65表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(28) …	…446
第27表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(5)408	第66表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(29) …	…447
第28表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(6)409	第67表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(30) …	…448
第29表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(7)410	第68表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(31) …	···449
第30表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(8)411	第69表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(32) …	…450
第31表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(9)412	第70表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(33) …	…451
第32表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(10) …413	第71表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(34) …	···452
第33表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(11) …414	第72表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(35) …	…453
第34表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(12) …415	第73表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(36) …	…454
第35表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(13) …416	第74表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(37) …	…455
第36表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(14) …417	第75表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(38) …	…456
第37表	第Ⅲ文化層出土石器一覧表(15) …418	第76表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(39) …	…457
第38表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(1)419	第77表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(40) …	…458
第39表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(2)420	第78表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(41) …	…459
第40表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(3)421	第79表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(42) …	…460
第41表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(4)422	第80表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(43) …	…461
第42表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(5)423	第81表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(44) …	…462
第43表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(6)424	第82表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(45) …	…463
第44表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(7)425	第83表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(46) …	…464
第45表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(8)426	第84表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(47) …	…465
第46表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(9)427	第85表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(48) …	…466
第47表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(10)428	第86表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(49) …	…467
第48表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(11)429	第87表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(50) …	…468
第49表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(12)430	第88表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(51) …	…464
第50表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(13)431	第89表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(52) …	…470

第90表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(53)471	第127表	縄文前期土器観察表(3)66
第91表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(54)472	第128表	縄文前期土器観察表(4)67
第92表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(55)473	第129表	縄文前期土器観察表(5)71
第93表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(56)474	第130表	縄文前期土器観察表(6)79
第94表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(57)475	第131表	縄文前期土器観察表(7)80
第95表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(58)476	第132表	縄文前期土器観察表(8)81
第96表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(59)477	第133表	縄文前期土器観察表(9)82
第97表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(60)478	第134表	縄文前期土器観察表(10)83
第98表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(61)479	第135表	縄文前期土器観察表(11)84
第99表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(62)480	第136表	縄文前期石器組成表100
第100表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(63)481	第137表	縄文前期石器一覧表(1)103
第101表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(64)482	第138表	縄文前期石器一覧表(2)104
第102表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(65)483	第139表	縄文中期土器観察表(1)114
第103表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(66)484	第140表	縄文中期土器観察表(2)117
第104表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(67)485	第141表	縄文中期土器観察表(3)119
第105表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(68)486	第142表	縄文中期土器観察表(4)120
第106表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(69)487	第143表	縄文後期土器観察表(1)121
第107表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(70)488	第144表	縄文後期土器観察表(2)123
第108表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(71)489	第145表	縄文後期土器観察表(3)124
第109表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(72)490	第146表	晚期掘立柱建物跡計測表125
第110表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(73)491	第147表	縄文晩期陥し穴一覧表134
第111表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(74)492	第148表	縄文晩期集石一覧表134
第112表	第Ⅲ文化層細石刃一覧表(75)493	第149表	縄文晩期土器観察表(1)156
第113表	第Ⅱ文化層細石刃一覧表(1)494	第150表	縄文晩期土器観察表(2)162
第114表	第Ⅱ文化層細石刃一覧表(2)495	第151表	縄文晩期土器観察表(3)164
第115表	第Ⅱ文化層細石刃一覧表(3)496	第152表	縄文晩期土器観察表(4)167
第116表	第Ⅱ文化層細石刃一覧表(4)497	第153表	縄文晩期土器観察表(5)169
第3分冊	}	第154表	縄文晩期土器観察表(6)170
第117表	縄文早期土坑一覧表8	第155表	縄文晩期土器観察表(7)171
第118表	縄文早期集石一覧表8	第156表	縄文時代型式不明土器観察表176
第119表	縄文早期土器観察表(1)28	第157表	縄文時代円盤状土製加工品観察表 …176
第120表	縄文早期土器観察表(2)29	第158表	縄文晩期石器組成表190
第121表	縄文早期土器観察表(3)30	第159表	縄文晩期石器一覧表(1)205
第122表	縄文早期石器組成表38	第160表	縄文晩期石器一覧表(2)206
第123表	縄文早期石器一覧表39	第161表	縄文晩期石器一覧表(3)207
第124表	縄文前期集石一覧表46	第162表	縄文晩期石器一覧表(4)208
第125表	縄文前期土器観察表(1)53	第163表	古墳時代の遺物観察表228
第126表	縄文前期土器観察表(2)64	第164表	古代~中世の遺物観察表235

図版目次(第4分冊)

図版 1	仁田尾遺跡全景	図版15	第 I 文化層28号礫群検出状況
図版 2	仁田尾遺跡土層		第 I 文化層20号礫群検出状況
図版 3	第 I 文化層49号礫群上面検出状況	図版16	第 I 文化層51号礫群検出状況
	第 I 文化層49号礫群下面検出状況		第 I 文化層52号礫群検出状況
	第 I 文化層35号礫群検出状況		第 I 文化層53号礫群検出状況
図版 4	第 I 文化層36号礫群検出状況	図版17	第Ⅰ文化層ブロック検出状況
	第 I 文化層45号礫群検出状況	図版18	第Ⅰ文化層ブロック検出状況
	第 I 文化層44号礫群検出状況	図版19	第 I 文化層11·12ブロック検出状況
図版 5	第 I 文化層42·43号礫群検出状況		第 I 文化層12ブロック検出状況
	第 I 文化層43号礫群検出状況		第 I 文化層19ブロック検出状況
	第 I 文化層39号礫群検出状況	図版20	第 I 文化層10ブロック検出状況
図版 6	第 I 文化層40·41号礫群検出状況		第 I 文化層2号礫群・13ブロック検出状況
	第 I 文化層40号礫群検出状況		第Ⅰ文化層20ブロック検出状況
	第 I 文化層41号礫群検出状況	図版21	第Ⅰ文化層Aブロック群南西部・西か
図版 7	第 I 文化層33号礫群検出状況		ら調査風景
	第 I 文化層34号礫群検出状況		第 I 文化層Aブロック群南西部・北から
	第 I 文化層46号礫群検出状況	図版22	第Ⅰ文化層29・30ブロック検出状況
図版 8	第 I 文化層 1·2 号礫群検出状況		第Ⅰ文化層5ブロック検出状況
	第 I 文化層 2 号礫群検出状況		第Ⅰ文化層6ブロック検出状況
図版 9	第 I 文化層 1 号礫群検出状況	図版23	第I文化層18ブロック検出状況
	第 I 文化層 6·7 号礫群検出状況		第I文化層17ブロック検出状況
	第 I 文化層 9 号礫群検出状況		第I文化層16ブロック検出状況
図版10	第 I 文化層11号礫群検出状況	図版24	第I文化層27ブロック検出状況
	第 I 文化層50号礫群上面遺物出土状況		第I文化層14ブロック検出状況
	第 I 文化層50号礫群下面検出状況		第 I 文化層 3 ブロック検出状況
図版11	第 I 文化層15·16号礫群検出状況	図版25	第 I 文化層 1 ブロック検出状況
	第 I 文化層15~17号礫群検出状況		第Ⅰ文化層4ブロック検出状況
	第 I 文化層32号礫群検出状況		第Ⅰ文化層 7・2 ブロック検出状況
図版12	第 I 文化層22~24号礫群検出状況	図版26	第 I 文化層37ブロック検出状況
	第 I 文化層21·23·24号礫群検出状況		第 I 文化層40ブロック検出状況
図版13	第 I 文化層24号礫群検出状況		第 I 文化層38ブロック検出状況
	第 I 文化層23号礫群検出状況	図版27	第 I 文化層24·25ブロック検出状況第
	第 I 文化層21号礫群検出状況		I 文化層22ブロック検出状況
図版14	第 I 文化層18~20号礫群検出状況	図版28	第 I 文化層Aブロック群出土石器群(1)
	第 I 文化層28~30号礫群検出状況	図版29	第 I 文化層Aブロック群出土石器群

	(2)・接合資料	図版64	第 I 文化層出土石器群・接合資料(13)
図版30	第 I 文化層Aブロック群出土石器群(3)	図版65	第 I 文化層出土石器群・接合資料(14)
図版31	第 I 文化層Aブロック群出土石器群(4)	図版66	第 I 文化層出土石器群・接合資料(15)
図版32	第 I 文化層Aブロック群出土石器群(5)	図版67	第 I 文化層出土石器群・接合資料(16)
図版33	第 I 文化層Bブロック群出土石器群(1)	図版68	第 I 文化層出土石器群・接合資料(17)
図版34	第 I 文化層Bブロック群出土石器群(2)	図版69	第 I 文化層出土石器群・接合資料(18)
図版35	第 I 文化層Bブロック群出土石器群(3)	図版70	第 I 文化層出土石器群・接合資料(19)
図版36	第 I 文化層Cブロック群出土石器群(1)	図版71	第 I 文化層出土石器群・接合資料(20)
図版37	第 I 文化層Cブロック群出土石器群(2)	図版72	第 I 文化層出土石器群・接合資料(21)
図版38	第 I 文化層Cブロック群出土石器群(3)	図版73	第 I 文化層出土石器群・接合資料(22)
図版39	第 I 文化層Dブロック群出土石器群(1)	図版74	第 I 文化層出土石器群・接合資料(23)
図版40	第 I 文化層Dブロック群出土石器群(2)	図版75	第 I 文化層出土石器群・接合資料(24)
図版41	第 I 文化層Dブロック群出土石器群(3)	図版76	第 I 文化層出土石器群・接合資料(25)
図版42	第 I 文化層Dブロック群出土石器群(4)	図版77	第 I 文化層出土石器群・接合資料(26)
図版43	第Ⅰ文化層Dブロック群出土石器群	図版78	第 I 文化層出土石器群・接合資料(27)
	(5)・接合資料	図版79	第 I 文化層出土石器群・接合資料(28)
図版44	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(1)	図版80	第 I 文化層出土石器群・接合資料(29)
図版45	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(2)	図版81	第 I 文化層出土石器群・接合資料(30)
図版46	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(3)	図版82	第 I 文化層出土石器群・接合資料(31)
図版47	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(4)	図版83	第 I 文化層出土石器群・接合資料(32)
図版48	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(5)	図版84	第 I 文化層出土石器群・接合資料(33)
図版49	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(6)	図版85	第 I 文化層出土石器群・接合資料(34)
図版50	第 I 文化層Eブロック群出土石器群(7)	図版86	第 I 文化層出土石器群・接合資料(35)
図版51	第I文化層Eブロック群出土石器群・	図版87	第 I 文化層出土石器群・接合資料(36)
	接合資料	図版88	第Ⅱ文化層 4 号礫群検出状況
図版52	第 I 文化層出土石器群・接合資料(1)		第Ⅱ文化層 5 号礫群検出状況
図版53	第 I 文化層出土石器群・接合資料(2)		第Ⅱ文化層 6 号礫群検出状況
図版54	第 I 文化層出土石器群・接合資料(3)	図版89	第Ⅱ文化層4ブロック検出状況
図版55	第 I 文化層出土石器群・接合資料(4)		第Ⅱ文化層 4 号礫群・ブロック検出状況
図版56	第 I 文化層出土石器群・接合資料(5)		第Ⅱ文化層調査風景
図版57	第 I 文化層出土石器群・接合資料(6)	図版90	第Ⅱ文化層1~4ブロック出土石器群
図版58	第 I 文化層出土石器群・接合資料(7)	図版91	第Ⅱ文化層 5・6 ブロック出土石器群
図版59	第 I 文化層出土石器群・接合資料(8)	図版92	第Ⅱ文化層 7・8 ブロック出土石器群
図版60	第 I 文化層出土石器群・接合資料(9)	図版93	第Ⅱ文化層出土石器群
図版61	第 I 文化層出土石器群・接合資料(10)	図版94	第Ⅲ文化層1号陥し穴掘り下げ状況
図版62	第 I 文化層出土石器群・接合資料(11)		第Ⅲ文化層1号陥し穴逆茂木断面(1)
図版63	第 I 文化層出土石器群・接合資料(12)		(2)

- 図版95 第Ⅲ文化層 2 号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層 2 号陥し穴完掘状況 第Ⅲ文化層陥し穴逆茂木検出状況
- 図版96 第Ⅲ文化層 3 号陥し穴断面 第Ⅲ文化層 3 号陥し穴完掘状況 第Ⅲ文化層 3 号陥し穴半裁完掘状況
- 図版97 第Ⅲ文化層 4 号陥し穴完掘状況 第Ⅲ文化層 4 号陥し穴逆茂木痕検出状 況(1)(2)(3)
- 図版98 第Ⅲ文化層 5 号陥し穴断面(1)(2) 第Ⅲ文化層 5 号陥し穴完掘状況
- 図版99 第Ⅲ文化層 5 号陥し穴半裁状況 第Ⅲ文化層 5 号陥し穴逆茂木痕 第Ⅲ文化層 5 号陥し穴完掘状況
- 図版100 第Ⅲ文化層 6 号陥し穴断面 第Ⅲ文化層 6 号陥し穴完掘 調査風景
- 図版101第Ⅲ文化層 6 号陥し穴逆茂木検出状況 (1)(2)(3)
- 図版102 第Ⅲ文化層 7 号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層 7 号陥し穴薩摩火山灰半裁 状況

第Ⅲ文化層7号陥し穴断面

- 図版103 第Ⅲ文化層 7 号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層 7 号陥し穴完掘状況 第Ⅲ文化層 7 号陥し穴逆茂木断面
- 図版104 第Ⅲ文化層 8 号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層 8 号陥し穴断面 第Ⅲ文化層 8 号陥し穴逆茂木断面
- 図版105 第Ⅲ文化層 9 号陥し穴周辺遺物出土状 況

第Ⅲ文化層 9 号陥し穴逆茂木検出状況 第Ⅲ文化層 9 号陥し穴逆茂木断面

図版106 第Ⅲ文化層10号陥し穴断面 第Ⅲ文化層10号陥し穴掘り下げ状况 第Ⅲ文化層10号陥し穴逆茂木断面

図版107 第Ⅲ文化層10号陥し穴逆茂木検出状況

第Ⅲ文化層10号陥し穴逆茂木完掘状況 第Ⅲ文化層10号陥し穴逆茂木想定

- 図版108 第Ⅲ文化層11号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層11号陥し穴半裁状況 第Ⅲ文化層陥し穴掘り下げ状況
- 図版109 第Ⅲ文化層11号陥し穴逆茂木完掘状況 (1)(2)
- 図版110 第Ⅲ文化層12号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層12号陥し穴逆茂木完掘状況 (1)(2)
- 図版111 第Ⅲ文化層13号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層13号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層13号陥し穴逆茂木完掘状況
- 図版112 第Ⅲ文化層14号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層14号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層14号陥し穴逆茂木検出状況
- 図版113 第Ⅲ文化層15号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層15号陥し穴逆茂木検出状況 (1)(2)(3)
- 図版114 第Ⅲ文化層16号陥し穴検出状況 第Ⅲ文化層16号陥し穴半裁状況 第Ⅲ文化層16号陥し穴掘り下げ状況 第Ⅲ文化層陥し穴逆茂木完掘状況(1) (2)
- 図版115 第Ⅲ文化層溝状遺構・北から 溝状遺構・南から 溝状遺構断面
- 図版116 第Ⅲ文化層溝状遺構とその周辺部
- 図版117 第Ⅲ文化層16ブロック礫器集中部 第Ⅲ文化層16ブロック礫器集中部 第Ⅲ文化層48ブロック磨石集中部
- 図版118 第Ⅲ文化層 3 ブロック検出状況 第Ⅲ文化層 4 ブロック土器出土状況 石谷小学校見学と調査風景
- 図版119 第Ⅲ文化層 7 ブロック検出状況 第Ⅲ文化層 7 ·17ブロック検出状況 第Ⅲ文化層12ブロック検出状況

- 図版120 第Ⅲ文化層14・16ブロック検出状況 第Ⅲ文化層17·19·20ブロック検出状況 第Ⅲ文化層19ブロック検出状況
- 図版121 第Ⅲ文化層23~25ブロック検出状況 第Ⅲ文化層26・27ブロック, 14号落と し穴検出状況
- 図版122 第Ⅲ文化層28ブロック検出状況 第Ⅲ文化層31ブロック検出状況 第Ⅲ文化層調査風景
- 図版123 第Ⅲ文化層38~40ブロック検出状況 第Ⅲ文化層調査風景 第Ⅲ文化層土器出土状況
- 図版124 第Ⅲ文化層49ブロック検出状況 第Ⅲ文化層石斧出土状況 第Ⅲ文化層調査風景
- 図版125 第Ⅲ文化層55ブロック検出状況 第Ⅲ文化層59・60ブロック検出状況 第Ⅲ文化層61ブロック検出状況
- 図版126 第Ⅲ文化層1・2 ブロック出土石器群
- 図版127 第Ⅲ文化層3~5ブロック出土石器群
- 図版128 第Ⅲ文化層 5・6 ブロック出土石器群
- 図版129 第Ⅲ文化層7・10ブロック出土石器群
- 図版130 第Ⅲ文化層11~14ブロック出土石器群
- 図版131 第Ⅲ文化層15・16ブロック出土石器群
- 図版132 第Ⅲ文化層17・18ブロック出土石器群
- 図版133 第Ⅲ文化層20~25ブロック出土石器群
- 図版134 第Ⅲ文化層26・27・29~32・34ブロック出土石器群
- 図版135 第Ⅲ文化層35~38・40ブロック出土石 器群
- 図版136 第Ⅲ文化層40~43ブロック出土石器群
- 図版137 第Ⅲ文化層44·45ブロック出土石器群
- 図版138 第Ⅲ文化層46·48ブロック出土石器群
- 図版139 第Ⅲ文化層48·49ブロック出土石器群
- 図版140 第Ⅲ文化層50~55ブロック出土石器群
- 図版141 第Ⅲ文化層55·57ブロック出土石器群
- 図版142 第Ⅲ文化層59~61ブロック出土石器群

- 図版143 第Ⅲ文化層61ブロックほか出土石器群
- 図版144 第Ⅲ文化層出土礫器·斧形石器類
- 図版145 第Ⅲ文化層出土石器群礫器
- 図版146 第Ⅲ文化層出土石器群礫器
- 図版147 第Ⅲ文化層出土石器群礫器·磨石類
- 図版148 第Ⅲ文化層Yブロック出土石器群(1)
- 図版149 第Ⅲ文化層Yブロック出土石器群(2)
- 図版150 第Ⅲ文化層Yブロック出土石器群(3)
- 図版151 使用痕写真(1)
- 図版152 使用痕写真(2)
- 図版153 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(1)
- 図版154 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(2)
- 図版155 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(3)
- 図版156 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(4)
- 図版157 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(5)
- 図版158 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(6)
- 図版159 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(7)
- 図版160 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(8)
- 図版161 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(9)
- 図版162 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(10)
- 図版163 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(11)
- 図版164 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(12)
- 図版165 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(13)
- 図版166 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(14)
- 図版167 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(15)
- 図版168 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(16)
- 図版169 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(17)
- 図版170 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(18)
- 図版171 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(19)
- 図版172 第Ⅲ文化層出土石器群・接合資料(20)
- 図版173 縄文時代出土土器
- 図版174 縄文時代早期1号集石検出状況 縄文時代早期2号集石検出状況 縄文時代早期3号集石検出状況
- 図版175 縄文時代早期 4 号集石検出状況 縄文時代早期 7 号集石検出状況 縄文時代早期 8 号集石検出状況

縄文時代早期 4 号土坑半裁状況 図版183 縄文時代早期土器1 縄文時代早期土坑半裁状況 図版184 縄文時代早期土器 2 縄文時代早期土坑検出状況 図版185 縄文時代早期土器 3 縄文時代早期土坑半裁状況 図版186 縄文時代早期土器 4 縄文時代早期土坑完掘状況 図版187 縄文時代早期土器 5 縄文時代早期土坑検出状況 図版188 縄文時代早期・前期土器 縄文時代早期土坑埋土堆積状況 図版189 縄文時代前期土器1 図版177 縄文時代前期ピット群・石皿出土状況 図版190 縄文時代前期土器2 縄文時代前期3号土坑完掘状況 図版191 縄文時代前期土器 3 縄文時代前期1号集石検出状況 図版192 縄文時代前期土器 4 縄文時代前期3号集石検出状況 図版193 縄文時代前期土器 5 縄文時代前期5号集石検出状況 図版194 縄文時代前期土器 6 縄文時代前期十器出十状況(1)(2) 図版195 縄文時代前期土器7 縄文時代前期石製品出土状況 図版196 縄文時代前期土器 8 図版178 縄文時代晚期掘立柱建物跡検出状況 図版197 縄文時代中期土器1 図版198 縄文時代中期土器 2 (1)(2)縄文時代晩期掘立柱ピット完掘状況 図版199 縄文時代中期土器 3 縄文時代晩期掘立柱跡ピット半裁状況 図版200 縄文時代後期土器 (1)(2)図版201 縄文時代晩期土器1 図版179 縄文時代後晚期1号土坑検出状況 図版202 縄文時代晩期土器 2 縄文時代後晚期1号土坑土器出土状況 図版203 縄文時代晚期土器 3 縄文時代後晚期 4 号土坑完掘状況 図版204 縄文時代晩期土器 4 縄文時代後晩期2号土坑 図版205 縄文時代晩期土器・その他土器・焼成 縄文時代晚期I-13区焼土検出状況(1) 粘土塊 (2)図版206 弥生時代~中世の土器 図版207 縄文時代早期石器1 縄文時代晩期遺物出土状況(1)(2) 図版180 縄文時代後晩期1号陥し穴検出状況 図版208 縄文時代早期石器2 縄文時代後晩期1号陥し穴半裁状況 図版209 縄文時代早期石器3 縄文時代後晩期1号陥し穴完掘状況 図版210 縄文時代早期石器 4 図版181 縄文時代後晩期2号陥し穴半裁状況 図版211 縄文時代早期石器 5 縄文時代後晩期2号陥し穴完掘状 図版212 縄文時代前期石器1 縄文時代後晚期5号集石検出状況 図版213 縄文時代前期石器 2 図版182 縄文時代後晩期 2 号集石検出状況 図版214 縄文時代前期石器 3 縄文時代後晚期3号集石検出状況 図版215 縄文時代前期石器 4 縄文時代後晚期7号集石検出状況 図版216 縄文時代前期石器 5 縄文時代後晚期1号集石検出状況 図版217 縄文時代前期石器 6

調查風景

図版176 縄文時代早期 4 号土坑検出状況

- 図版218 縄文時代前期石器 7
- 図版219 縄文時代前期石器 8
- 図版220 縄文時代晚期石器1
- 図版221 縄文時代晚期石器 2
- 図版222 縄文時代晚期石器 3
- 図版223 縄文時代晚期石器 4
- 図版224 縄文時代晚期石器5
- 図版225 縄文時代晚期石器 6
- 図版226 縄文時代晩期石器7
- 図版227 縄文時代晚期石器 8
- 図版228 縄文時代晚期石器 9
- 図版229 縄文時代晩期石器10
- 図版230 縄文時代晚期石器11
- 図版231 縄文時代晩期石器12
- 図版232 縄文時代晚期石器13
- 図版233 縄文時代晩期石器14・調査風景
- 図版234 調査区全景
- 図版235 確認調査風景
- 図版236 確認調査風景
- 図版237 調査風景
- 図版238 調査風景・発掘体験学習風景
- 図版239 調査風景・落とし穴剥ぎ取り作業
- 図版240 調査風景・テレビ局取材
- 図版241 調査風景・整理作業風景
- 図版242 調査風景
- 図版243 調査風景・発掘調査員集合写真
- 図版244 発掘調査員集合写真
- 図版245 新聞記事
- 図版246 仁田尾遺跡全景

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまでの経過

建設省九州地方建設局(中央省庁再編により平成13年1月より国土交通省九州地方整備局に改称) は、鹿児島~市来間に南九州西回り自動車道鹿児島道路の建設を計画し、事業区内の埋蔵文化財の 有無について鹿児島県教育庁文化課(組織改革により平成8年度より文化財課に改称)に照会した。 この計画に伴い、文化課が平成2年8月に鹿児島西IC~伊集院IC間の埋蔵文化財の分布調査を行っ たところ、23か所の遺物散布地及び確認調査の必要な地点が所存することが判明した。

事業区内の埋蔵文化財の取り扱いについては、建設省鹿児島国道工事事務所と文化課の協議に基 づき、鹿児島国道工事事務所と鹿児島県知事との間で委託契約が結ばれ、埋蔵文化財の確認調査及 び本調査が実施されることになった。

これを受けて、平成3年度から平成8年度にかけて、毎年度、計画的かつ継続的に各遺跡の確認 調査及び本調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図ることになった。仁田尾遺跡の発掘調査は鹿 児島県立埋蔵文化財センターが平成5年度から7年度まで実施した。

整理及び報告書作成作業は平成10年度及び平成16~19年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターで 行った。

第2節 調査の組織

事 業 主 体 者 建設省九州地方建設局鹿児島国道工事事務所(~平成12年12月)

国土交通省九州地方整備局鹿児島国道事務所(平成13年1月~)

調 查 主 体 者 鹿児島県教育委員会

調査企画調整 鹿児島県教育庁文化財課

【平成3年度(確認調査)】

事 業 主 体 者 建設省鹿児島国道工事事務所

調 査 責 任 者 鹿児島県教育庁文化財課

主任文化財研究員 企 画

兼埋蔵文化財係長吉本正幸

課

長 向山 勝貞

調査担当 主 査 牛ノ濵 修

文 化 財 調 杳 新町 正 員

事業主体者 建設省鹿児島国道工事事務所

調 査 責 任 者 鹿児島県教育庁文化財課 課 長 向山 勝貞

【平成5年度(本調査)】

調 査 責 任 者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 大久保忠昭

調查企画者 次 長 兼 総 務 課 長 水口 俊雄

主任文化財主事兼調查課長 戸崎 勝洋

発掘調査担当	"	文	化		財	主	事	池畑	耕一
"	"				"			宮田	栄二
"	"	文	化	財	研	究	員	今村	敏照
"	"	文	化	財	調	查	員	寺原	徹
"	"				"			園田	淳美
"	"				"			前村	真次
調査事務担当	"	主					査	成尾	雅明
"	"	主					事	中村	和代
現地指導者	鹿児島大学法文学部	教					授	森脇	広
	文化庁記念物課	主	任		調	査	官	岡村	道雄
	京都大学文学部	教					授	山中	一郎
	明治大学文学部	教					授	安蒜	政雄
	京都文化博物館							鈴木	忠司
	鹿児島大学農学部	教					授	西中月	駿
	鹿児島大学法文学部	教					授	新田	英治
	鹿児島大学法文学部	教					授	渡辺	芳郎
	鹿児島県文化財保護審議会	委					員	河口	貞徳
	"				"			上村	俊雄
	"				"			下野	敏見
【平成6年度(本	· -								
調査責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所					長	内村	正弘
調査企画者	″	次		兼		第 課	長	川原	信義
"	"		壬文化則	∤主				戸崎	勝洋
調査担当者	"	文	化		財	主	事	牛ノ液	
"	"				"			宮田	
"	"	文	化	財	調	查	員	西久伊	
"	"				<i>'</i> /			常田	和彦
調査事務担当	<i>"</i>	主					査	成尾	雅明
現地指導者	文化庁記念物課	主	任		調	査	官	岡村	道雄
									
【平成7年度(本語								. 1 . 1 .	
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所	= -	}	sn -	r⊾ ⊐m	長	内村	正弘
調査企画者	"	次		兼		第 課	長	川原	信義
"	"					問查認		戸崎	勝洋
	"	主	任力	又		甘 主	事	立神	次郎
調査担当者	"	文	化		財	主	事	繁昌	正幸

文 化 財 研 究 員 三垣 恵一 調査事務担当者 主 査 成尾 雅明 事 追立ひとみ 主 現 地 指 導 者 文化庁記念物課 主 任 調 杳 官 岡村 道雄 鹿児島大学法文学部 教 授 上村 俊雄 助 手 本田 道輝 熊本大学文学部 助 授 小畑 弘巳 教 鹿児島大学理学部 教 授 森脇 広 【平成10年度(整理作業)】 調 査 責 任 者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 吉永 和人 次 長 兼 総 務 課 長 尾崎 調査企画者 進 主任文化財主事兼調査課長 戸崎 勝洋 調査課長補佐新東晃一 11 主任文化財主事兼第二調査係係長 池畑 耕一 整理担当者 文 化 財 È. 事 宮田 栄二 È. 整理事務担当 查 今村孝一郎 主 事 溜池 佳子 【平成16年度(整理作業)】 作 成 責 任 者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 木原 俊孝 作成企画者 次 長 賞雅 彰 調 査 長 新東 晃一 課 調 査 課 長 補 佐 立神 次郎 11 主任文化財主事兼第三調査係長 牛ノ濵 修 作成担当者 文 化 財 主 事 宮田 栄二 11 國師 洋之 文 化 財 調 査 員 相美伊久雄 作成事務担当者 主 査 脇田 清幸 遺物指導者 授 本田 道輝 鹿児島大学法文学部 助 教 【平成17年度(整理作業)】 作 成 責 任 者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所 長 上今 常雄 作成企画者 次 長 兼 総 務 課 長 有川 昭人 長 新東 晃一 次

調

杳

第 二

課

主任文化財主事兼第二調査係長 牛ノ濵 修

長 立神 次郎

作成担当者	"	文	11	Ł	財		主	事	宮田	栄二
"	"	文	化	財	†	調	査	員	相美信	尹久雄
作成事務担当者	"	主						査	寄井日	日正秀
遺物指導者	同志社大学文学部	教						授	松藤	和人
"	熊本大学文学部	助			教			授	小畑	弘巳
【平成18年度(報										
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	所						長	上今	常雄
(7月まで)										
"	"				11				宮原	景信
(8月から)										
作成企画者	"	次	長	兼	総	務	課	長	有川	昭人
"	"	次						長	新東	晃一
"	″	調	査	第	ĵ,	<u></u>	課	長	立神	次郎
"	″	主伯	E文化	財主	事兼	第二	調査	係長	牛ノ液	資 修
作成担当者	″	主	任	文	化	財	主	事	宮田	栄二
"	"	文	化	財	<u></u>	研	究	員	内村	光伸
"	"	総		務		係		長	寄井日	日正秀
"	"	主						查	蒲地	俊一
遺物指導者	鹿児島大学理学部	教						授	大木	公彦
"	京都文化博物館	学	크	Ę	課	:	参	事	鈴木	忠司
【平成19年度(報	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·									
	鹿児島県立埋蔵文化財センター			.				長	宮原	景信
作成企画者	"	次	長	兼	総	務	課	長	平山	章
"	"	次						長	新東	晃一
"	"	調	査	第			課	長	立神	次郎
"	"						調査		牛ノが	•
"	"	主	任	文	化	財	主	事	宮田	栄二
作成担当者	"	主	任	文	化	財	主	事	宮田	栄二
作成事務担当者	"	総		務		係		長		日正秀
"	"	主						査	蒲池	俊一
遺物指導者	別府大学文学部	教						授	橘昌	信
"	平戸市教育委員会	課						長	萩原	博文

なお発掘調査中及び整理作業中に,次の方々から指導・助言をいただいた。(敬称略)

平成5年

網谷克彦(敦賀女子短大),稲田孝司(岡山大学),江坂輝彌(慶応大学),大塚達朗(東京大学),岡本東三(千葉大学),鎌田洋昭(指宿市教委),上村俊雄,本田道輝(鹿児島大学),亀田直美(早稲田大学生),木崎康弘,宮坂孝宏(熊本県教委),黒川忠広(別府大学生),黒坪一樹,尾崎昌之(京都府埋文センター),小畑弘己(福岡市教委),小林達雄(國學院大学),重久淳一(隼人町教委),芝野圭乃介,藤原幸雄(大阪文化財センター),鈴木正博(東芝),橘昌信(別府大学),富田紘一(熊本県教委),中川重紀,吉田充(岩手県埋文センター),成尾英仁(玉龍高校),綿貫俊一(大分県教委),西中川駿(鹿児島大学),新田栄治(鹿児島大学),橋口尚成(武蔵村山高校教諭),ハーンズ氏(ケンブリッジ大学),比田井民子(東京都埋文センター),藤野次史(広島大学),宮下貴浩(金峰町教委),宮田剛(九州大学生),矢野健一(京都大学),山田昌久(筑波大学),渡辺芳郎(鹿児島大学),藁科哲男(京都大学),

平成6年

荒井幹夫(埼玉県富士見市教委),安斉正人(東京大学),池田英史(琉球大学),今村啓爾(東京大学),片岡英治(水俣小教諭),上東克彦,雨宮瑞生(加世田市教委),上村俊雄(鹿児島大学),木崎康弘,古森政次,江本直(熊本県教委),甲元眞之(熊本大学),小林謙一(慶応大学),佐藤宏之(東京都埋文センター),下山覚,鎌田洋昭(指宿市教委),清水和(大阪府埋文センター),白石浩之(神奈川埋文センター),鈴木美保(東京都埋文センター)竹広文明(島根大学),帖佐秀人(郷土史家),戸高真知子(宮崎県教委),西園勝彦(琉球大学生),新田栄治(鹿児島大学),萩原博文(平戸市教委),松崎卓郎(鹿児島大学生),松永幸雄(北九州市博物館),三木靖(鹿児島短大),元田順子(大坂小教諭),横手浩二郎(鹿児島大学生),和田好史(人吉市教委),長崎潤一(早稲田大学)

平成7年度

犬飼徹夫 (愛媛大学), 岩崎新輔 (出水市教委), 岩谷史記 (熊本大学院生), 加藤晋平 (筑波大学), 上村俊雄, 本田道輝 (鹿児島大学), 木崎康弘 (熊本県教委), 木下尚子 (熊本大学), 鈴木忠司 (東京都文化博物館), 高橋護 (ノートルダム聖心女子大学), 橘昌信 (別府大学), 新田栄治 (鹿児島大学), 藤野次史 (広島大学), 松藤和人 (同志社大学), 向山勝貞 (松陽高校校長), 渡辺芳郎 (鹿児島大学), 藁科哲男 (京都大学),

平成10年~平成19年

織笠昭 (東海大学),川道寛 (長崎教委),芝康次郎 (熊本大学院生),萩幸二,宮田剛 (大分市教委),藤木聡,松本茂 (宮崎埋文センター),松沢亜生 (岩宿博物館),古森政次 (熊本県教委),小田静夫 (東京都教委),鎌田洋昭 (指宿市教委),萩原博文 (平戸教委),吉留秀敏 (福岡市教委),杉原敏之 (福岡県教委),佐藤宏之 (東京大学),比田井氏子 (東京都埋文センター),白石浩之 (愛知学院大学),深沢幸江 (長崎県教委),綿貫俊一 (大分県教委),堤隆 (佐久市教委)

第3節 調査の経過と概要

1. 確認調査

平成3年5月10日から7月3日まで実施した。まず南九州西回り自動車道の建設予定中心ポイントのSTA,50とSTA355を基準として10m間隔のグリッドを設定した。次にそのグリッドに添って計19ヶ所のトレンチ (4 m×2 mを12本,10m×2 mを2本,14m×2 mを1本,16m×2 mを2本,18m×2 mを2本)を設定して確認調査をした。(第1図上段)

調査の結果、縄文時代後・晩期の遺物がⅢ層から、縄文時代早期の遺物がⅣ層とV層から、そしてⅧ層からは旧石器時代細石刃文化の遺物が出土し、本遺跡は複合遺跡であることが判明した。

2. 本調査(平成5年度)

確認調査で設定されたグリッドを基準として4月から本調査を開始したが、調査区域の中心付近には居住している民家があり、そこに通じる生活道路は残す必要があった。また自動車道建設の谷を埋める工事は既に開始されており、そのための工事用道路を残す必要があり、調査は二つの道路にはさまれた部分から着手することとした。第1図中段にみるように調査はほぼ中心部の比較的狭い面積を表土から四層まで調査を進め、古代から細石刃文化までの遺物が多く出土した。7月下旬から雨が多く、8月6日には大雨になり鹿児島で未曾有の水害となった。さらに9月3日の台風13号により多くの出土遺物が流されたり、陥し穴のベルトが落ちる等の被害を受けた。四層で検出された旧石器時代細石刃文化の土坑は、下面の小穴の確認により陥し穴であることが判明し、多くの大学教授や研究者等が見学に訪れ注目されることとなった。これにより、11月20日に現地説明会が開催され、県内外から多くの見学者が訪れた。

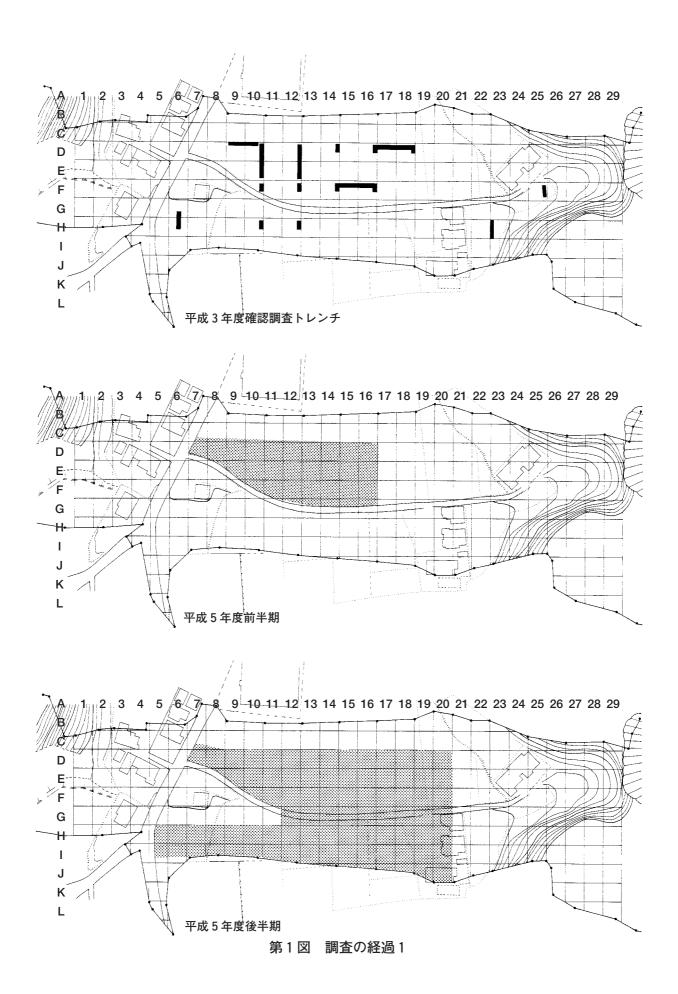
中心部の民家が移転したことにより、調査は南側へと拡大した。当初明らかでなかった旧石器時代ナイフ形石器文化の包含層が確認され、その文化の石器群が広く分布することがわかった。また古墳時代や平安時代の遺物包含層から該期の遺物も新たに出土することとなった。このような状況を受けて、次年度も調査が継続されることとなった。そして、北側の工事用道路を南側に移すためその工事用道路建設部分を先に調査することとなった。(第1図下段)

3. 本調査(平成6年度)

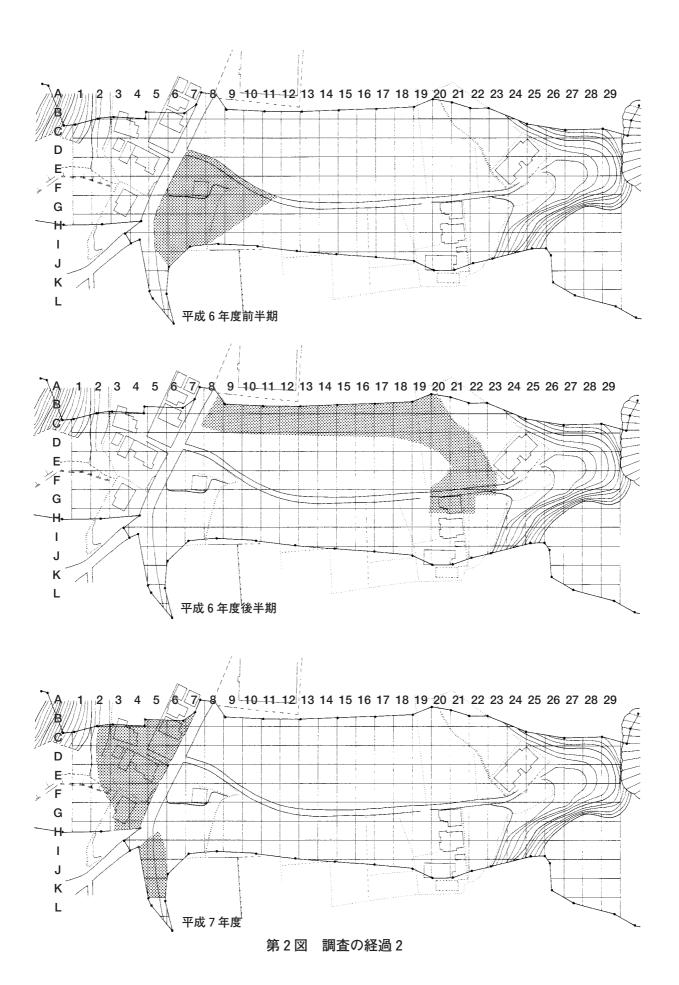
まず工事用道路の南側への移転のため、昨年度に引き続き北西部の県道近くの調査から着手した。この調査区域ではW層細石刃文化期の多量の遺物が出土したほか、W層では多くの礫群とそれに伴う石器群が出土した。その後、工事用道路が移ると以前の北側の工事用道路の北側部分の調査に移った。この地区では縄文時代晩期の掘立柱建物跡が検出され、それが九州最古級であったことから注目され、10月18日合同記者発表が行われた。また県道より北側地区については確認トレンチの結果、遺跡範囲が広がることが判明したため次年度調査することとなった。

4. 本調査(平成7年度)

県道部分を付けかえて本調査を実施した。調査期間は8月8日から3月25日までであった。この調査区域では縄文時代前期の遺物が多く出土した。また旧石器時代のみでなく、古墳時代の遺物も出土した。



-7-



-8-

第4節 西回り自動車道関連の遺跡と概要 (鹿児島西 I C~伊集院 I C間)

- 1山ノ中 鹿児島市西別府町山ノ中に所在し、標高100~133mの急峻な地形に立地する。山頂には中世城館の一つである小田城跡が良好な状態で残っている。調査面積は9,200㎡で縄文時代後期前半の竪穴住居跡18軒が検出された。出土土器は指宿式土器に先行する土器が主体となり、南福寺式土器や磨消縄文土器、それに指宿式土器が少量出土した。また、胎土や色調は南九州的であるものの高知県でみられる松ノ木土器と共通の特徴をもつ土器もみつかった。石器も石斧・石皿・磨石が多量した。その他、弥生時代の磨製石鏃や終末期の中津野式土器、須恵器・墨書土器が出土した。
- 2宮 尾 鹿児島市石谷町字宮尾に所在し、標高約200mの小台地端部に立地する。調査面積は8,400㎡である。旧石器時代ではナイフ形石器文化期のブロック1か所、縄文時代では早期の集石4基と平栫式・塞ノ神式・条痕文土器、石鏃・石匙・石皿などが出土したほか、後期と推定される陥し穴を主とする土杭101基が検出された。その他、奈良~平安時代の土師器・須恵器と古代の掘立柱建物跡1棟が焼土域7か所や土師器とともに検出された。
- 3仁田尾 鹿児島市石谷町字仁田尾・高塚に所在し、標高約190mのシラス台地上に立地する。旧石器時代、縄文時代(草創期~晩期)、平安時代の遺構・遺物が発見された。第 I 文化はシラス直上から62か所のブロック、56基の礫群と2万点を超える遺物が出土している。遺物はナイフ形石器・台形石器・掻器・削器・彫器・石錐・敲石等が出土している。第Ⅲ文化層は薩摩火山灰層の下位から62か所のブロック、16基の落とし穴と9万点を上回る遺物が出土した。縄文時代では、それぞれ各時期で集石、土坑、陥し穴などが検出され、また、晩期では掘立柱建物跡が検出された。土器は(草創期)無文土器、(早期)前平式・吉田式・手向山式・押型文土器、(前期)轟式・曽畑式・深浦式、(中期)船元式土器、(後期)指宿式・市来式土器、(晩期)黒川式土器の浅鉢・深鉢や布目圧痕土器・丹塗土器が出土した。出土石器はほとんどの器種が出土した。本報告書で報告する。
- 4西ノ原B 鹿児島市石谷町字西ノ原に所在し、仁田尾遺跡の隣接地で、小さな谷を挟んだ北側に突出した標高約190mの痩せ尾根上の台地に立地する。調査面積は1,600㎡である。旧石器時代ナイフ形石器文化から細石刃文化と古墳時代の遺物が出土した。旧石器時代では礫群1基と14か所のブロックが検出され、ナイフ形石器・三稜尖頭器・台形石器・細石刃・細石刃核・スクレイパーが出土した。古墳時代の遺物は成川式土器であった。
- 5前山 鹿児島市石谷町字前山に所在し、標高約200mの台地北側に立地する。調査面積は 9,600㎡である。遺跡は、A・B地区に分かれ、旧石器時代が主体である。ナイフ形 石器文化期の二時期と細石刃文化期の遺構・遺物が発見された。シラスの腐植土層の 下位から台形石器・ナイフ形石器・スクレイパーが出土し、上位からはナイフ形石 器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・台形石器や敲石などが出土し、2基の礫群が検出され た。細石刃文化期からは細石刃・細石刃核・スクレイパー等が4基の礫群とともに出

土した。縄文時代では、早期の吉田式土器と集石、前期の轟式土器が出土した。

- 6 枦 堀 鹿児島市石谷町字枦堀に所在し、標高約195mのシラス台地縁辺部に立地する。谷 を隔てた台地には前山遺跡がある。調査面積は5,900㎡である。旧石器時代では細石 刃文化期のブロックが19か所検出され、遺物は三稜尖頭器・台形石器・スクレイパー・細石刃・細石刃核が出土した。縄文時代では早期の集石、晩期の土坑と溝状遺構が検 出され、遺物は岩本式・前平式・平栫式・轟式・阿高式・黒川式土器等が出土し、石 器は石鏃・石匙・磨石・砥石等が出土した。また、古墳時代の成川式土器や古代~中世の須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁が出土した。
- 7前 原 鹿児島市福山町字前原・鬼ヶ迫上に所在し、標高は約180mのシラス台地に立地する。旧石器時代、縄文時代(草創期・早期・前期・晩期)の遺構・遺物が発見され、主体は縄文時代早期前半である。この時期の遺構はA・B・Cの三地区に分けられる。
 (A) 12軒の竪穴住居跡が2支群に分かれ、連穴土坑を含む土坑約130基と集石14基が、前平式・石坂式土器と共に検出された。(B) 竪穴住居跡13軒、連穴土坑35基、土坑45基、集石4基、祭祀遺構1基と幅1.5~2mの道跡2条が前平式・吉田式・石坂式土器と共に検出された。(C) 竪穴住居跡3軒、土坑131基、陥し穴1基が吉田式・石坂式土器と共に検出された。石器は、石斧・石皿・磨石・削器・石鏃・軽石製品・石剣・砥石等が出土した。縄文早期後半では、寒ノ神式土器が落とし穴2基、溝1条と共に出土し、押型文土器・手向山式土器も出土した。
- 8フミカキ 鹿児島市福山町フミカキに所在し、標高約170mのシラス台地上に立地する。調査 面積は7,200㎡ で縄文時代を主とする遺跡である。早期の連穴土坑2基・集石10基が 検出され、早期の吉田式・石坂式・政所式・押型文・中原式土器や前期の曽畑式・轟 式土器、晩期の黒川式土器が出土した。晩期では平織りの組織痕土器が出土した。また、弥生時代後期の土器や平安時代の須恵器も少量出土した。
- 9 山下堀頭 鹿児島市福山町字山下堀頭に所在し、シラス台地に囲まれた開析谷の標高約133m の台地裾部に立地する。縄文時代前期の曽畑式土器と後期の土器が少量出土した。弥 生時代後期では竪穴住居が3軒検出され、遺物は中津野式土器や鉄剣等が出土した。 住居内からは軽石製品が出土し、周辺からは磨製石鏃も出土している。平安時代末頃 の方形周溝状遺構が1基検出され、周溝から小型の軽石製石塔の笠石片が出土した。

※刊行報告書(鹿児島西 I C~伊集院 I C間)

『枦堀遺跡・西ノ原B遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(30)2001.3

『宮尾遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(73)2004.3

『フミカキ遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(74)2004.3

『山下堀頭遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (95) 2005.3

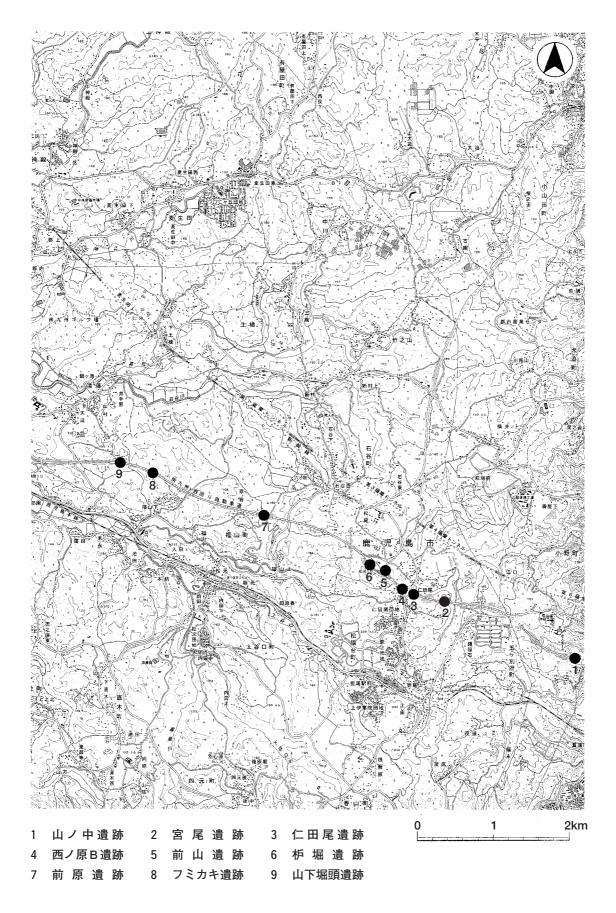
『山ノ中遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(103)2006.3

『前山遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(107)2007.1

『前原遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(115)2007.3

第1表 南九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表(鹿児島西IC~伊集院IC)

יינו	20 17370	//II H 3// T					退跡―見衣(庇元局四10、下来院10/
番号	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査員	時代	概 要
1	山ノ中	鹿児島市西別府町	9,200	H6,4~6 H7,6 ~H8,3	東管牟田西園	縄	住居跡・土坑・炉跡,南福寺式・出水式・指宿式・山ノ中タイプ・磨消縄文・松ノ木式類似・下剥峯式 土器・石鏃・石匙・剥片石器・石核・玉類・ノミ形磨製石器・磨製石斧・敲石・磨石・石皿・砥石・擦切石器・軽石製品中津野式土器 土坑,須恵器・土師器中世陶磁器・古銭陶磁器・煙管・簪(県埋文センター報告書103)
2	宮尾	鹿児島市 石谷町	8,400	H5,12 ~H6,3 H8,4~ 9	牛ノ濱 東 繁 三	旧石器 縄文 奈良 ・平安	剥片・砕片 集石・陥し穴・土坑,条痕文・塞ノ神式土器 掘立柱建物跡,須恵器・土師器 (県埋文センター報告書73・2004年刊行)
3	仁田尾	鹿児島市石谷町	55,000	H5,4 ~H6,3 H6,4 ~H7,3 H7,7 ~H8,3	池畑・宮田 今村・寺原 田・前濱 牛ノ濱 常田・塩 三 垣	旧石器 縄文 古墳 ~平安	礫群,陥し穴,ブロックナイフ・尖頭器・台形石器・細石刃核・細石刃掘立柱建物跡・溝・集石・陥し穴・土坑前平式・吉田式・轟式・曽畑式・黒川式土器掘立柱建物跡・溝,須恵器・土師器(県埋文センター報告書本報告書)
4	西ノ原B	鹿児島市 石谷町	1,600	H6,10~11	牛ノ濱 園 田	旧石器 古墳	礫群,ナイフ・三稜尖頭器・細石刃核・細石刃 成川式土器 (県埋文センター報告書30・2001年刊行)
5	前山	鹿児島市 石谷町	9,600	H7,5 ~H8,3 H8,4~ 9	鶴 田 桑波田 坂口・元田	旧石器 縄文 古墳	台形様石器・ナイフ・剥片尖頭器・細石刃核 前平式・轟式土器 成川式土器
6	枦 堀	鹿児島市 石谷町	5,900	H4,12 ~H5,3 H5,4~6	牛ノ濱 新町・元田		細石刃核・細石刃,溝,前平式・平栫式・轟式・黒 川式・石槍・砥石・青磁・須恵器・土師器・石鍋 (県埋文センター報告書30・2001年刊行)
7	前原	鹿児島市福山町	53,200	H3,10 ~H5,11 H6,1 ~H8,10	牛ノ濱 新町・前追 前村・元田 東・園田 菅牟田	旧石器 縄文	礫群,台形石器・三稜尖頭器・細石刃 竪穴住居跡・道跡・連穴土杭・土坑・集石, 前平式・吉田式・石坂式・押型文・黒川式土器・石 槍・石皿・磨石・石鏃・石斧 (県埋文センター報告書2007年刊行)
8	フミカキ	鹿児島市福山町	7,200	H6,10 ~H7,3 H7,5~6	東 菅牟田 西 園	縄文平安	集石,石坂式・押型文・黒川式土器 須恵器 (県埋文センター報告書74・2004年刊行)
9	山下堀頭	鹿児島市 福山町	5,500	H6,6~10	東 菅牟田	縄文 弥生 平安	曽畑式土器 住居跡,鉄剣・石鏃・軽石製品 周溝墓,須恵器 (県埋文センター報告書92・2005年刊行)



第3図 南九州自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡位置

第Ⅱ章 遺跡の位置及び環境

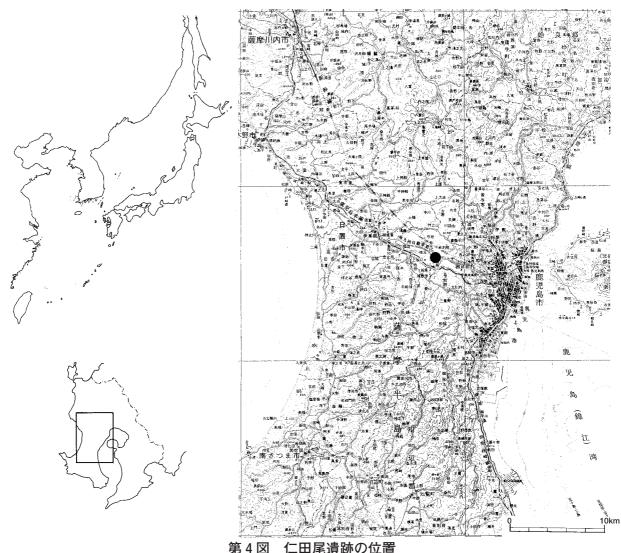
第1節 自然・地理的環境

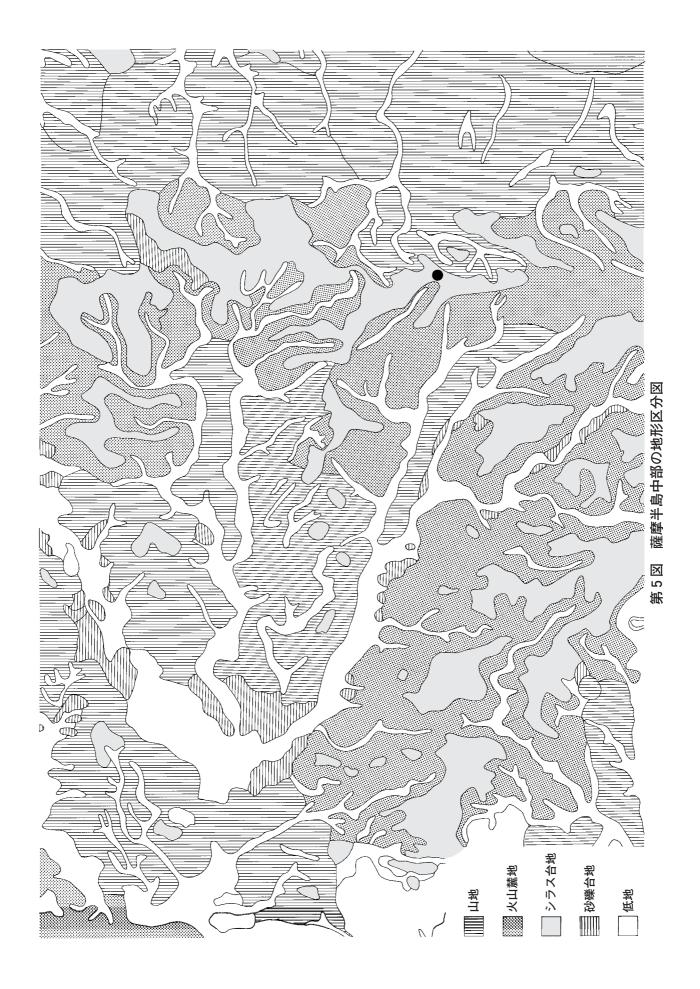
仁田尾遺跡は、鹿児島県鹿児島市石谷町(旧松元町)に所在する。

旧松元町は、1889年(明治22) 4月上谷・福山・春山・直木・入佐・石谷の6か村を統合、上伊 集院村として発足、1960年(昭和35)4月町制を施行、日置郡松元町と改称した。2004年11月1日 には1市5町合併を行うこととなり、鹿児島市に編入された。

石谷町は、薩摩半島の中部に位置し、東部は鹿児島市、北西部は伊集院町、南部は吹上町・日吉 町に接し、鹿児島市の中心地からわずか13km の距離にある。

地形的には、春山の八の久保(標高391.7m)を最高峰とし、概して150~200mのシラス台地と その浸食谷による多数の渓谷からなっている。集落は河川の沖積平野と台地の緑辺部に立地してい る。河川は吹上浜に流入する神之川水系の上谷口川・石谷川・福山川などと、鹿児島湾に流入する 新川系の河川があるが一般に小規模な河川である。この地域は薩摩半島の鞍部となって東西交通の 要路となっている。概ね平坦な台地で畑作地帯となっており、茶畑が卓越している。松元町の先史 時代の遺跡はシラス台地縁辺部にあり、湧水源の周辺にあることが多い。





仁田尾遺跡は、南北に細長く伸びる横井台地の南側に所在しており、横井台地は吹上浜に西流する神之川水系の谷頭と鹿児島湾に東流する新川系の谷頭にはさまれた分水嶺に位置している。これらの各谷頭には湧水点が存在している。仁田尾遺跡の調査以後には周辺に多くの旧石器時代遺跡が確認され発掘調査が実施されているが(第7図参照)、第5図の地形図で明らかになるように全て同一の台地に所在し共通した立地条件にあることがわかる。



-15-

第2節 歴史的環境

石谷町周辺では、昭和20年代後半に河口貞徳氏により、木ヶ暮遺跡や東昌寺遺跡の発掘調査が行われたのみで、昭和59年度発行の遺跡地名表では松元町の15か所が紹介されていたのみであったが、平成3年度から始まった南九州西回り自動車道建設に伴う発掘調査やそれに関連する県道改良事業の発掘調査が行われたこと等により、遺跡数が一気に増加し、現在では、多数の遺跡が周知されている。

旧石器時代

旧松元町では、南九州西回り自動車道建設が始まるまでは、旧石器時代の遺跡は発見されていなかったが、現在では全国から注目される遺跡が数多く発見され、県内でも有数の旧石器時代遺跡群となっている。それは前に触れたように立地条件が共通しているものである。特に、横井台地には大規模な遺跡群が多くみられる。

前山遺跡からは、県内でも出土例の数少ないAT下位からナイフ形石器文化前半期の台形様石器、スクレイパー等が出土し、出水市上場遺跡 6 層下部と同様の台形様石器群に位置づけられている。さらに古い時期の可能性があるギョクズイ製石器も出土している。この石器群の評価については、九州で類例が少なく明確でないが、台形様石器群以前の石器群の可能性が推定されている。

ナイフ形石器文化後半期では宮ヶ迫遺跡で剥片尖頭器を主体とする石器群があり,前山遺跡では 大型三稜尖頭器石器群も出土している。

ナイフ形石器文化終末段階の石器群としては、最初に前原遺跡 Wc層や西之原B遺跡で小型ナイフ 形石器と小型台形石器が出土して注目されたが、その後に瀬戸頭A、瀬戸頭B遺跡でも出土した。そ して仁田尾中B遺跡では数百点規模の小型ナイフ形石器と小型台形石器が出土した。

これらの各遺跡はナイフ形石器文化だけでなく、細石刃文化も複合している遺跡が多い。これらの中で枦堀遺跡では西北九州淀姫針尾産黒曜石を使用した福井型細石刃核がスポールと共に出土し、瀬戸頭遺跡では唐津型の楔形細石刃核が出土している。

また、本遺跡で初めて確認された細石刃文化期の陥し穴は竹ノ山B遺跡でも検出された。

さらに細石刃文化から縄文時代草創期にかけては、横井竹ノ山遺跡で細石刃石器と石鏃・土器が 共伴して注目されたが、同様の共伴例は本遺跡のみでなく瀬戸頭遺跡や、仁田尾中B遺跡など本遺 跡が所在する横井台地では珍しいことではない。

縄文時代

前原遺跡では、縄文時代早期の集落が発見された。住居跡20数基、道跡2本や連穴土坑、集石土坑などが検出され、集落構成や生活用具の移り変わりを知る上で貴重な遺物が出土した。遺物は前平式・吉田式・石坂式・押型式・岩崎式・黒川式土器等が石槍・石皿・磨石・石鏃・石斧等と出土している。その他、縄文時代早期の層から砥石と磨製石剣や磨製石鏃が出土して注目されている。フミカキ遺跡では、集石と石坂式・押型文・黒川式土器が、木ヶ暮遺跡は、1952年(昭和27)に河口貞徳氏が調査した遺跡で、指宿式土器の単純遺跡の様相を示し、ごく少量の市来式土器がその上部から発見された。遺物は台地上から谷に向かって投棄したものが斜面に堆積したものである。石

皿や敲石も出土している。その他、鹿児島市の山ノ中遺跡では後期の住居跡が傾斜面に検出され、 指宿式・中原式土器が出土している。特筆すべきは高知県で出土する松ノ木式土器が出土し、縄文 時代の交易を知る上で貴重な遺跡となった。

弥生時代

松元町は、台地が多いせいか弥生時代の遺跡は少ないが、1952年(昭和27)に河口貞徳氏が調査した東昌寺遺跡は標高137m、水田からの比高差は7mで、谷頭の舌状台地に立地している。県内で最初に発見された弥生前期の遺跡である。甕形土器に特徴があり、口縁がわずかに外反し頸部の突帯とともに刻目を施すもの、口縁部と頸部に刻目突帯を巡らすもの、頸部に段を有し、口縁部と頸部に刻目を施すものがある。底部はいずれも平底である。また、山下堀頭遺跡では、中津野式土器の時期の住居跡が3基検出された。住居内からは鉄剣や軽石製品が出土し、周辺からは磨製石鏃が10数点出土している。

古代から中世にかけては、開拓開墾が進み、荘園領主や、島津氏、伊集院氏などが、所領をめぐり抗争を繰り広げた。15世紀前半、石谷地域は守護職島津氏の家老の町田氏の領地になった。戦国時代になると松元町内でも、石谷城の町田氏や谷口氏の肥後氏等が割拠した。この時代の遺跡からは、宮尾遺跡や枦堀遺跡、フミカキ遺跡などで須恵器や土師器、陶磁器などが出土している。山下堀頭遺跡では平安時代の周溝墓が検出され、須恵器、土師器、陶磁器等も出土している。仁田尾中B遺跡では、炭化した桃の種を伴ったカマド状焼土遺構や配石炉が検出され、墨書土器も出土している。また、町内にはこの時代の古石塔も多くみられる。

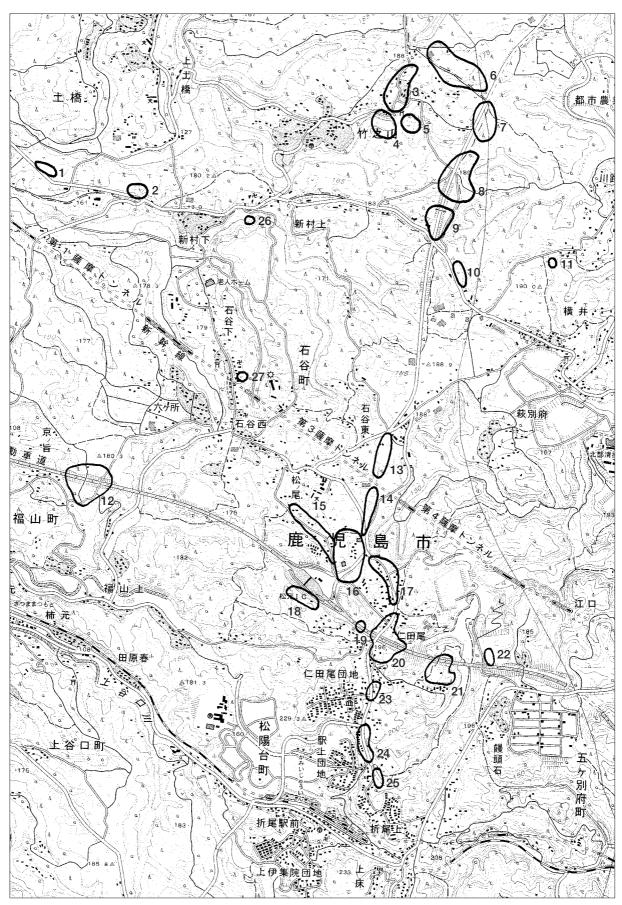
江戸時代の石谷地域は、薩摩藩の上級武士である一所持家となった町田氏の領地となった。町田 氏は鹿児島城下の屋敷に居住していたが、御仮屋跡遺跡には地方役所である地頭仮屋が存在した。

<参考文献>

河口貞徳『日本の古代遺跡38 鹿児島』 保育社 1988

『鹿児島県市町村別遺跡地名表』 鹿児島県教育委員会 1977

『前山遺跡』「鹿児島県立埋蔵文化財センター報告書(107)」鹿児島県立埋蔵文化財センター 2007 宮田栄二「鹿児島県の非黒曜石材と原産地」『石器原産地研究会 第1回研究集会資料』 2002



第7図 周辺の遺跡

第2表 周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	遺物等	備考	遺跡番号
1	竹ノ山B	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器	陥し穴 細石器	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (29)	
2	竹ノ山A	日置市伊集院町竹之山	台地	縄文~古墳		鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (29)	
3	竹ノ山	日置市伊集院町竹之山	台地	縄文		分布調査	30-78
4	長崎城遺跡	日置市伊集院町竹之山	山地	中世			30-14
5	前迫	日置市伊集院町土橋竹 山前迫熊野神社	台地		磨製石斧		30- 7
6	瀬戸頭	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器 縄文 中世	土器片	伊集院町埋蔵文化財発掘調査報告書(11)	30-55
7	瀬戸頭A	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器 縄文	ナイフ形石器 細石器	平成10~12年度本調査 鹿児鳥県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (85)	30-75
8	瀬戸頭B	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器	細石器	平成13年度本調査 鹿児鳥県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (85)	30-76
9	瀬戸頭C	日置市伊集院町竹之山	台地	旧石器	台形石器	平成11年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (85)	30-77
10	横井竹ノ山	鹿児島市犬迫町横井竹 之山	台地	旧石器~ 縄文	細石器 土器	鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書 (10) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (67)	1 -108
11	川路山	鹿児島市犬迫町川路山	台地	縄文早期 古墳	石坂式土器		1 -109
12	前原	鹿児島市石谷町前原	台地	旧石器~ 縄文	縄文早期土器	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (107)	
13	伏野	鹿児島市石谷町伏野	台地	旧石器	剥片 連穴土坑	平成14年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (101)	31- 3
14	隠迫	鹿児島市石谷町濡ヶ丸	台地	旧石器縄文	土器 石器	平成14年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (101)	31- 4
15	宮ヶ迫	鹿児島市石谷町前山	台地	旧石器	ナイフ形石器 細石器	平成8~10年度本調査 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(3)	31- 5
16	枦堀A	鹿児島市石谷町枦堀	台地	旧石器 縄文 古墳	細石器 石鏃,石槍 前平式土器	平成 4 ~ 9 年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (30) 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (101)	31- 6
17	枦堀B	鹿児島市石谷町枦堀	台地	縄文 古代	土器 石器	平成14年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (30)	31- 7
18	前山	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器 縄文 古墳	細石器 ナイフ形石器 成川式土器	平成7~8年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書(115)	31- 8
19	西ノ原B	鹿児島市石谷町西ノ原	台地	旧石器 ナイフ形石器	細石器 ナイフ形石器	平成6年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書(30)	31-10
20	仁田尾	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器 縄文	細石器 ナイフ形石器 陥し穴	平成5~11, 14, 15年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書(101), 本報告書	31-11
21	宮尾	鹿児島市石谷町宮尾	台地	縄文 古代	土坑 青磁片	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (73)	31-12
22	木ヶ暮	鹿児島市西別府町木ヶ 暮	台地	縄文中期 後期	阿高式,指宿式 市来式土器 石皿等	昭和27調查「鹿県考古学会紀要」(2) 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(4) 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)	1 -10
23	御仮屋跡	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器	細石器 ナイフ形石器 礫群	平成14~15年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (101) 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書 (45)	31-13
24	仁田尾中A	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器 縄文	細石器縄文	平成14~15年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (110)	31-14
25	仁田尾中B	鹿児島市石谷町仁田尾	台地	旧石器 縄文 古代	細石器 ナイフ形石器	平成12~15年度本調査 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告 書 (110)	31-15
26	小松迫	鹿児島市石谷町小竹田	台地	縄文早期	石坂式土器		31- 1
27	石谷城跡	鹿児島市石谷町枦頭	台地	中世 (室町後期)	堀割跡	町田氏居城跡	31- 2

第Ⅲ章 発掘調査の方法と遺跡の層序

第1節 発掘調査の方法

確認調査の結果により、本遺跡は縄文時代晩期、縄文時代早期、旧石器時代細石刃文化期の三つの時代・時期の複合遺跡であることが判明していた。

縄文時代晩期については現在の地表面からも浅いが、旧石器時代の遺物包含層については、現地表より約3m程度掘り下げる必要性があり、土層図の位置と間隔について検討する必要があった。

発掘調査は、調査区域全体に10mメッシュのアミをかけ、北から南へ1, 2, 3・・・とし、22 区まで設定し、東西は東から西へA、B、C・・・とした。そして各グリッドはD-6 区というように呼称した。

全調査区域が計画的に北側あるいは南側から調査できる場合は問題はないが、調査の経過でも記したように、調査開始後も調査区域内に民家が存在していた。そのことは、その家に致る道路も存在することを意味する。

加えて自動車道建設は、遺跡部分を残してすでに開始されており、谷の埋め立て工事も休むことはなかった。その埋め立て工事の道路も遺跡内で確保することとなっていた。

このような状況の中で発掘調査は、工事の支障がない部分から開始せざるを得なかった。そのため土層断面等の位置を計画的に決めて置く必要があった。土層図は40mおきに全て実測図・写真撮影を行うこととした。また土層ベルトは高くなったまま残せず、途中でつぎ足すこととした。

縄文時代晩期~早期までは全域を調査することとした。

しかし、旧石器時代については、遺物が出土する部分としない部分が明確に分かれることより、10mのグリッドを2m四方の小グリッドに区分し、個別の小グリッド間に幅10mの小ベルトを設定して調査を進めた。

細石刃文化の調査開始後は、並行して下層の確認を行った。その結果、新たにナイフ形石器文化 期の遺物包含層が確認された。

ナイフ形石器文化期の調査は、調査の効率化を考えて、2mの小グリッドを一松文様状に一つ置きに調査し、遺物が出土した時点で周囲を広げることとした。

出土するものは土器や石器あるいは剥片のみでなく、すべての礫や細礫についても番号を付し、 平板で取り上げることとした。

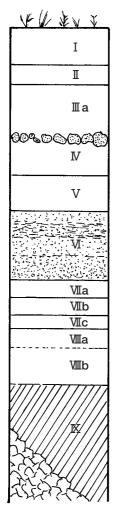
遺構については、礫群や集石を構成する礫も全て記録を取り、その上で持ち帰ることとした。

土坑などの調査については、大きさなどから墓の可能性が推定できるものは、土は全て土のう袋に取り、遺構の性格が判明するまで保存することとした。墓の可能性がある場合はフルイがけをする必要からである。また遺構の調査終了後は、その遺構を断ち切って、遺構下面についても調査を 実施することとした。

発掘調査は計画的に、かつ綿密に進めたことにより、これまでにない接合資料を含む多大な成果 を得ることができた。

第2節 遺跡の層序

遺跡は標高約195mのシラス台地に立地しており、その下部には加久藤カルデラ起源の火山礫が存在している。遺跡の南側と北側は解析された谷頭がせまり、本遺跡が分水嶺地に位置することがわかる。本遺跡の基本土層は以下のとおりである。



第8図 仁田尾遺跡

基本土層柱状図

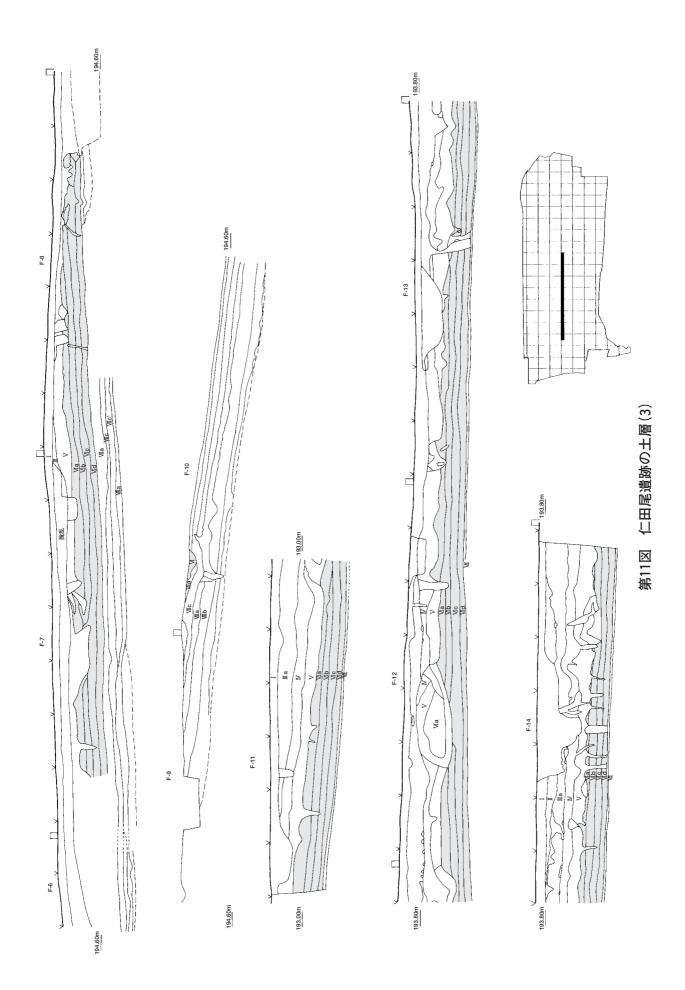
- I 層 暗褐色土。現在の耕作土であり、薩摩焼などの近代の遺物も 認められる。
- Ⅱ 層 黒色軟質土。比較的軟かく水分も含む。平安時代など古代か 古墳時代の遺物を含む。
- Ⅲ a 層 黄褐色土層。アカホヤ火山灰層の風化土壌である。軟質であり、縄文時代前期から晩期までの遺物包含層である。
- b層 黄褐色軽石。鬼界カルデラ起源の火砕流及び火山灰であり、 ブロック状に堆積している。約6300年前の年代が知られてい る。
- IV 層 暗褐色硬質土。硬く締まっている土層であり、縄文時代早期 中葉から後葉の遺物包含層である。
- V 層 黒褐色硬質土。硬く締まっている土層であり、縄文時代早期 前葉の遺物包含層である。
- VI 層 黄橙色軽石層。桜島起源の火山灰であり、薩摩火山灰と呼称されている。約11500年前の噴出年代が知られている。輪廻により、細分できるがほぼ一時期のものとされている。
- Ⅲ 層 茶褐色粘土層。色調と粘質度の差により三つに区分できる。
 - Ⅶ a 濃茶褐色粘質土。
 - WIb 茶褐色粘質土。
 - ™ c 淡茶褐色土。比較的粘質性は弱い。 このうち Wa層下半から Wb層上半が旧石器時代細石刃文化 の遺物包含層である。
- □ a 層 淡黄褐色砂質土。砂質でありヌレシラスと間違われることが 多い。
- Ⅲ b 層 黄褐色硬質土。硬く締まっており旧石器時代ナイフ形石器文 化の遺物包含層である。
- IX 層 黄白色シラス。北西部は岩板が近いためうすい。約25000年 前の入戸火砕流堆積遺物である。
- 基盤 加久藤カルデラ起源の凝灰岩である。シラスがうすい北西部 のみに認められる。

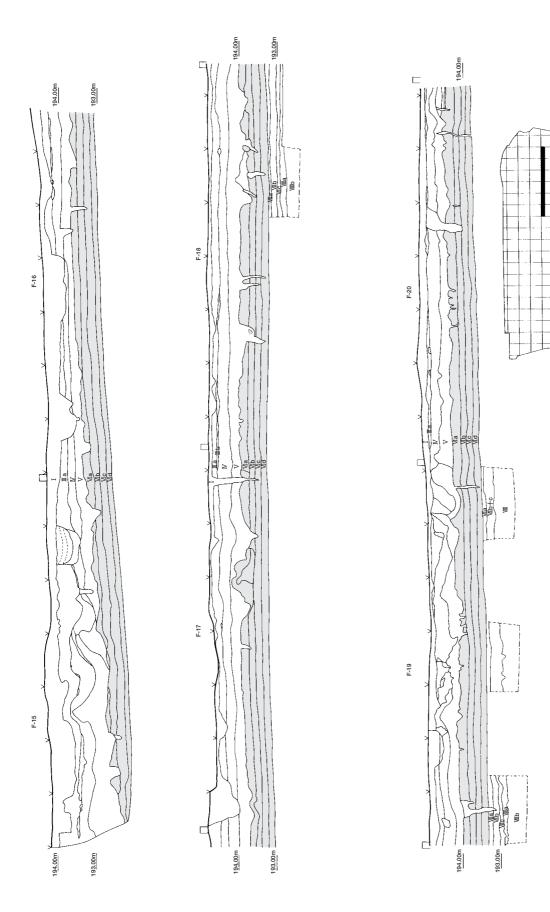
仁田尾遺跡の土層(1)

第9図

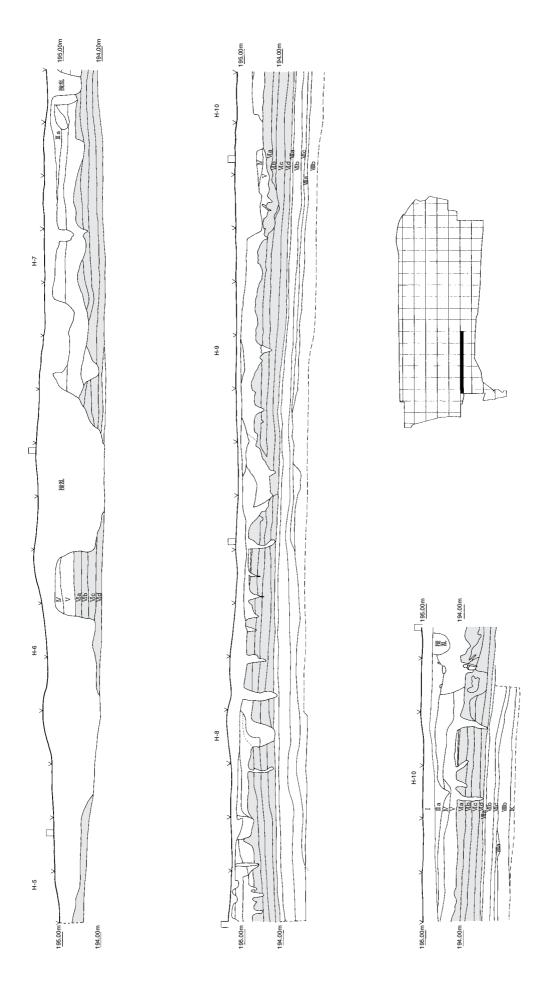
-22-

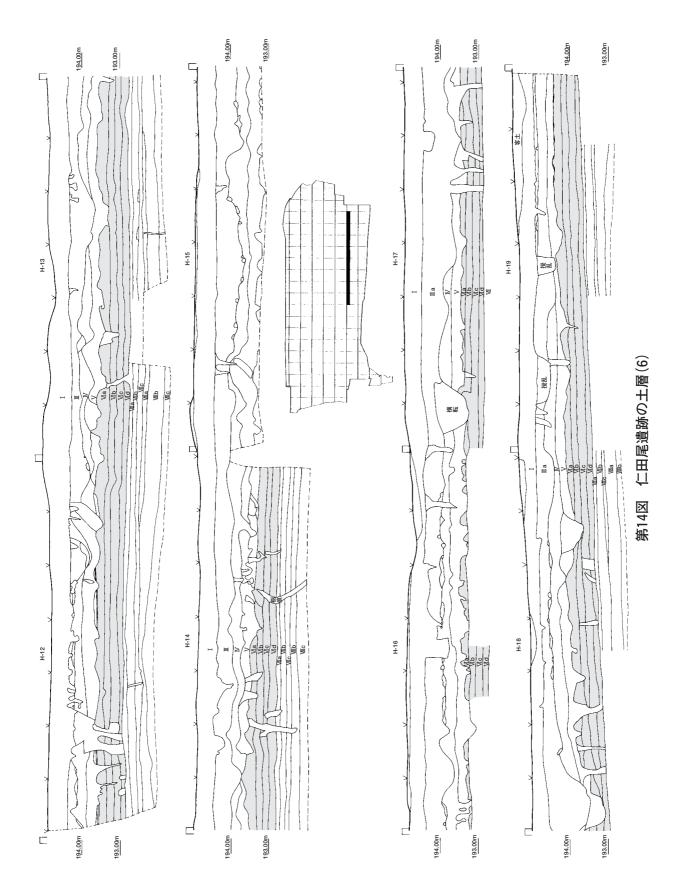
第10図 仁田尾遺跡の土層(2)

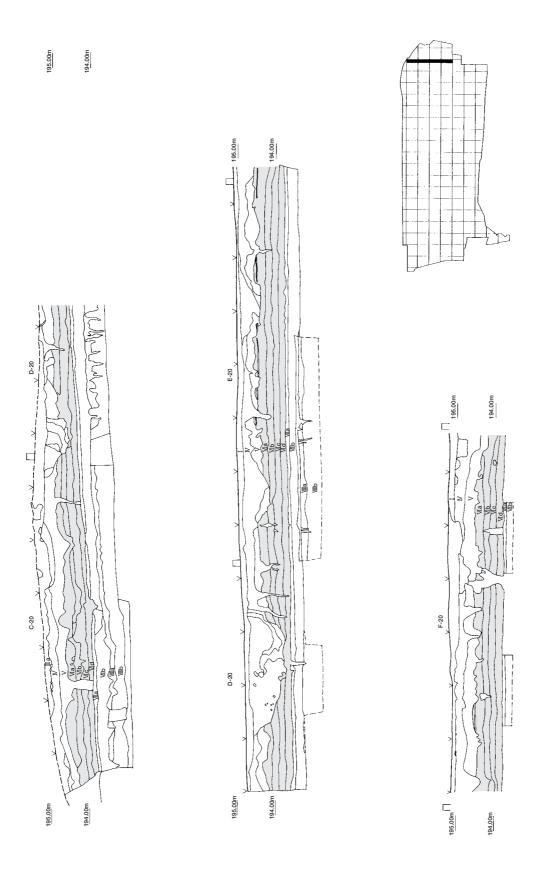


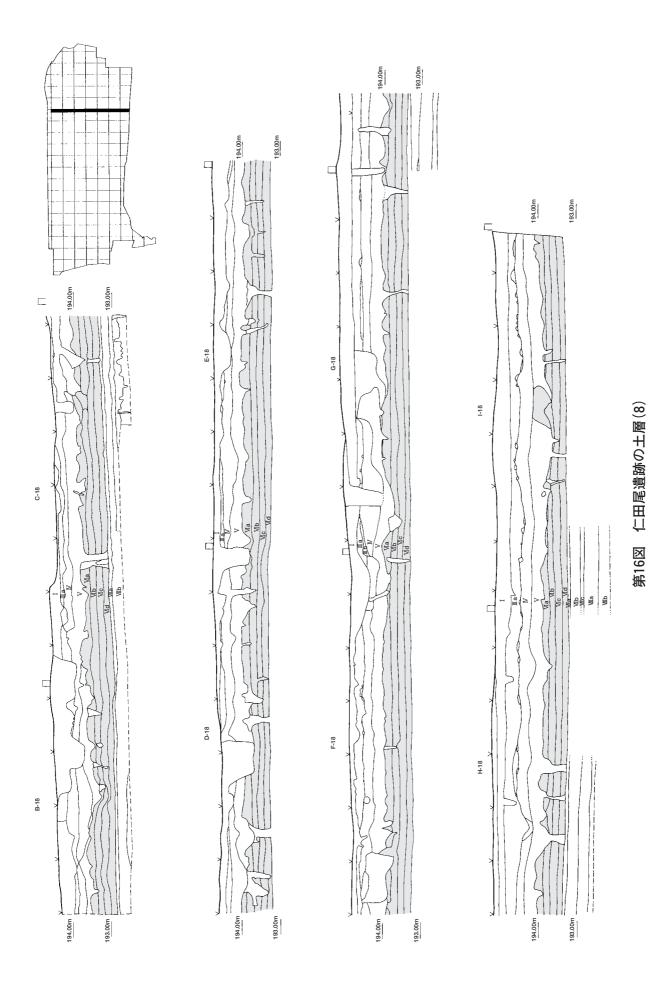


第12図 仁田尾遺跡の土層(4)



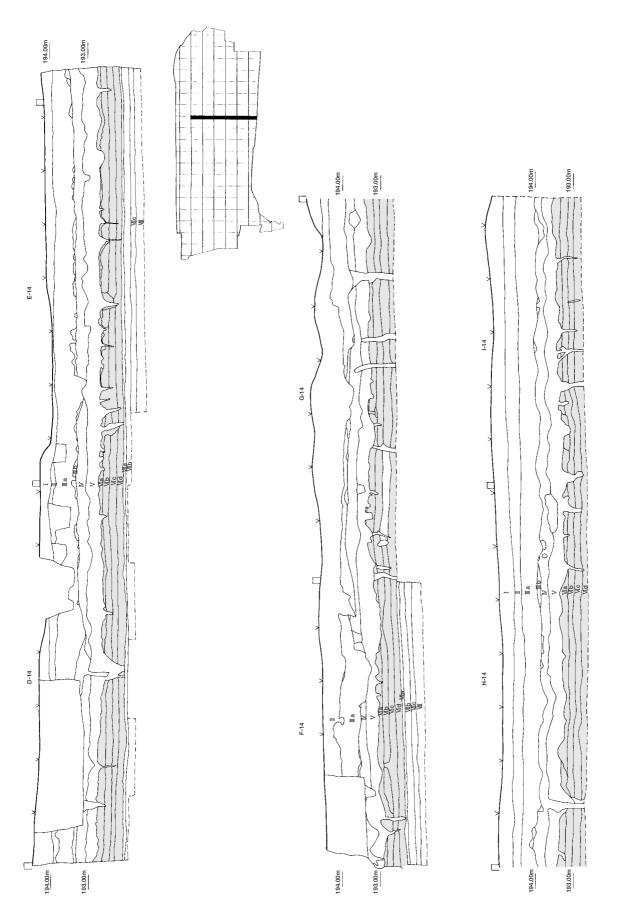


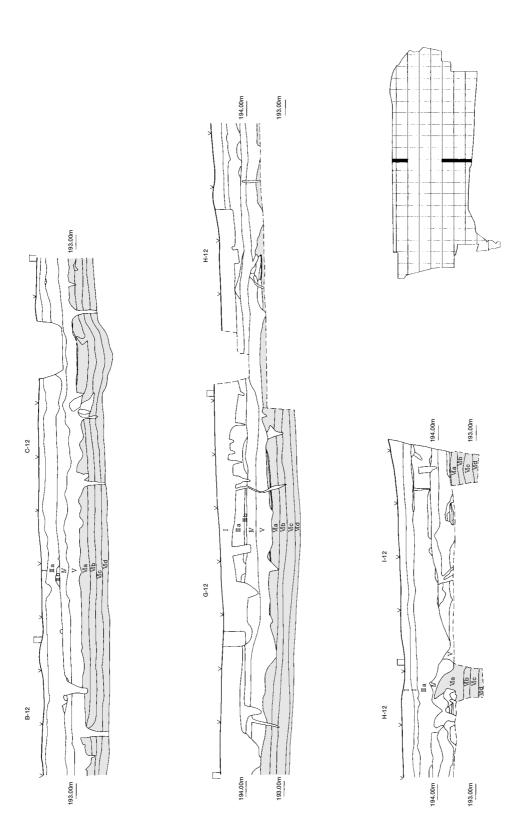


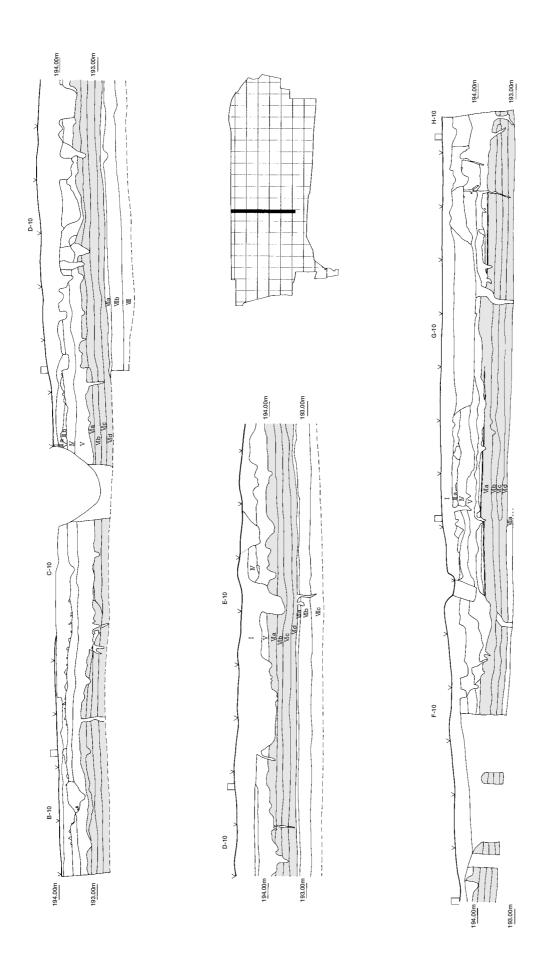


-29-

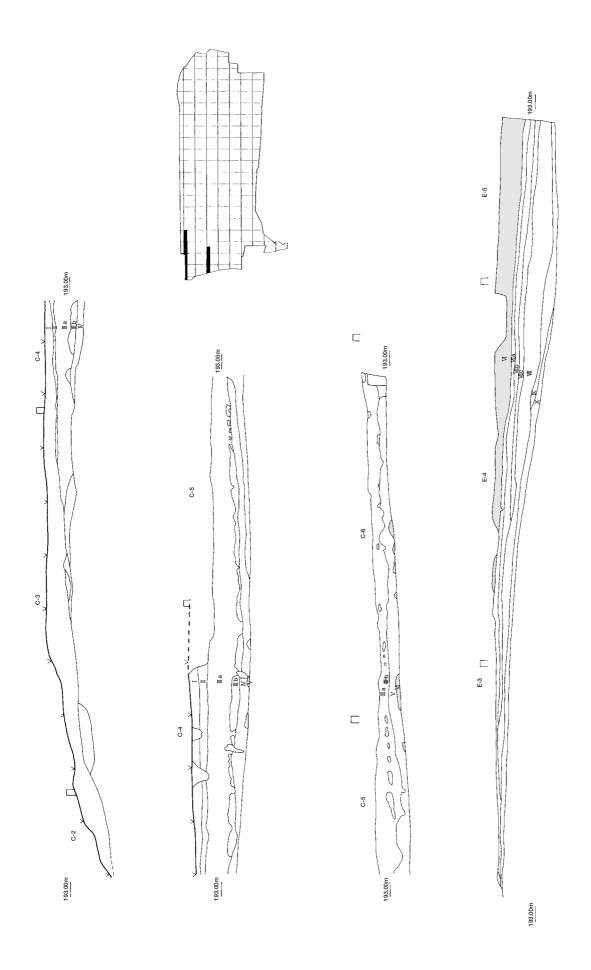
第17図 仁田尾遺跡の土層(9)







第21図 仁田尾遺跡の土層(13)



第Ⅳ章 旧石器時代 I 文化層の遺構と遺物

第1節 調査の概要と石器石材

1. 調査の概要

第 Ⅵ 層薩摩火山灰の下位に位置する第 垭 層茶褐色粘質土層 (通称チョコ層) に包含されている細石刃文化期の調査中に於いて、細石刃文化期の遺物がしだいに少なくなる Ⅷ b 層の下部から、次の 垭 層上面まで掘り下げた段階で、この第 垭 層について疑問が生じた。

このチョコ層の下位に位置する黄褐色砂質土層は、これまで入戸火砕流の最上部としてのヌレシラスとして認識され、無遺物層として把握されていた。仁田尾遺跡の確認調査においても同様であり、茶褐色粘質土層(チョコ層)の調査終了は、そのまま調査終了を意味していたのである。

第四層の黄褐色砂質土層は、肉眼的にもまた手で触れた感触もヌレシラスに極めて類似している 土層であるが、これまでの常識を超えて掘り下げを開始することとした。

掘り下げた結果、黄褐色砂質土(第四a層)の下位には、黄褐色硬質土(四b層)が堆積しており、 そのなかから予想どおり石器が出土して、第 I 文化層のナイフ形石器文化期の存在が確認されることとなった。

なお、仁田尾遺跡ナイフ形石器文化期の調査事例により、チョコ層の下位がヌレシラスという既成概念が崩壊し、県内のナイフ形石器文化期の遺跡が以後急増したことは周知のとおりであることを付記しておく。

以上のような経緯を経て、調査区全体の第四 b 層を調査した結果、合計62ヶ所の石器群ブロックが検出され、これに伴い礫群が計51基検出された。

出土した石器群はナイフ形石器、台形石器などの石器を中心として、掻器、削器や多量の剥片や 細片と石核などがあり、時期としてはほぼ単一型式期に近い短いものであるが、使用されている石 材は多様性が認められ当時の集団構成や移動領域の複雑さが示唆されるものであった。

2. 旧石器時代 I 文化層の石器石材

石器に使用されている石材は多種多様のものが認められており、黒曜石類については遺物材料研究所藁科哲男氏による分析のほか、それを基準にした肉眼的観察による黒曜石の区別と、鹿児島大学博物館長大木公彦教授による堆積岩及び珪質岩の指導を受けて、以下のような分類を行った。ここでは第I文化層で使用されている石材について取り上げる。

黒曜石類

- 三船産…ガラス質が強く、光沢・透明感があり不純物を多く含むものが一般的な特徴とされてきた。しかし、原産地の鹿児島市三船の海岸ではうす墨色でシマ状の流理構造を有するものや、赤褐色を帯びたものも確認され多様性が知られてきた。なお黒曜石分析の頁では竜ヶ水産と記載されている。
- 上牛鼻産…風化が著しく、外観は消し炭状で特徴的なものであるが、新しい割れ面は漆黒で光を通さない。薩摩川内市樋脇町上牛鼻が主産地であるが、日置市市来町平木場も産地として確認されている。

- 上青木・桑ノ木津留産…アメ色で透明感があり、不純物の少ない特徴のものである。以前には桑ノ木津留産とされていたが、近年大口市上青木で広い散布域が確認された黒曜石である。いわゆる霧島系と呼ばれる黒色でわずかに不純物を有するものは明確な区別が困難であり本報告書ではこれに含む。
- 日東系…大口市日東産地を標準とするものであり、不純物が多いものである。透明感がない点で三船産と異なる。ここでは大口市五女木産を含む意味で日東系とした。
- 仁田尾NO6黒曜石…黒曜石分析の結果,これまでに判明している産地のものとは全く成分比の異なるものがあり、今回仁田尾NO6黒曜石として新たに設定されることになった。 円礫として採集されており、ガラス質が強く不純物はあるが多くない。最大の特徴は内部が夜空の星状を呈して光ることである。

腰岳産…漆黒色を呈し、不純物がきわめて少ないものである。佐賀県腰岳産。

淀姫・針尾系…青灰色を呈し、ガラス質であり不純物は少ない特徴のものである。淀姫産と針 尾産は外礫皮面や色調の差があるが、ここでは一括して取り扱った。

頁岩類

青黒色~淡黄白色珪質頁岩…大きな角礫として産出するものであり、外観は外側の風化を受けた部分は淡黄白色を呈するが、風化していない内部付近は青黒色~青灰色を呈している。中心部は珪質分が強く良質であるが、外側や一部のものは内部まで節理が発達しているものもある。産地は最近になって発見された南九州市川辺町宮ノ上である。

ギョクズイ系

広く玉髄系石材を全て含む呼称である。本来微晶質の石英で半透明なものを呼ぶ。このうち、シマ状となるものはメノウと呼ばれている。一方、半透明でないものはジャスパーと呼称され、このうち鉄分を含むことから赤褐色を呈するものを「鉄石英」として区別し、赤褐色~黄褐色のものも本報告書では鉄石英に含めている。また、白色のものは「たんぱく石」もしくは「白色玉髄」としている。これらの玉髄系や鉄石英の産地は金鉱山に関わる熱水鉱床近くに産出し、串木野、枕崎、大口等の産地が知られている。

安山岩類

多久産サヌカイト…外観の自然礫面及び剥離面の特徴によって判断できるものである。 その他の安山岩…産地が明確でないもので、数種に区別できる。

以上のように第I文化層で石器として利用されている石材は多様なものが認められるが、頁岩類や凝灰岩類の多様な石材は、第II・III文化層で使用されているものが種類が多い。

なお、本遺跡と関係石材の産地については第Ⅲ文化層の石材の頁で再掲し、かつ第268図で本遺跡 との距離等を図示した。

第2節 第1文化層の検出遺構

1. ブロックとブロック群

第 I 文化層の遺物包含層は第 Wb層であり、発掘調査段階で石器群の集中を意識しながら調査を 進めた。調査では石器群集中の検出順にブロック番号を付している。

今回報告にあたり、調査時のブロック番号をほぼそのまま踏襲することとした。そのためブロック番号は南側から順序だっていない。さらに調査時に一つのブロックと考えていたものについても、全体分布図及び石材別の全体分布を検討して、複数のブロックとしたものもある。

以上のようにして、全体の石器群の出土分布を概観すると、各々のブロックは調査区域全体に均等に分布しているものではなく、かなり偏った分布状況を呈していることが理解できる。そこで各々の近接したブロックの視覚的な集合単位として便宜的にブロック群として認識することとした。以下はその内容である。

Aブロック群

調査区域の最も南側に位置している。多数のブロックが近接しており、礫群も多く検出されている。該当するブロックは、5、6、 $8 \sim 13$ 、19、20、 $29 \sim 31$ 、 $34 \sim 36$ ブロックである。

Bブロック群

Aブロック群の北西に位置するもので、各々のブロックはやや離れて分布している。検出された 礫群は少ない。該当するブロックは、3、14~18、23、27ブロックである。

Cブロック群

Bブロック群の北東部に位置しており、各ブロックは集中が明確で認識しやすい。礫群は1基検出されている。該当するブロックは、1、2、4、7、37~40ブロックである。

Dブロック群

Bブロック群の北側に位置し、石器群が極めて集中するブロックと、やや散在するブロックからなる。少数の礫群も検出されている。21、24~26、28、32、33ブロックから構成される。

Eブロック群

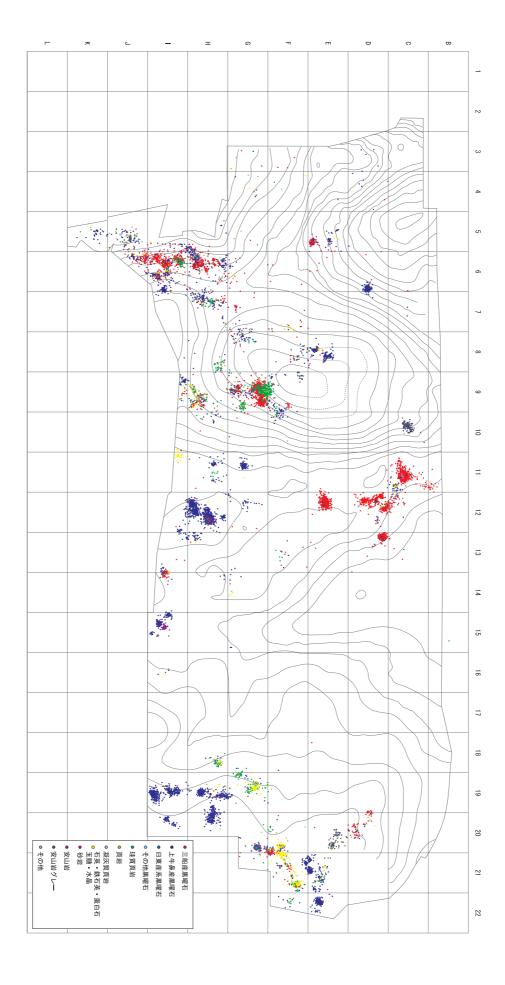
調査区域の北西に位置するもので、各ブロックの単位は認識しにくく、調査時は全てを22ブロックとしてとらえていた。礫群も多数検出されている。22、41~44ブロックが該当する。

Fブロック群

最も北側に位置する二つのブロックであるが、ブロック群として捉えられるか課題も残る。礫群 も検出されていない。50、51ブロックが該当する。

なお、整理作業最終段階で石材別分布図が完成した。第23図参照。

これによると、Aブロック群は西側の上牛鼻産黒曜石主体のブロック群と、中央部の頁岩系石材と三船産黒曜石主体のもの、そして東側の石材の異なるブロック群に区別できることが明らかとなった。次に、Bブロック群は上牛鼻産黒曜石が主体であり、またCブロック群は三船産黒曜石が主体であり、両ブロック群の差異が明確である。ただし、Cブロック群で37ブロックのみ石材が逆転している。Dブロック群の25ブロックは、その中に集中部が複数存在しており、石材的にも明らかに異なり、細別の必要が認められた。Eブロック群は個別ブロックの単位が石材別分布により明確に区別できることとなった。



第23図 第1文化層のブロックと石材 (コンタはW層上面のものを使用している)

2. 礫群

1) 概要

平成5・6年度の調査では、すべて第四層の最下面のレベルで検出された。礫群は極めて集中度の高いものや掘り込みを有するものの他に、比較的集中するもの、あるいは散在するものがみられた。調査段階においては、近接した礫群も全て個別の番号を付したが、今回整理作業において礫の接合作業を実施し、その接合関係から二つの礫群番号が付いたものも一つの礫群として理解すべきものも認められた。

また平成7年度調査区についてはW層・W層・W層の礫群が検出されているが、今回の整理作業で接合結果も含めた再検討を加えた。

礫群は調査区域全体にまんべんなく検出されてはおらず、ブロックやブロック群のなかで偏在集中した分布として理解できる。ここでは各ブロック群ごとに記載することとし、礫群番号は調査時点の番号をそのまま使用した。

なお、礫群は各個別の平断面のみでなく、各ブロック群ごとの配置と接合図を第47図~53図に掲載することとし、各礫群と周辺礫群の配置と礫接合が理解しやすいように配慮した。

2) Aブロック群の礫群

49号礫群

E-22区で30ブロックの南側で検出された。礫は安山岩が主体であり、礫の総数は計53点であった。礫は比較的大きなものから細片まであり、おおきく3ケ所の集中部に区別でき、そのうち2ヶ所には掘り込みが認められた。掘り込みの大きさは、 35×25 cm で深さ13cm と、 23×12 cm で深さ10cm であった。礫は火熱のため赤化が著しかった。

38号礫群

34ブロックの南側で検出された。中心部で10個の礫が集中しており、この部分の両サイドの礫が接合している。礫は安山岩であり、径 5 cm 程度のものが多かった。礫の集中部には径 $3 \sim 4$ mm の炭化物が多くみられ、周囲の土も硬化し色調はにごっていた。しかし掘り込みは認められなかった。35号礫群

30ブロックの北西部で検出された。赤化した礫は中心部で集中しており、その下には径45×30cmで深さ6cmの浅い掘り込みを有する。集中部には炭化物も認められた。集中部の礫と周辺に散在している礫が接合している。

36号·37号礫群

34ブロックで検出された。調査時点ではそれぞれ別の番号を付していたが、接合作業の結果、両方の礫が接合したため一つの礫群とした。それにより集中した部分と、使用後にかき出された散在部とからなる。総計46個の礫は火熱による赤化が著しかった。集中部の下面に明確な深い掘り込みは検出されなかった。

なお,本礫群の礫は34号礫群及び45号礫群の礫と接合している。(第48図参照) 45号礫群

35ブロックで検出された。ほぼ径45cm 程度に集中したものであるが、礫数は15点と少なくドーナッ状の空白部がある。中央部下面は火熱により若干硬化しているが、炭化物は認められなかった。

また下面に明確な掘り込みも検出されなかった。本礫群の礫は36・37号礫群の礫と接合している。 44号礫群

45号礫群の西側で検出された。計36点の礫が集中していた。礫は全て火熱により赤化しており内部には微細な炭化物片が少量点在していた。礫の下面はほぼ水平であり、明確な掘り込みは検出されなかった。

42号·43号礫群

36ブロックで検出された。これも調査時点では集中部と散在部とを別番号としていたものであるが、接合により一つの礫群とした。集中部の下面には楕円形を呈する径55×40cmで深さ18cmの掘り込みが確認され、内部には少量の炭化物片が認められた。底面の土は硬化していた。集中部のなかで対称的に離れた位置にある礫が接合していることから、一つの礫を分割して使用したことが理解される。また、周辺に散在した礫の接合は小片が多く、使用時に飛び散った可能性も考えられる。39号礫群

34ブロックで検出された。火熱により赤化した礫は集中度が高い。礫は離れた位置にあるものが接合している。内部には炭化物も少量認められた。下面に明確な掘り込みは検出されなかった。

576は中央付近の礫の中から出土したもので、安山岩製の石核である。剥片素材であり、平坦な腹面を打面にして幅広の剥片が両側縁から剥離されている。これは火熱を受けていない。

40号礫群

36ブロックで検出された。赤化した礫は集中しており、その下面には楕円形を呈する径 35×24 cm で深さ約5cmの浅い掘り込みが確認された。内部には炭化物も認められた。礫群の礫は本礫群内だけでなく近接する41号礫群の礫と接合している。

41号礫群

40号礫群の南側約2mの位置に検出された。礫の集中度は高く、すべて赤化やヒビ割れがみられた。礫の下面には径47×32cmで深さ8cmの浅い掘り込みが確認された。掘り込み下面は色調が暗褐色で灰混じり状を呈し、硬化していた。内部には炭化物片が多数認められた。礫は内部のみでなく、先の40号礫群の礫とも接合した。

33号礫群

E-21区29ブロックの中央付近で検出された。礫の集中度はかなり高く中央付近で礫は数段重なっていた。礫数は計86点と多くすべて赤化していた。礫集中部の中央下面には楕円形を呈する径40×33cmで深さ10cmの掘り込みが検出された。内部には炭化物片も認められた。礫は46号礫群の礫と接合した。

34号礫群

33号礫群の南東側で検出された。礫数は42点であり比較的多く,集中度も高い。礫は東西2ケ所で集中しており,西側は平面であり,東側のものは下面に掘り込みを有する。掘り込みは径34×25 cmで深さ8cmを測る。周辺には炭化物片も認められた。

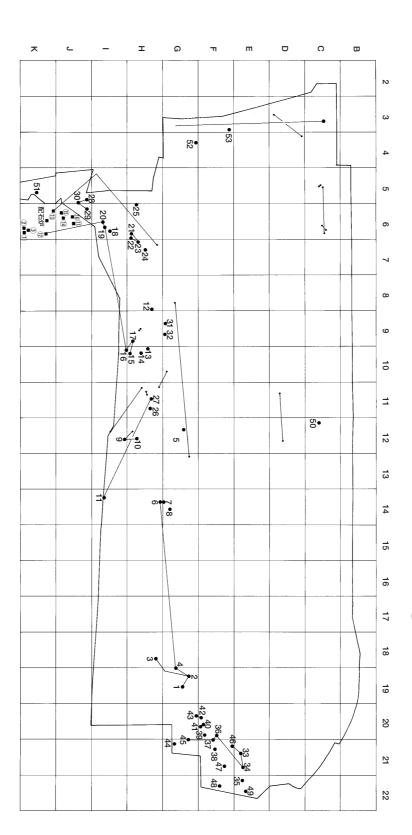
46号礫群

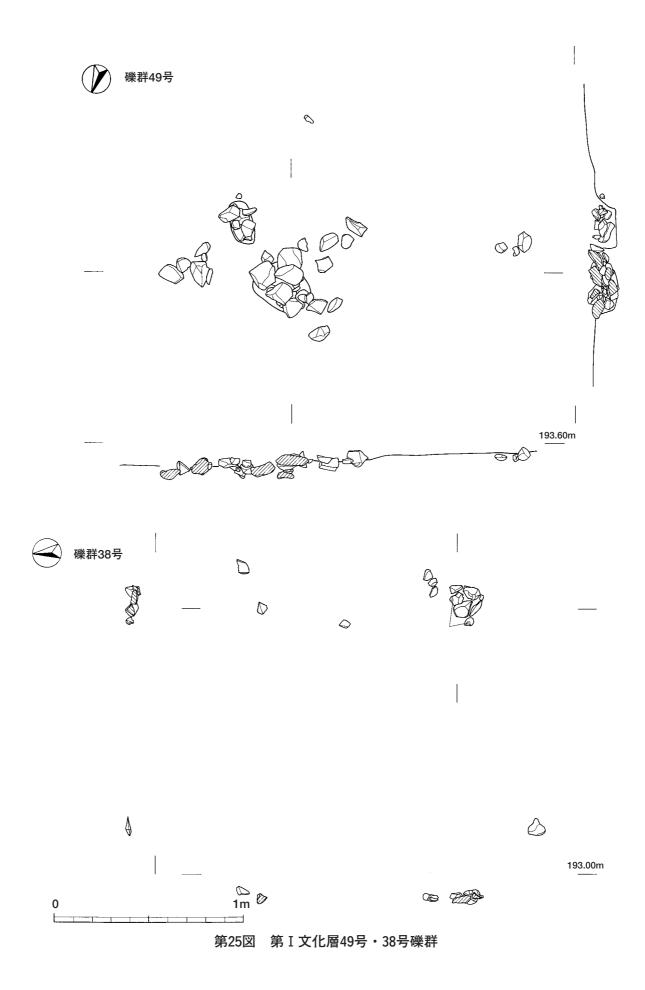
33号礫群の西側で検出された。比較的散在したようでも中心部はやや集中している。集中部分には径52×42cm,深さ5cmの掘り込みが認められた。赤化した礫の周辺には炭化物片が多く確認され

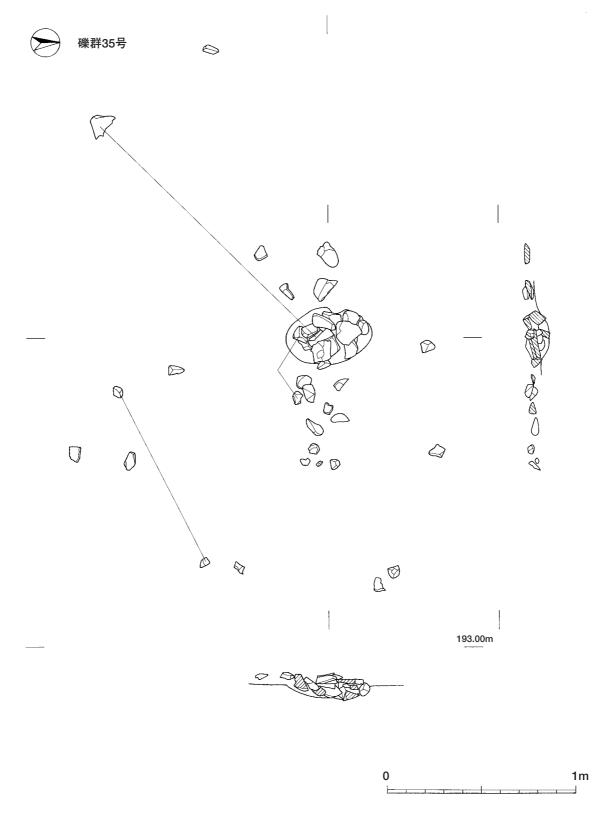
第24図 第 I 文化層礫群分布図

■ 県道仁田尾遺跡調査報告済の礫群・配石炉

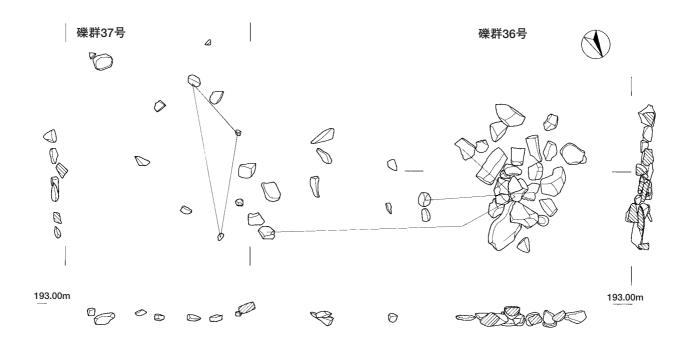
本報告書分の礫群

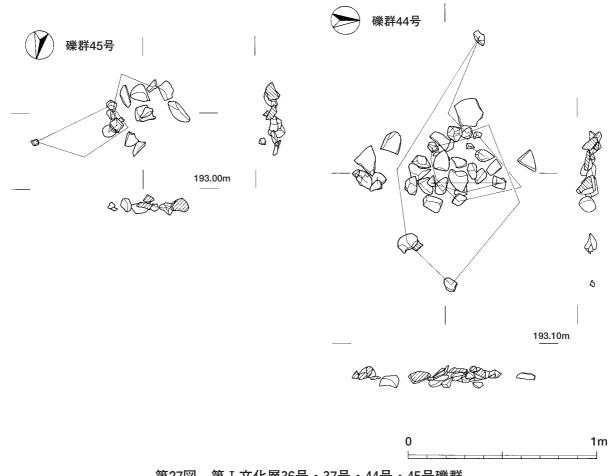




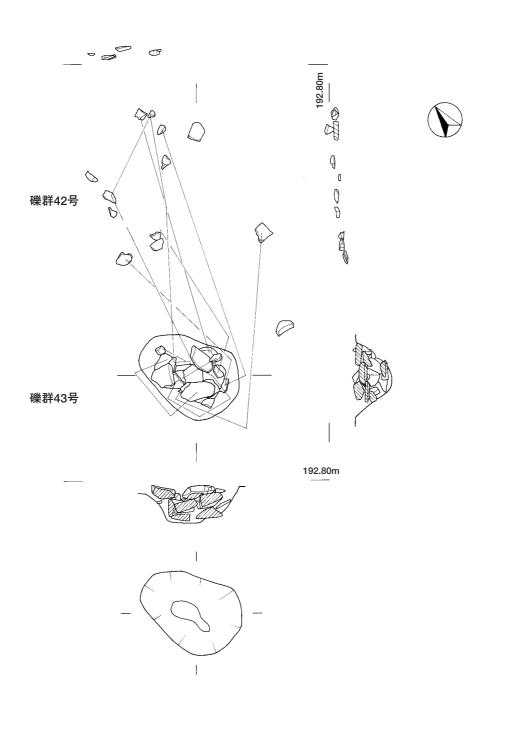


第26図 第 I 文化層35号礫群



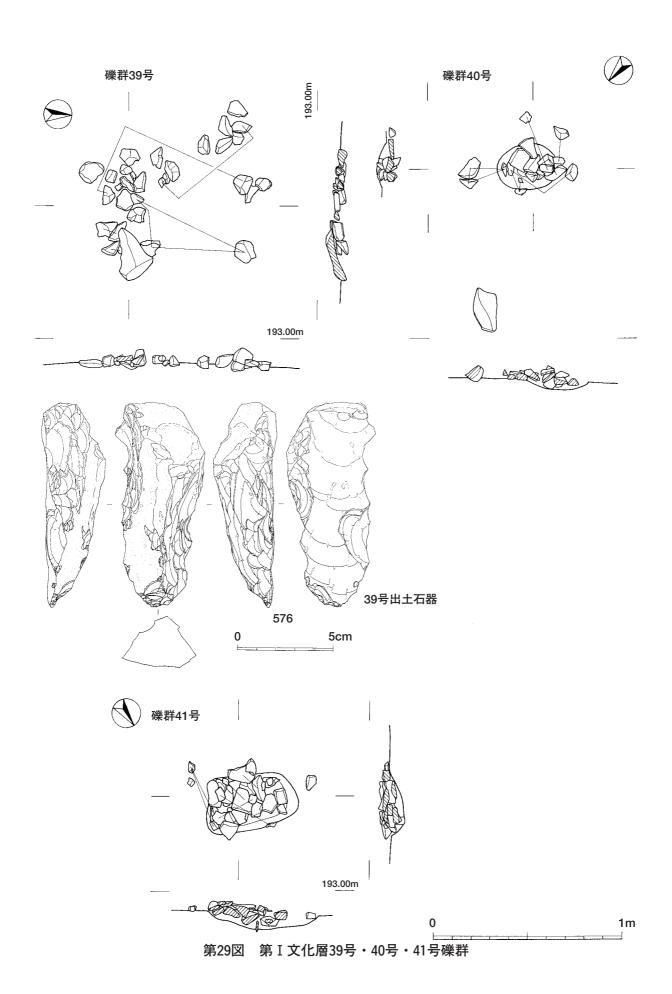


第27図 第 I 文化層36号・37号・44号・45号礫群

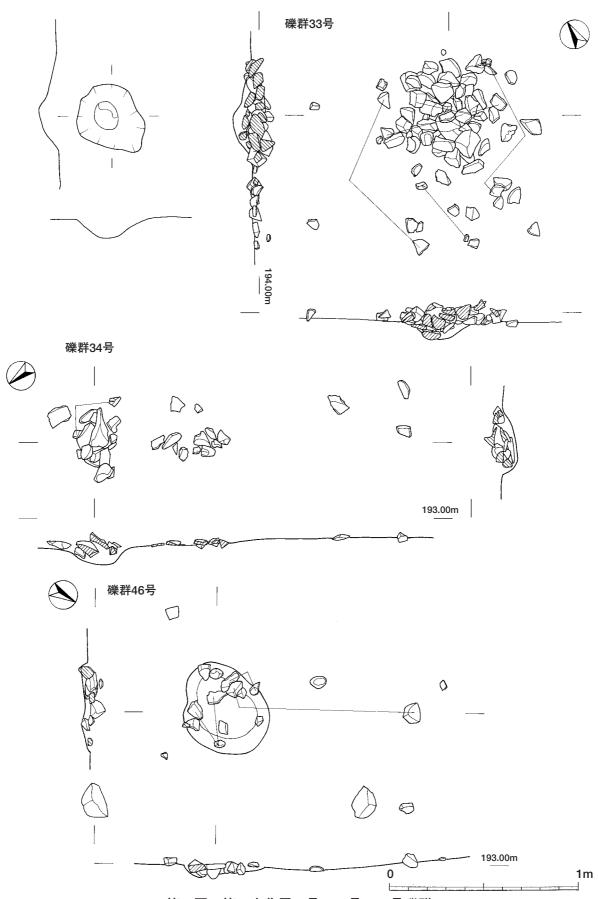




第28図 第 I 文化層42号・43号礫群

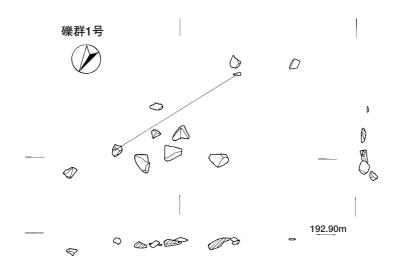


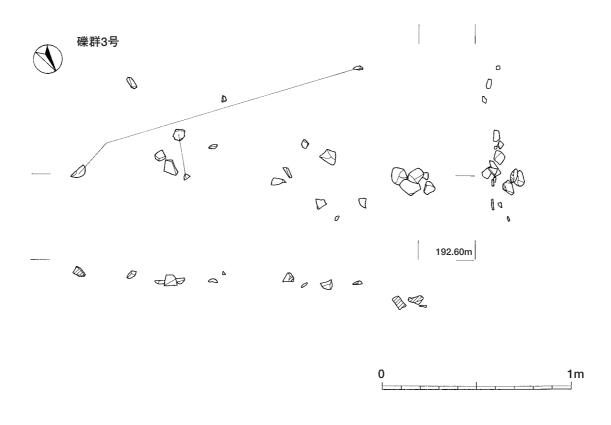
-49 -



第30図 第 I 文化層33号・34号・46号礫群







第32図 第 I 文化層1号・3号礫群

た。礫は33号礫群と接合した。

2号礫群

G-19区 9 ブロックで検出された。礫の分布は広く長径440cm に広がるもので、計62点の礫から構成される。礫は東側の掘り込みを有した部分と、その南側でやや集中気味に散在した部分と、また西側で散在した部分からなる。掘り込みは隅丸長方形を呈し、 35×24 cmで深さ18cmを測る。掘り込み部とその南側に広がる礫は多数接合している。また、本礫群の礫は、近辺に散在する 4 号礫群、1 号礫群、3 号礫群の礫と接合している。

1号礫群

2号礫群の2m南側で検出された。第I文化層の調査で最初に検出されたものであり、火熱を受け赤化した安山岩の角礫11点が散在した礫群である。下面に掘り込みはない。礫は2号礫群の東側に散在する礫と接合している。

3号礫群

 $H-18 \boxtimes 8$ ブロックで検出された。広さ $193 \times 82 \text{cm}$ の長楕円形に散在するものであり、礫は火熱を受け赤化しており、径 5 cm 程度のものが多かった。第49図で示したように礫は2 号礫群の礫と接合した。

4号礫群

2号礫群の西側に位置しており、径 430×150 cm の広い範囲に散在している。礫は赤化しているが、掘り込みは認められなかった。礫は2号礫群及び約45m離れた位置にあるBブロック群6号礫群の礫と接合した。

47号礫群

F-21区31ブロックで検出された。計 6 点の礫が径40cmほどの円形に並んだものである。下面に掘り込みは認められなかったが、中央付近には径 2 mm 前後の炭化物片が多数認められた。

48号礫群

F-22区31ブロックの南側で検出された。径308×190cm の比較的広い範囲に散在した礫群である。礫は径 5 cm 以下の細片が多数を占めており、第55図の礫群重量組成グラフで明らかなように破砕細片が主である。

3) Bブロック群の礫群

6号礫群

H-14区15ブロックの西側で検出された。礫の集中度は高く、径約60×50cmの円形の中にまとまっている。礫の大きさは径10cm程度が多い。全て赤化しているが下面に掘り込みは検出されなかった。2点の礫はAブロック群4号礫群の礫と接合した。

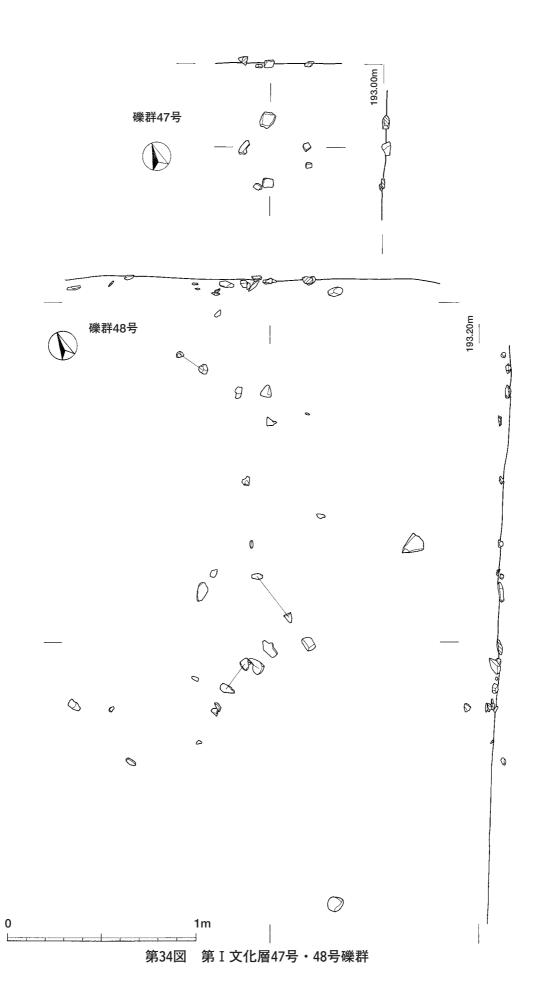
7号礫群

6号礫群の北東約1 mの位置で検出された。安山岩礫は径48×40cmの楕円形状に上下二段にまとまっており、下面には、礫集中そのままの大きさの掘り込みが認められ、深さは約15cmであった。底面には径 $2 \sim 5$ mm 程度の炭化物が多く認められた。礫は全て赤化しておりヒビ割れもみられたが、集中部の周囲に細礫はみられなかった。

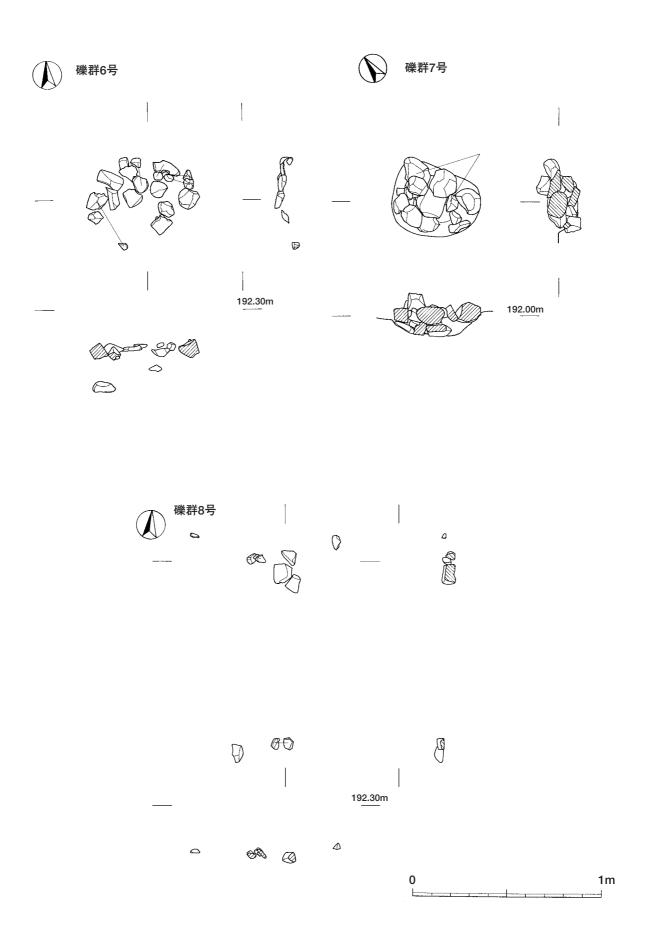


第33図 第 I 文化層4号礫群

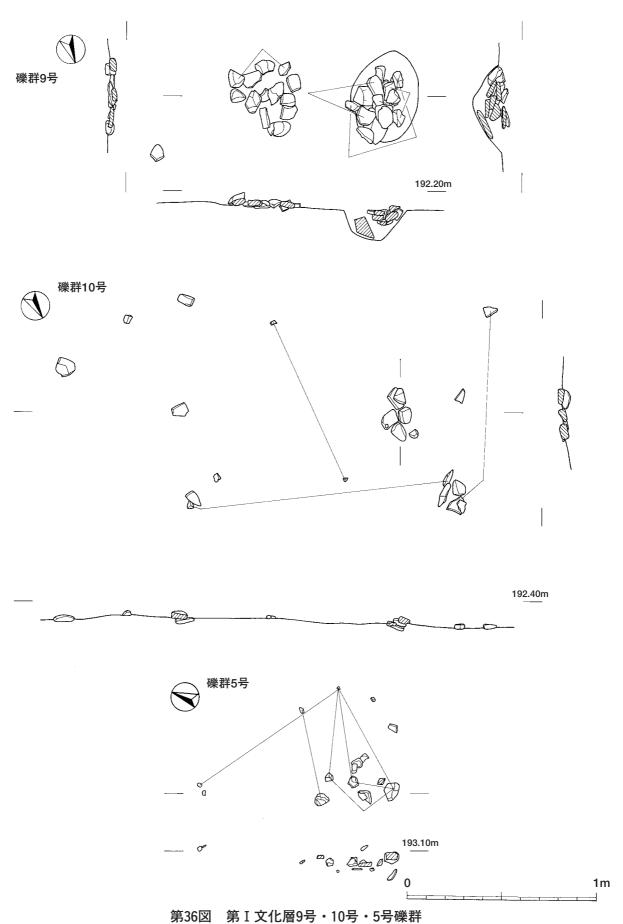
1m



-55-



第35図 第 I 文化層6号・7号・8号礫群



8号礫群

7号礫の東側約2mの位置で検出された。計11点の礫は散在した状況であるが、北側の6点が比較的まとまった部分とその周辺及び南側の3点の周囲には炭化物がみられた。いずれも掘り込みは検出されなかった。

9号礫群

I-12区16ブロックで検出された。礫は集中度が高く、径40cm程度の円形にまとまった集中が約30cm離れて所在している。東側の集中は平面的であり、西側のものは礫が数段重なり下面には楕円形を呈する48×33cmで深さ17cmの掘り込みを有する。掘り込み内底面には断面図で示したように厚い大型礫と径20cm程度の大型扁平礫があり、上部の礫は赤化が著しいのに対し、二つの大型礫は青灰色を呈しており、酸素が遮断された還元のためと考えられる。これは礫群が土を覆う蒸し焼き調理として利用されたことが推定されるものである。炭化物は平面的な東側の方が多かった。

10号礫群

9号礫群の北東約4mの位置で検出された。長径230cmの広い範囲に広がるものであるが、西側では6個程度比較的集中した部分があり、その部分には炭化物片も多く認められた。しかし下面に明確な掘り込みは検出されなかった。礫の一つは9号礫群の礫と接合している。

5号礫群

G-12区の14ブロックで検出された。赤化した安山岩礫片計15点が長径107cmの広さに散在する礫群である。下面に掘り込みは検出されなかった。

27号礫群

H-11区23号ブロックで検出された。径 5~10cm 程度の赤化した礫 9 点が、径135×75cm の範囲に散在したものである。

26号礫群

27号の南側約2mの位置で検出された。径10cm 程度の礫3点が径40cm に認められたものである。 3点の礫は全て火熱を受け赤化したもので、接合した。

11号礫群

I-14区17ブロックで検出された。比較的散在しているものであるが調査区域の壁際にあることから、集中部分が区域外にある可能性も考えられる。礫は赤化しているが、下面には炭化物は認められなかった。礫は27号礫群の礫と接合した。

4) Cブロック群の礫群

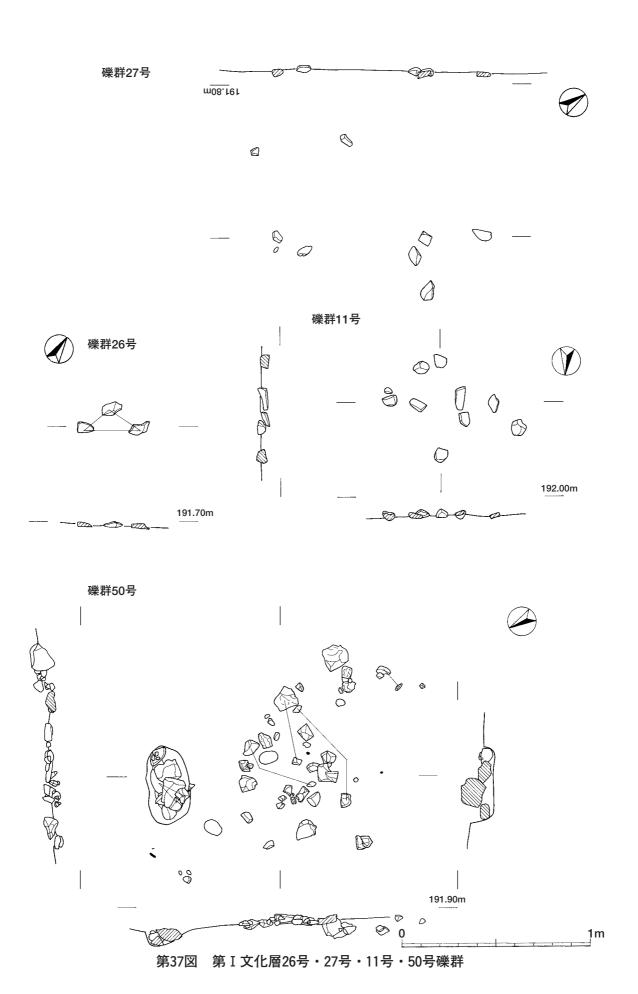
50号礫群

C-12区39ブロックで検出された。礫群は北側の掘り込み内に集中する部分と南側に20cm 程度離れて平面的に広がる部分とで構成されている。掘り込みは楕円形を呈し, $径42\times22cm$ で深さ12cmを測り内部には炭化物も認められた。また,散在している部分には平面図の円形で示した3ヶ所が黒く変色しており,その周辺には炭化物が多く認められた。

5) Dブロック群の礫群

7号礫群

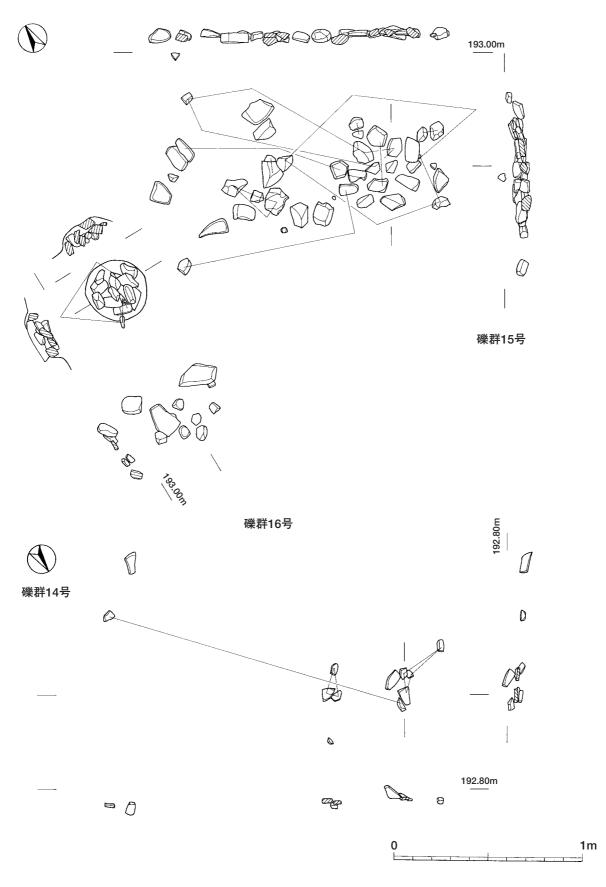
H-9区21ブロックで検出された。分布は径363×216cmの楕円形に広く散在しており、礫は径10



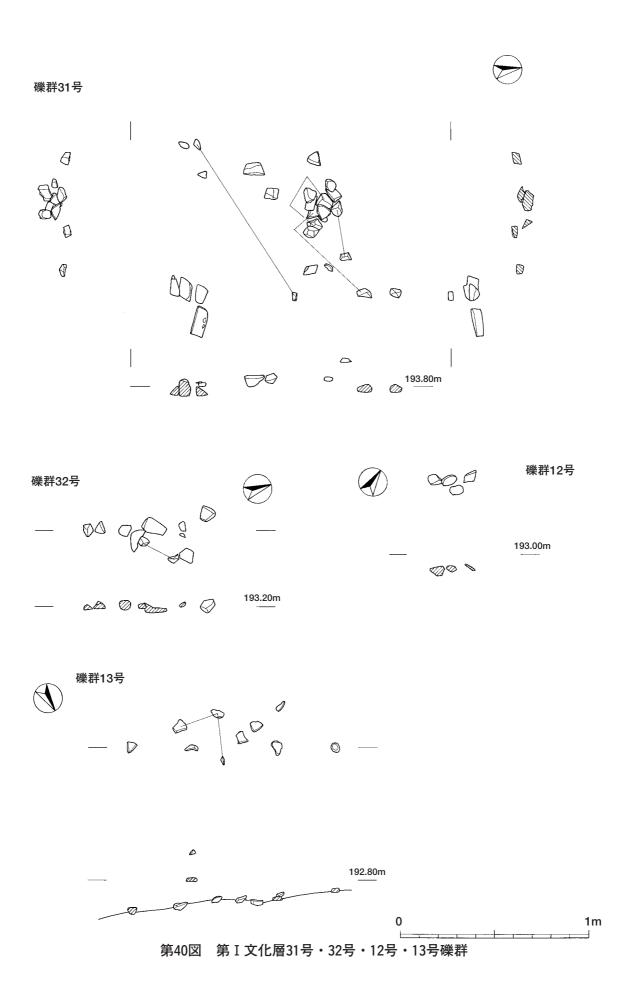
-59-



第38図 第 I 文化層17号礫群



第39図 第 I 文化層15号・16号・14号礫群



~15cm 程度の比較的大きなものが多かった。礫は全て赤化しており、16号・15号礫群の礫と接合している。

15号礫群

17号礫群の南側約2.5mの位置で検出された。また、両側には16号礫群が接している。全体は長径160cmの範囲に広がるが、東側はほぼ円形に集中度が高く、西側はやや散在的である。両方の礫は接合が多く、炭化物も点在しているが、下部に明確な掘り込みは検出されなかった。礫は17号礫群と接合した。

16号礫群

15号礫群の西側に接する位置に所在している。この礫群も下部に掘り込みを有する集中部と、それに接して散在する部分から構成されている。掘り込みは径33×30cmのほぼ円形を呈し、深さは約10cmであり、内部には炭化物が多く認められた。散在している部分の礫は17号・19号・20号礫群と接合した。

14号礫群

17号礫群の東側約2mの位置にある。広さ径170×80cmの範囲に散在している。礫は赤化しているが掘り込みは検出されなかった。

31号礫群

G-9 区 24 ブロックに位置する。 2140×120 cm の範囲に散在しているが、中心部は比較的集中しており、炭化物片も散在している。 礫は多く接合している。

32号礫群

31号の南東約2mの位置にある。11点の礫が比較的集中しているが、下面に掘り込みは認められなかった。礫は赤化していた。

12号礫群

31号礫群の西側約5mの位置で検出された。礫は赤化したものが計4点である。

12早磁群

14号礫群の北側約1.5mの位置に検出された。礫数は10点であり長径100cmの範囲に散在しており 礫は全て赤化していた。

6) Eブロック群の礫群

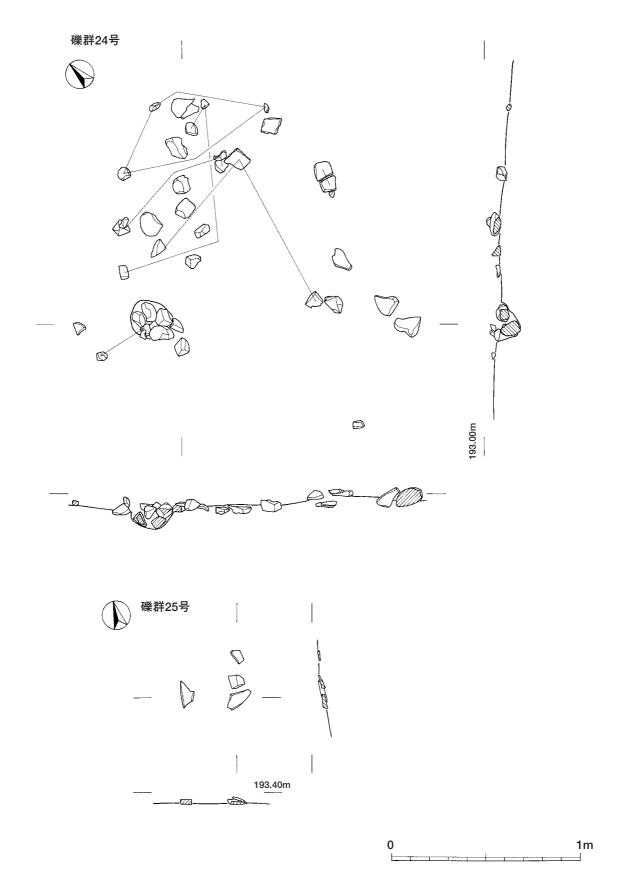
24号礫群

H-7区41ブロックの東側で検出された。本礫群も掘り込みを有し集中した部分と、それに近接して散在する部分から構成される。掘り込みは楕円形で $\{24\times20\text{cm},\mathbb{R}^2\}$ なは $\{10\text{cm},\mathbb{R}^2\}$ を測り内部には炭化物が認められた。散在部の礫は多数接合している。

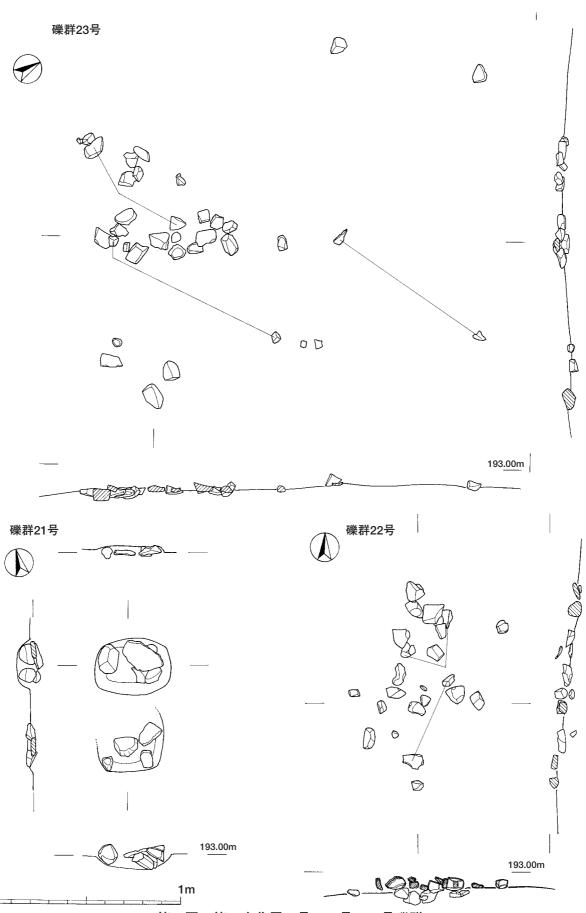
25号礫群

H – 5 区43ブロックで検出された。赤化した礫 4 点から構成され、下面には炭化物が認められた。 23 号礫群

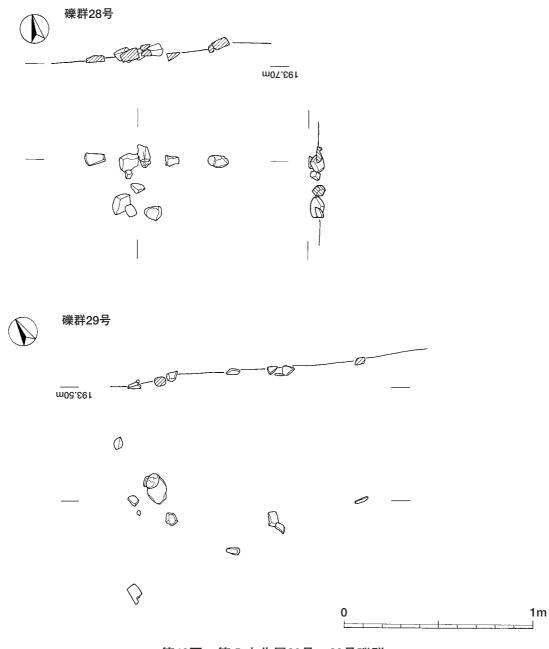
41ブロックで検出され、24号の西側に位置している。全体は径240×220cmの範囲に広がるが、中心部は比較的集中している。礫の集中した部分は径60×50cmで底面は暗褐色を呈し硬く締まっていたが、明確な深い掘り込みは検出されなかった。この部分は炭化物も多く認められた。



第41図 第 I 文化層24号・25号礫群



第42図 第 I 文化層23号・21号・22号礫群



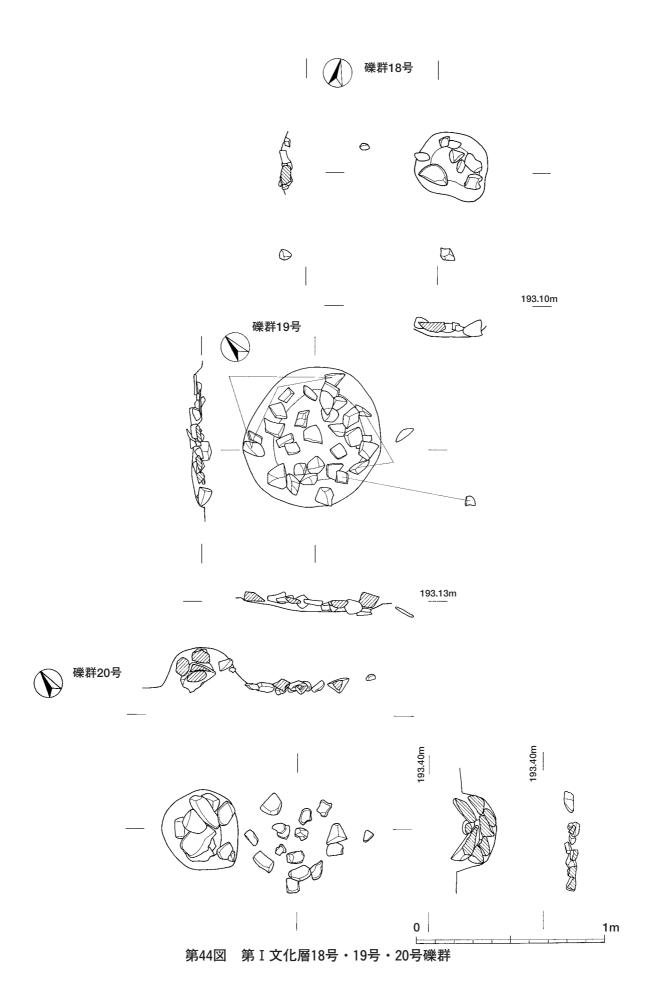
第43図 第 I 文化層28号・29号礫群

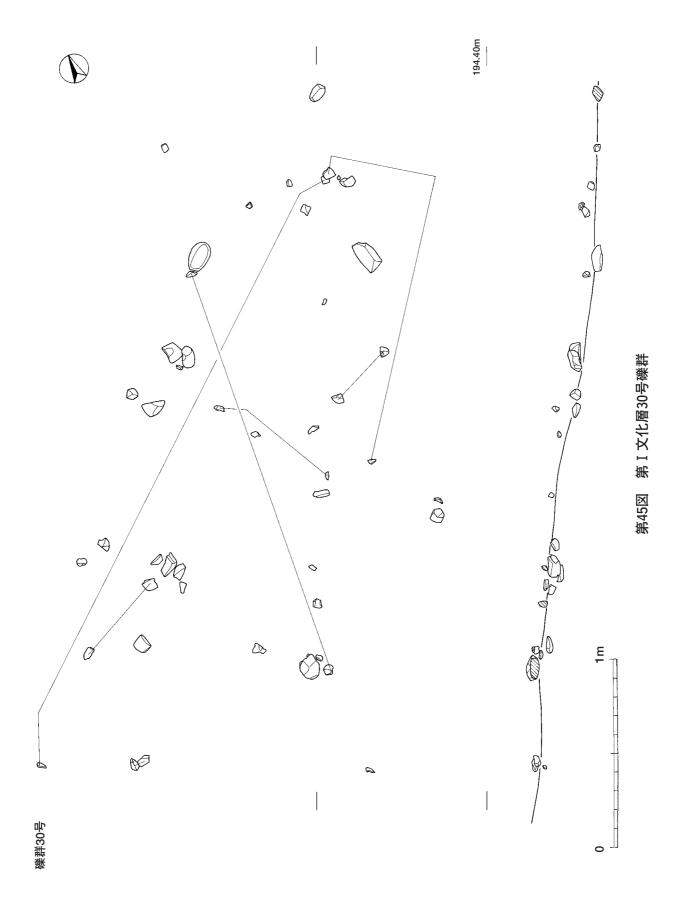
21号礫群

41ブロックで23号礫群の西側約2 mの位置に検出された。礫数は9点であるが、そのうち5点は径40×30cm深さ7 cmの掘り込み内に納まり、また残り4点も浅い掘り込みを有していた。ただしこの掘り込みの北側は明確でなかった。両掘り込み内は炭化物が多く認められた。浅い掘り込みの礫は23号礫群の散在礫と接合した。

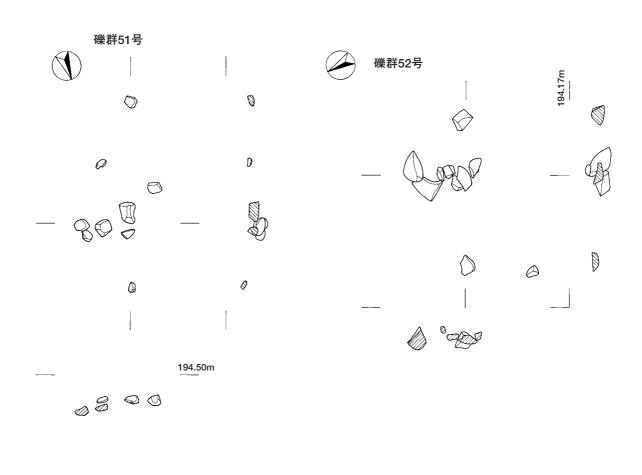
22号礫群

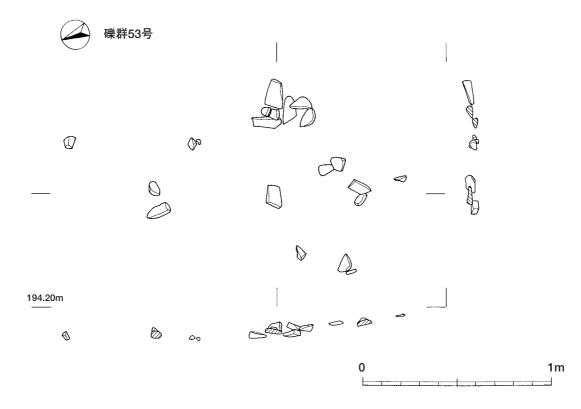
21号礫群の南東 1 mの位置にある。比較的集中しており、その中心部は径 $40 \times 30 cm$ の範囲に炭化物片が集中していた。しかしこの部分に掘り込みを認められなかった。23号礫群と接合する。





-68-





第46図 第 I 文化層51号・52号・53号礫群

18号礫群

I-6 区 46 ブロックで検出された。計11 点の礫のうち 9 点が集中した部分には,楕円形を呈する 径 40×35 cm で深さ 8 cm の掘り込みが認められ,内部や周囲には炭化物片が多くみられた。礫は全て 赤化していた。

19号礫群

46ブロックで18号礫群の1.6m西側に位置している。径10cm 程度の礫のほとんどは径76×70cm の 楕円形の浅い掘り込み内に集中している。この掘り込みは他と異なり直径が大きいだけでなく深さ もわずか5cm 程度と浅いものである。掘り込み内の離れた位置にある礫や外の礫が接合している。 礫は全て赤化していた。

20号礫群

19号礫群の西側0.5mの位置にある。礫は集中度が高く、下面に掘り込みを有した部分に集中するものと、その隣りに円形かつ平面的に散在する部分から構成される。掘り込みは径約40cm ほどの円形を呈しており、深さは約20cm を測る。掘り込み内部の礫は径15~20cm と大型ものが多く、掘り込み内面の土は硬化していた。掘り込みの外側の礫の一部は30m以上離れた位置にある16号礫群や近接する19号礫群の礫と接合している。

28号礫群

J-5 区47ブロックの北側の位置で検出された。計11点の礫は径76×40cmの範囲に比較的集中しており、礫が集中している部分は径60×55cm の楕円形に炭化物が集中しており、さらに下面の土は周囲の黄褐色土と比較すると暗褐色に変色していた。明瞭な掘り込みは確認できなかったが、中心部の礫は2点が重なっており、浅い掘り込みが存在した可能性が高い。礫は全て火熱を受けて赤化していた。30号礫群の礫と接合している。

29号礫群

28号礫群の東側約1.5mの位置にある。計13点の礫は径155×130cmの範囲に散在している。礫は径5cm程度の熱破損した赤化礫が多い。炭化物は点在していた。

30号礫群

28号礫群の南側の所在している。広さ400×180cm の広い範囲に散在したものであり、礫は赤化しており、径15cm 程度のものも数点見られるが、大部分の礫は径5cm 以下の破損礫が多い。礫は遠く離れたものが接合している。

51号礫群

平成7年度調査区域でK-5区に位置している。礫数は9点であり、径5 cm 程度のものが多い。全て赤化している。

7) Fブロック群

52号礫群

G-4区に位置する。赤化した計10点の礫からなる。やや集中している。

53号礫群

F-3区に位置する。赤化した計21点の礫が長径180cmの範囲に散在している。

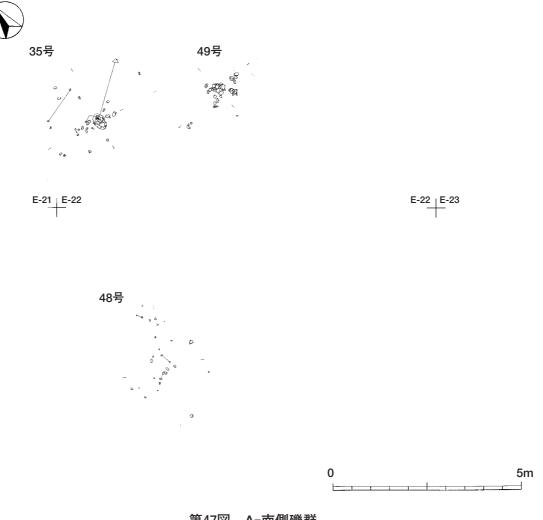
8) 礫群の礫接合について

今回検出された礫群の礫については接合を実施した。礫接合の結果、各々の個別の礫群内部での 接合にとどまらず、第47図から第53図までに示したように礫群と礫群の接合が多く確認できた。

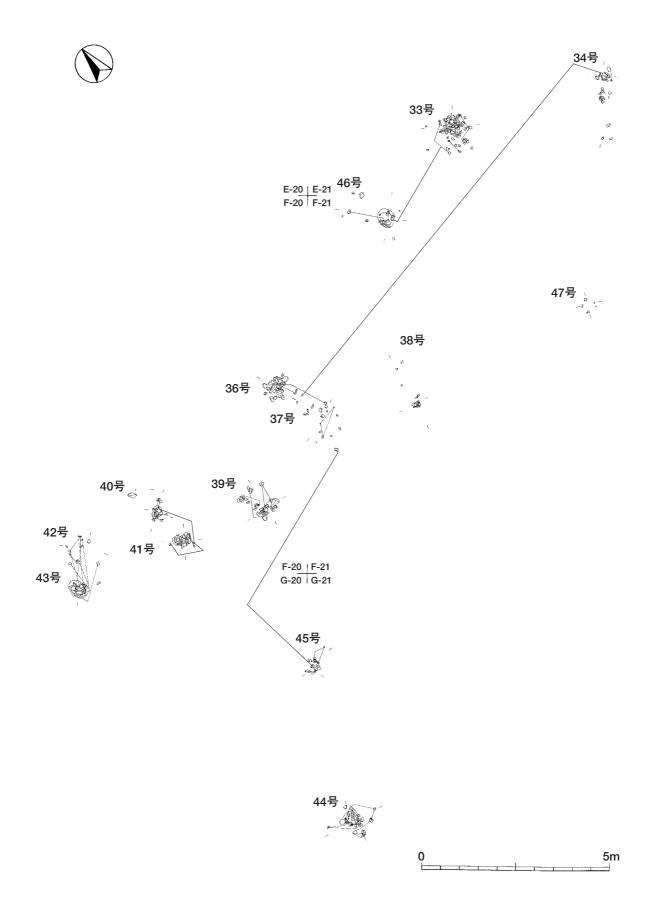
それは近接した位置にある礫群だけでなく、40m以上離れた位置にある4号礫群と6号礫群の例 や、約30m離れた位置に所在する11号礫群と27号礫群の接合、そして16号礫群と19号・20号礫群の 礫接合例が確認できた。

これらの礫群間接合は、各々の礫群が形成された時間(時期)の前後関係を意味しており、その 所属するブロックの形成時期の前後関係を考慮するうえで重要である。

また、礫群の内容的には、使用後に抜かれて再利用されたもの、あるいは逆に再利用したものの 区別が可能なものも認められた。例えば掘り込み内の礫が小破片が多く、空白部が多い46号礫群は 礫を抜かれたものであり、33号は礫群の使用後そのままの状況であることから、両礫群の前後関係 が判断できる好例となろう。

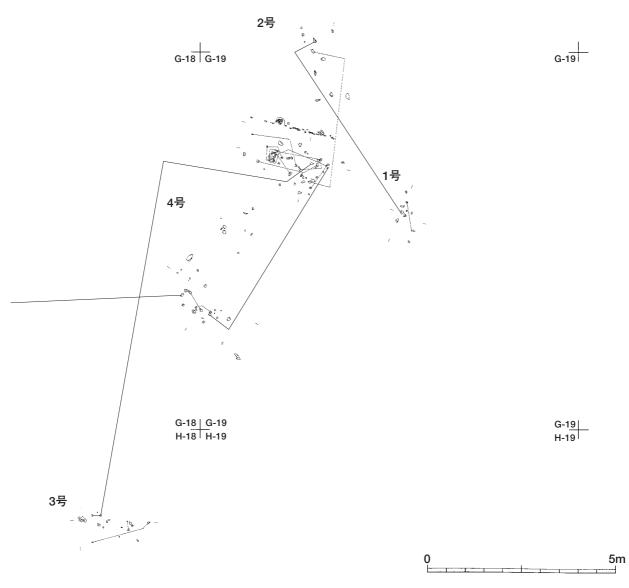


第47図 A-南側礫群



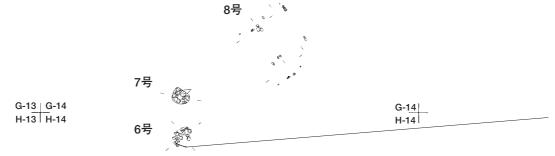
第48図 A-中央部礫群間の接合



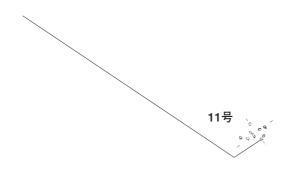


第49図 A-西側礫群間の接合





H-1<u>3 | H</u>-14 I -13 | I -14 H-1<u>4</u> J-14



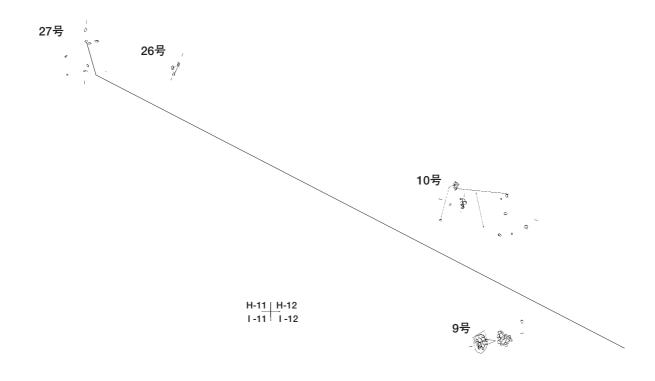
0 5m

第50図 B-東側礫群





G-11 | G-12 H-11 | H-12



0 5m

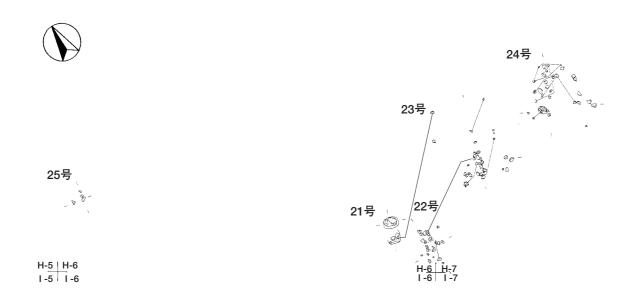
第51図 B-西側礫群間の接合

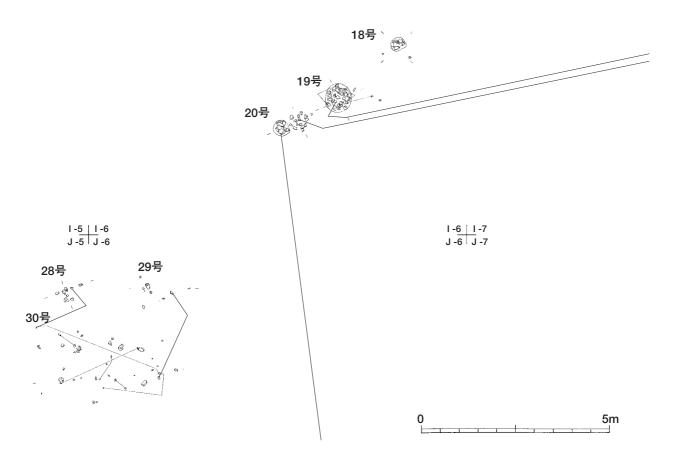




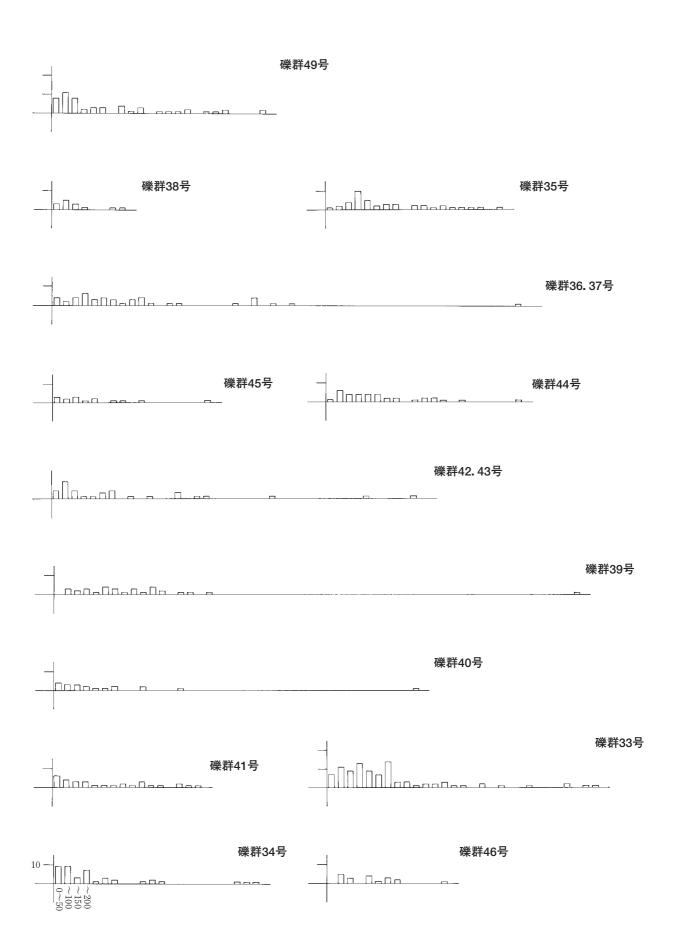


第52図 D-礫群間の接合

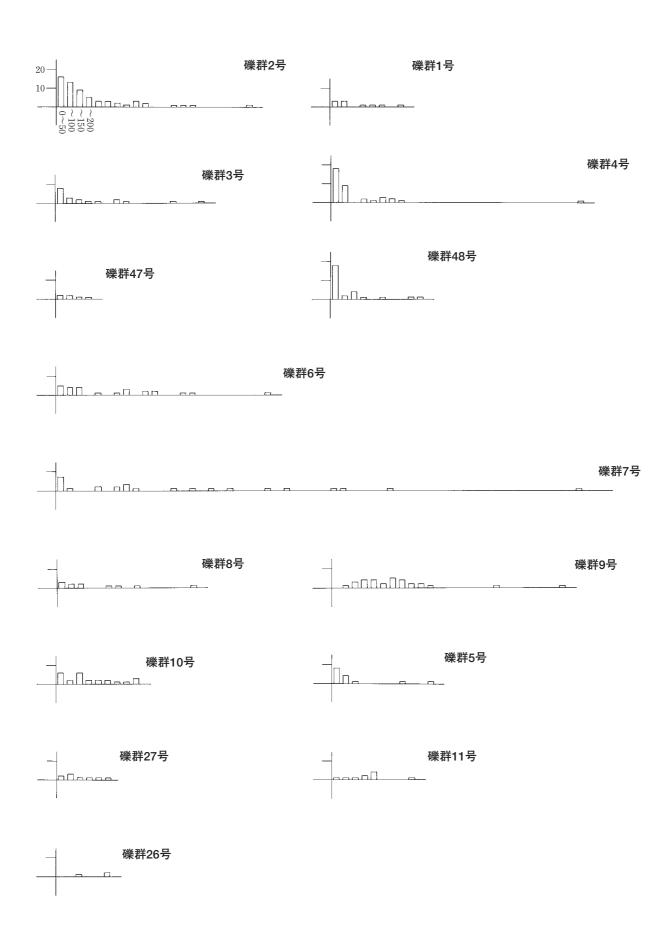




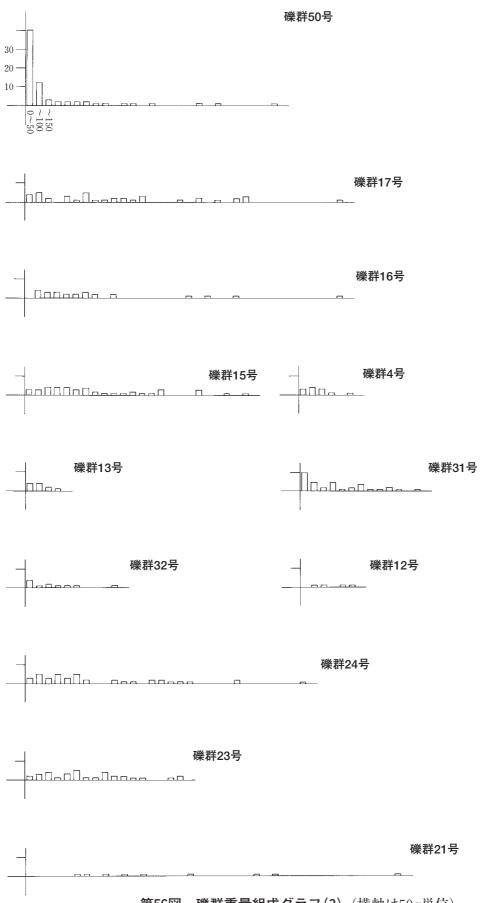
第53図 E-礫群間の接合



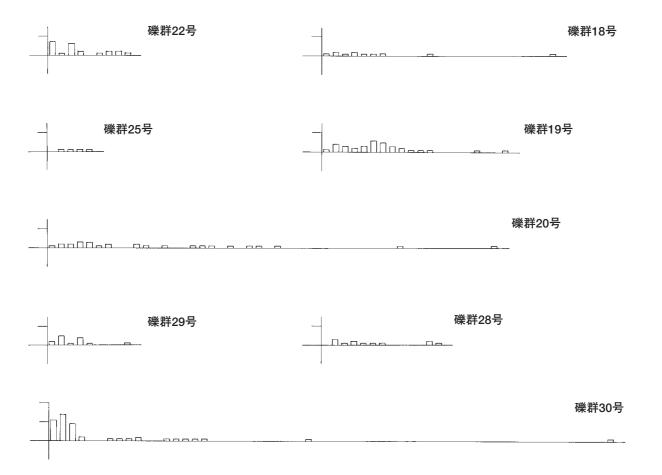
第54図 礫群重量組成グラフ(1) (横軸は50g単位)



第55図 礫群重量組成グラフ(2) (横軸は50g単位)



第56図 礫群重量組成グラフ(3) (横軸は50g単位)



第57図 礫群重量組成グラフ(4) (横軸は50g単位)

第3表 礫群一覧表

男 3 衣 	傑群			出土区	長径		堀り込み						
挿図番号	ブロック群	ブロック	礫群 番号			短径	長径		深さ	礫総数	赤化	炭化物	備考
							23	12	16				
25	A	30	49	E-22	198	120	35	25	13	53	全て		
	Α	30	38	F-21	218	80				14	全て	径3~4mm	土色がにごり硬化している
26	Α	30	35	E-22	296	196	45	30	6	43	全て		
	Α	34	36•37	F-20	270	107				46	全て		
27	Α	35	45	G-21	86	38				15	全て		中央部下面は火熱により若干硬化している
	Α	35	44	G-21	140	97				36	全て	少々	炭化物は微細なものが少量点在する
28	Α	36	42•43	F•G-20	165	105	55	40	18	36	全て	少々	
29	Α	34	39	F-20	112	102				32	強い	有	割れ・ヒビ有
	Α	36	40	F-20	120	65	35	24	5	20	全て	有	
	Α	36	41	F-20	68	43	40	32	8	32	全て	有	割れ・ヒビ有 下面は暗褐色灰まじり硬くなる
	Α	29	33	E-21	137	101	40	33	10	86	全て	有	46号と接合
30	Α	29	34	E-21	193	44	34	25	8	42	全て	有	
	Α	29	46	F-21	205	150	52	42	6	20	全て		33号と接合
31	Α	9	2	G-19	440	232	35	24	18	62	全て		
32	Α	9	1	G-19	140	50				11	全て		
	Α	8	3	G-19	193	82				21	全て		(1) 41604 (2) 412911のドット
33	Α	13	4	G-19	430	150				37	全て		
	Α	31	47	F-21	42	40				6	全て	多数有径 2 mm	
34	Α	31	48	F-22	308	190				28	全て		
35	В	15	8	G-14	130	33				11	全て	有	
	В	15	6	H-14	61	50				23	全て		
	В	15	7	G-14	48	40	48	40	15	18	全て	多	4 号礫群と接合
36	В	16	9	I-12	140	46	48	33	15	30	強い	左側に多数有	底面の大石はねずみ色
	В	16	10	H-12	230	114				23	全て	多数有	9号礫群と接合
	В	14	5	G-12	107	60				15	全て		
37	В	23	27	H-11	135	75				9	全て		
	В	23	26	H-11	39	28				3	全て		
	В	17	11	I-14	62	57				10	全て	なし	
	С	39	50	H-11	157	130	42	22	12	55	全て	有	
38	D	21	17	H- 9	363	216				40	全て		
	D	21	16	H-10	106	55	33	32	9	25	全て		
39	D	21	15	H-10	159	48				40	全て		
	D	21	14	G-10	170	80				12	全て		
40	D	24	31	G- 9	175	65				27	全て	有	
	D	24	32	G- 9	71	25				11	全て		
	D	21	12	H- 8	25	11				4	全て		
	D	21	13	G-10	113	30				11	全て		
41	Е	41	24	H- 7	180	160	24	20	10	40	全て	有	
	Е	43	25	H- 6	33	31				4	全て	下面に点在	板状扁平礫
42	E	41	23	H- 7	241	140				33	全て	下面に多数有	下面は暗褐色で硬く締まる
	Е	41	21	H- 6	70	40	40	30	8	9	全て	有	22ブロック
	Е	41	22	H- 6	111	86				23	全て	有	No.68775フレイク
43	Е	47	28	J- 5	77	40				11	全て	暗褐色多数有	約5cmほどの堀り込みがあった可能性有
	Е	47	29	J- 6	154	126				12	全て		
44	Е	46	18	I- 6	80	68	40	35	8	11	全て	有	
	Е	46	19	I- 6	128	73	75	73	5	33	全て		
	Е	46	20	I- 6	113	53	42	40	18	26	全て		
45	Е	47	30	J- 5	400	180				47	全て		
	Е		51	K- 5	104	47				9	全て		No.135513-135521
46	F		52	G- 4	88	42				9	全て		111357 • 111358 • 124525 - 124531
I	F		53	F- 3	183	103				21	全て		No.111319.124535-124553

第3節 第1文化層の出土石器と接合資料

1. Aブロック群の石器群

調査区域の南端に位置しており、多数のブロックが近接した位置で検出されていることから視覚的なまとまりとしてAブロック群とした。

Aブロック群内の遺物集中ブロックは、調査中の時点で計16ヶ所のブロックを認識していたが、 今回石器の出土分布図を作成・検討した結果、計19ヶ所のブロックに識別できる。

第58図と71図でブロック群の石材別分布図を示しているように、Aブロック群は石材的にみると 西側と東側では上牛鼻産黒曜石が主体であり、その中間の位置に所在する各ブロックでは頁岩系の 石材や三船産黒曜石, 日東産黒曜石などが主体となっている。またさらに北西の比較的散在するブロックでは、安山岩系石材や三船産黒曜石が主体となるなど、主体的に多数使用されている石材の 差異が明確である。以下各ブロックごとに説明を行う。

19ブロック (第59・60図)

I-20区に位置するもので、径 6×2 mの楕円形にやや散在する石器分布である。細かくみると東西に分かれる可能性もある。上牛鼻産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第61図1・2)

1 は背面に自然礫皮面が残る幅広剥片を素材とし、剥片の打面側は腹面からの丁寧なブランティングが施され、また対向する剥片末端部にもブランティングを施し基部としたものである。全体形状は切出し形に整えている。 2 は基部のみの破損品である。

台形石器 (第61図3)

3は1・2と同様に背面に自然礫皮面が残る幅広剥片を素材としたものであり、打面を折断して その折断面の一部に細かいブランティングが施されたものである。

12ブロック

I −19区西側に位置するもので、径約5 mほどの円形の範囲に分布しており、中心部の石器群は集中度が高い。上牛鼻産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第61図4)

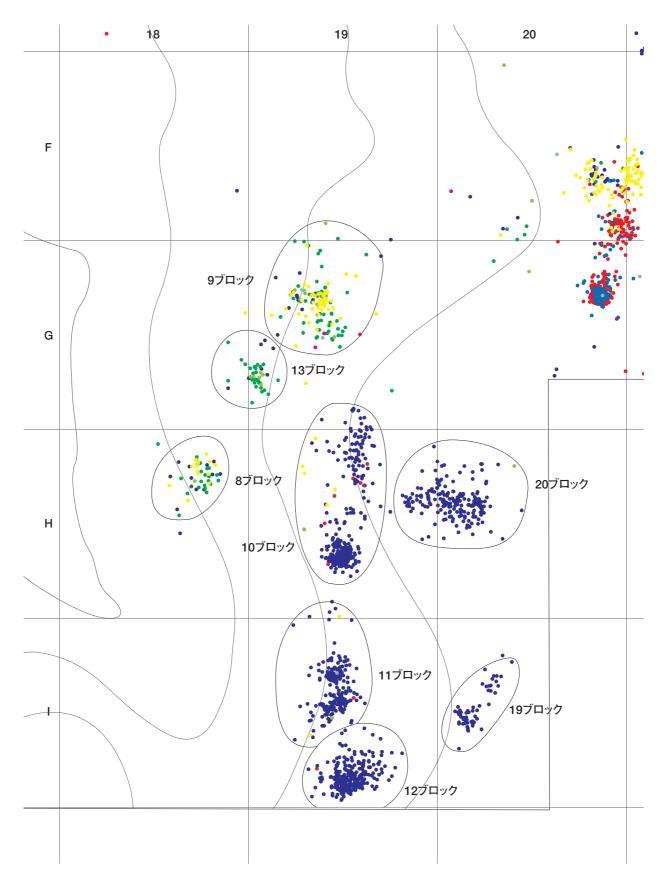
4 は幅広剥片を分割するような位置に丁寧なブランティングを施した一側縁加工ナイフである。 基部に残存する打面には自然礫皮面が残る。これは他の剥片計 6 点と接合したが図化できなかった。 **掻器**(第61図 5)

5 は幅広剥片の打面側は折断されたもので、縁辺に急角度の二次加工を施して直線的な刃部を形成したものである。これも背面に自然礫皮面が残存している。

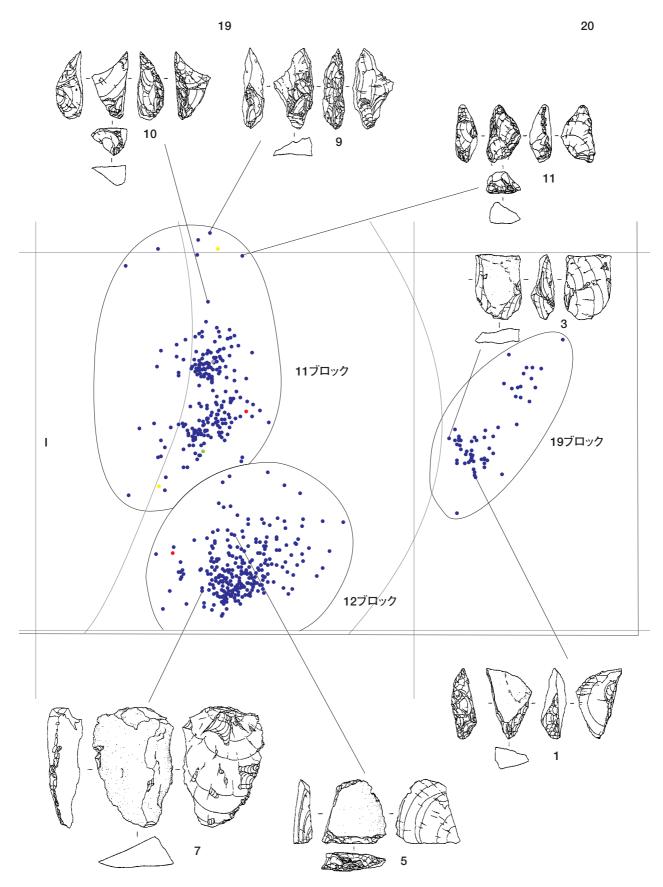
削器 (第61図6~8)

6・8は上牛鼻産黒曜石製の接合資料であり、第84図に関連資料を呈示している。接合資料の頁で再度後述する。いずれも二次加工が認められ削器とした。

7は比較的大型の剥片が使用されているもので、打面も厚く幅広であることからハンマーで直接 剥離されたものであろう。剥片の鋭利な片側の縁辺には細かい二次加工が施され刃部となってい る。使用痕も認められる。



第58図 Aブロック群南東部のブロックと石材分布図



第59図 第A-12・11・19ブロック主要石器出土分布図

11ブロック

I −19区で12ブロックの北西部に接して分布している。分布範囲は径約5 m程度の円形であるが、集中部は細かくみると東西に分かれている。上牛鼻産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第62図 9~11)

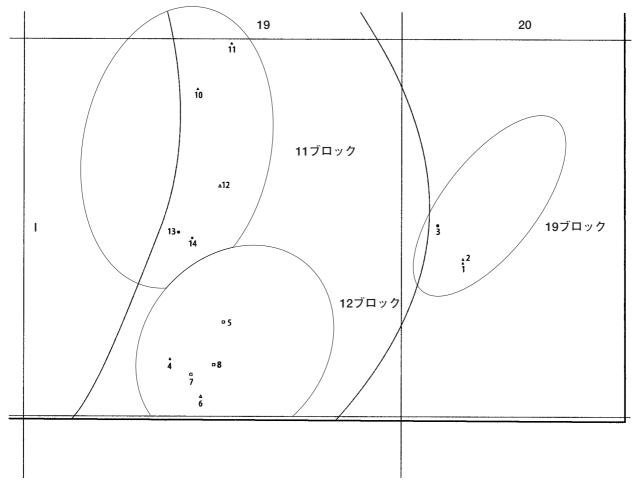
9 は幅広剥片を素材とし、剥片の打面側を断ち切るように腹面から丁寧なブランティングを施し、その整形した側面を打面にして背面には平坦剥離を施したものである。基部加工は腹面からと背面から施されている。10は接合資料であり後述するが、ブランティングは一側縁のみ施されている。11は刃部にも細かい二次加工が施されているもので、基部の調整加工から判断すると背縁はわずかに背面からの調整がみられるが、リダクションと推定される。つまり先端が欠損した後の再加工と考えられる。

使用痕剥片 (第62図12・13)

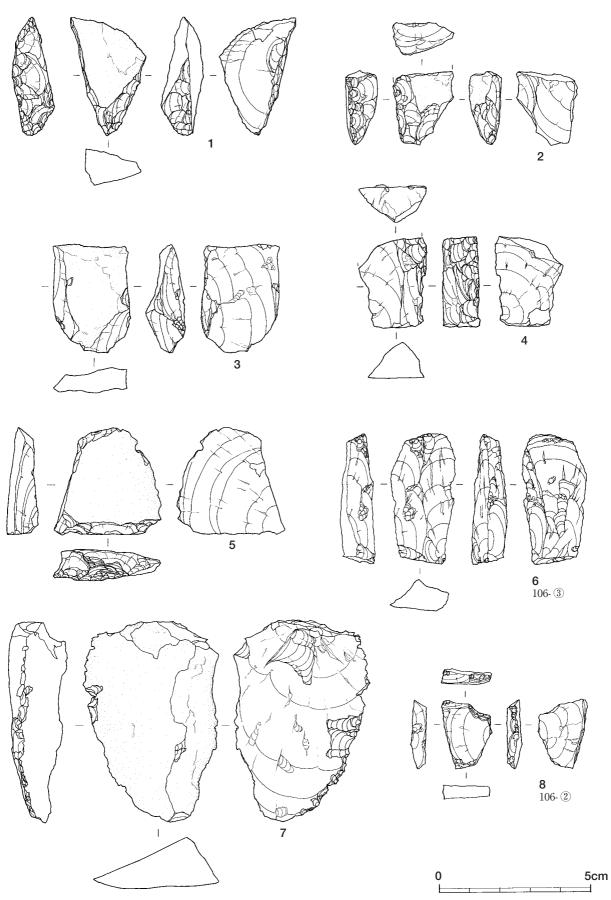
上牛鼻産黒曜石製の剥片の鋭利な縁辺に使用痕が観察されるものである。同一母岩による接合資料であり後述する。

石核 (第62図14)

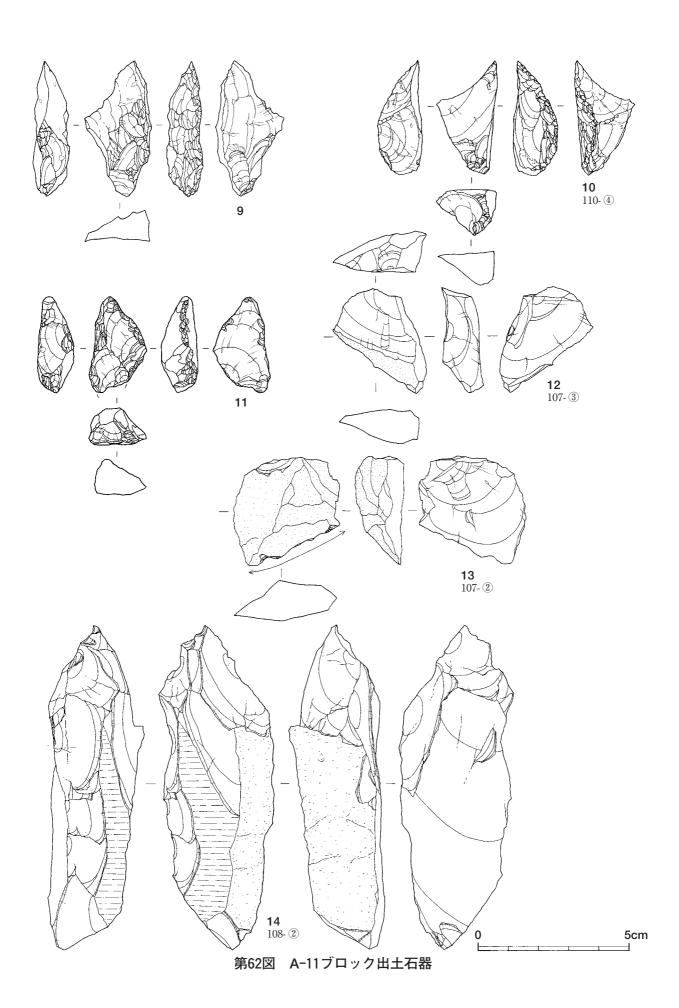
頁岩製の比較的大型の剥片を使用したものであり、平坦な主要剥離面を打面にして小型の幅広剥片を剥いだものである。これも接合資料であり、後述する。



第60図 A-12・11・19ブロック器種別分布図



第61図 A-19・12ブロック出土石器



-88 -

20ブロック (第63・64図)

H-19・20ブロックに位置する。石器群の分布範囲は径約7m程度の円形を呈する。主体となる石材は上牛鼻産黒曜石である。石器類が比較的多かった。

ナイフ形石器 (第65図15~21)

15は素材に厚手の幅広剥片を使用し、打面側を折り取るようにブランティングにより整形し、対向する部分も腹面からブランティングを施し、厚い二側縁加工ナイフに仕上げている。背面の高い部分は着柄の痕跡と推定されるスレが認められる。16・17も幅広剥片を素材としたものであり、16は稜上調整が認められる。18も幅広剥片を素材としたものであるが、刃部は短く切出し形を呈する。19は先端部のみの破損品である。20は調整加工がわずかに認められる程度であるが先端には使用痕が著しい。21も剥片の折断面にわずかなブランティングが認められるが、刃部の使用痕は著しい。20・21は部分加工ナイフとするより台形石器と分類すべきかもしれない。

台形石器 (第65図22)

22は幅広剥片を素材とし、打面側と末端部を折断して鋭利な側縁の一部分を刃部としたものである。折断部にはわずかな調整加工が認められる。

ノッチドスクレーパー (第65図24)

24は剥片の末端部の側緑の一部に二次加工を施したものであり、その刃部は両方とも内湾状になっている。

使用痕剥片 (第65図23・25・66図26・27)

23は比較的大型の剥片を折断したもので、接合している。側縁には使用痕が認められ、台形石器的な使用が考えられる。25は小剥片の細い先端部に著しい使用痕が認められるものである。26は頁岩製剥片の鋭利な緑辺に使用痕が観察されるものである。

石核 (第66図28)

28は上牛鼻産黒曜石製で、部分的に礫皮面が残存するものである。5点の剥片が接合したが図化できなかった。不定形の剥片や平坦面を打面にして小型の幅広剥片が剥がされている。

10ブロック

H-19区に位置し、径約 10×6 mに分布しているが、西側の集中部と東側の比較的散在した分布と分かれる。西側はブランティングチップが集中していた。主たる石材は上牛鼻産黒曜石である。

ナイフ形石器 (第66図29・30)

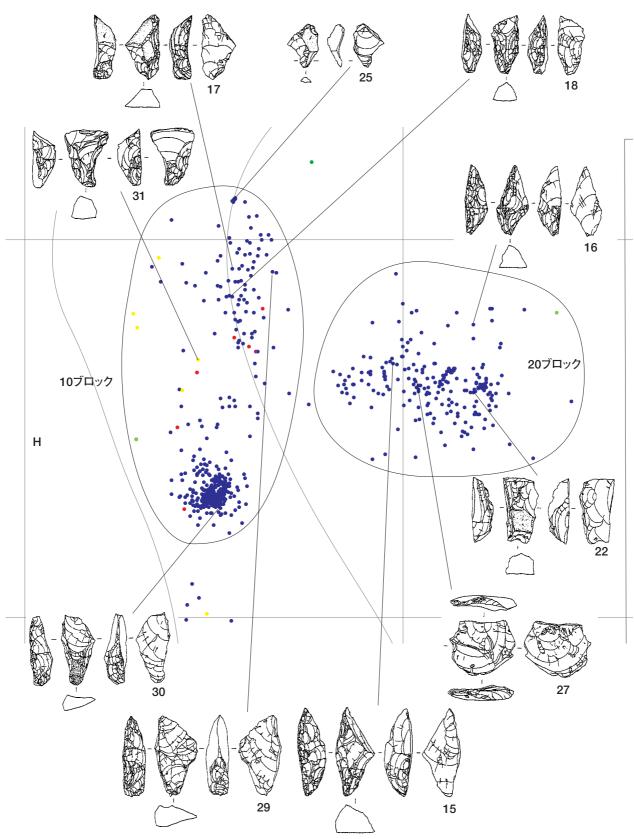
29は幅広剥片を素材とし、剥片の打面側と対向する縁辺にブランティングを施した二側緑加工のナイフである。鋭利なままの刃部には使用痕が著しく観察される。30も幅広剥片を素材とした二測縁加工ナイフで、先端部をわずかに欠損している。

台形石器 (第66図31)

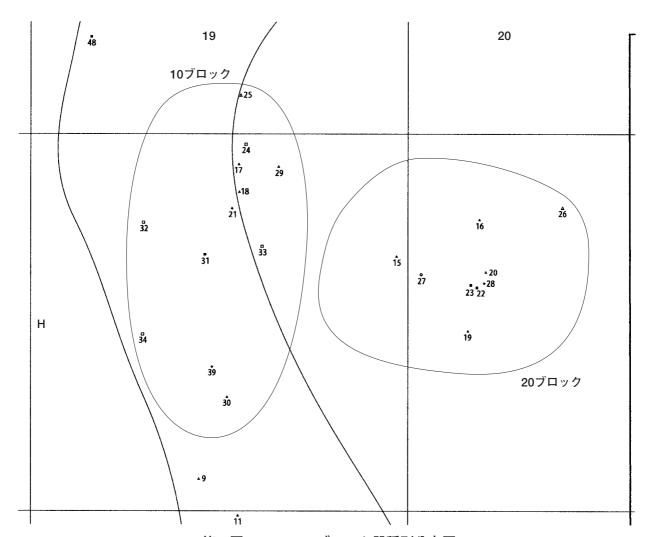
31はギョクズイ製の剥片を使用したものである,直線状で鋭利な末端縁辺をそのまま刃部とし, 両側緑に比較的粗い二次加工によりブランティングを施したものである。

スクレイパー (第66図32~67図34)

32は31と同一母岩と考えられるギョクズイ製の幅広剥片を使用したもので、鋭利な剥片末端部に 二次加工を施し刃部としたものである。二次加工は背面側から施されている。 19 20



第63図 A-10・20ブロック主要石器出土分布図



第64図 A-10・20ブロック器種別分布図

33は比較的大型の幅広い縦長状剥片を使用したもので、鋭利な末端部に背面側から細かい二次加工が施されたものである。石材は産地不明の黒色安山岩である。34は11ブロックの14と接合しており、接合資料108として再述するが、頁岩を利用したもので粗い二次加工が施されたスクレイパーである。

8ブロック (第68・69図)

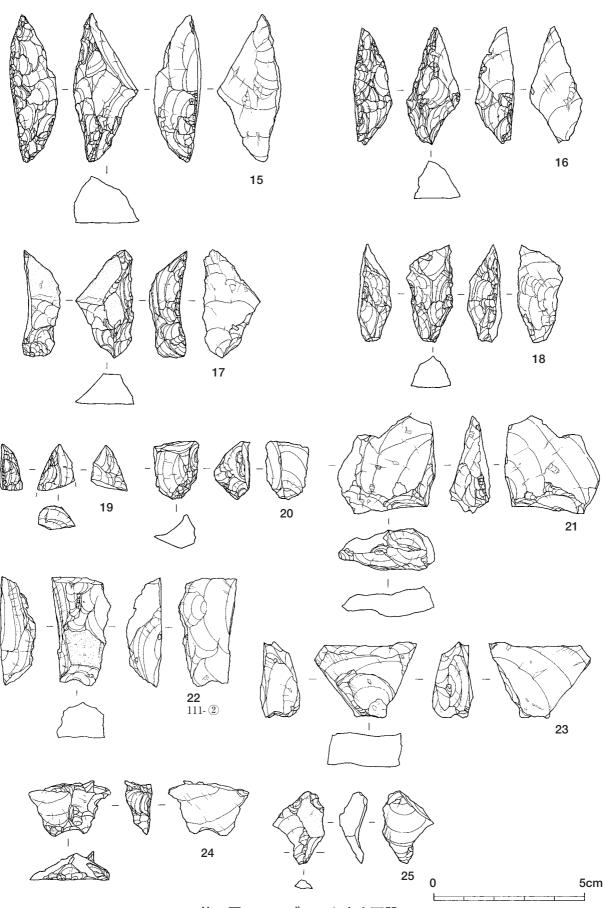
H-18区に位置しており、径的4m程度の円形の範囲に石器分布をもつ。本ブロックで分布している石材は、これまでの上牛鼻産黒曜石主体とは異なり、上牛鼻産黒曜石以外に頁岩系石材も多く混在した石材状況である。

ナイフ形石器 (第67図35)

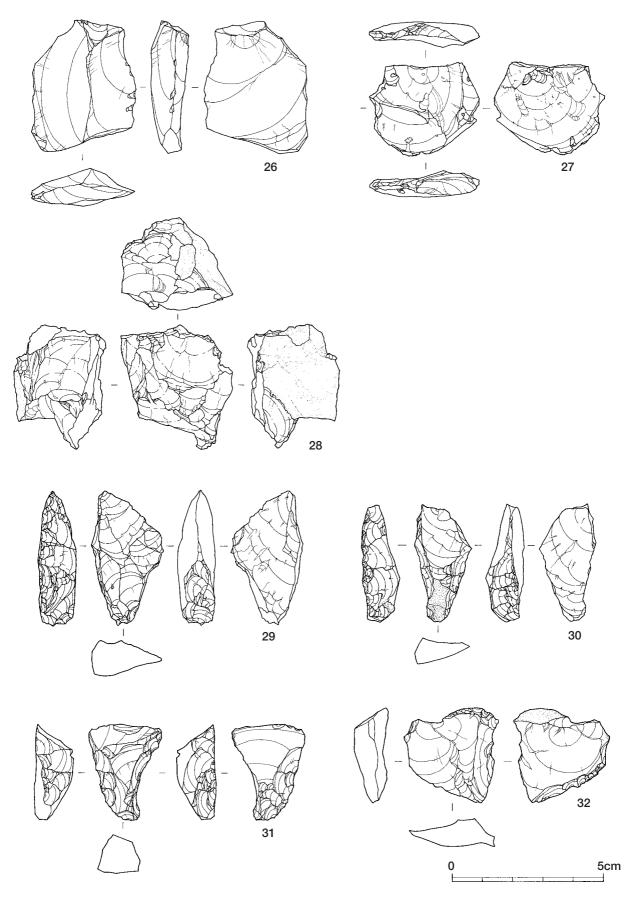
暗青灰色を呈する川辺町宮ノ上産と推定される頁岩製であり、石刃状の縦長剥片を素材とし、打面部にわずかな二次加工を施したもので基部加工のナイフに分類される。先端近くには明瞭な使用痕が観察される。

台形石器 (第67図36)

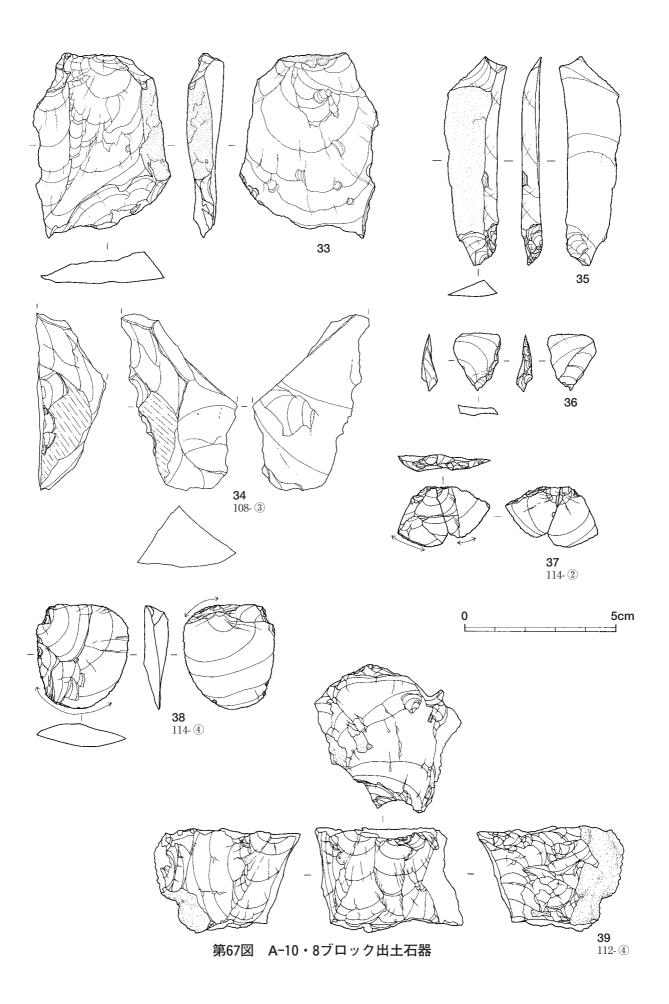
36は37の剥片が打面から分割された剥片を利用し片側縁にブランティングを施したものであり、



第65図 A-20ブロック出土石器



第66図 A-20・10ブロック出土石器



台形石器に分類できる。先端の縁片には著しい使用痕が認められる。

使用痕剥片 (第67図37・38)

37は分割された残りの先端部にも使用痕が認められるが、調整剥離が施されていないことから使用痕剥片とした。38は剥片の鋭利な末端に著しい使用痕が観察される。また打面にも細かい二次加工が施されておりスクレイパーとなっている。石材は37・38とも35と同一石材であり、同一母岩の可能性が高い。

石核 (第67図39)

上牛鼻産黒曜石を石材とするもので平坦な剥離面を打面にして小型剥片が剥離されている。接合 資料であり後述する。

9ブロック (第68・69図)

G-19区に位置しており、Aブロック群のなかでは中間的な場所である。径約10m程度の円形のなかに分布範囲を有する。本ブロックで主体となる石材は、これまでの12・19・11・20・10ブロックが上牛鼻黒曜石であったのと大きく異なり、頁岩系石材が主体となっている。

ナイフ形石器 (第70図40・41)

40は上牛鼻産黒曜石を石材とし、幅広剥片の打面側と対向する縁辺に丁寧なブランティングを施して切出し形に仕上げたナイフである。背縁の加工は直線的ではなく外反し、反対側は逆にノッチ状で内湾状に整形される。ブランティング調整は上下から施されている。41は比較的大きな幅広剥片が素材となり直線状のブランティング調整が施されている。刃部には使用痕と考えられる微細剥離が認められる。石材は黒曜石産地分析の結果、淀姫産と判定された。

先端部使用石器 (第70図42)

42は頁岩製の剥片を利用したものであり、末端に位置する角の部分に微細な剥離が認められる。 他に剥片が接合したが図化できなかった。

彫器 (第70図43)

43は玉髄製の剥片を使用したもので、この剥片剥離時に分割した面から、直角に二条の樋状剥離が認められるものである。彫器と考えられる。

スクレイパー (第70図44)

44は珪質頁岩製の不定形剥片を使用したもので、鋭利な内側の縁辺に鋸歯状の剥離を施して刃部としたものである。先端部には使用痕が認められる。

使用痕剥片 (第70図45・46)

45・46は鋭利な縁辺に使用痕が観察されるものである。45は上牛鼻産黒曜石製,46は頁岩製。

ハンマーストン (第70図47)

安山岩の円礫製であり、長軸の端部には使用痕と考えられる敲打痕が認められる。

13ブロック

8ブロックと9ブロックの中間の位置にある。石材は頁岩系が主体である。石器は少なかった。

台形石器 (第70図48)

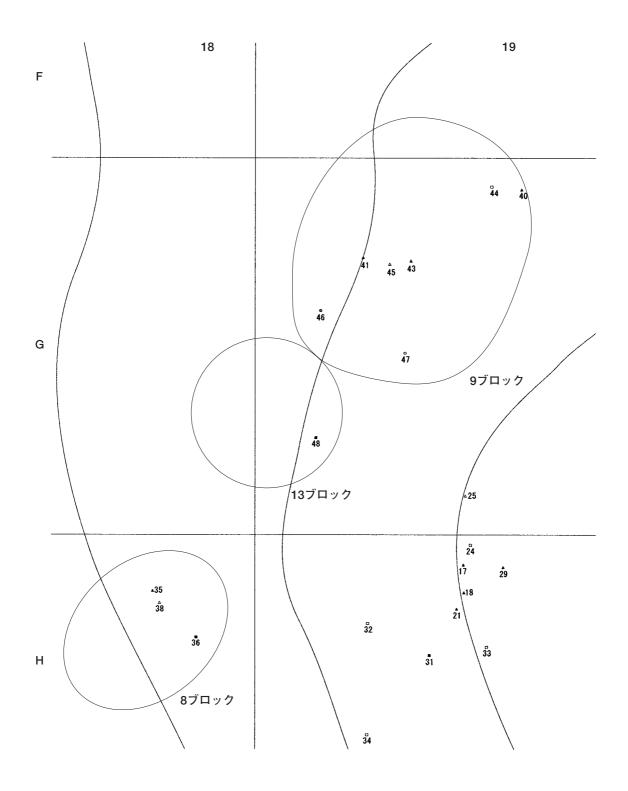
48は頁岩の幅広剥片をそのまま利用し、剥片末端を折断後に弱いブランティングを施したものである。接合資料である。

18 19 = 9ブロック G 13ブロック 35 8ブロック Н

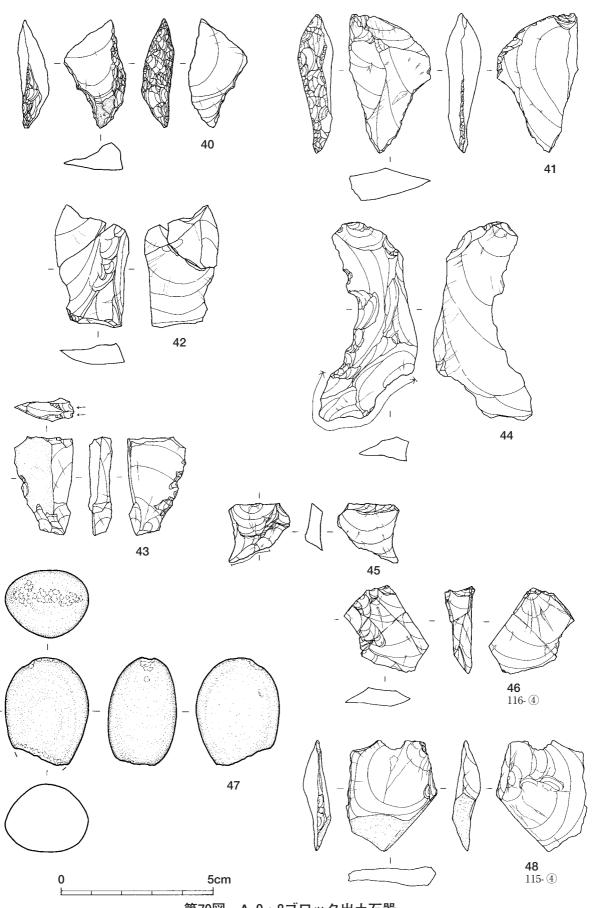
第68図 A-8・13・9ブロック主要石器出土分布図

36

38



第69図 A-8・13・9ブロック器種別分布図



第70図 A-9・8ブロック出土石器

35ブロック

G-20区に位置しており、Aブロック群のほぼ中間の場所にある。石器群の集中度は極めて高く 径約 2 mの範囲に集中している。主たる石材は三船産黒曜石であり、わずかに頁岩系も含まれて、 石材的にはAブロック群のなかでも特異である。

ナイフ形石器 (第74図49~52)

49は幅広剥片の打面側を先端部にして、剥片全体の変形度がかなり高くなるようなブランティングを施している。ブランティング面は厚みがあるため背面からも施されている。先端部を破損しており、53がそれにあたる。50も幅広剥片を利用したものであり、ブランティングは剥片を断ち切るように施されている。51はブランティングチップを使用したものであり、わずかに調整加工が施されている。52は接合資料119に接合するもので、剥片の打面近くに粗いブランティングが施される。基部だけの破損品である。石材は全て三船産黒曜石である。

石錐 (第74図53)

ナイフ形石器49の折れた先端部と接合するものである。ブランティングにより先端が尖るのみでなく、破損面からの細かい調整が施されている。

スクレイパー (第74図54・55)

54は64と接合するものであり、その鋭利な縁辺を有する部分である。折断を意図的にした可能性 も考えられる。石材は同様に三船産黒曜石である。

55は自然礫皮面を打面に有する幅広剥片を使用したものであり、鋭利な剥片末端部に細かい二次加工が認められる。石材は黒色で光を通さず不純物が多い日東系黒曜石と推定されるものであり、確認の意味もあり黒曜石分析に出した結果、予想おり日東・五女木産と判定結果が出された。

36ブロック

35ブロックの北側で、 $F \cdot G - 20$ 区に位置する。出土石器数は少なく、わずかに上牛鼻産黒曜石などがみられた程度であるが、礫群40号、41号、 $42 \cdot 43$ 号の 3 基が所在している。

ナイフ形石器 (第74図56)

56は灰色を呈する頁岩製であり、打面と剥片先端の位置が斜軸状となるいわゆる斜軸剥片を素材としている。打面近くを基部とし、基部には背面からの調整剥離により丸く仕上げており、ブランティングは急角度のものではなく、スクレイパーエッジ状に施している。先端は剥片時のままであり、両側縁の一部には二次加工が施されており、先端部周囲には使用痕が認められている。

使用痕剥片 (第74図57)

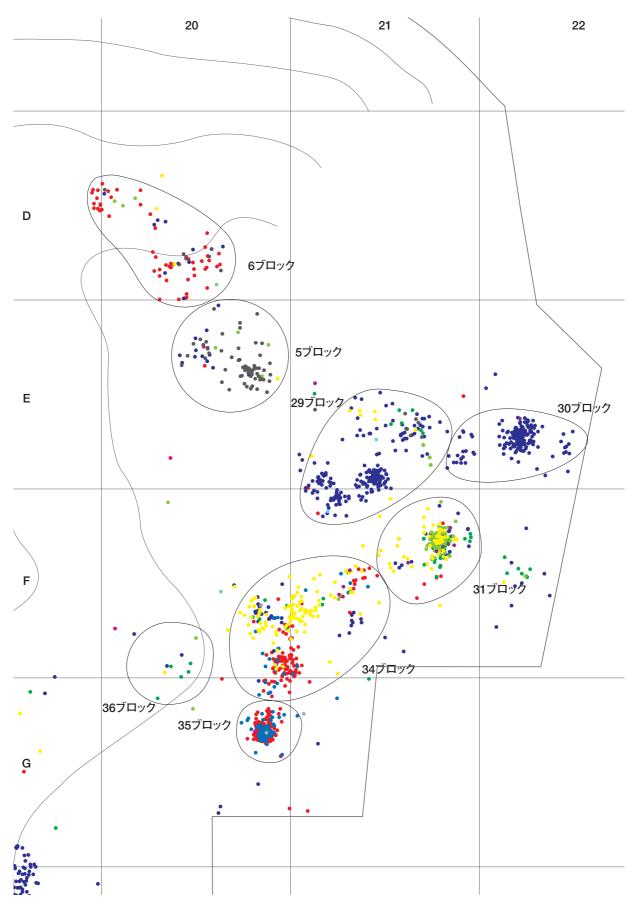
57は青灰色を呈する頁岩製で鋭利な縁辺に使用痕が観察される。下半部を欠損している。

34ブロック

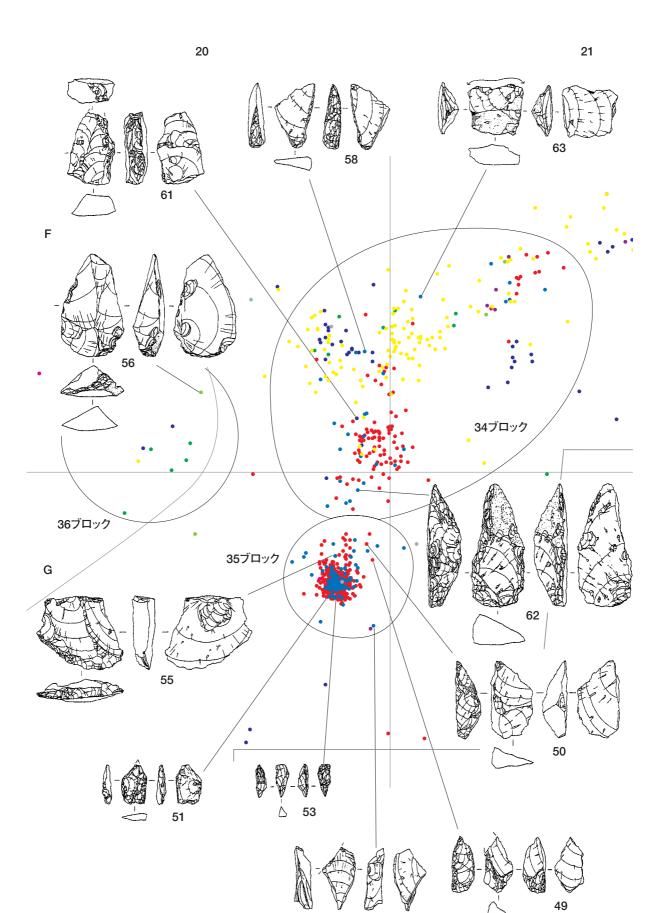
 $F-20\cdot 21$ 区に位置しており、石器は径約 7×6 mの範囲に分布している。石材は西側に三船産 黒曜石が、西側には日東系黒曜石が中心となっている。

ナイフ形石器 (第75図58~62)

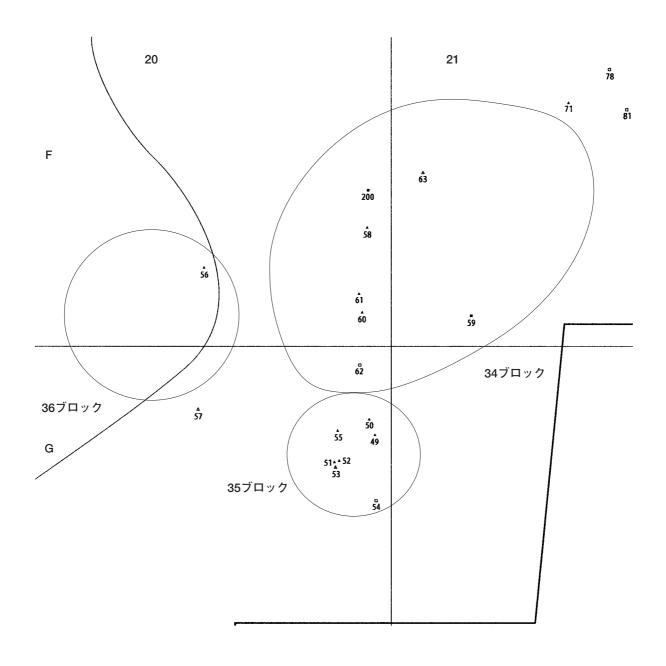
58は幅広剥片を素材とし、ブランティングにより三角形に整形したものである。日東系黒曜石を使用している。59はたんぱく石製で剥片の打面部と末端部を折断し、折断面から平坦剥離を施したものである。60は先端部のみの破損品である。61は上牛鼻産黒曜石製の縦長剥片を素材とし、片側



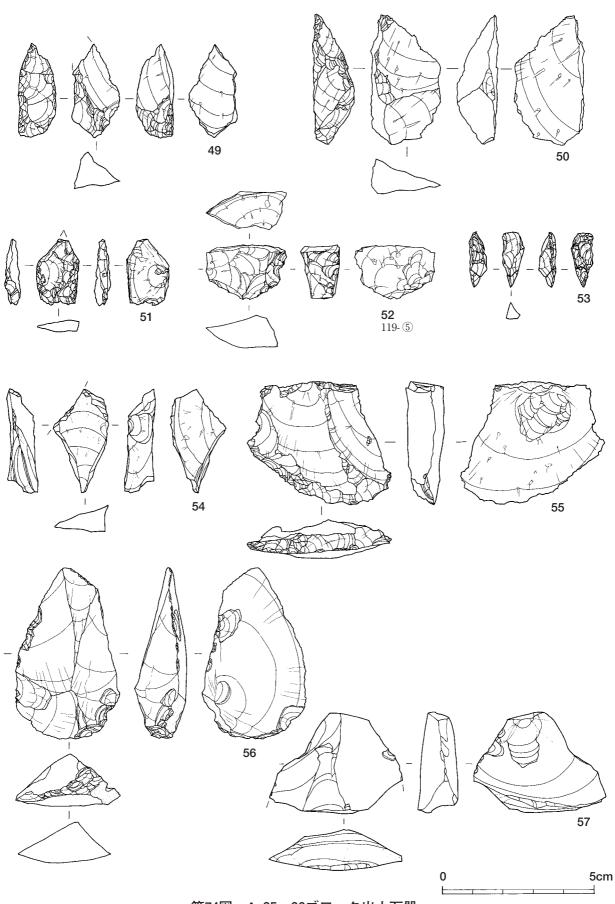
第71図 Aブロック群西側のブロックと石材分布図



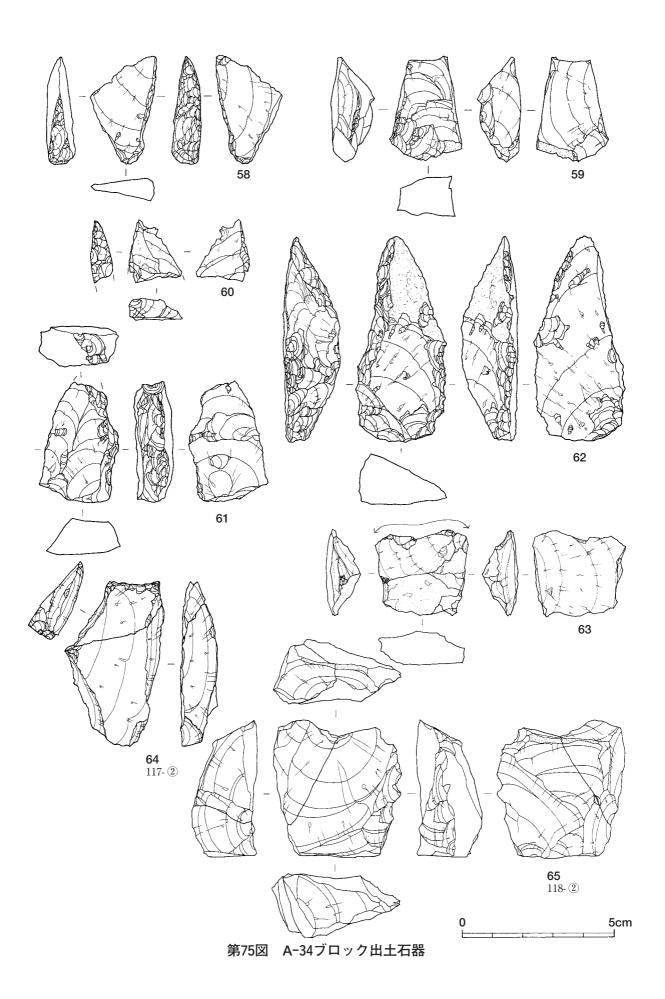
第72図 A-36・35・34ブロック主要石器出土分布図



第73図 A-36・35・34ブロック器種別分布図



第74図 A-35・36ブロック出土石器



- 104 -

縁にのみブランティングを施した一側縁加工ナイフである。62も日東系黒曜石の比較的大きな剥片 を利用したもので、図の左側面には粗い整形が施されている。また鋭利な右側縁には二次加工が施 されている。

使用痕剥片 (第75図63・64)

63は縦長剥片の打面部と末端を折断したもので、鋭利な縁辺には使用痕が認められている。64は 54と接合したものである。

石核 (第75図65)

日東系黒曜石製で接合資料118である。後述する。

31ブロック

F-21区に位置し、径約 5×4 mの分布範囲に広がる。中心部に集中部があり、石材は日東系黒曜石と頁岩が主体である。

ナイフ形石器 (第78図66~73, 76, 80)

66は日東系黒曜石製,67は上牛鼻産黒曜石で、いずれも幅広剥片を素材とし、ブランティングにより切出し形に仕上げている。68は他と異なり一側縁のみにブランティングを施した頁岩製のものである。69はたんぱく石の幅広剥片を素材とし、打面側に直線的なブランティングを施し、対向する縁辺は背面から粗い調整を施したものである。70は剥片末端にわずかな調整を施したもの。

71・72はたんぱく石製で、71は縁辺のブランティングがノッチ状にはいるものである。72は先端部のみの破損品である。73も先端部のみの破損品である。76は比較的大型剥片の打面側に粗いブランティングが施されたものである。80は先端部近くにブランティングが施されている。

台形石器 (第78図74・75)

74は小剥片の末端部にわずかな加工が認められるものである。上牛鼻産黒曜石製。75は頁岩製で 半損品であるが、残存する側縁にブランティングが施されるものである。

スクレイパー (第79図77~81)

77は上牛鼻産黒曜石製の横長剥片を使用し、鋭利な縁辺に二次加工を施したものである。78はたんぱく石の剥片を使用し、鋭利な縁辺に二次加工を施し刃部としたものである。79は頁岩製、81はたんぱく石製で部分的に二次加工が施されている。

30ブロック

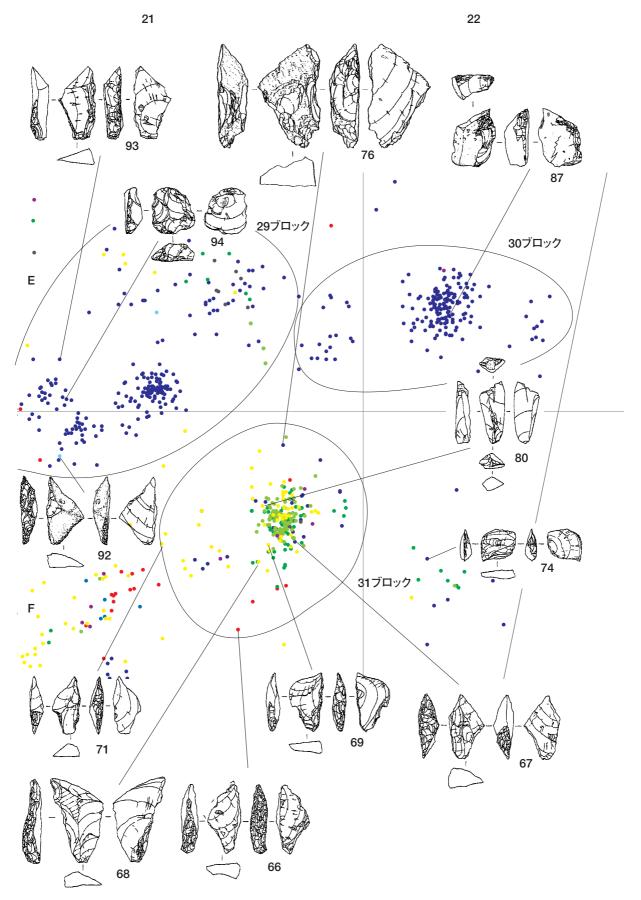
E-22区に位置しており、径約 2 m程度の集中した分布を有する。分布している石材はほとんど上牛鼻産黒曜石である。

ナイフ形石器 (第79図82~86)

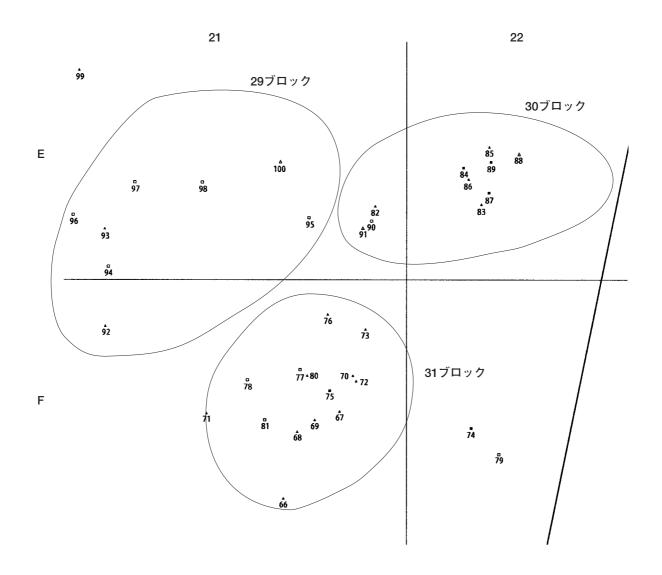
82は剥片の一側縁にブランティングを施したもので、基部は側面から調整を施している。先端部を欠損する。83~85もブランティングが施されており、ナイフ形石器の一部である。86は横長剥片を使用し、打面側にブランティングを施したもので先端をわずかに欠損する。全て上牛鼻産黒曜石である。

彫器 (第79図87)

上牛鼻産黒曜石の小角礫を使用し、分割面からの樋状剥離が認められる。



第76図 A-31・29・30ブロック主要石器出土分布図



第77 図 A-31・29・30ブロック器種別分布図

折断剥片 (第79図88)

88は上牛鼻産黒曜石製の背面に自然礫皮面が残る縦長剥片を中間で折断したものである。縁辺には使用痕が観察される。

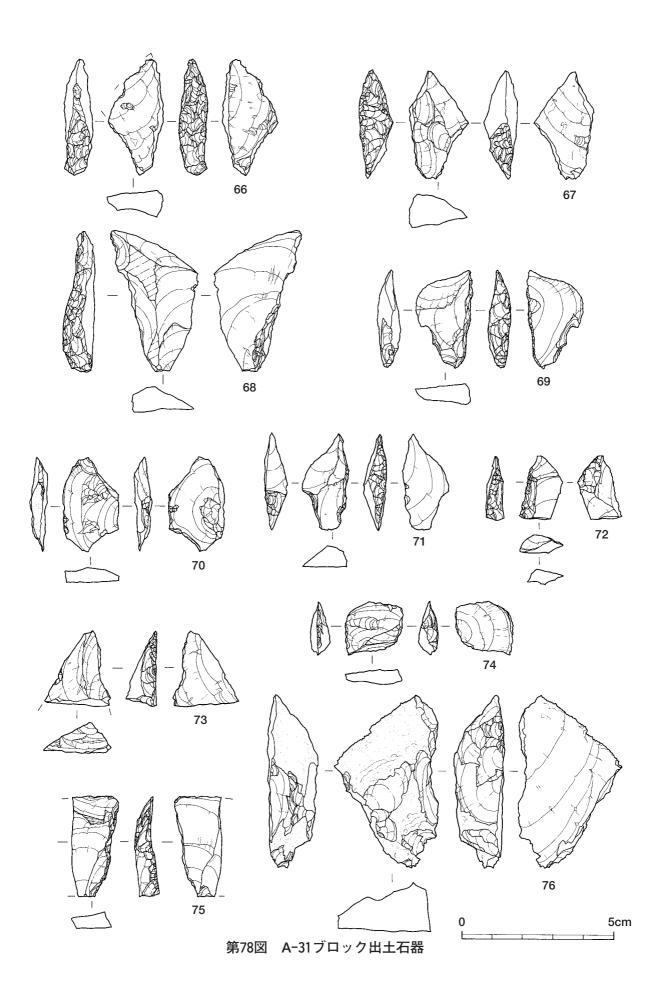
スクレイパー (第79図89~第80図90)

89は縦長剥片の先端部に細かい二次加工が施されている。これは末端部のみであり、打面側は折断したのか、あるいは破損なのか明確ではない。

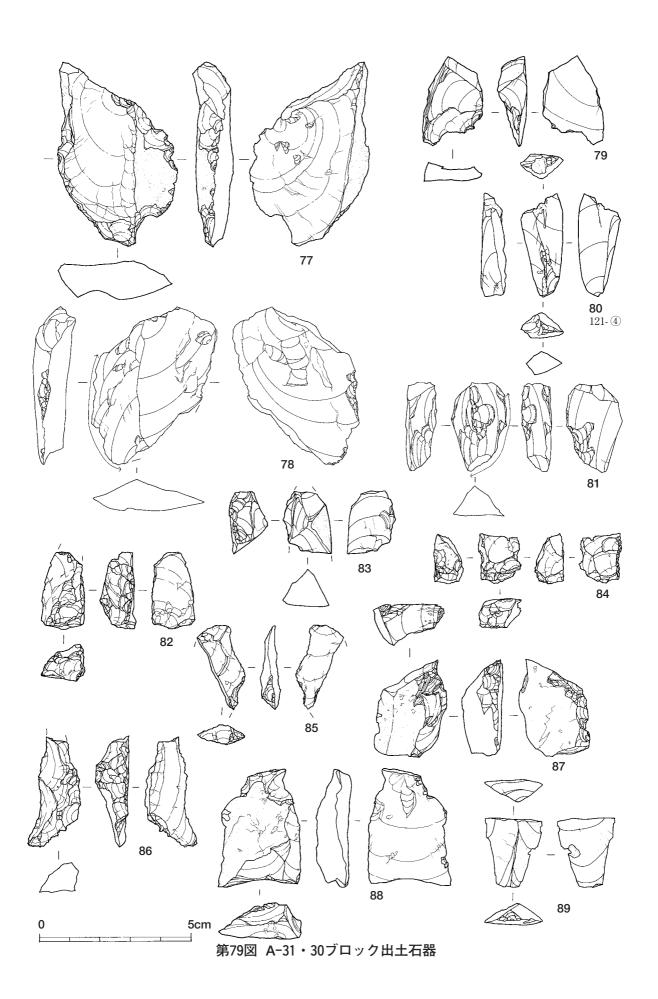
90は背面に自然礫皮面が残る不定形剥片の先端部に細かい二次加工が施され、また図の左側で急角度の部分にも二次加工が認められる。

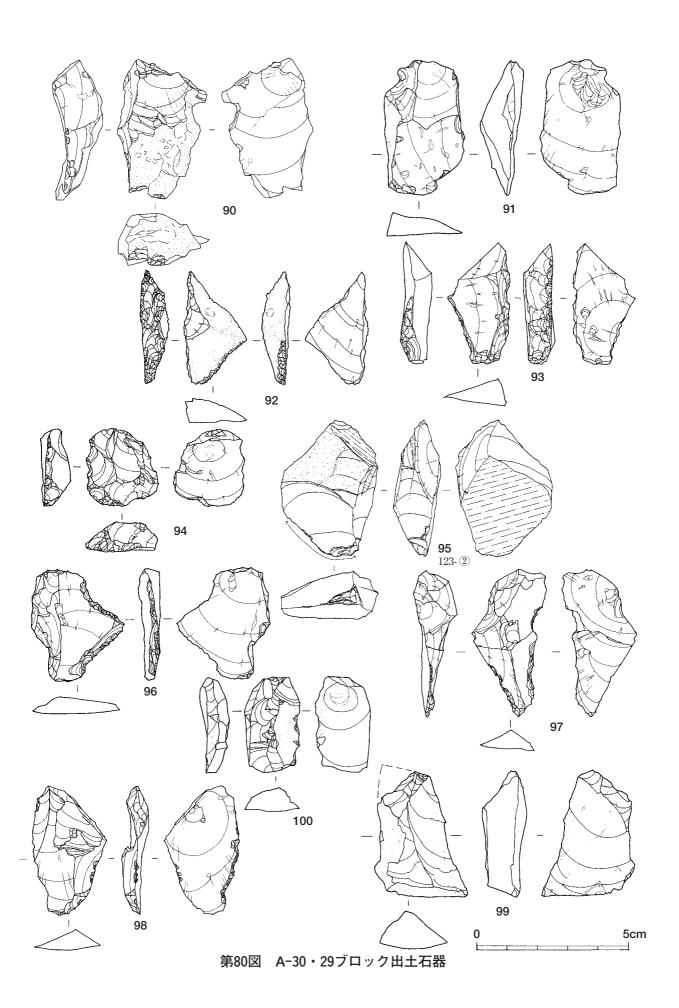
使用痕剥片 (第80図91)

縦長剥片の鋭利な先端部に使用痕が観察されるものである。石材は上牛鼻産黒曜石である。



- 108 -





- 110 **-**

29ブロック

E・F-21区に位置しており、径約8×5mの楕円形の範囲に石器群は分布し、西側では集中する2ヶ所の分布があり、東側は比較的散在した分布となっている。分布している石材は上牛鼻産黒曜石が主体で他に頁岩や安山岩がみられた。

ナイフ形石器 (第80図92・93)

92は背面全体に自然礫皮面が残る幅広剥片を使用し、打面側を断ち切るように直線状のブランティングを施し、対面する縁辺にも細かい調整を施し全体を三角形状に整えている。石材は霧島系黒曜石と推定される。93は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片の打面部に二側縁加工したもので切出し形のナイフとなる。

掻器 (第80図94・95)

94は小型剥片の側縁から末端にかけて二次加工が施されたもので母指状を呈する。95は青灰色の 頁岩製で、節理面で剥がされた短い端部に二次加工が施されたものである。使用痕は鋭利な縁辺全体に認められる。

削器 (第80図96~98)

96は剥片の片側縁に細かい二次加工を施し刃部としたものである。上半はノッチ状となる。石材は玉髄質である。97は上牛鼻産黒曜石製の不定形剥片を利用し、細くなった部分の両側縁に細かい二次加工を施し刃部としたものである。

98は桑ノ木津留産黒曜石製の斜軸状剥片を使用し、鋭利な片側縁に細かい二次加工を施し刃部としたものである。加工のない他縁辺には使用痕が著しい。

使用痕剥片 (第80図99・100)

99は安山岩製,100は鉄石英製の剥片を利用し、縁辺に使用痕が観察されるものである。いずれも背面には自然礫皮面が残存している。

5ブロック

E-20区に位置しており、直径約5 mの円形に分布している。極端に集中しているのではなく、比較的散在した分布である。石材は安山岩系が主体である。他に上牛鼻産黒曜石も散在的に認められる。

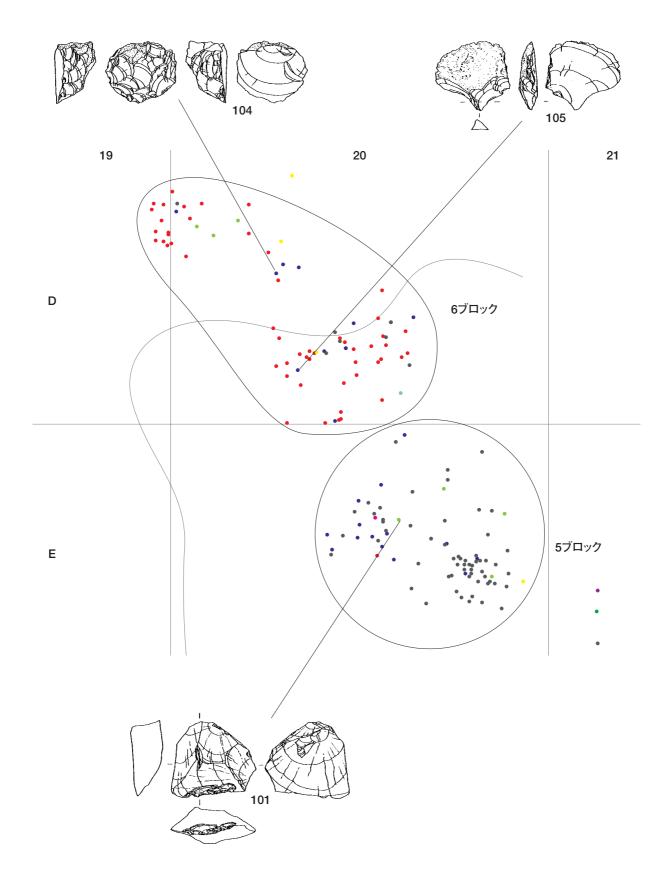
削器 (第83図101·102)

101は灰色を呈する頁岩製であり、やや厚手の幅広剥片の末端に二次加工を施し刃部としたものである。側縁には使用痕が認められる。

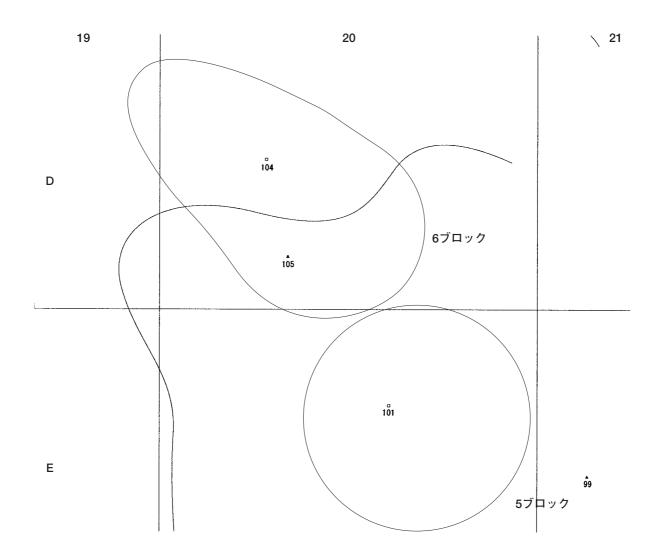
102は接合資料125の一部であり、剥片が剥離された後に粗い二次加工が施されている。石材は安山岩である。

ナイフ形石器 (第83図103)

103も接合資料125の一部である。一部背面に自然礫皮面が残る横長剥片を使用し、急角度のブランティングを施したものである。剥片の打面はそのまま残して、末端部と打面の下に調整を施している。図の下端は6ブロック出土であり、当初下端を折断して台形石器として考えていたが、接合により形状的にナイフの部類とした。



第81図 A-5・6ブロック主要石器出土分布図



第82図 A-5・6ブロック器種別分布図

6 ブロック

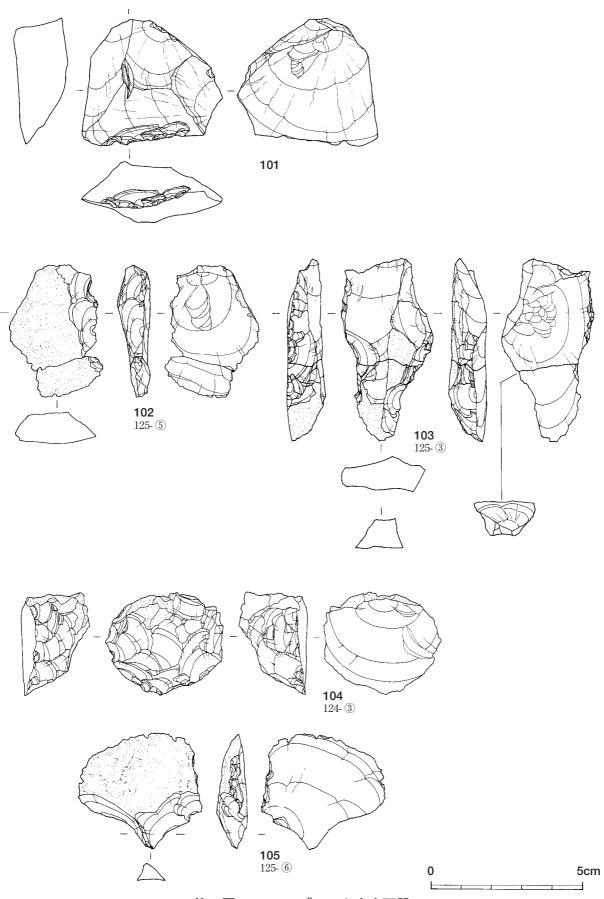
D-20区に位置しており、径約8×5mの楕円形の範囲に散在的に分布している。石材は三船産 黒曜石が主体であり、他に安山岩が点在している。

掻器 (第83図104)

104は上牛鼻産黒曜石の比較的厚手の剥片が素材とされ、打面以外の部分に急角度の二次加工を施し、半円状の刃部としたものである。打面には自然礫皮面が残存している。刃部には使用痕が著しく観察される。

削器 (第83図105)

自然礫皮面の残る幅広剥片の打面部に粗い二次加工を施したものである。加工によって尖った部分には使用痕が認められる。



第83図 A-5・6ブロック出土石器

Aブロック群接合資料

ここでは接合資料について説明を行う。

接合資料は各個別のブロック内で接合するものの他,各個別ブロックを超えて接合しているものも少なくない。またブロック群が異なり数10m離れて接合したものもみられた。各個別ブロック内と近接するブロック間接合については、図化したものを中心にして、第88・94・100・102図で示し、それらと図化していない接合関係も含めてAブロック群全体の接合関係図を第103図で示した。時間の制約もあり、接合資料の全てを図化できなかったが、各ブロック間の関係を読むために接合関係図は全てを図示した。

接合資料106 (第84図)

上牛鼻産黒曜石を石材とするものである。全て12ブロックから出土した。①は全体の接合図であり、大きくみると、剥片2枚の接合資料である。②は先に剥離された剥片の一部であり、打面部と末端は折断されている。次に剥離された剥片は剥片剥離時の打撃の衝撃により分割している。③はその片割れで部分的に二次加工が施されている。④は残りの剥片である。これには何ら加工は施されていない。

接合資料107 (第84図)

上牛鼻産黒曜石を石材とする。自然礫皮面が残存する剥片 2 点の接合資料である。①はその接合図であり、その裏面で理解されるように、両剥片は打面の位置が異なっており、連続して剥離されたものではない。①は先に剥離されたものであり、末端には使用痕が認められる。次に剥離された3 も使用痕が認められる。

接合資料108 (第85図)

宮ノ上産の青灰色頁岩が石材である。10ブロックと11ブロックの約10m離れたものが接合した。 ①は接合図であり、元は一枚の大型剥片であった。節理面で分割された②は、石核とされて小型の幅広剥片が両側面と一部腹面でも取られている。③は鋭利な縁辺に二次加工が施されてスクレイパーとされている。

接合資料109(第86図)

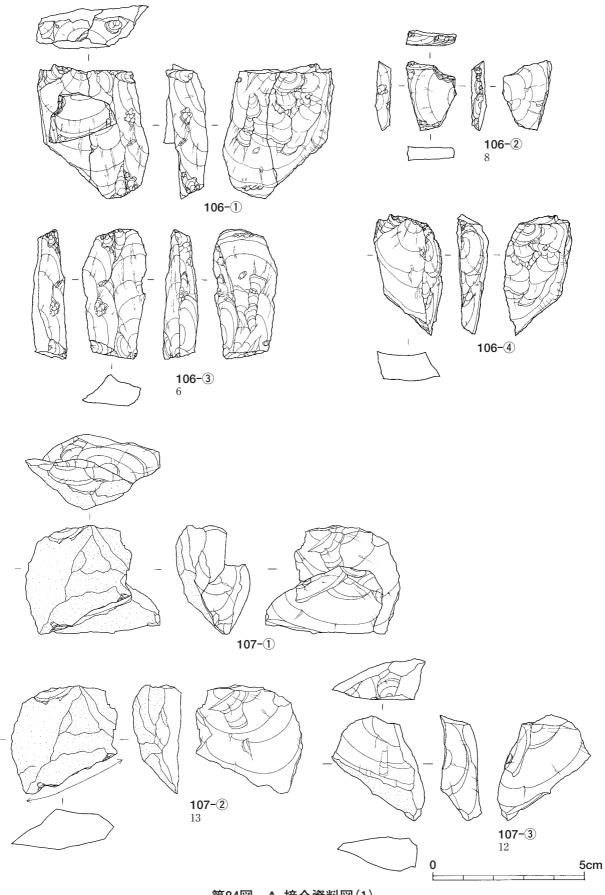
上牛鼻産黒曜石が石材である。全て11ブロックから出土したものである。剥片のみからなる接合資料で、①はその接合全体図である。剥片の打面は全部同一の平坦な剥離面であり、下面に平坦な自然礫皮面が残存していることから、角礫を使用して最初にそれを分割したことが分かる。剥離された②~⑥の剥片をみると、目的剥片の形状は④のような幅広剥片であった可能性が高いと考えられる。

接合資料110 (第87図)

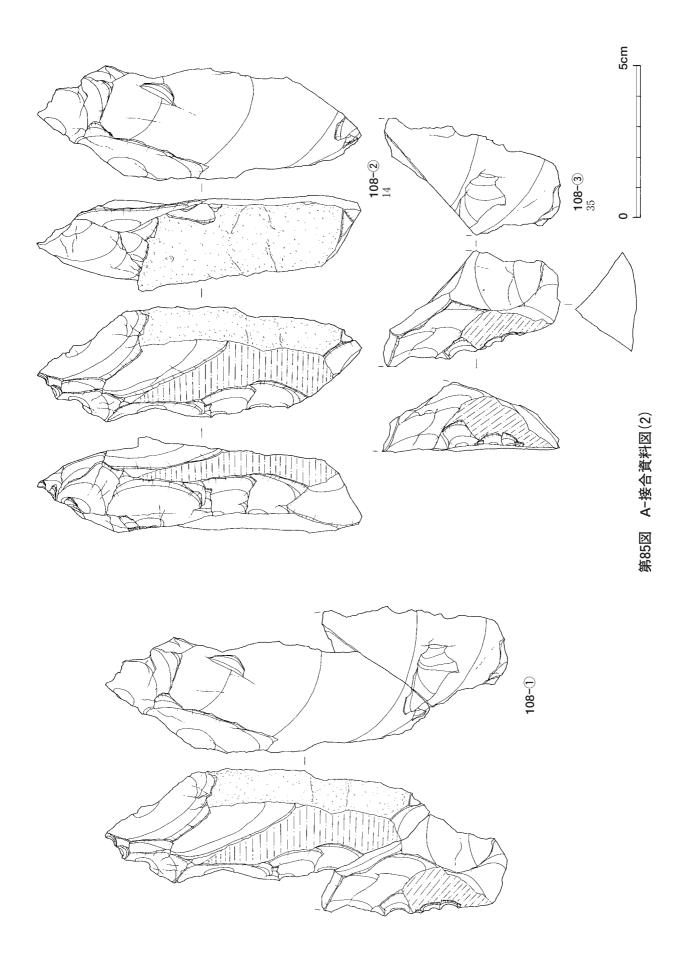
石材は上牛鼻産黒曜石である。全て11ブロックから出土したものである。①は全体の接合資料であり、元は一枚の剥片であった。②にもブランティングが認められ、当初はかなり大きなナイフが意図されていた。しかし、③と②が剥がされ、ブランティングが施され、図化していない①の左側部分も剥がされ、最終的に④のナイフ形石器が完成している。

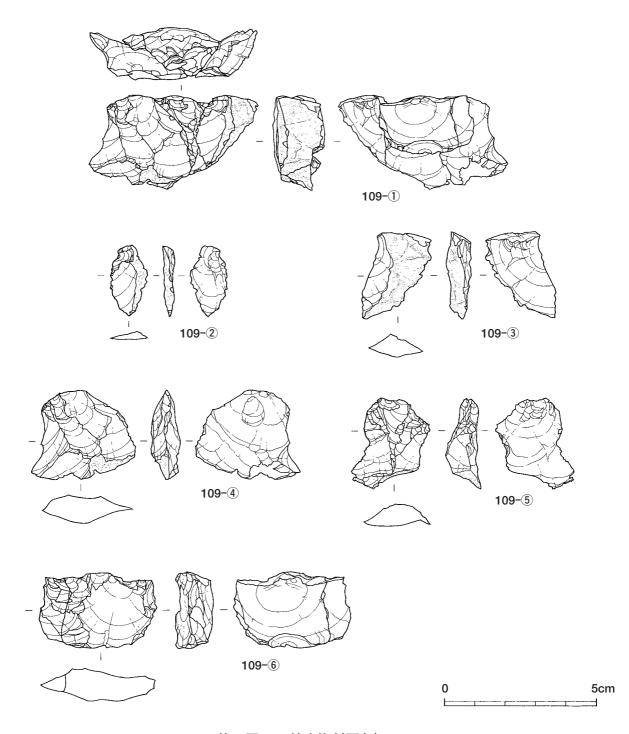
接合資料111 (第87図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。これも元は比較的大きな一枚の剥片であった。背面に広く自然礫



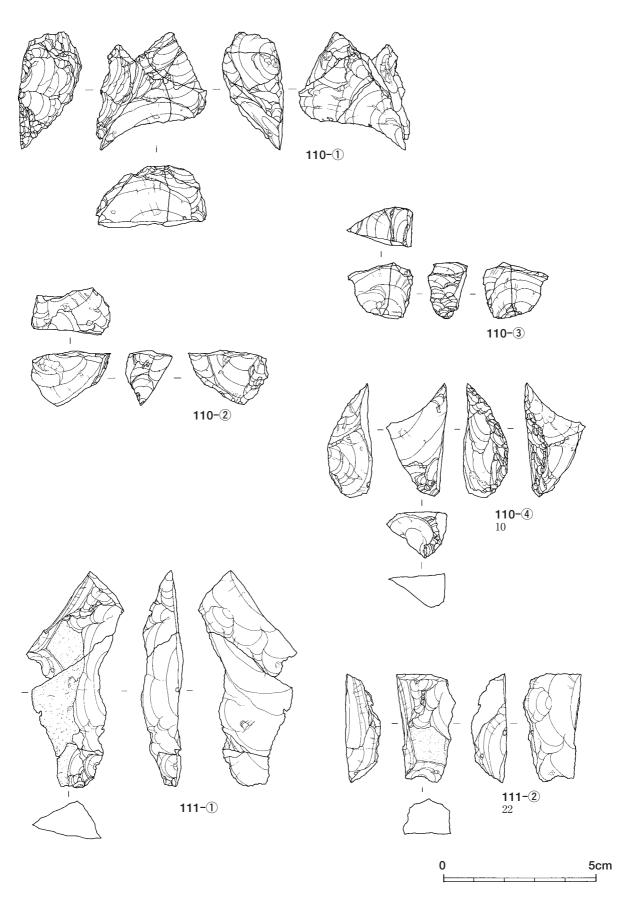
第84図 A-接合資料図(1)





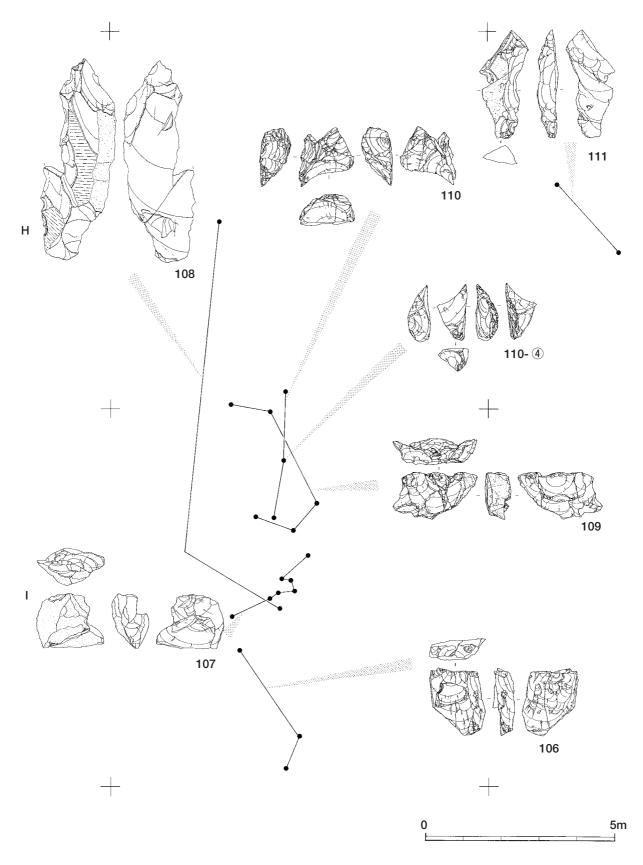
第86図 A-接合資料図(3)

皮面を残している最初の段階の剥片が利用されている。①はその接合図であり、折断により②が取られる。そして基部に調整剥離が施されている。両折断面に明確なブランティングは施されていないが、基部の調整から台形石器と考えられる。



第87図 A-接合資料図(4)

18 19



第88図 A-接合資料分布図(1)

接合資料112 (第89・90図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。比較的大型の石核と剥片の接合資料である。①は接合全体であり、図の平坦打面から左側の剥片②がとび出ている。これはかなり早い段階で②が剥離されたことを示している。②は厚手の剥片として剥離され、厚かったため、石核として利用され、小型の剥片が数回剥離されている。

石核は②が剥離された後で正面方向から剥離されて現在の平坦な打面となる。その平坦な打面から③が剥離されている。これは全く使用されていない。

接合資料113 (第91図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。全て10ブロックから出土している。①は接合図であり、裏面からわかるように接合した2枚の剥片の打点位置が異なる。先に剥離された②は、その後に裏面から剥片がとられている。③は横方向から剥離されたもので、打面側と末端部が折断されている。

接合資料114 (第91図)

石材は珪質頁岩であり宮ノ上産と推定される。全て8ブロックから出土した4点の接合であり同一打面から剥離されている。剥片②の分割したものと、剥片④は使用痕や加工痕が認められる。

接合資料115 (第92·93図)

石材は宮ノ上産の頁岩と推定されるものであり、全体接合の①の下半部である③は灰色系の色調であるが、上半部は青灰色を呈し珪質分が多い。節理面で②と③が分割されている。

②の石核から剥離された④は剥片末端に調整加工が施され台形石器とされている。その後に、比較的大きい幅広剥片が正面で剥離されている。そして剥片の主要部は折断され、使用されなかった末端部⑥のみが接合している。主要部は石器として利用されたと考えられる。その後に打面側で、剥片⑤が剥離されている。

節理面で分割された③と⑦は石質が良くなく剥片剥離がわずかにみられる程度である。

接合資料116 (第95図)

石材は頁岩である。いずれも同一打面から剥離されたものであり、縦長状の剥片や幅広剥片である。このうち⑤は他の剥片が出土した9ブロックから約120m離れた14ブロックからの出土であり、剥片末端部に二次加工が施されている。

接合資料117 (第95図)

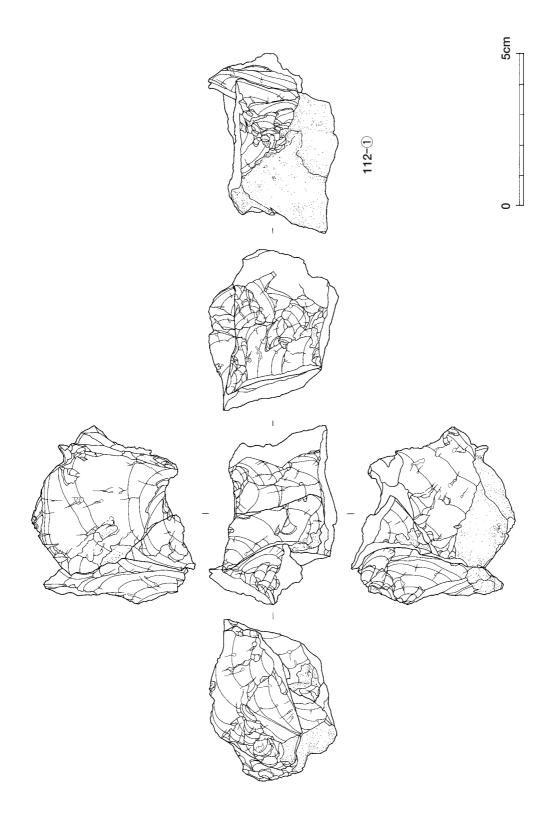
石材は日東系黒曜石である。比較的大型の剥片であったもの①が、腹面側から折断されたものが②である。②は使用痕が認められることより意識的に折断された可能性が高い。③は剥片末端をうすくするために剥離されたと考えられる。

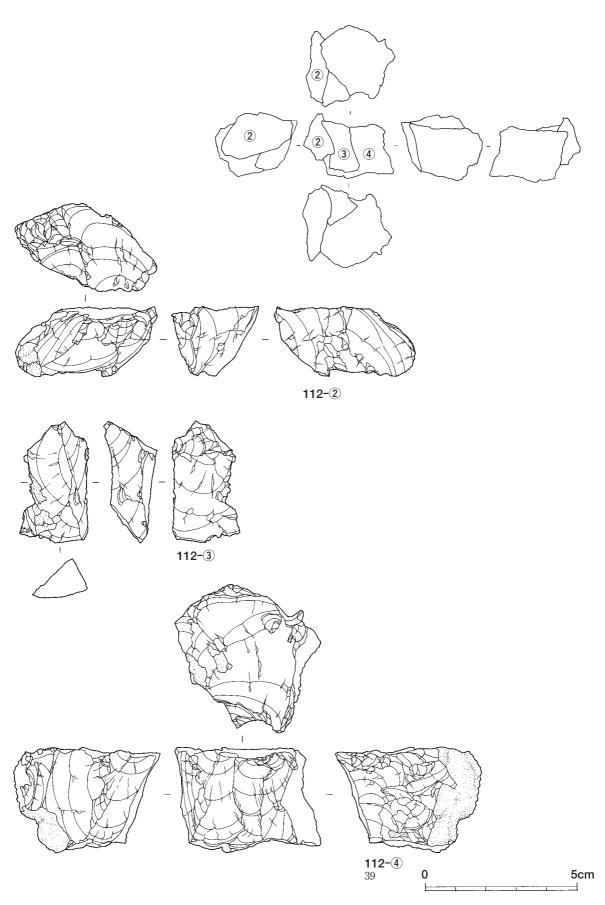
接合資料118 (第96図)

石材は日東系黒曜石である。石核と剥片の接合資料であり、その接合全体図が①で、石核のみが②である。③は①から剥離された縦長状剥片の打面部であり、下半は折断されている。この消えた部分は石器として利用された可能性が高い。

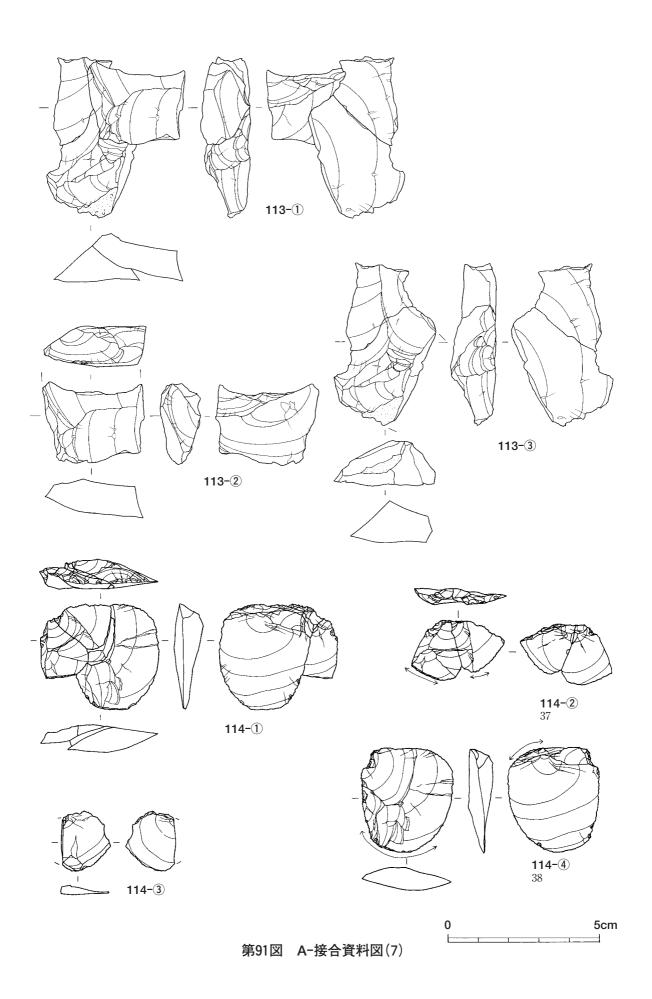
接合資料119 (第97図)

石材は三船産黒曜石である。35ブロックからの出土である。元は一枚の剥片であり、ナイフ形石 器が途中でこわれたものである。

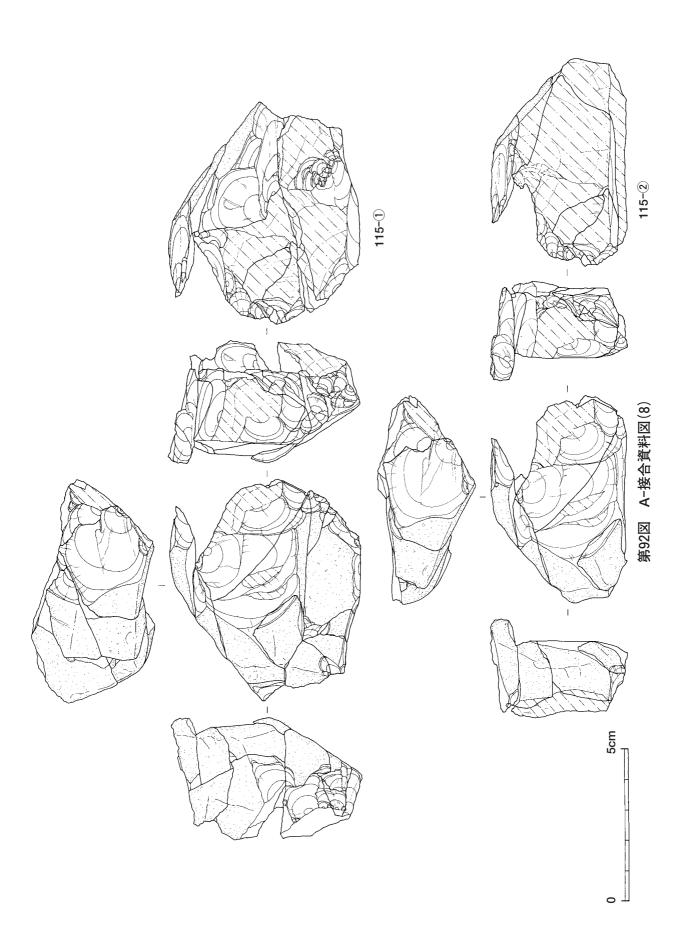


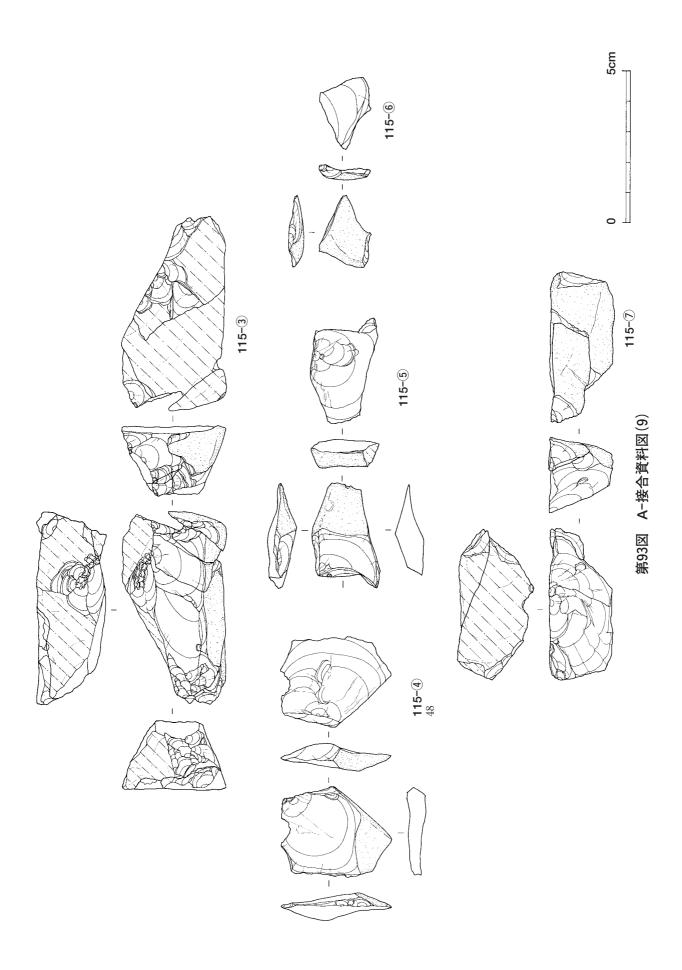


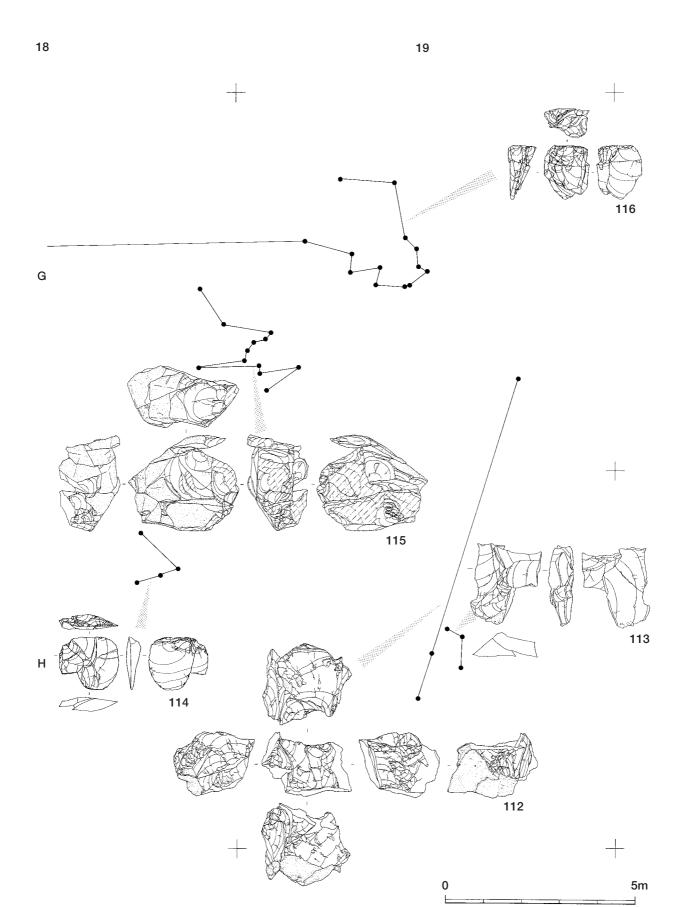
第90図 A-接合資料図(6)



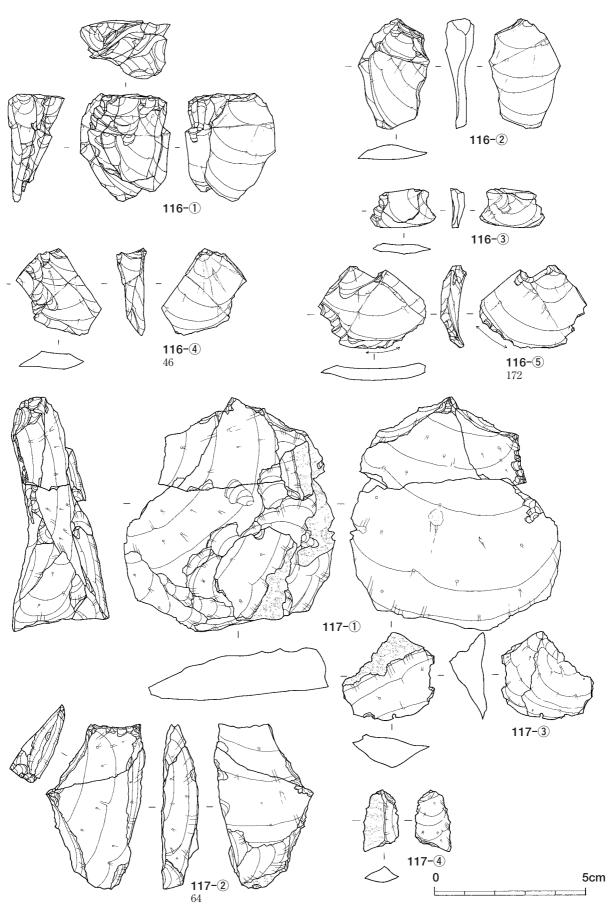
-124*-*



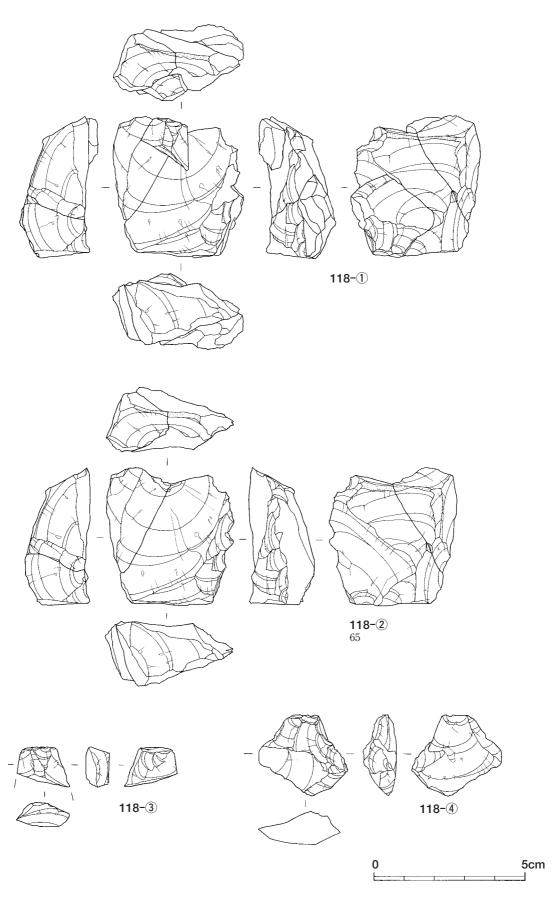




第94図 A-接合資料分布図(2)



第95図 A-接合資料図(10)



第96図 A-接合資料図(11)

接合資料120 (第97図)

石材は白いたんぱく石である。31ブロックから出土した2枚の剥片の接合であり、①の接合図の 裏面でわかるように打面の位置が異なっている。②は剥離された後に、打面部腹面に調整剥離が施 され、それによって形成された角の部分に使用痕が観察される。新たな打面から剥離された③も、 鋭い縁辺に二次加工が施され刃部とされている。

接合資料121 (第98図)

石材は白いたんぱく石である。31ブロックから出土した2点の縦長剥片の接合であり、120と同一母岩である可能性が高い。石核から先に剥離された縦長剥片③は下半が折断されたのか折れたのか明確ではない。後から剥離された②は、打面の打撃により縦に割れたものと考えられる。剥片の末端が折断され、その部分に細かいブランティングが施され、④のナイフ形石器になっている。縁辺には使用痕が認められる。

接合資料122 (第98図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。30ブロックから出土した石核と剥片2点の接合資料である。①は接合図であり、左側面を打面にして2枚の幅広で短い剥片が剥離されている。②の剥片は上面を打面にして剥離されている。この後に作業面方向から打面部の剥離が行われているが現存していない。次に、先の剥離で得られた平坦面を打面にして、③の剥片が剥離されている。②と③の剥片は使用されていないが、小さな台形石器製作を意図した可能性が考えられる。石核は打面を移動しながら剥片剥離が行われていたことを示す。

接合資料123 (第99図)

石材は青灰色を呈する頁岩であり宮ノ上産と推定されるものである。29ブロックから出土した4点の剥片が接合しているが、①の接合図によると元は一回の剥離によって得られた比較的大きな縦長状の剥片であったことがわかる。ところが、内部に節理の目が存在していたため、剥片剥離時の打撃により節理面に力がかかり分割したものと推定される。背面の剥離面構成によると、連続して縦長剥片が剥離されていたものと推定される。

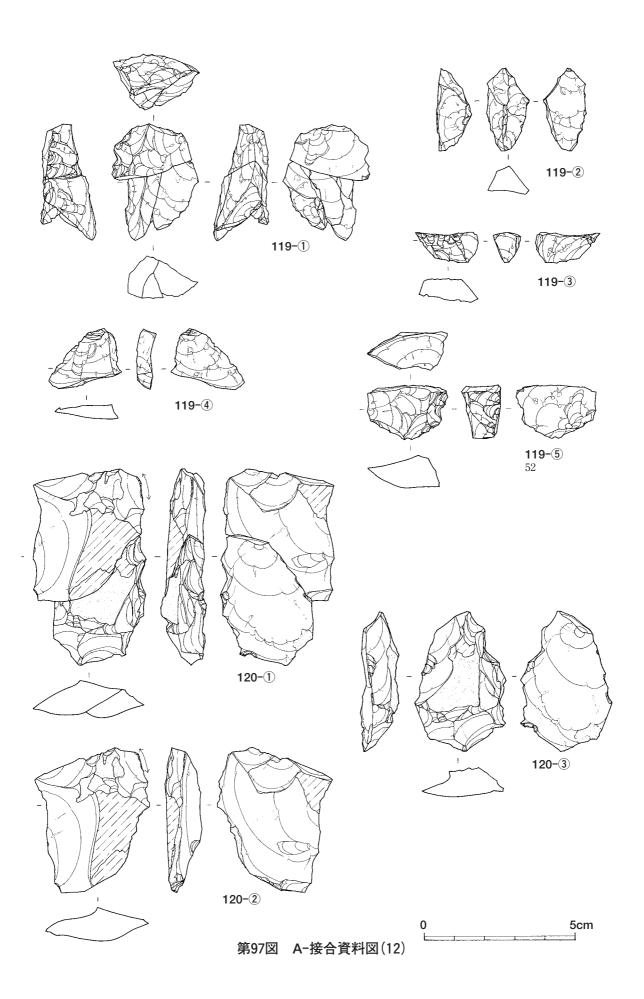
分割した剥片のうち②のみに細かい二次加工が施され掻器とされている。③と④は二次加工も施されず、使用痕も認められない。

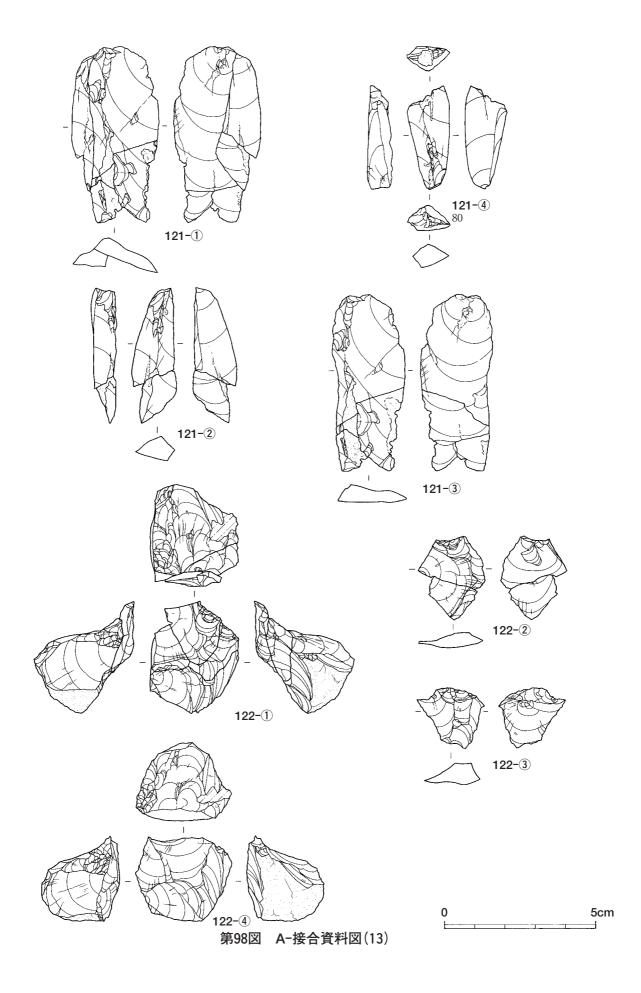
接合資料124 (第99図)

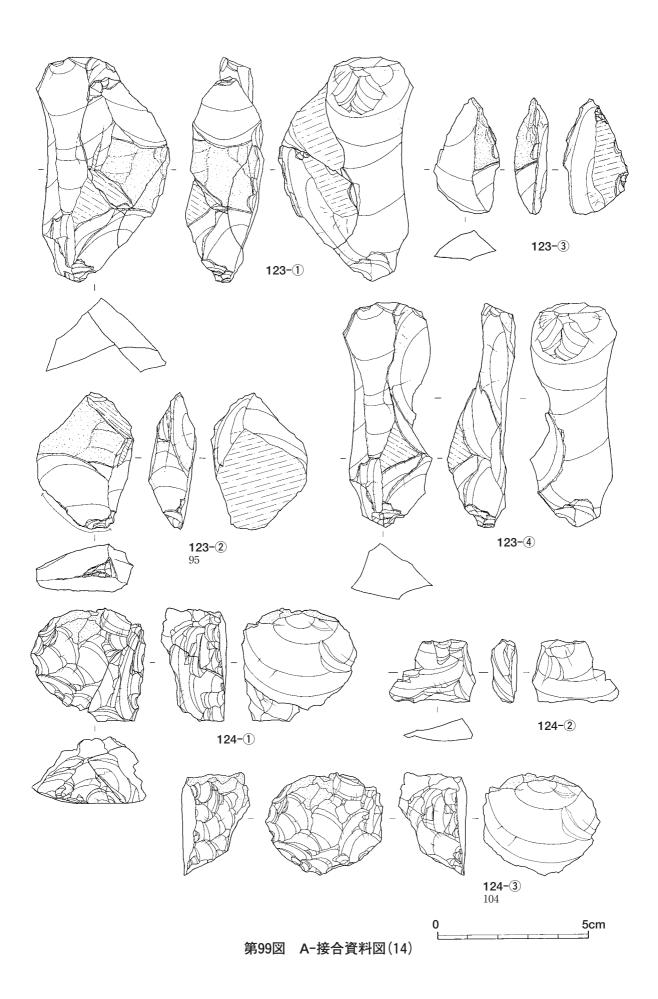
石材は上牛鼻産黒曜石である。6ブロックから出土した掻器とリダクション剥片の接合資料である。②の剥片にも刃部形成の二次加工が施されており、以前は比較的大型であったことが推定できる。ただし、接合遺物の出土地点は極めて近い。

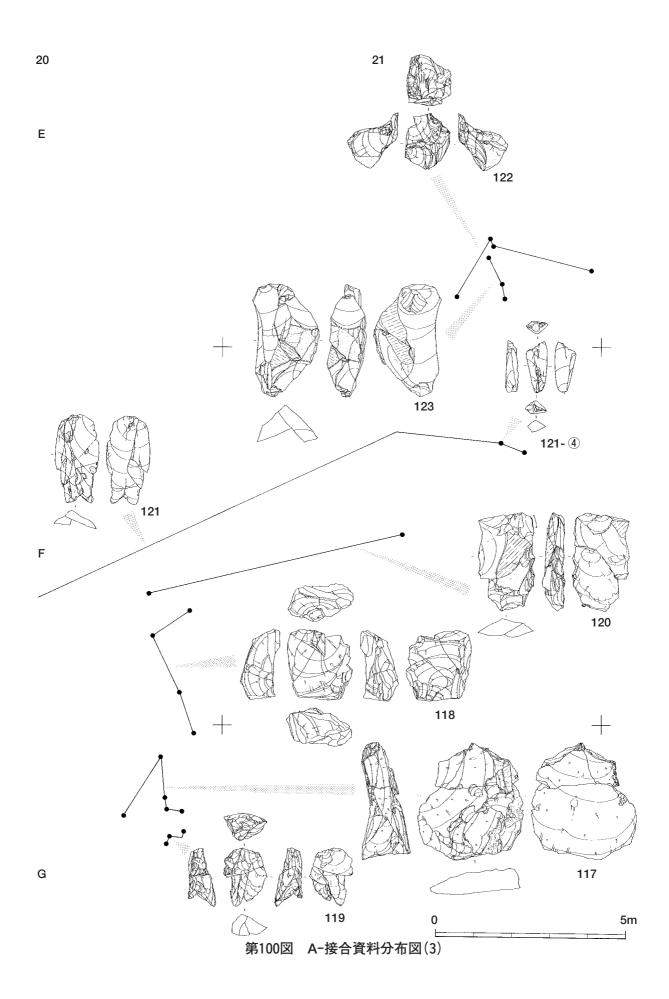
接合資料125 (第101図)

石材は安山岩である。5・6 ブロックから出土した接合資料である。①は全体の接合図であり、 自然礫皮面がある外側の剥片が接合し、石核は運ばれている。先に剥がされた④は腹面からの粗い 剥離により⑥の石錐とされる。次に剥離された②はブランティングが施され③のナイフ形石器とな る。最後に剥離された⑤も二次加工が施されて石器となっている。

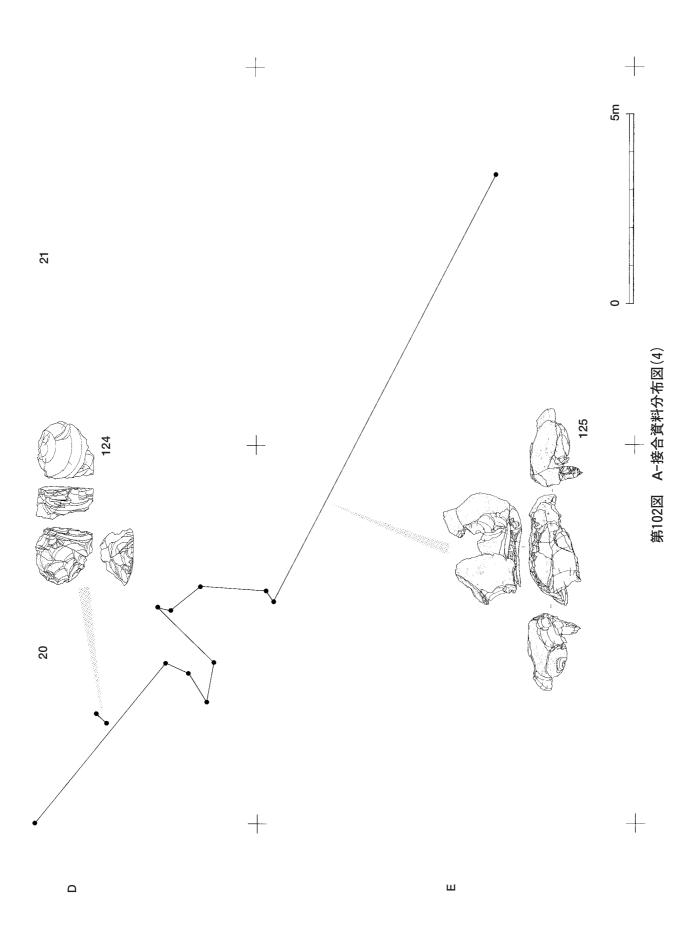


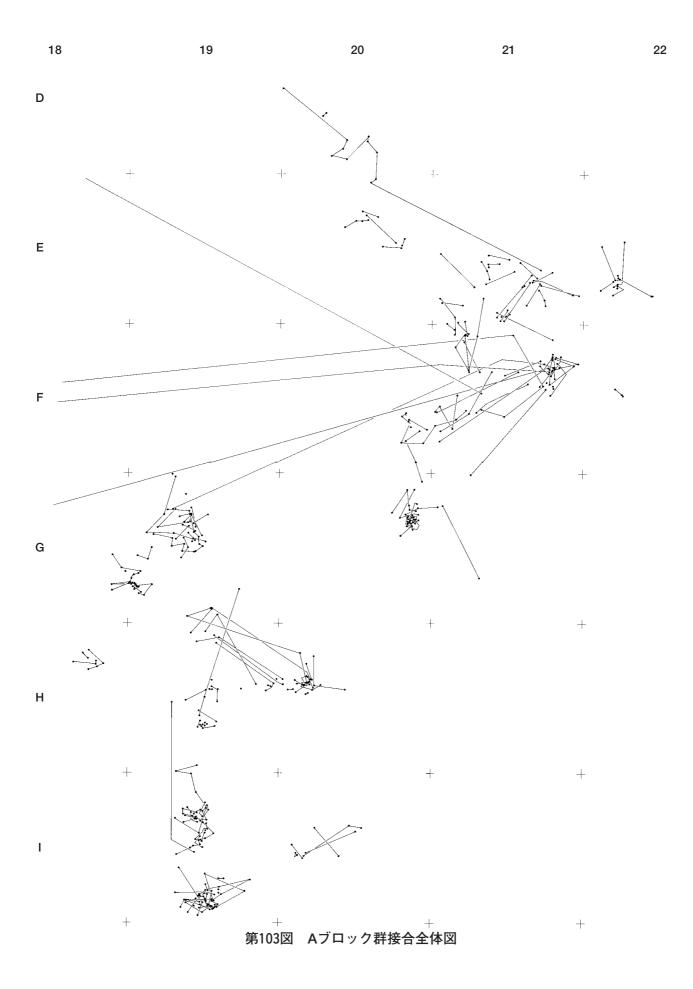


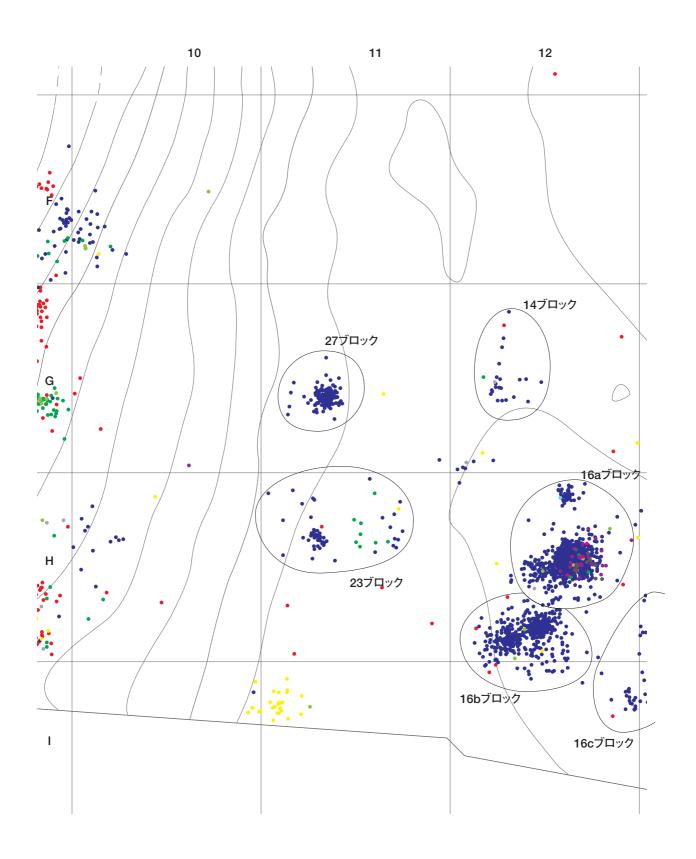




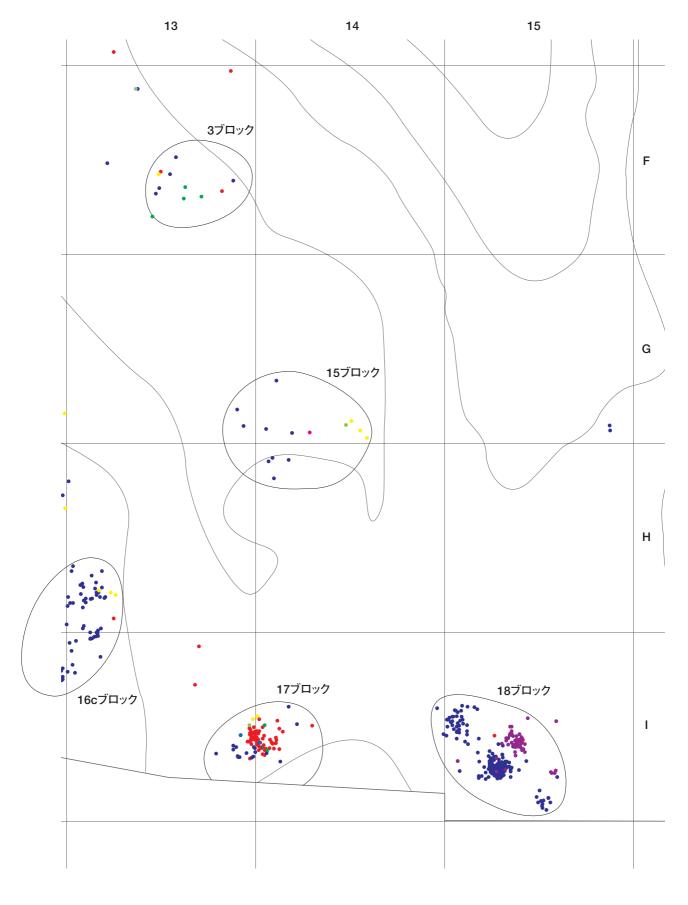
- 135 **-**







第104図 Bブロック群北西部のブロックと石材分布図



第105図 Bブロック群南東部のブロックと石材分布図

2. Bブロック群の石器群

 $F \sim I - 11 \sim 15$ 区の調査区域で、Aブロック群の北西の位置にある複数のブロックをBブロック群とした。Bブロック群のまとまりは、Aブロック群との距離関係及び、隣接するCブロック群及びDブロック群とは石材的にも異なっており、一つのブロック群として視覚的にも識別できる。

調査時においては、8ヶ所のブロックを識別したが、石器の出土分布図を作成して検討すると、 当時認識した一つのブロックのなかに複数の集中部や石材の違いが存在することが明らかとなった。

石材的にみると、主体となるのは上牛鼻産黒曜石であり、集中部の違いによっては三船産黒曜石が集中している部分もみられた。

18ブロック (第106図・107図)

I-15区に位置するもので、径約7×4mの楕円形の範囲に石器群は分布している。ただし細かくみると径約2m程度の集中部が3ヶ所認められて、集中部の石材も同様ではない。出土石器群の石材は、上牛鼻産黒曜石の集中部と、安山岩系石材の集中部がみられる。

ナイフ形石器 (第108図126~131)

126は上牛鼻産黒曜石製の幅広剥片を利用し、打面側のみにブランティングを施したものである。剥片の末端は薄くヒンジしており未製品の可能性もある。接合資料180で後述する。127も上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を利用したものであり、長辺はブランティングにより直線的に整形され、短辺はノッチ状に仕上げられている。切出し形の刃部には二次加工が施されている。先端部をわずかに欠損している。128~130は縁辺の一部にブランティングが施されているもの、ナイフ形石器の破損品である。131は他と異なり三船産黒曜石製であり、先端近くは折断の後に比較的粗い調整が施されている。

台形石器 (第108図132)

132は縦長剥片を素材とし、打面部と末端部を折断し、折断部分にわずかな調整加工を施したものである。石材は上牛鼻産黒曜石製である。

石錐 (第108図133)

133は断面三角形の細長い剥片を使用し、縁辺に細かい二次加工が施されたものである。先端部を欠損するが石錐の可能性が高い。石材は上牛鼻産黒曜石である。

彫器 (第108図134)

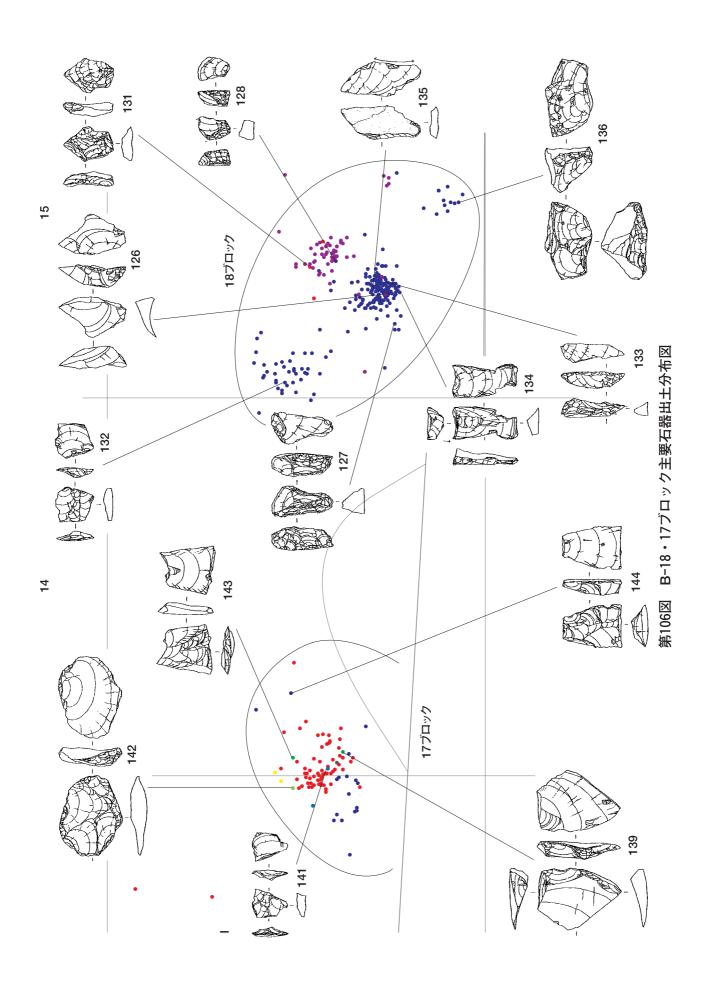
134は縦長剥片状の素材を使用し、平坦な上面から左側縁に樋状の剥離が認められるものである。 彫刻刃面には使用痕も観察される。石材は同様の上牛鼻産黒曜石である。接合資料181の一部であり後述する。

使用痕剥片 (第108図135)

上牛鼻産黒曜石製の縦長状の背面に自然礫皮面が残る剥片を使用しており、鋭利な片側縁に使用 痕が観察されるものである。打面部は折断している。

掻器 (第108図136)

136は厚みのある比較的大きな剥片を使用したもので、剥片の打面側に急角度で連続した二次加工を施し刃部としたものである。刃部は丸みをもつ。基部は大きく欠損している。石材は上牛鼻産黒曜石を使用している。



剥片 (第109図137)

137は幅広剥片である。使用 痕などは認められない。石材が 特殊で、自然礫皮面などの特徴 から多久産のサヌカイトと推定 される。

石核 (第109図138)

138は厚みのある剥片を利用した石核である。平坦な自然礫皮面を打面として小型剥片を剥離している。剥離された小型の剥片は接合したが、図化できなかった。

17ブロック

I-13・14区に位置しており、 径約3m程度の円形に分布して いる。石材は三船産黒曜石が主 体となる。

ナイフ形石器 (第109図139)

139は頁岩製の幅広剥片を使用し、一側縁に丁寧なブランティングを施したものである。 先端部を欠損するが、鋭利な刃部には使用痕が認められる。

台形石器 (第109図141)

141は三船産黒曜石製の縦長 剥片を使用し、打面部を折断し て末端にわずかな調整を施した ものである。

スクレイパー (第109図142)

142は安山岩製であり、幅広 剥片を使用して、縁辺に二次加 工を施し刃部としたものであ る。

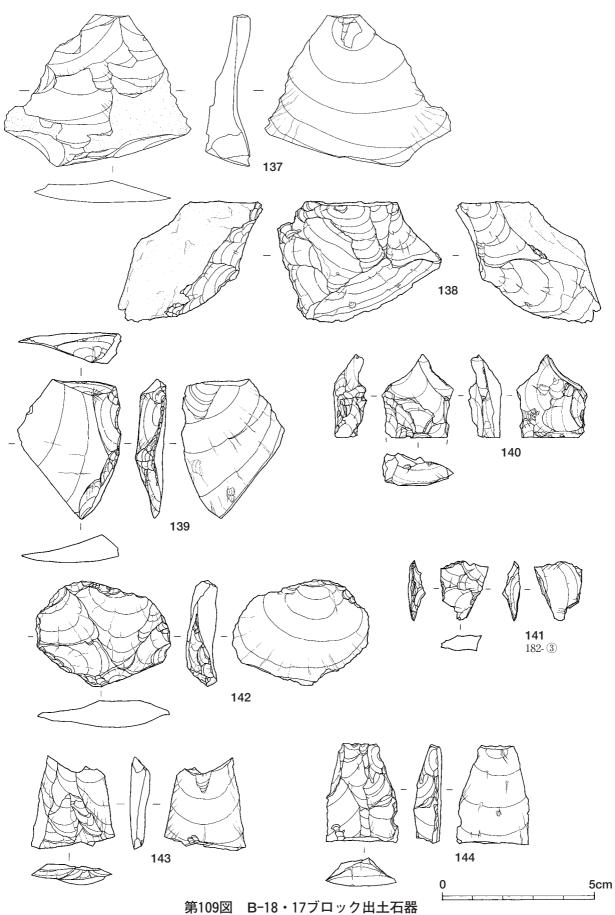
36 18ブロック 131 127 370 32 B-18・17ブロック器種別分布図 第107図 17ブロック 44 143

使用痕剥片 (第109図140・143・144)

いずれも鋭利な縁辺に使用痕が認められるものである。このうち144は安山岩製の縦長剥片を使用したものであり、下半部を欠損している。143は頁岩製で、下半部は折れている。



- 143 **-**



第109図

16ブロック

H-12区に位置しており、分布全体は径約12×11mとかなり広い範囲であるが、このなかに集中する部分が大きく2ケ所と、南側にはやや散在するまとまりがみられる。特に集中している部分を16aとし、その西側を16b、散在する部分を16cと新たにブロック番号を付して区別した。出土している石材の中心は上牛鼻産黒曜石である。

16aブロック

東側に位置し、最も集中度が強く、径約2mのなかで密度が濃い。また、約2m西側の少量集中 した部分もこれに含めている。

ナイフ形石器 (第112図145~152)

145は幅広剥片を使用したものであり、ブランティング加工は長辺が直線的に、短辺はノッチ状に施され着柄的な基部となる。ブランティングは上下両面から行われており、また背面は厚みを減じるための平坦剥離も行われている。

146は横長剥片を使用しているが、短辺のブランティングはノッチ状に整形されている。石材は 上牛鼻産黒曜石である。147はかなり厚みのある剥片が利用されている。基部のみの欠損品である。 148は幅広剥片の一側縁にブランティングを施したものである。149・151は欠損品である。

150は縦長状の剥片を使用し、一側縁に直線的なブランティングを施したものである。先端部を欠損する。152は比較的厚みのある縦長状の剥片を使用したもので、片側縁に粗いブランティングが施されている。基部調整や整形がなく未製品の可能性もある。

剥片尖頭器 (第112図153)

先細りの縦長剥片を素材とし、打面を残して打面近くの両側縁をノッチ状に調整加工を施したもので、茎状の基部としている。また、先端部の左側にも細かい二次加工が認められる。石材は凝灰岩質の頁岩である。

スクレイパー (第113図154)

154は上牛鼻産黒曜石の背面に自然礫皮面を残す幅広剥片を使用している。打面部は折断されたと考えられ、末端に二次加工がノッチ状に施されている。

二次加工剥片 (第113図155)

自然礫皮面が残る安山岩製で、縁辺に二次加工が認められる。欠損品であり全体は不明である。 使用痕剥片(第113図156~158)

156は玉髄製の幅広剥片,157は上牛鼻産黒曜石製の不定形剥片,158は安山岩製の横長剥片が利用されており、それぞれ縁辺に使用痕が認められる。

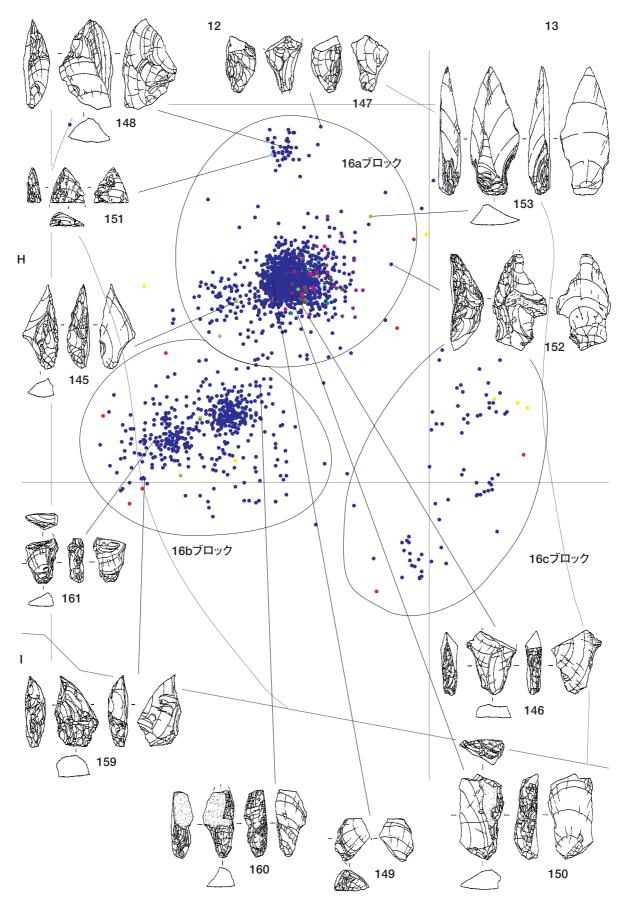
16bブロック

16aブロックの西側に位置し、細かくみると集中部は二ヶ所に分かれるが一括としている。

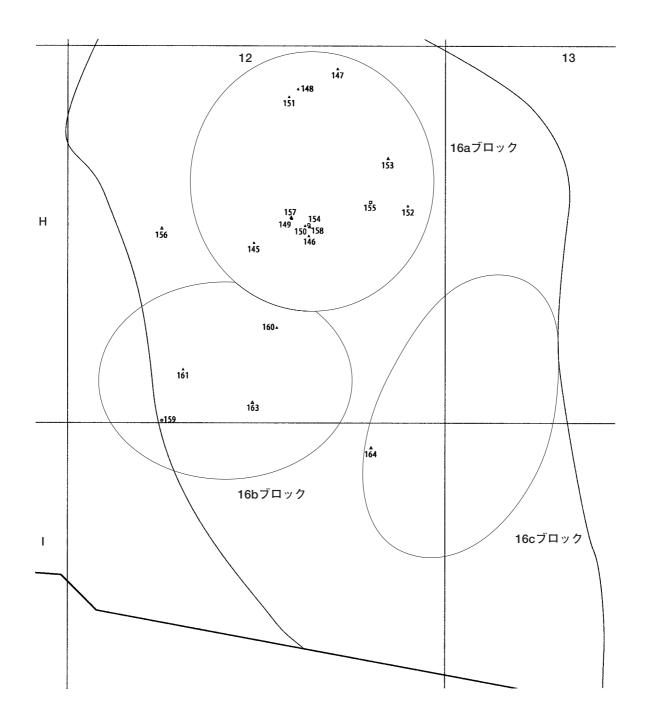
ナイフ形石器 (第113図159~161)

159は接合資料183の一部であり後述するが、二側縁にブランティングが施されている。160は基部を意識したブランティングが施されている。背面には自然礫皮面が残り、先端部を欠損している。161も同様の形態であり、先端部を欠損している。

いずれも石材は上牛鼻産黒曜石である。



第110図 B-16a・16b・16cブロック主要石器出土分布図



第111図 B-16a・16b・16cブロック器種別分布図

スクレイパー (第113図162)

上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を使用し、縁辺には比較的丁寧な二次加工が施され刃部としている。 使用痕剥片(第113図163)

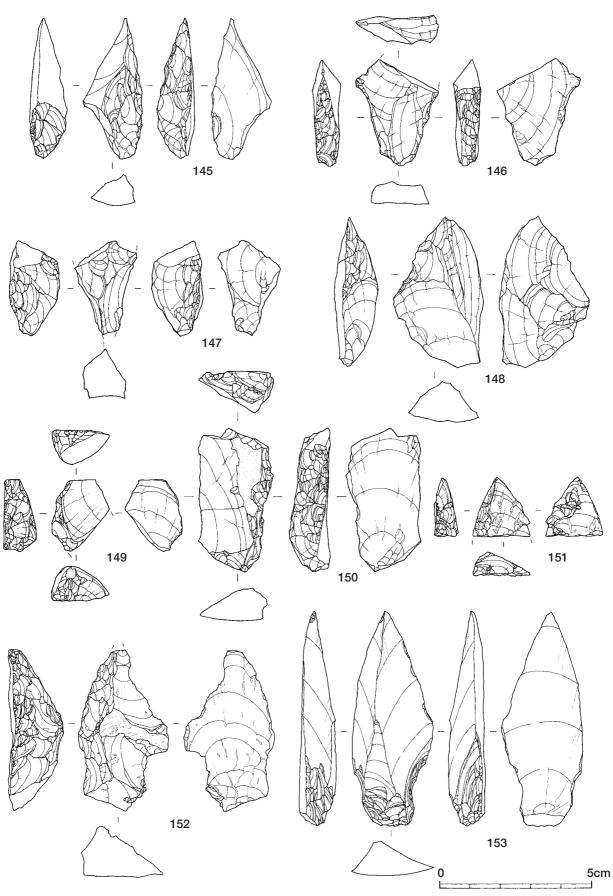
163は玉髄質の幅広剥片を使用したもので鋭利な縁辺に使用痕が認められる。

16cブロック

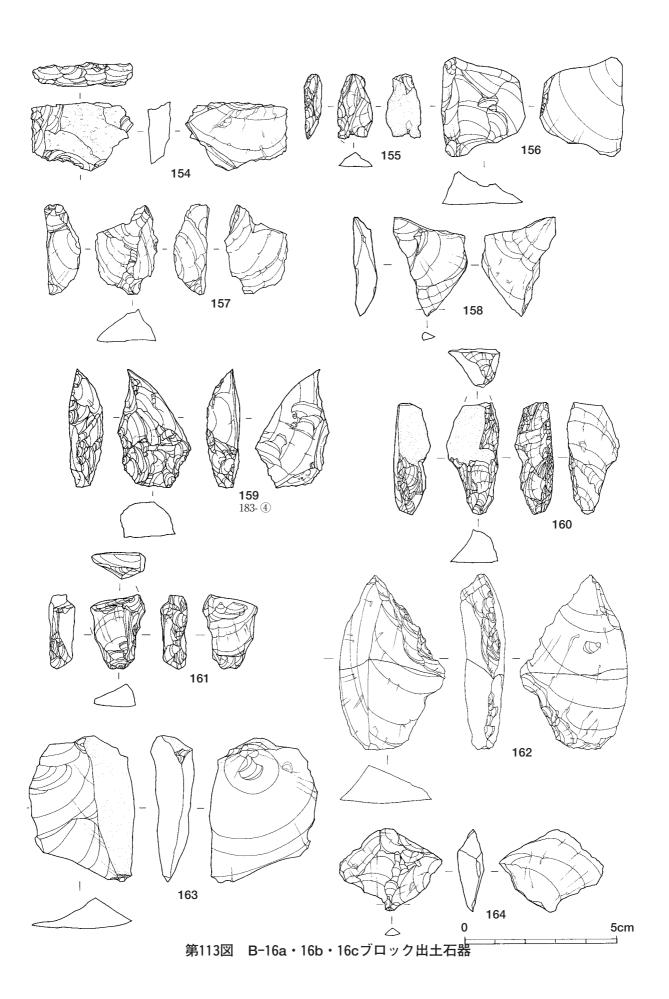
南側でやや散在した部分である。

石錐 (第113図164)

164は上牛鼻産黒曜石製で尖端部に使用痕が認められる。



第112図 B-16aブロック出土石器



- 149 **-**

23ブロック

H-11区に位置しており、遺物分布は径約7×4mの範囲で比較的散在している。石材は上牛鼻産黒曜石が主体である。礫群26号・27号が所在している。

ナイフ形石器 (第115図165~167)

165は比較的大きい縦長状の剥片を使用したものであり、ブランティングは長辺が直線的に対向する短辺はノッチ状に施され、着柄状の基部が意識されている。石材は上牛鼻産黒曜石製である。 166は青灰色を呈する宮ノ上産と推定される頁岩を使用したものである。素材は幅広剥片と思われブランティングにより三角形状に整形されている。

167は上牛鼻産黒曜石製で先端部のみの欠損品である。

石核 (第115図168~170)

168は上牛鼻産黒曜石製であり、接合資料186の一部である。後述する。

169は良質で珪質分の強い頁岩製である。宮ノ上産と推定される。平坦な打面から幅広剥片が剥離されている接合資料であり、後述する。

170も同様の石材を使用した石核であり、接合資料185として後述する。

14ブロック

G-12区に位置しており、径約5m程度の広さに散在した分布を示す。分布している石材は上牛 鼻産黒曜石が主体である。

削器 (第115図171)

171は上牛鼻産黒曜石の横長剥片を素材としたものであり、剥片末端部及び打面側に比較的粗い二次加工を施したものである。

使用痕剥片 (第115図172)

172は接合資料116で説明したように、約60m以上離れた位置に所在する9ブロックのものと接合したものである。剥片末端には使用痕が認められる。

27ブロック

G-11区に位置するもので、23ブロックの北東約5mに所在する。径約4m程度の円形に分布範囲を有する。比較的集中しており、石材は上牛鼻産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第118図173)

上牛鼻産黒曜石製であり、粗いブランティングが施されている。接合資料189の一部であり後述する。

二次加工剥片 (第118図174)

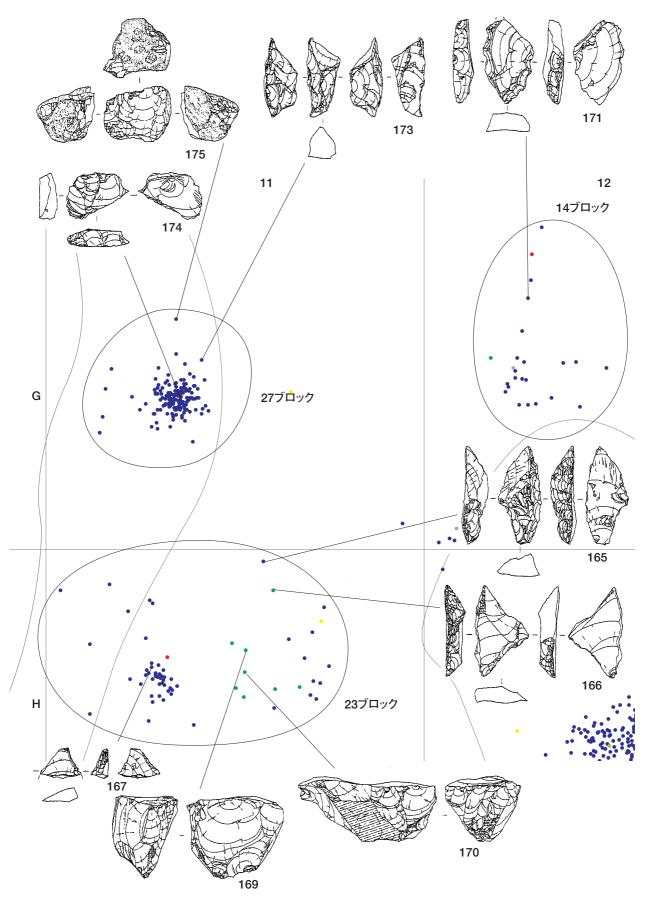
174は幅広剥片の末端部の鋭利な角の部分にわずかに二次加工が施されたものである。石材は上 牛鼻産黒曜石製である。

石核 (第118図175)

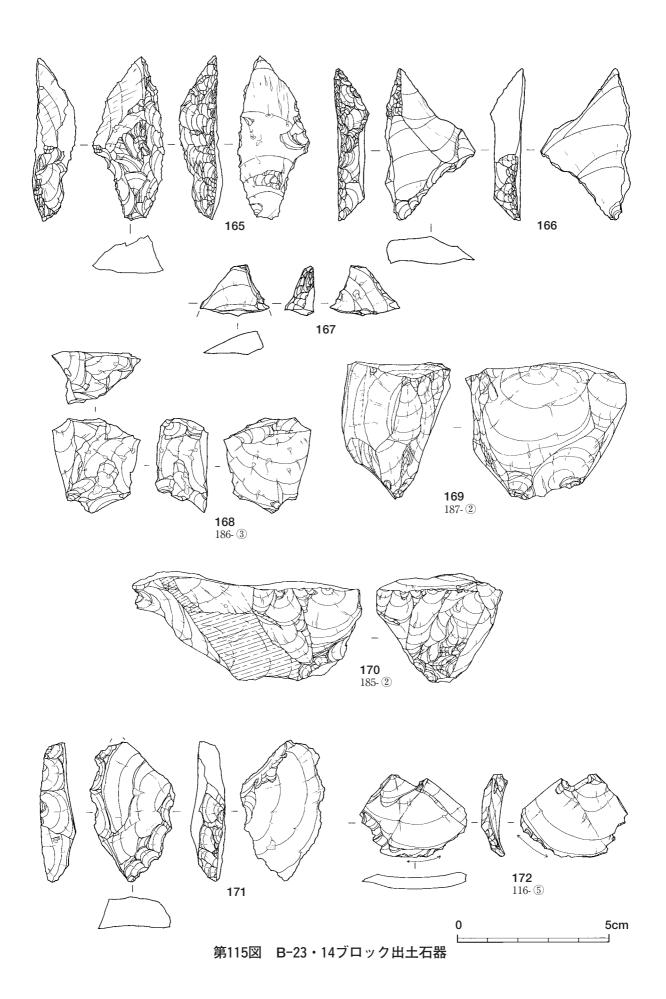
175は上牛鼻産黒曜石製の小円礫を使用したものであり。平坦な自然礫皮面を打面にして幅広の剥片が剥離されている。

15ブロック

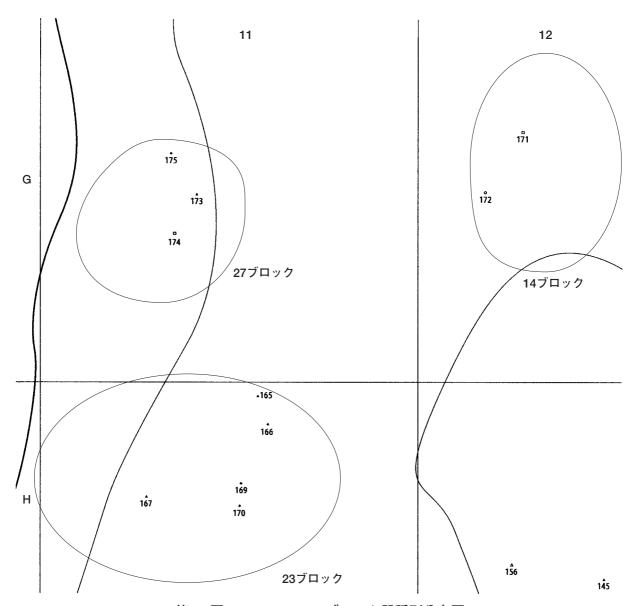
G~H-14区に位置する。径約8m前後の円形のなかに遺物が散在している。石材は上牛鼻産黒



第114図 B-23・14・27ブロック主要石器出土分布図



- 152 -



第116図 B-23・14・27ブロック器種別分布図

曜石が主体であるが、剥片やチップが散在しているのみである。

しかしこのブロックでは礫群 6 号,7号,8号が検出されている。遺物が多く集中しない部分に礫群が所在していることを示している。

3ブロック

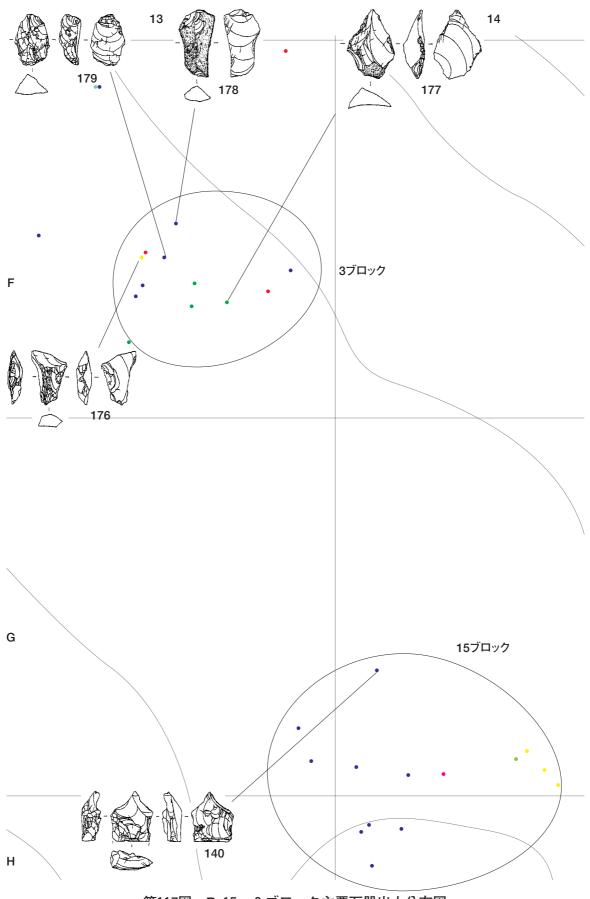
F-13区に位置しており、遺物は散在的に認められ、集中部はない。分布範囲は径約5 m程度であり、多種の石材が認められた。

ナイフ形石器 (第118図176)

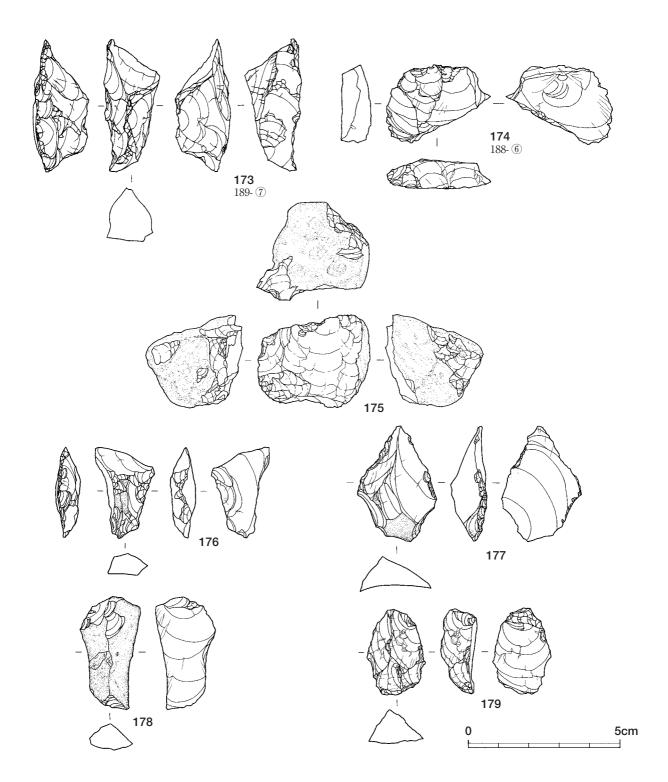
176は玉髄質の石材であり、幅広剥片が素材として利用されている。ブランティング加工は二側縁に施され切出し形を呈する。

尖頭状石器 (第118図177)

177は頁岩の幅広剥片を素材とし、剥片の形状をそのまま利用して比較的簡単な二次加工を施したものである。



第117図 B-15・3ブロック主要石器出土分布図



第118図 B-27・3ブロック出土石器

二次加工剥片 (第118図179)

179は小剥片の末端に二次加工が施されている。石材は上牛鼻産黒曜石である。

使用痕剥片 (第118図178)

178は鋭利な縁辺に使用痕が認められるものである。これも上牛鼻産黒曜石製である。

Bブロック群接合資料

ここではBブロック群の接合資料について説明を行う。

接合資料は各個別ブロック内のみで接合するものの他,各個別ブロックを超えて接合しているのも少なくない。また近接するブロックのみでなく,数10m離れた位置にあるブロックと接合したものも認められる。接合図は図化したものを中心にして,第123図・126図で示した。

時間の制約もあり接合資料の全てを図化できなかったが、接合関係の全体図については、未実測分も含めて第127図の接合全体図で示した。

接合資料180 (第119図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。ナイフ形石器と剥片の接合資料であり、①はその接合図である。 二つの剥片の打点位置が異なることから、石核は打面転移をしながら剥片剥離が行われたことを示 している。末端がヒンジした剥片がブランティングを施されナイフ形石器とされ、逆に縦長状剥片 の方は二次加工されていない。

接合資料181 (第119図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。彫器と剥片の接合資料であり、①がその接合資料である。元は一つの剥片であったものが分割した状況であり、剥片剥離の打撃時に分割したのか、あるいは製作後に割れたのか明確ではない。②は彫器部分である。

接合資料182 (第119図)

石材は三船産黒曜石である。縦長剥片の接合資料であり、①がその接合図である。これが中央部で折断されて②と③になる。②の打面側は二次加工が打面近くで剥片剥離後に認められ、また、側縁には使用痕が認められ台形石器である。

③は末端部であり、剥片の末端にわずかな調整が施された台形石器と考えられる。

接合資料183 (第120図)

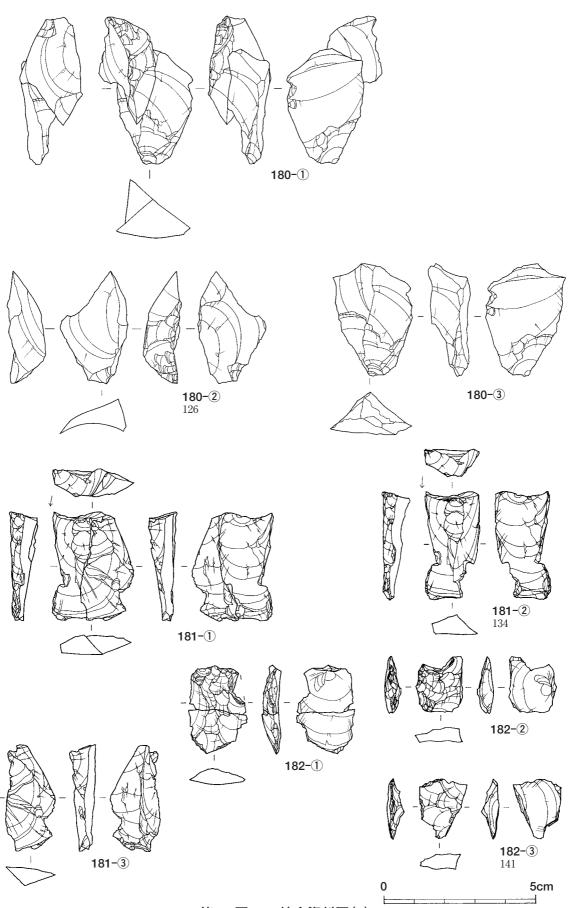
石材は上牛鼻産黒曜石である。ナイフ形石器と剥片の計6点の接合である。①はその接合図であり、裏面が同一の剥離面を形成していることから、元は1枚の厚みのある剥片であったことが理解できる。その後分割して、偶然④のような形状になったことから、ブランティングが施されて、ナイフ形石器となったものである。そのため刃部の角度は急になっている。使える剥片は利用するという姿勢が理解できる。

接合資料184 (第120図)

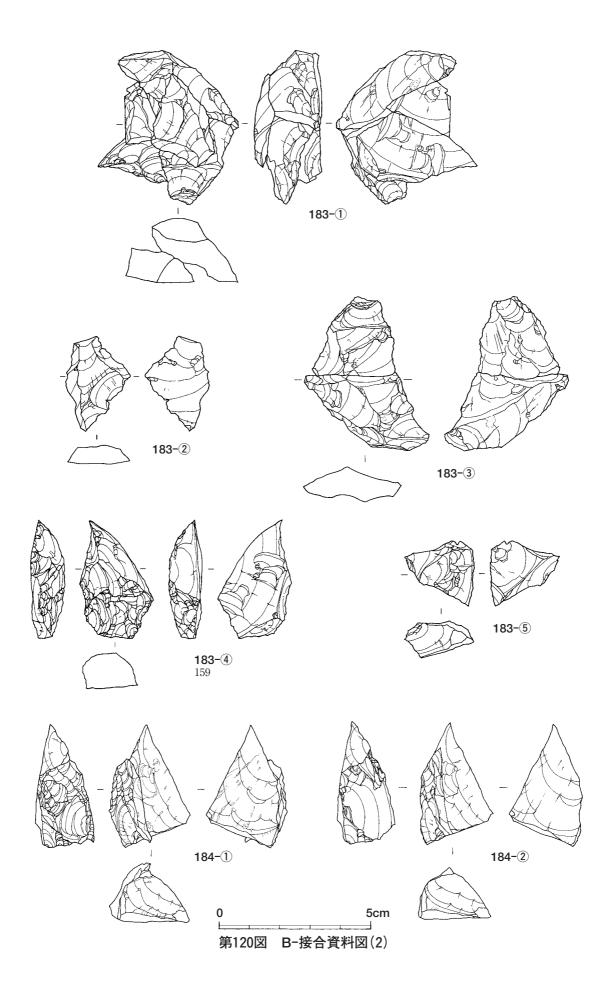
石材は上牛鼻産黒曜石である。ナイフ形石器とブランティングチップの接合資料である。①はその接合図であり、元のナイフ形石器の状況と判断できる。先端部が欠損したため、新たにブランティングを施したリダクション接合である。②の再ブランティング加工は比較的粗い。

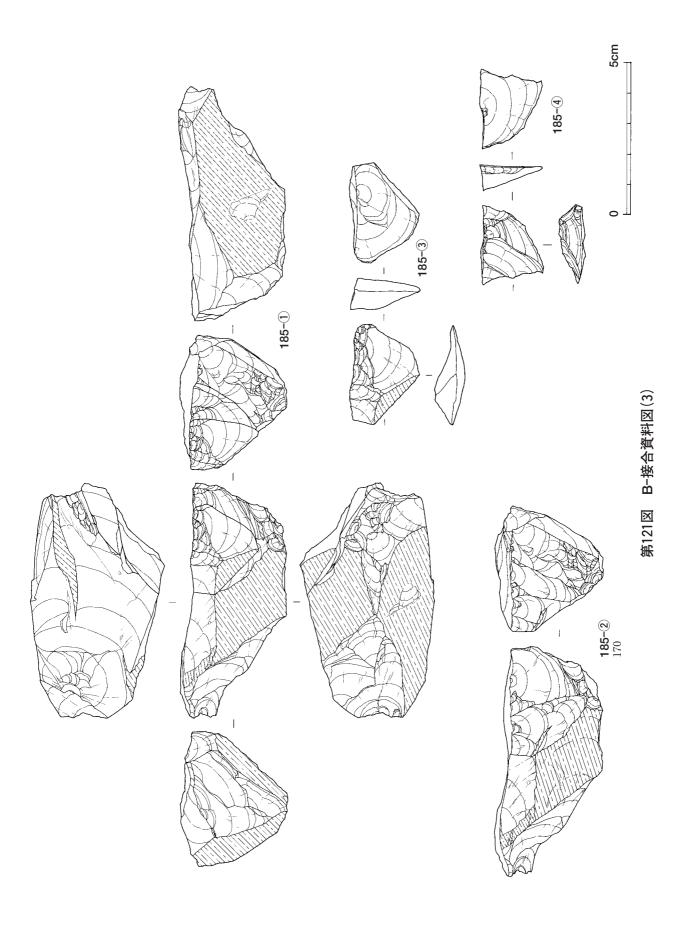
接合資料185 (第121図)

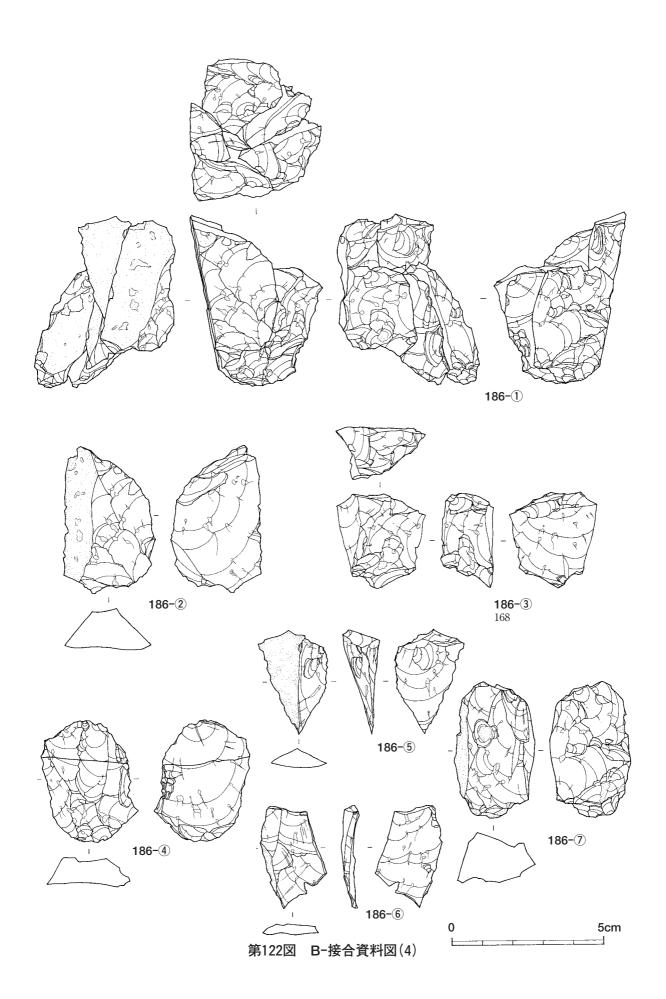
石材は良質な珪質頁岩である。青灰色を呈しており宮ノ上産と推定される。石核と剥片 2 点の接合であり、23ブロックから出土したものである。石核は剥片素材であり、その主要剥離面を打面として幅広で短い台形石器状の剥片 2 点が接合した状況が①である。③と④の剥片が連続して剥離されている。③の背面に認められる側面の平坦剥離は、剥片剥離前の頭部調整なのか、剥離後の加工か明確ではない。



第119図 B-接合資料図(1)







接合資料186 (第122図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。
23ブロックから出土した7点から
なる剥片剥離の接合資料である。
①は全体接合図であり、先に剥離
された②と⑤と他の剥片と打面が
異なる。②と⑤が剥離された後、
打面の剥離を行っており、その後
に③、④、⑥、⑦が剥離されている。

接合資料187 (第124図)

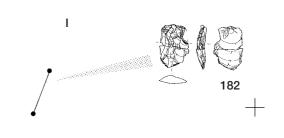
石材は良質の珪質頁岩であり、 14 宮ノ上産と推定されるものである。23ブロックから出土した石核と剥片の接合資料であり、①が接合図である。平坦な剥離面を打面として幅広の剥片が剥がされている。

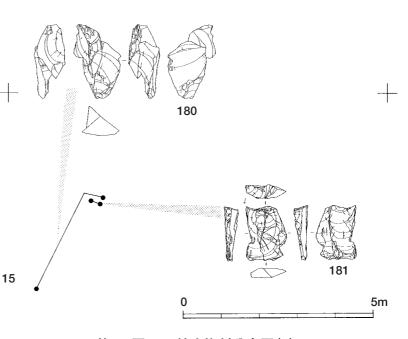
接合資料188 (第125図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。 ①は接合全体図であり連続的に剥離されている。②とそれ以下とは打面の位置が異なることから、その間に打面部の剥離が行われていることが理解できる。⑥は末端に二次加工が施され石器となっている。

接合資料189 (第125図)

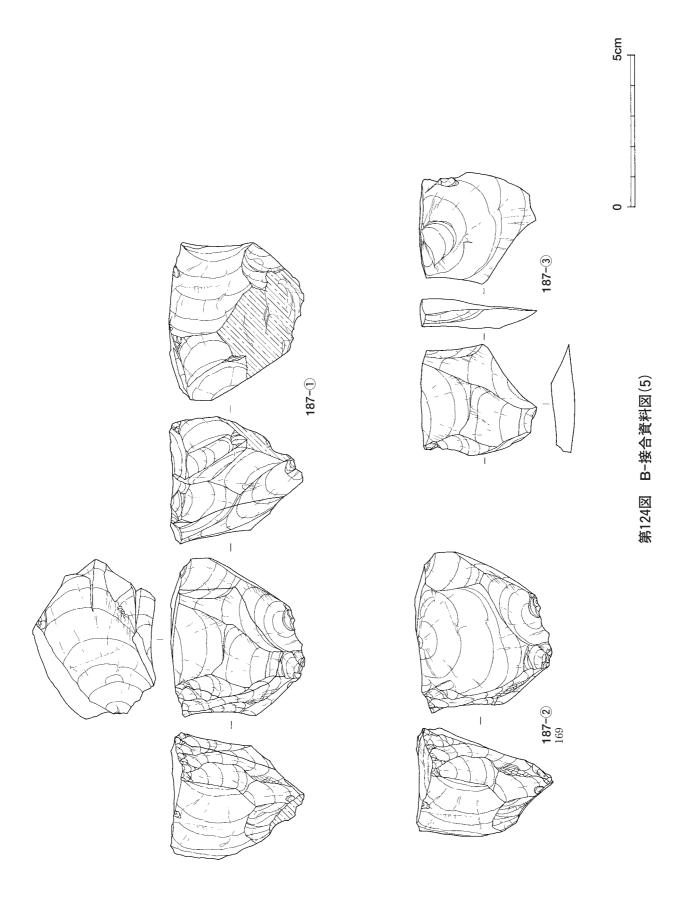
石材は上牛鼻産黒曜石である。 23ブロックから出土したもので、 ナイフ形石器のリダクション剥片 である。

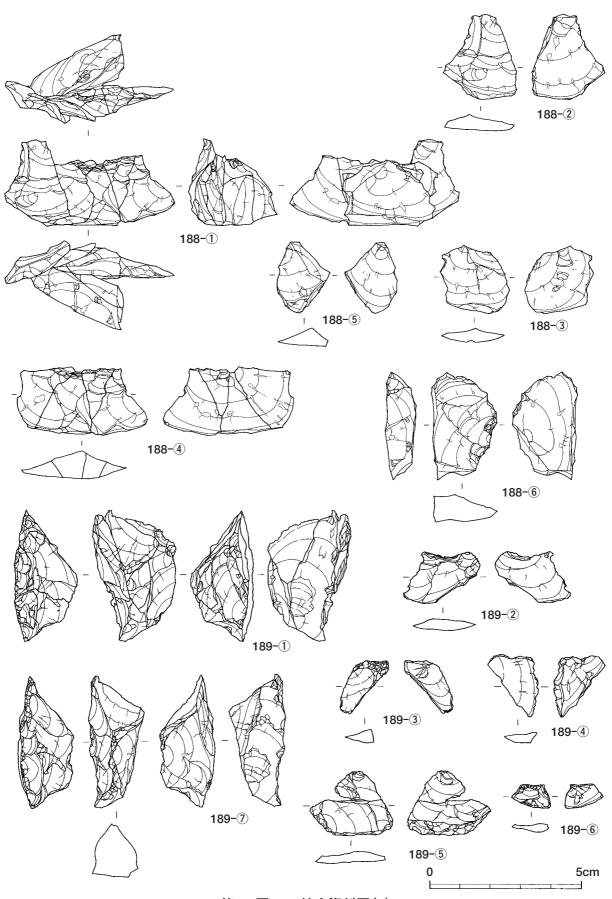




第123図 B-接合資料分布図(1)

刃部は右側縁方向から平坦剥離を行い、新しい刃部縁辺を再生している。そしてそれに伴い、左側縁の調整ブランティングを施して、②、③、④の順で調整している。その後に稜上から右側縁の剥片⑤を取っている。

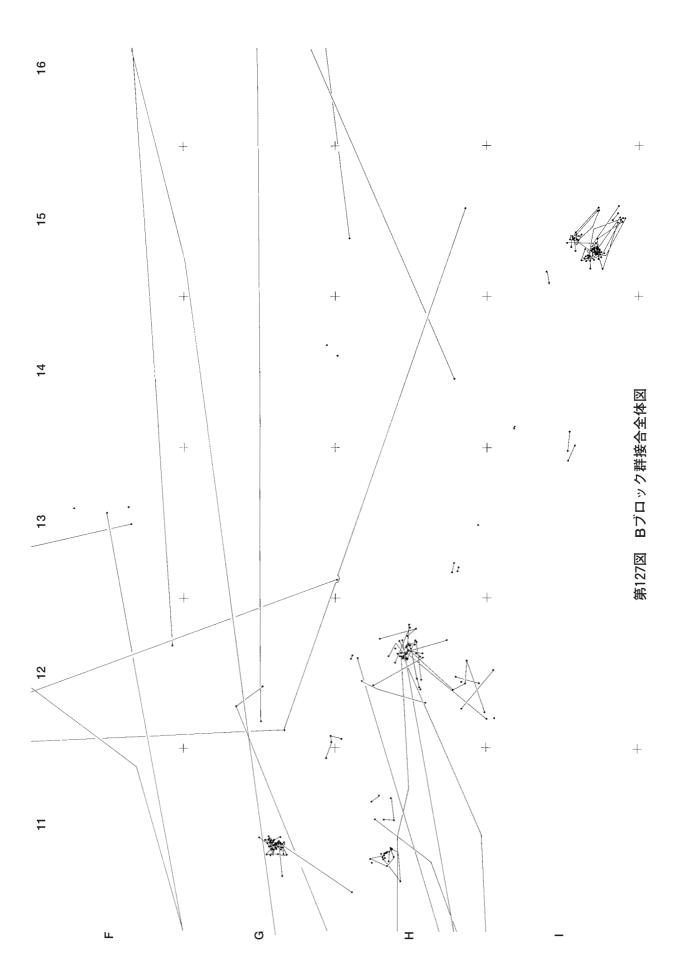




第125図 B-接合資料図(6)



第126図 B-接合資料分布図(2)



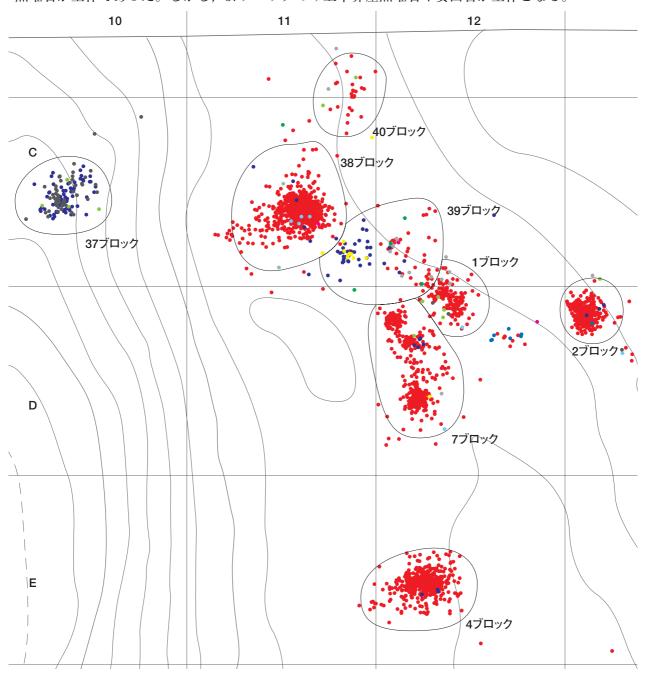
3. Cブロック群の石器群

調査区域のなかで中間的な場所である、 $B \sim E - 10 \sim 13$ 区に位置する。Bブロック群の北側の位置であり、第 I 文化層が最初に調査された区域である。

石器群が集中したブロックの視覚的なまとまりとして、Cブロック群とした。調査時においては8ヶ所のブロックを識別していたが、石器出土分布図を作成した結果、一つのブロックに複数の集中部が存在するのもみられた。

ブロック番号は調査時のものを他のブロック群と同様にそのまま使用している。

Cブロック群の石材別出土分布は第128図で示しているように、その大部分のブロックは三船産 黒曜石が主体であった。しかし、37ブロックのみ上牛鼻産黒曜石や安山岩が主体となる。



第128図 Cブロック群のブロックと石材分布図

4 ブロック (第129・130図)

E-12区に位置するものであり、径約 5×4 mほどの円形に近い分布範囲をもち、石器の集中度は極めて高い。石材はほぼ三船産黒曜石であった。

ナイフ形石器 (第131図190~197)

190は横長剥片もしくは幅広剥片を素材としたものであり、打面側に比較的粗いブランティングを施したものである。対向する側縁に調整加工はないが、稜上からの調整が施されている。石材は三船産黒曜石である。191はやや厚手の幅広剥片を素材とし、打面部にブランティングが施されている。192~194はいずれも先端部のみの破損品である。

195は基部のみの破損品であり、側縁調整はブランティングと右側縁は折断されている。197も基部のみであるが、基部の両側縁はノッチ状に整形されている。ナイフ形石器に使用されている石材は全て三船産黒曜石であった。

台形石器 (第131図198~204)

198は小型剥片の形状をほとんど変えず、剥片末端にわずかな調整が認められる。199は接合資料267の一部であり後述するが両側縁は折断等を行っている。200も同様に接合資料263の部分であり、 折断調整を行っている。201・202は幅広剥片を素材とするもので、縁辺の一部にわずかな調整加工が認められるものである。202は接合資料である。

203は縦長剥片状の側縁にブランティングを施したものである。刃部面の調整剥片が接合したが 図化できなかった。

204は剥片側縁を刃部とし、打面側にブランティングが末端部は折断により整形したものである。全て三船産黒曜石を石材としている。

スクレイパー (第131図205~132図208)

205は剥片末端にノッチ状の二次加工がある。206は幅広剥片を使用しており、剥片末端に丁寧な二次加工が施され刃部とされている。207も幅広剥片の末端にノッチ状の二次加工を施したものである。

208は縦長剥片を素材とし、片側縁の二ヶ所に粗いノッチ状の二次加工を施したものである。

7ブロック

D-12区に位置しており、径約 7×4 mの楕円形の範囲に分布するものである。この中には西南部の特に集中した部分と、その北側にも二ヶ所の集中部が認められる。石材は三船産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第132図209~213)

209は幅広剥片を素材とし、二側縁にブランティングを施し切出し形に仕上げたものである。これは接合資料270で後述する。210は剥片の打面部を断ち切るように調整加工を行い、尖頭部をもつものである。211は幅広剥片の打面部にブランティングを施したもので、先端を欠損している。

212は小型の剥片, 213は縦長状の剥片を使用し, 縁辺の一部にブランティングが施されたものである。これらは全て三船産黒曜石製である。

台形石器 (第132図214)

214は小型の幅広剥片を素材とし、剥片末端を刃部に置き、側縁に二次加工を施したものである。

これは接合資料276として後述する。

スクレイパー (第132図215~133図220)

215は上牛鼻産黒曜石を石材とする薄い剥片の一部に、二次加工が認められるものである。216は 同様に上牛鼻産黒曜石製の幅広剥片を素材とし、剥片末端に二次加工を施して半円状の刃部とした ものである。217は三船産黒曜石を石材とするやや厚手の剥片を使用し、端部に急角度の二次加工 を施した掻器である。218も剥片の打面部に急角度の二次加工を施したもので掻器に分類できる。 219は小型剥片の両側縁にノッチ状に二次加工を施したものである。

220は大型の頁岩製剥片を素材とし、剥片末端に比較的粗い二次加工を施したものである。石材の肉眼的観察では宮ノ上産頁岩と推定される。

2ブロック

D-13区に位置しており、径約3mの円形に分布範囲があり、石器の集中度は極めて高いものである。石材は大部分が三船産黒曜石である。

ナイフ形石器 (第133図221~223)

221は幅広剥片もしくは横長剥片を素材とし、打面側にブランティングを施して、内弯状に整形し、対向する剥片末端部は稜上からの調整剥離により整形し、全体を切出し形に仕上げたものである。222は頁岩製の縦長剥片を素材とし、基部調整が丁寧に施されたものである。223は上牛鼻産黒曜石製剥片を使用し、一部に調整加工が施されたものである。

台形石器 (第133図224~227)

224は小型の縦長剥片を素材とし、鋭利な側縁を刃部として両側縁にブランティングを施した典型的な形態の台形石器である。これは接合資料271の一部であり後述する。225は小型の剥片を使用し、わずかな調整加工を施したものである。接合資料279として後述する。

226は小型の縦長状剥片を使用し、打面側と先端部にブランティングを施したものである。227も接合資料273として後述する。

1ブロック

 $C \cdot D - 12$ 区で 7 ブロックの東側に位置しており、径約 4×3 mほどの楕円形のなかに分布する。 石材はほぼ三船産黒曜石である。

ナイフ形石器 (第134図228~229)

228は幅広剥片を素材とし、打面側と末端部にブランティングを施したものである。接合資料の 271として後述する。

スクレイパー (第134図229)

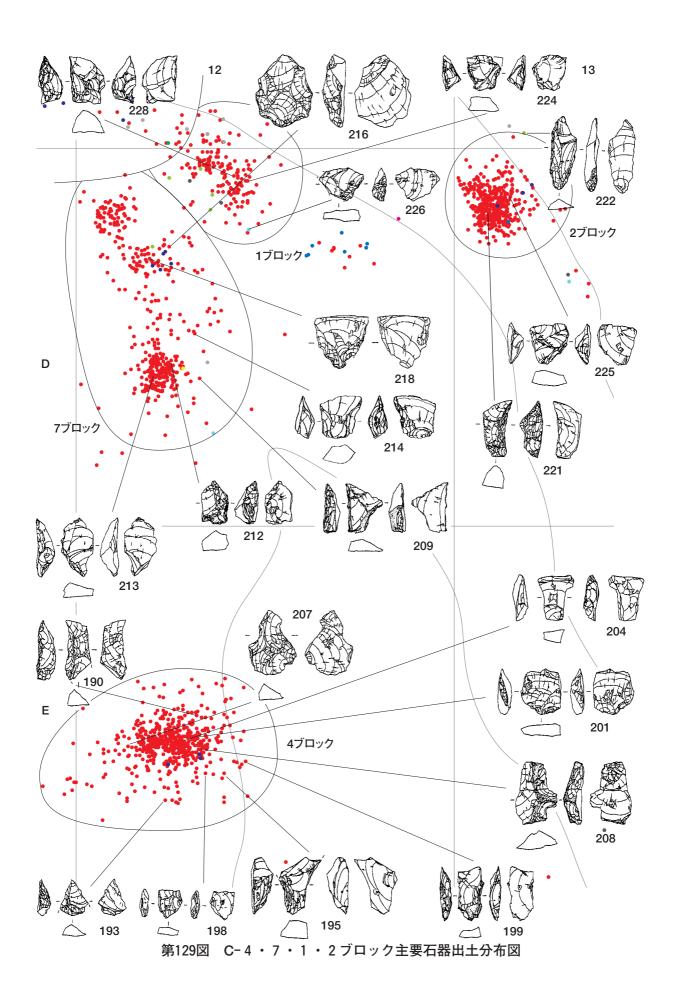
229は二次加工によりノッチ状の刃部を形成したスクレイパーである。これも接合資料266として 後述する。

使用痕剥片 (第134図230)

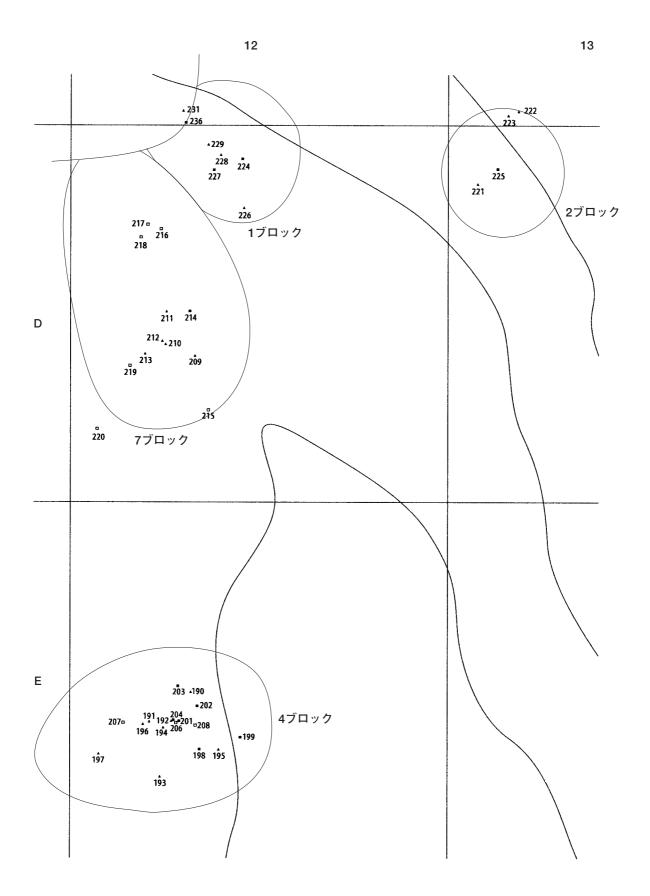
鋭利な縁辺に使用痕が認められるもので、接合資料277として後述する。

39ブロック

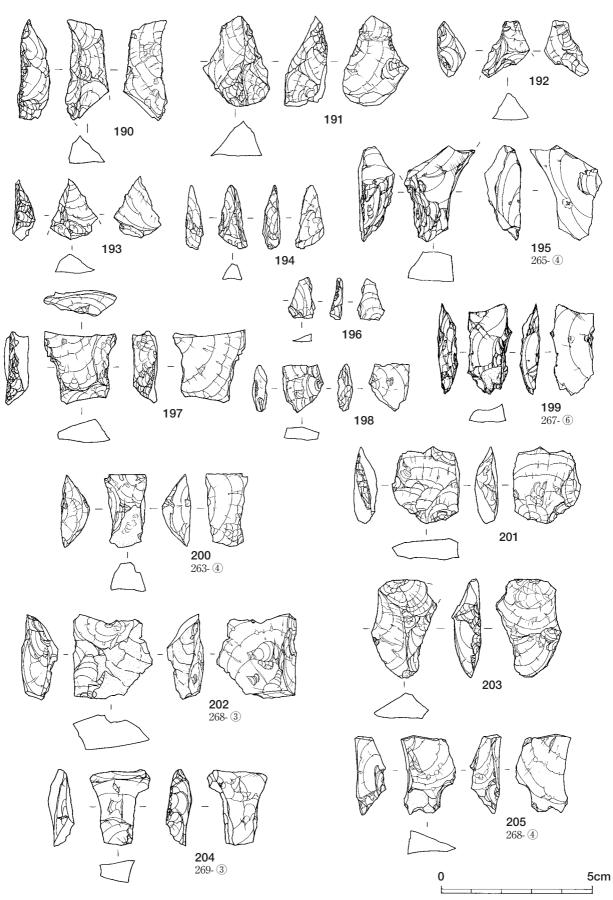
C-12区で、1ブロックの北側に位置している。Bブロック群のなかでは唯一散在しているブロックであり、分布している石材も多種である。



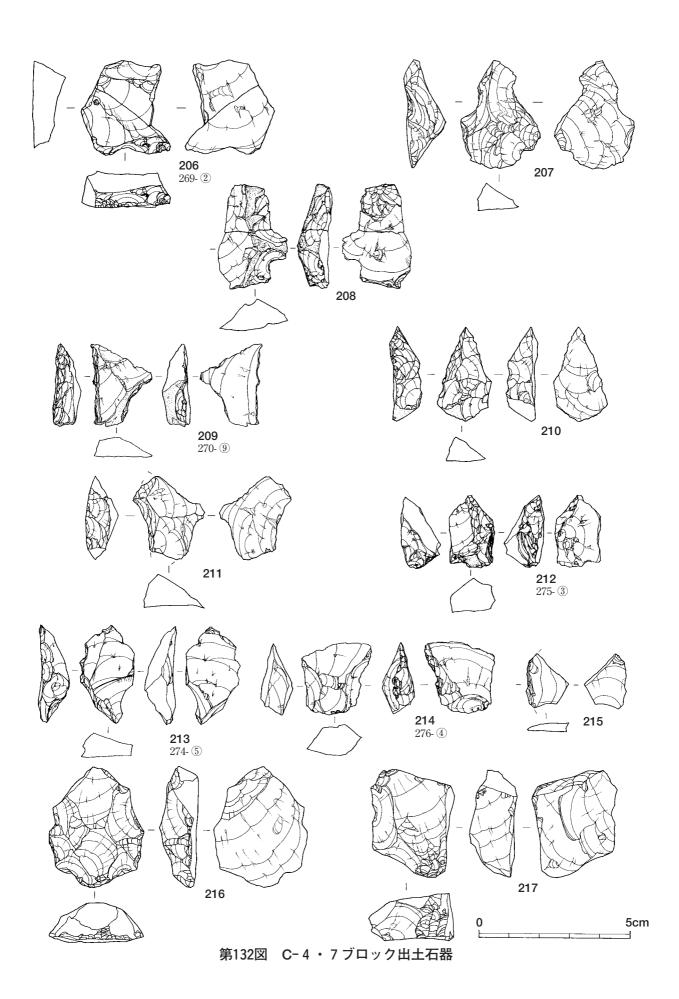
-169 -



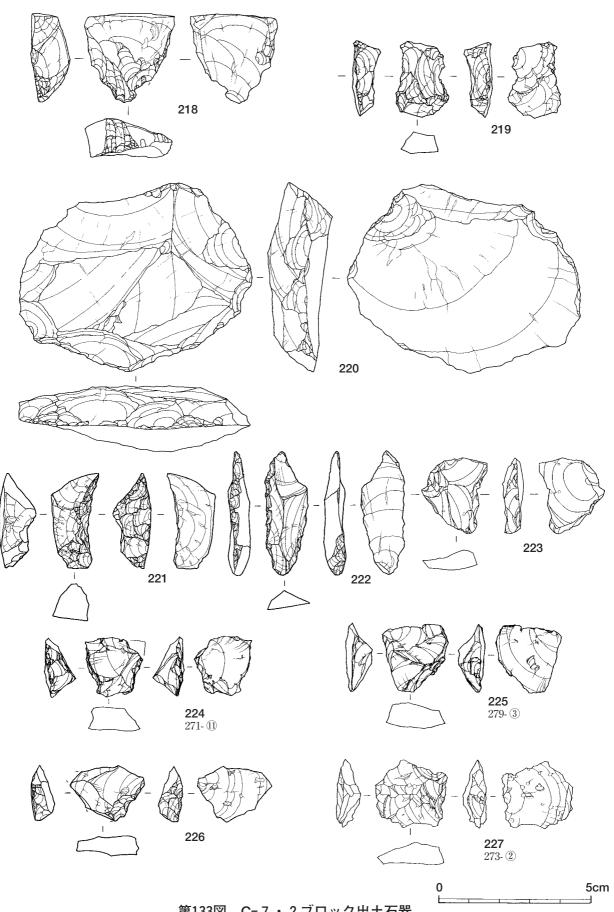
第130図 C-4・7・1・2ブロック器種別分布図



第131図 C-4ブロック出土石器



- 172 **-**



第133図 C-7・2ブロック出土石器



ナイフ形石器 (第134図231~233)

231は幅広剥片を素材とし、ブランティングにより直線的な長辺と短辺に基部を整形し、切出し形に仕上げている。 稜上からの調整剥離も施されている。 232もブランティング加工により類似した 形態のナイフ形石器となる。 233は片側縁と直行する基部にブランティングが施されている。

台形石器 (第134図234~236)

234は縦長剥片を横位に使用し、両側縁に丁寧なブランティングを施した台形石器である。ブランティングの後に背面を平坦剥離している。235は幅広剥片を使用し、両側縁をブランティングしたものである。236は基部が尖るように整形している。石材は全て三船産黒曜石である。

使用痕剥片 (第134図237)

鋭利な剥片末端部に使用痕が観察されるものである。

ハンマーストン (第134図238)

238は砂岩製円礫を使用したものであり、長軸の一端に敲打痕が認められるものである。

38ブロック

C-11区に位置しており、径約5m程度の円形に分布範囲を有し、集中度は極めて高い。石材は 三船産黒曜石が主体である。ナイフ形石器や台形石器が特に多く出土した。

ナイフ形石器 (第139図239~249)

239は幅広剥片を素材とし、ブランティングにより整形したもので、短辺はノッチ状に仕上げている。240もブランティング加工は短辺をノッチ状にして着柄が意識されている。いずれも三船産黒曜石を使用している。

241は厚い玉髄製剥片を素材とし、鋸歯状の粗いブランティング加工が施されたものである。242 は三船産黒曜石製の横長剥片を素材とし、打面側にブランティングが施されたものである。243・244はブランティング調整により短い刃部となっている。245~248は破損品である。石材は246が上牛鼻産黒曜石で他は三船産黒曜石である。

台形石器 (第139図250~140図258)

250は打面側に調整加工を施し、末端部は折断された台形石器である。251はブランティング加工により両側縁をノッチ状に整形したものである。背面には平坦剥離が施されている。

252は上牛鼻産黒曜石を使用したもので、両側縁のブランティングは直線的に施され、全体が三角形状となるものである。253は打面はそのままで末端部にブランティングを施したものである。接合資料283の一部であり後述する。

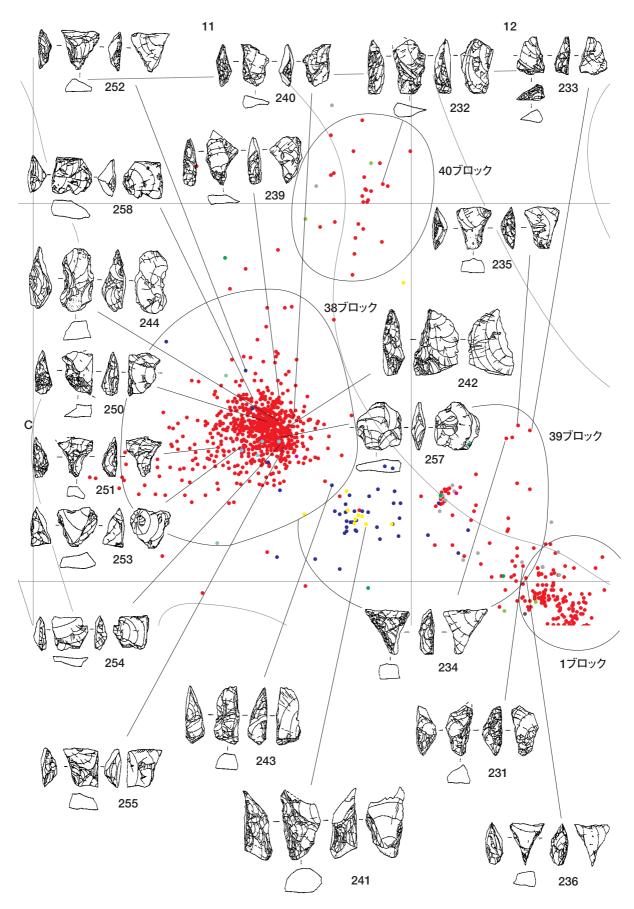
254・255は両側縁を折断とブランティングにより整形したもので、両方とも接合資料282の一部であり後述する。

256は薄くて幅広の剥片を素材とし、折断により刃部の狭い長方形状の台形石器に仕上げたものである。片側には折断後に細かいブランティングが施されている。

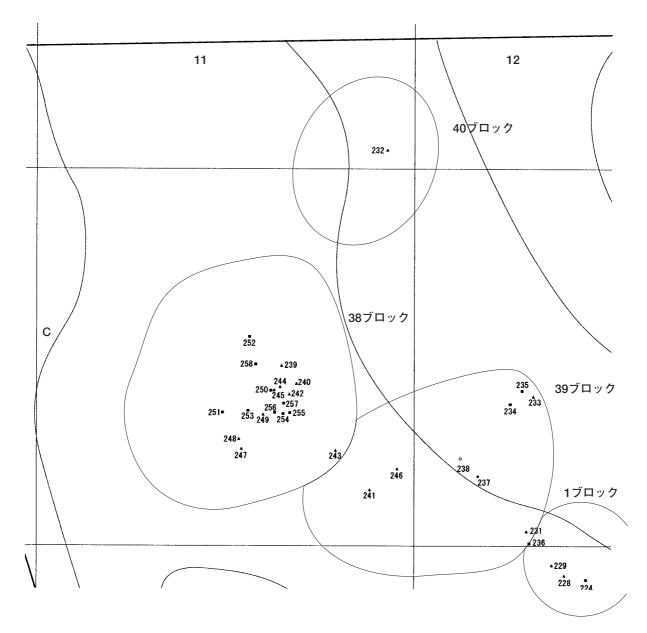
257は短い剥片を使用し、末端をわずかに折ったものであり、258は折断により整形したものである。いずれも使用痕等から台形石器とした。

37ブロック

C-10区に位置している。径約4m程度の範囲に石器が集中したものである。石材的には、他の



第135図 C-39・38・40ブロック主要石器出土分布図



第136図 C-39・38・40ブロック器種別分布図

Cブロック群とは全く異なり、上牛鼻産黒曜石や安山岩系が主体となっている。

ナイフ形石器 (第140図259・260)

安山岩製の剥片が使用されており、残存する縁辺にブランティング加工が認められる。先端部の みの欠損品である。

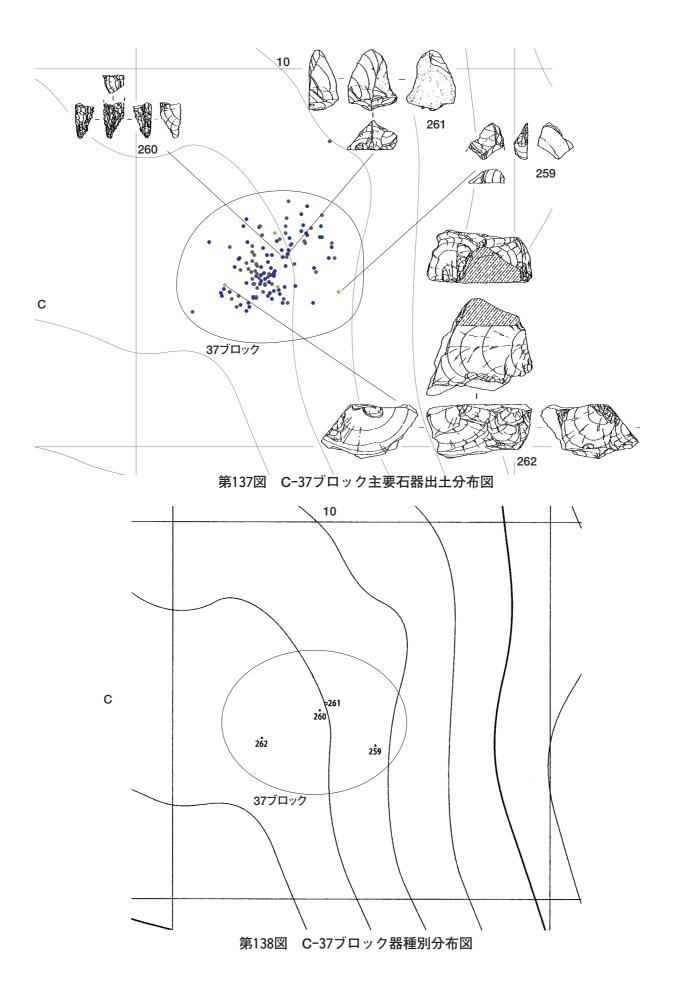
260は上牛鼻産黒曜石が使用されており、調整加工はブランティングと判断されるもので、ナイフ 形石器の基部と思われる。

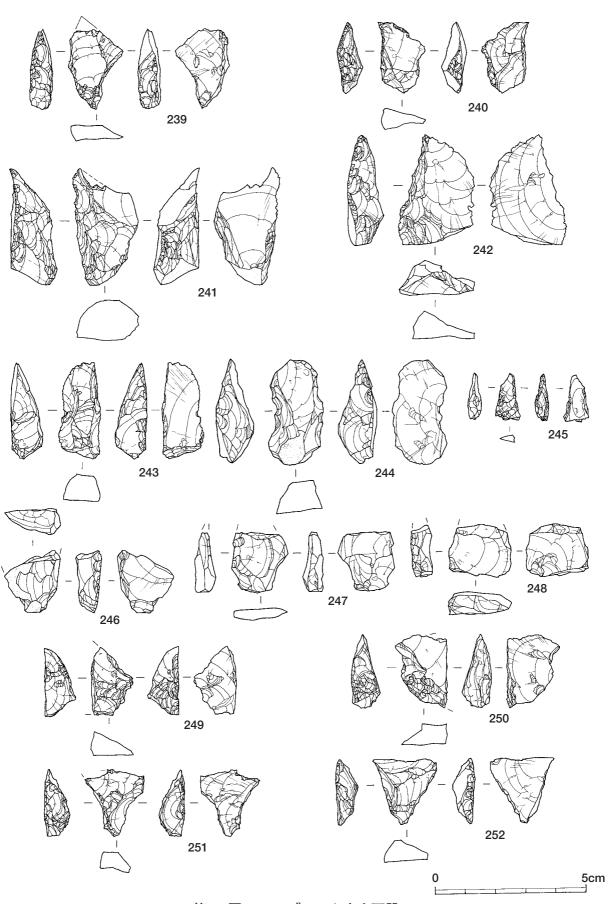
スクレイパー (第140図261)

261は自然礫皮面が残る剥片の一部に粗い二次加工が施されたものである。

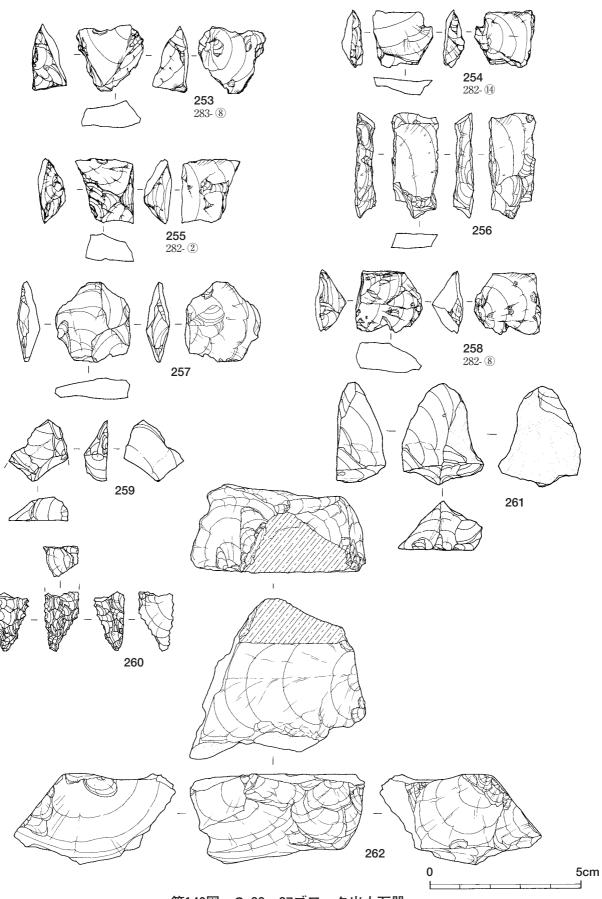
石核 (第140図262)

262 は節理面により分割された厚みのあるもので、平坦な節理面を打面にして、幅広の剥片が剥離されたものである。





第139図 C-38ブロック出土石器



第140図 C-38・37ブロック出土石器

Cブロック群接合資料

Cブロック群の接合資料も、他のAブロック群やBブロック群と同様で、各個別のブロック内で接合するものの他に、各個別ブロックを超えて、ブロック群の全体で接合したものも少なくない。また、Cブロック群から数10mも離れた位置に所在している他のブロックと接合したものも認められた。ここでは図化したものを中心にして、それらの接合関係を第145・149・152・158・164・173・176図で示した。またこれらを含めて図化できなかった接合関係の全体を177図で示した。これらの接合図により、各ブロックの関連が示唆される

接合資料263 (第141図)

石材は三船産黒曜石である。4ブロックから出土した5点の接合資料である。①はその全体接合図であり、自然礫皮面が残る2枚の剥片接合であることがわかる。先に剥離された②は打面部がなく、現存する部分も割れている。次に剥離された③は腹面から三つに折断されている。その中間部が④であり、折断後にわずかな調整が施されて台形石器となっている。

なお、本接合資料の一部の剥片は黒曜石産地分析に依頼した。その結果、三船産黒曜石と判定されている。

接合資料264 (第141図)

石材は三船産黒曜石である。4ブロックから出土した。3枚の剥片の接合資料であり、①が接合図である。②はこれが全体ではなく、②を含む縦長剥片が剥離された後に、これから剥離されたチップである。すなわち、本体部をブランティングした剥片の2枚が②となる。③は次に石核から剥離された剥片で、ノッチ状の二次加工が施されて石器となっている。

接合資料265 (第142図)

石材は三船産黒曜石である。 4 ブロックから出土した。元は 2 枚の剥片からなる。先に剥離された剥片は、表皮が残る先端部のみであり、打面部は折断されて消えている。

次に剥離された③は比較的大きな幅広剥片であり、自然礫皮面が残存する部分を、腹面からの折断により折り取っている。その後に残りの部分はブランティング調整が施され、④のナイフ形石器となっている。

接合資料266 (第142図)

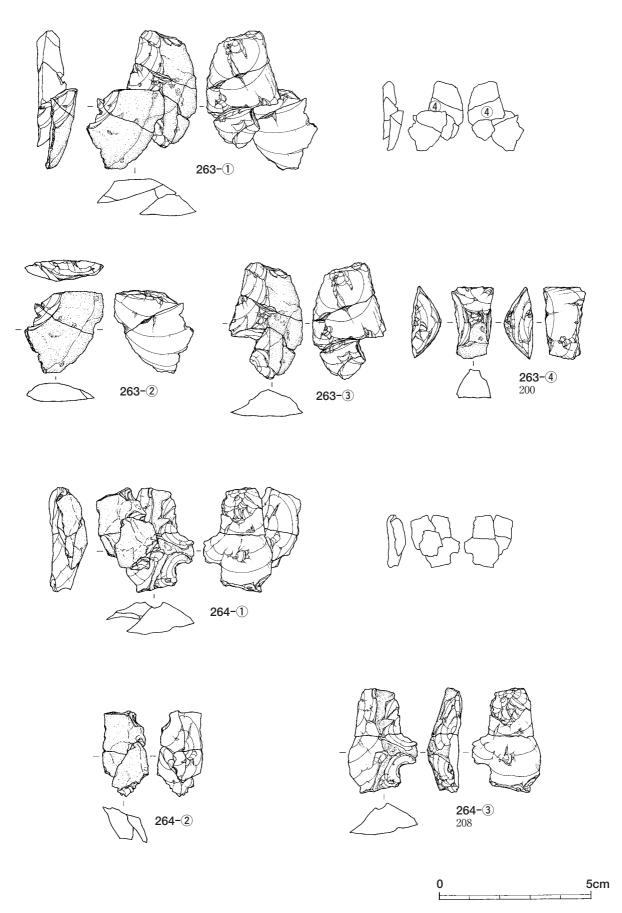
石材は三船産黒曜石である。1ブロックから出土した剥片3点の接合である。①の接合図でわかるように、元は1枚の剥片であった。それが折断により②と③に分割されている。②の部分はノッチ状の二次加工が施されてスクレイパーとなっている。

接合資料267 (第143図)

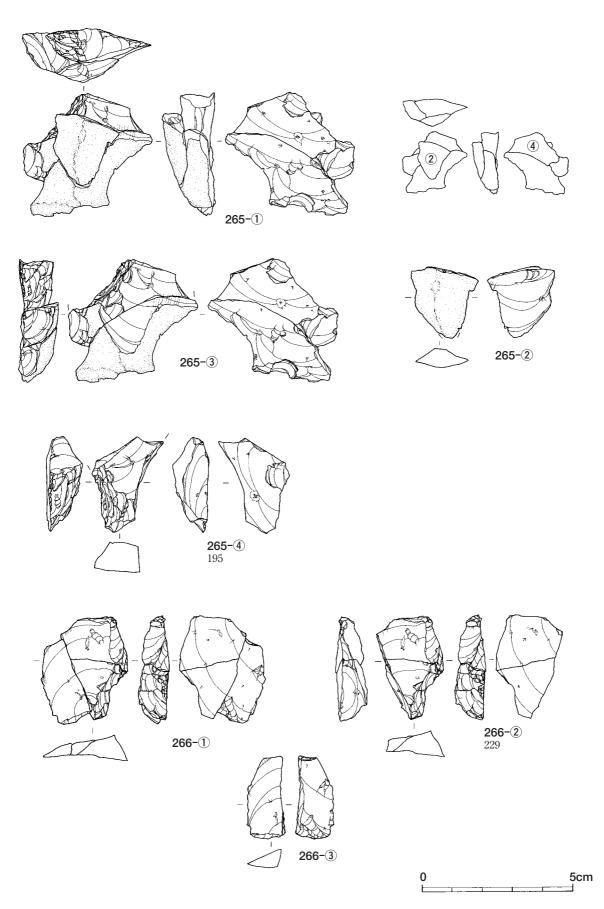
石材は三船産黒曜石である。4ブロックから出土した9点の接合資料であり、①が全体の接合図である。元は大きく3枚の剥片からなる。先に剥離された剥片は打面が折断され、その後②の剥片が取られて③となる。③は二次加工が施されたノッチドスクレイパーである。

次に剥離された④は剥離された剥片の表皮面が多くて使えない部分の先端部であり、打面部は折断が行われて消えている。何らかの石器とされたと推定される。

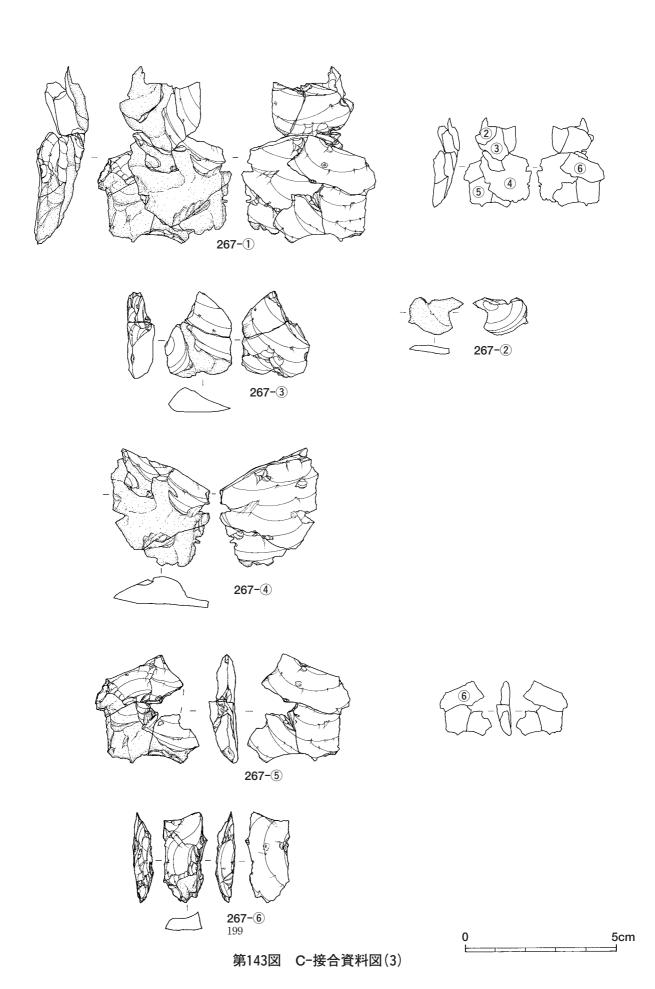
その次に剥離された剥片の下半が⑤である。これも打面部上半は折断されて消えている。これも 自然面の多い先端部が折断されて、⑥の台形石器となる。折断後にわずかな調整が認められる。



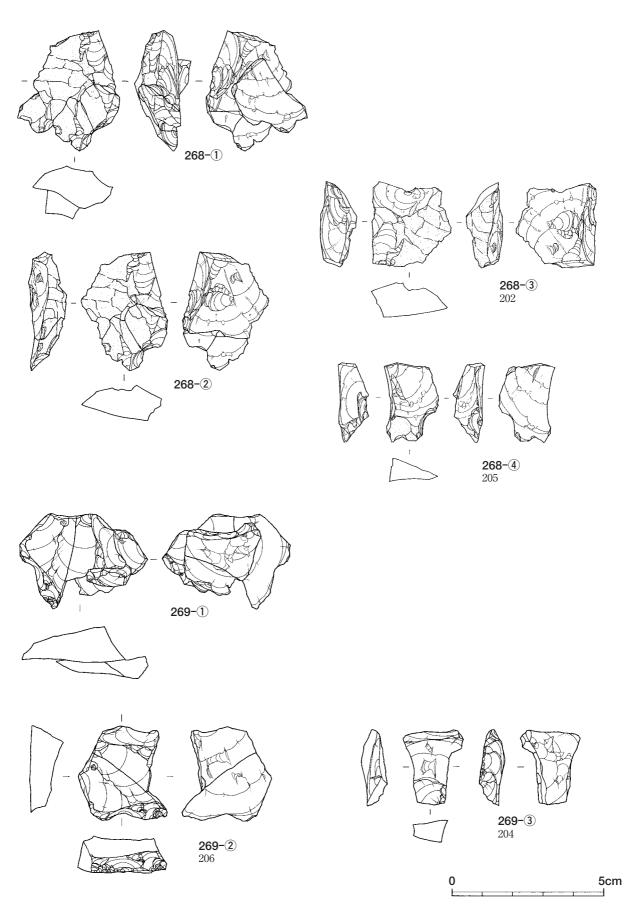
第141図 C-接合資料図(1)



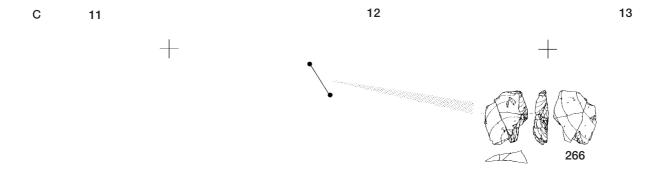
第142図 C-接合資料図(2)



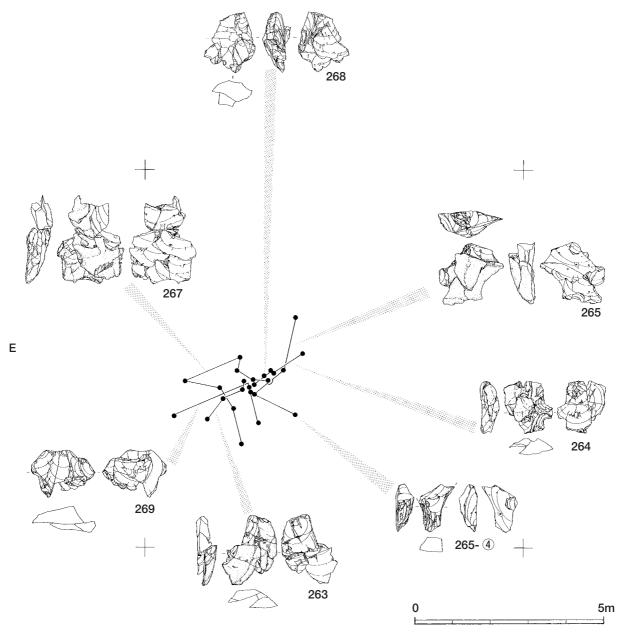
- 184 **-**



第144図 C-接合資料図(4)



D



第145図 C-接合資料分布図(1)

接合資料268 (第144図)

石材は三船産黒曜石である。4ブロックから出土した。①はその全体接合図である。先に平坦打面から剥離された②は、自然礫皮面の部分を主要剥離面から剥離して、③の状況のように末端部に刃部縁辺が形成される。側縁もわずかに調整が行われて台形石器となる。

次に剥離された剥片の一部が④であり、ノッチ状の二次加工が施されている。

接合資料269 (第144図)

石材は三船産黒曜石である。4ブロックから出土した。大きく2枚の剥片の接合であり、①はその全体図である。石核から先に剥離された②は、剥片末端に二次加工が施されてスクレイパーとなる。次に剥離される③を含む剥片は、先ほどの剥片打面が右側に位置していたのに対し、打面転移が行われ、図の上面から剥離されている。これは末端を折断されて、打面部にはブランティングが施され、③の台形石器となる。

接合資料270 (第146~148図)

石材は三船産黒曜石である。1・2・7・39ブロックから出土した計40点の接合資料であり、内部に台形石器とナイフ形石器が接合している。①は接合全体図であり、直径8cm程度の角礫が使用されている。頁の制約もあり、全体の剥片剥離について説明できないが、基本的に幅広剥片が剥離されている。実測図で簡単な剥離経過が理解できるように図示した。なお、剥離された剥片を全て図示していない。

②の剥片を剥離すると、ほぼ⑤の状況となり、接合した⑦の台形石器の接合が理解できる。比較的大きな剥片がブランティング加工により⑦の台形石器となる。

剥離が進行して⑧の状態で⑨のナイフ形石器の接合状況がわかる。

最終直前の石核と呼べる段階が⑫である。しかし、この石核も剥片剥離が行われ、最後に石核は 残存しないことになる。剥離された剥片の位置と製作された石器の位置は第149図に示してある。

接合資料271 (第150~151図)

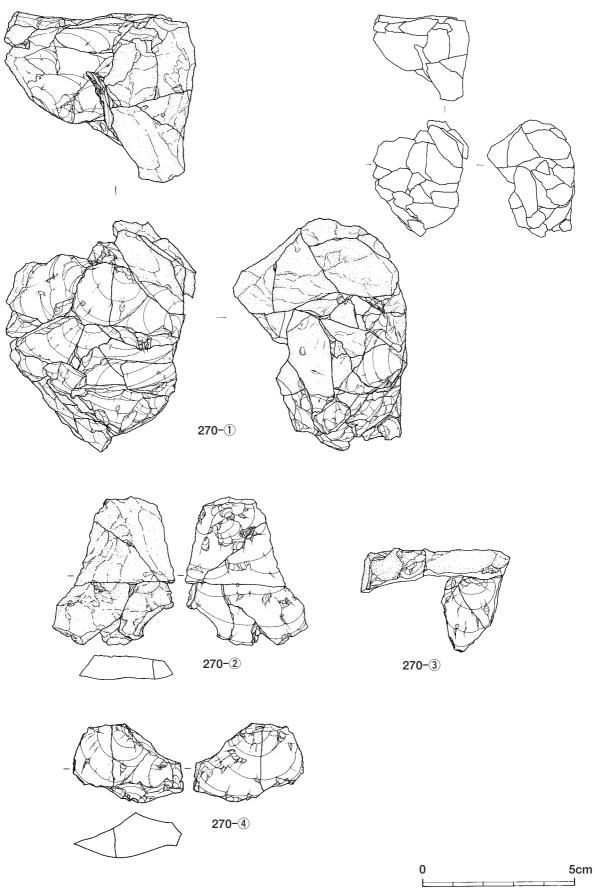
石材は三船産黒曜石である。 1・2 ブロックから出土した11点の接合資料である。これも内部にナイフ形石器と台形石器が接合した。①はその全体接合図であり、この時点でナイフ形石器の接合がみれる。②は幅広剥片を素材としてブランティングが施されたものであるが、剥片からの大きさは大きく変化していない。

第150図と151図で示したように、順次剥片が剥離されていく。

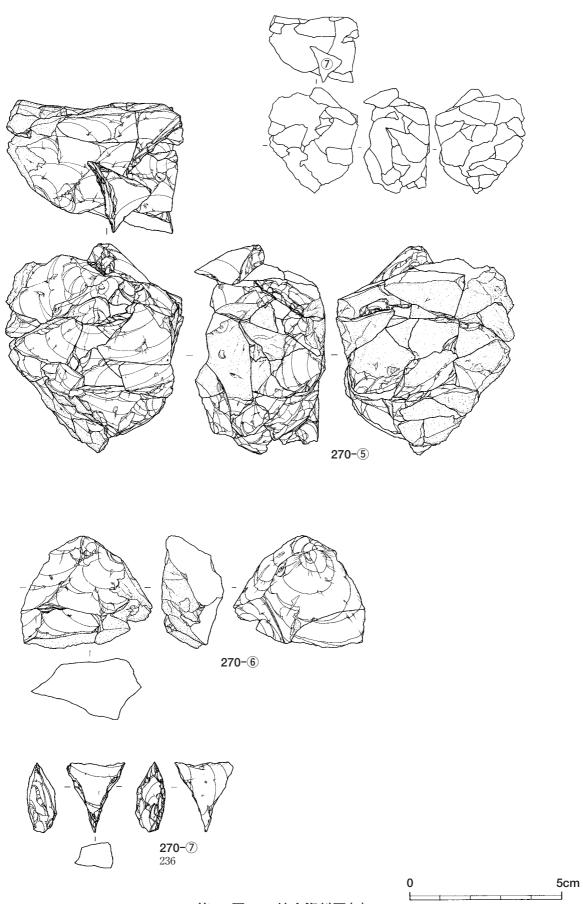
石核の正面図は①, ④, ⑩, ⑫と同一に示している。⑩の段階で平坦な打面から幅広剥片が剥離され, 両側縁にブランティング加工が施されて, ⑪の台形石器となる。⑫の最終石核の剥離面構成から⑪の剥片の形状が理解できる。

接合資料272 (第153図)

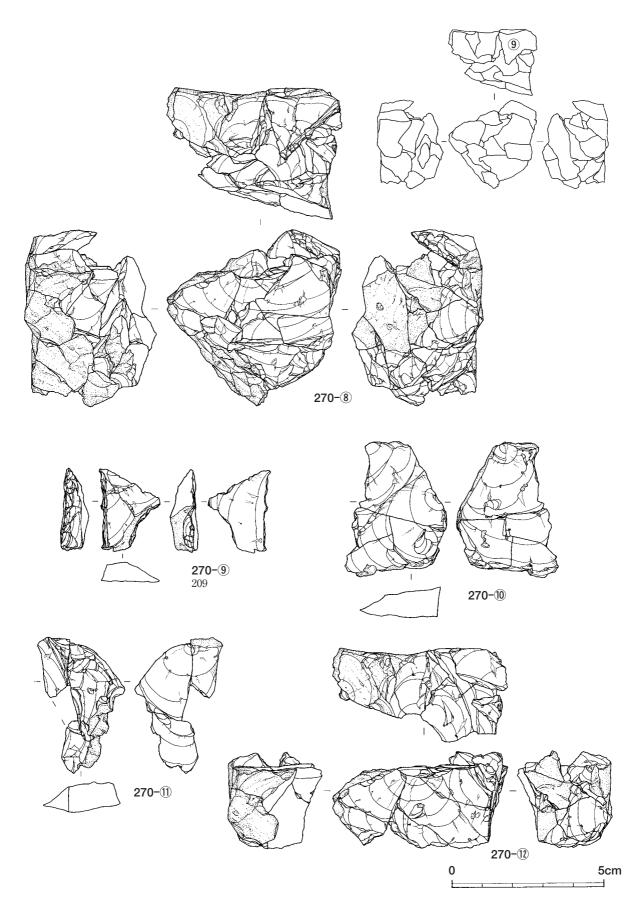
石材は三船産黒曜石である。剥片36点が接合したものである。第158図で示すように全てが2ブロックの近接した位置で出土した。径10cmを超える角礫が素材となっている。元は厚手の一回の剥離で剥がされた大型剥片であった。表皮近くに質のよくない部位が広がっており、ほとんど剥片は使用されていない。



第146図 C-接合資料図(5)

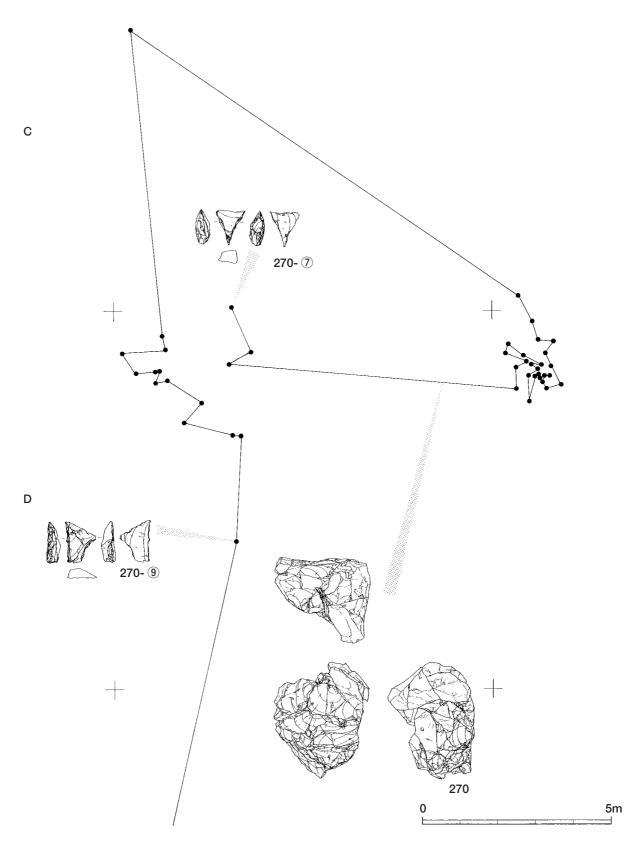


第147図 C-接合資料図(6)

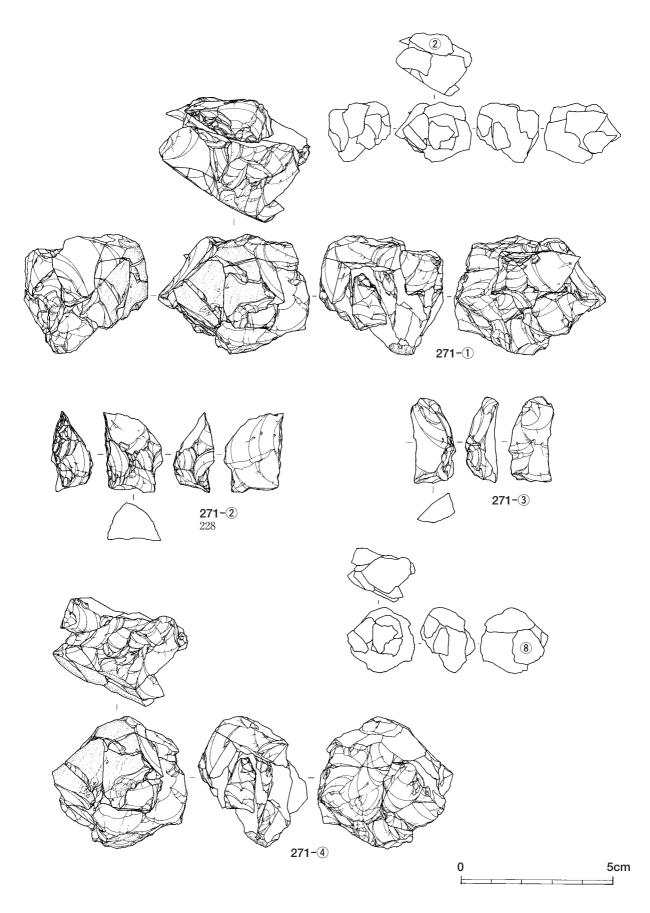


第148図 C-接合資料図(7)

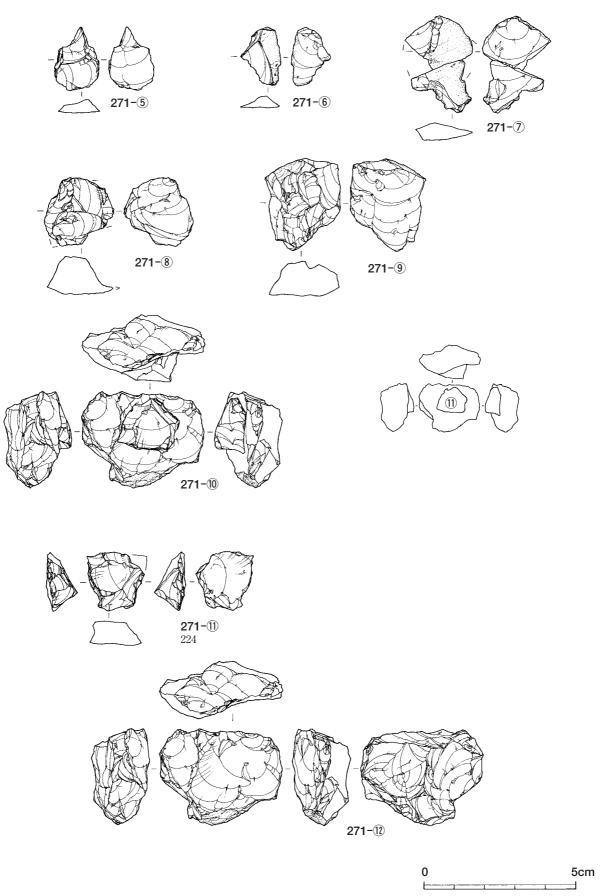
12 13



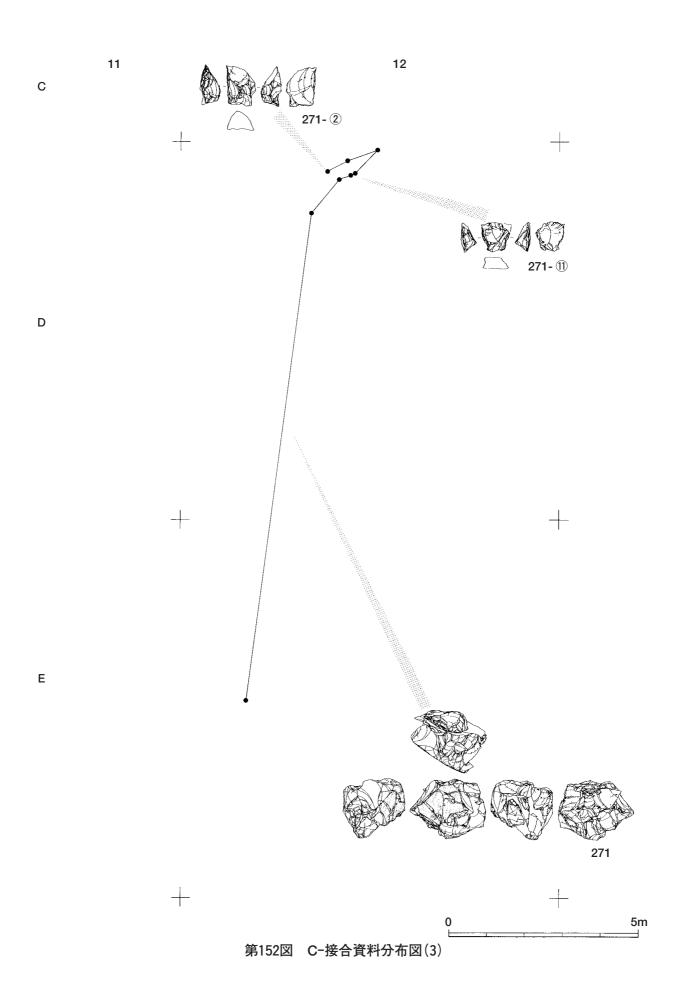
第149図 C-接合資料分布図(2)



第150図 C-接合資料図(8)



第151図 C-接合資料図(9)



接合資料273 (第154図)

石材は三船産黒曜石である。2ブロックから出土した石核と台形石器の接合資料である。①は接合図であり、図の打面の中央の平坦面を打面にして②が剥離される。②は剥片の形状を変えずに、打面にブランティングが施された台形石器である。

その後,石核は,台形石器が剥離された面を打面にして,図の打面左側面の剥片剥離が行われている。そして石核本体から剥片③が剥離されている。

接合資料274 (第154図)

石材は三船産黒曜石である。 7 ブロックから出土した剥片の接合資料である。①は接合全体図であり、中心部の石核は消えており、そこから剥離された状態となっている。①の正面図の方から、④と⑤が連続して剥離されている。このうち⑤は片側縁に調整が施されてナイフ形石器とされている。次に右側縁方向から③が剥離され、再び正面の上端から①の残りの剥片が剥離されている。これは剥離された後に、腹面の剥離が行われている。

接合資料275 (第155図)

石材は三船産黒曜石である。 7 ブロックから出土した剥片と石核の接合資料である。①はその全体接合図であり、両側面と下面に平坦状の自然礫皮面が残存していることから、小型の角礫が使用されたことがわかる。図の左側に飛び出した部分が早い段階で剥離されている。その後、正面は左側面から広い剥片が剥離され、次に打面部が正面方向から剥離されている。

そして、先の剥離面を打面にして、③を含む剥片が剥離されている。③は剥片の形状をほとんど変えずに剥片末端をわずかに折り取り、打面部に少しブランティングを施してナイフ形石器としている。その後、⑤を剥離している。最終的な⑥は石核であるが、剥片状となっている。

接合資料276 (第156~157図)

石材は三船産黒曜石である。 7 ブロックから出土した剥片など13点が接合した資料である。内部にスクレイパーやナイフ形石器が含まれている。

①は全体の接合図であり、基本的に打面と作業面を入れかえながら剥片剥離を行ったものである。この接合資料の打面は、正面方向からの幅広剥片剥離により形成されたものであり、この打面から②の幅広剥片が剥離される。これは鋭利な縁辺に細かい二次加工が施され、スクレイパーとされている。

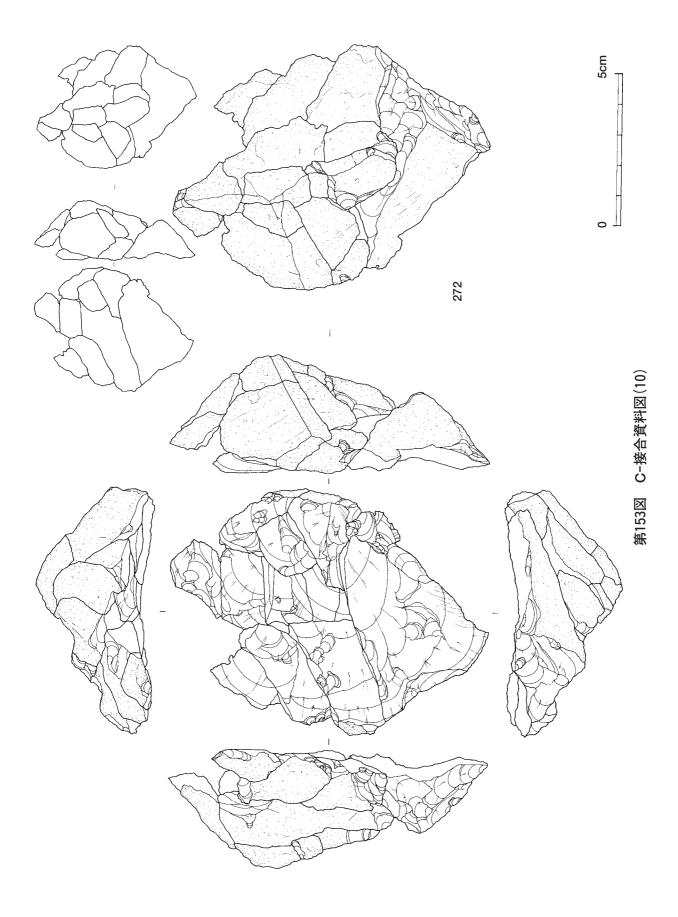
その後、③の剥片が剥離されている。次に、消えている正面部の剥片剥離が行われている。

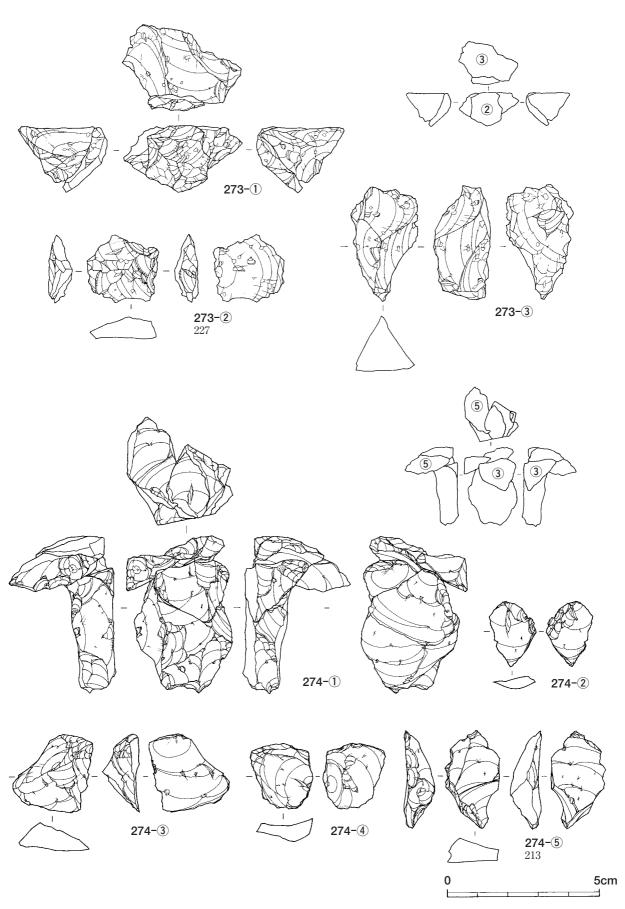
次に剥離された短小な剥片が側面調整をわずかに施され④の台形石器とされている。その段階で石核は⑤の状況になり、順次⑥、⑦と剥離されている。⑦は打面部に調整加工が施されて石器となっている。

接合資料277 (第159~160図)

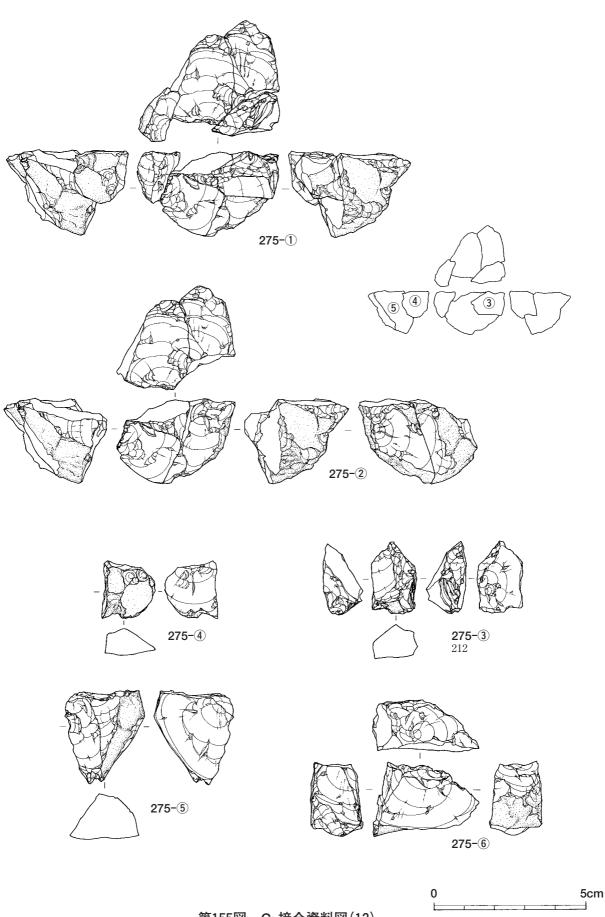
石材は三船産黒曜石である。1・2・3ブロックから出土した剥片12点の接合資料である。

- ①は接合全体図であり、基本的に三つの剥離部位から構成されている。それは同一打面から剥離された比較的大型の縦長剥片2枚と、下辺に位置している小剥片2点であり、①の裏面のリングからも理解できる。
 - ②は二回目に剥離された裏面の剥片を取り除いた表面部分のみであり、図の下端に位置する小剥

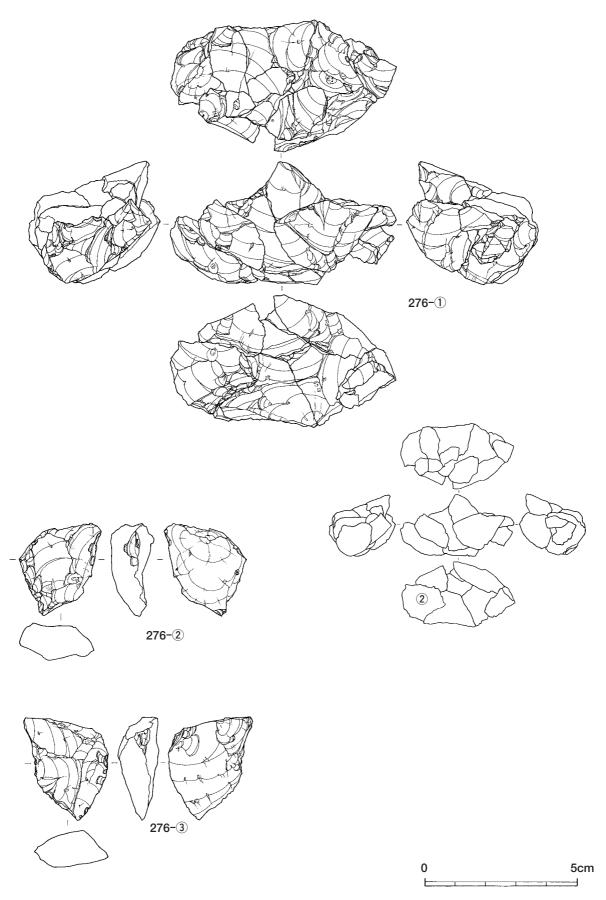




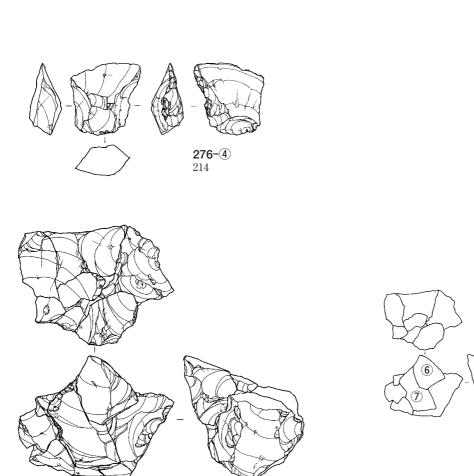
第154図 C-接合資料図(11)

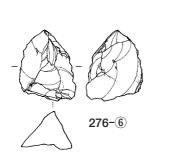


第155図 C-接合資料図(12)

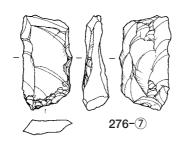


第156図 C-接合資料図(13)



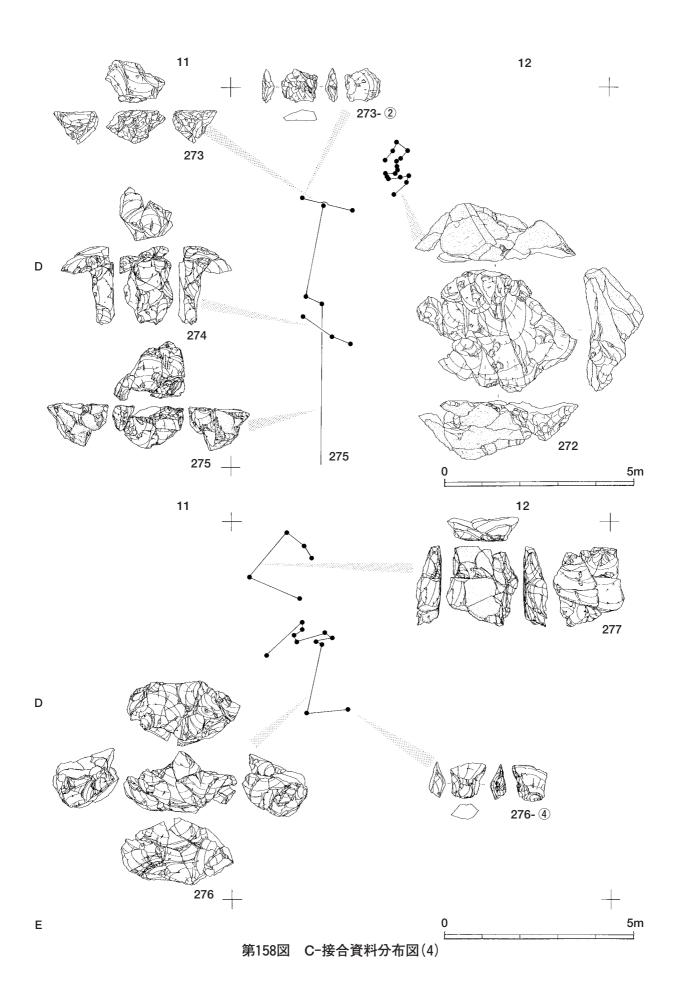


276-⑤





第157図 C-接合資料図(14)



-201-

片が除かれたものが③である。

③の剥片は、まず中央付近の位置で腹面側からの力により折断されている。折断された打面側の半分は、折断面から表裏両面ともに、平坦剥離が施されている。右側縁部も取り除かれて、打面も腹面から調整剥離を受ける。その結果④の台形石器となる。

折断された下半部の⑤は、縁辺にわずかな調整がみられることから台形石器として理解できる。 直線的な刃部には使用痕が認められる。

- 一方,次に剥離された⑥の剥片は,打面側と末端側を折断され,三つに分割されている。
- (7)はその中間部位のものであり、縁辺には使用痕が観察されている。

接合資料278 (第161図)

三船産黒曜石を石材とするもので、4・7・39ブロックから出土した27点の接合資料である。

接合資料279 (第162図·163図)

三船産黒曜石を石材とするもので、2·39ブロックから出土した27点の接合資料である。③の台形石器が含まれている。

接合資料281 (第165・166図)

三船産黒曜石を石材とする。38ブロックから出土した20点の接合資料である。①の全体接合から ⑤そして⑨まで連続して幅広剥片が剥離されている。

接合資料282 (第167·168図)

三船産黒曜石を石材とするもので、内部に3点の台形石器が含まれている。②は①の左側面図の右側の縦長剥片が折断されたものである。⑧は⑦の中央付近で剥離された剥片が折断されている。 これは幅広剥片のみでなく、縦長剥片も剥離されている。

接合資料283 (第169·170図)

三船産黒曜石を石材とするものであり、これも内部に台形石器を含む。石核は①から④そして⑦へと剥離を受けて変化してゆく。最終の⑨を基準にして置いたものが①である。基本的に幅広剥片は正面と打面側が交互に剥離されている。底面の自然面はそのままである。⑦から⑧が剥離されて台形石器となるが剥片の形状は大きく変わらない。

接合資料284 (第171図)

三船産黒曜石を石材とする。背面に自然面をもつ。石核は剥片剥離の進行に伴い①から④へと変化していく。

接合資料285 (第172図)

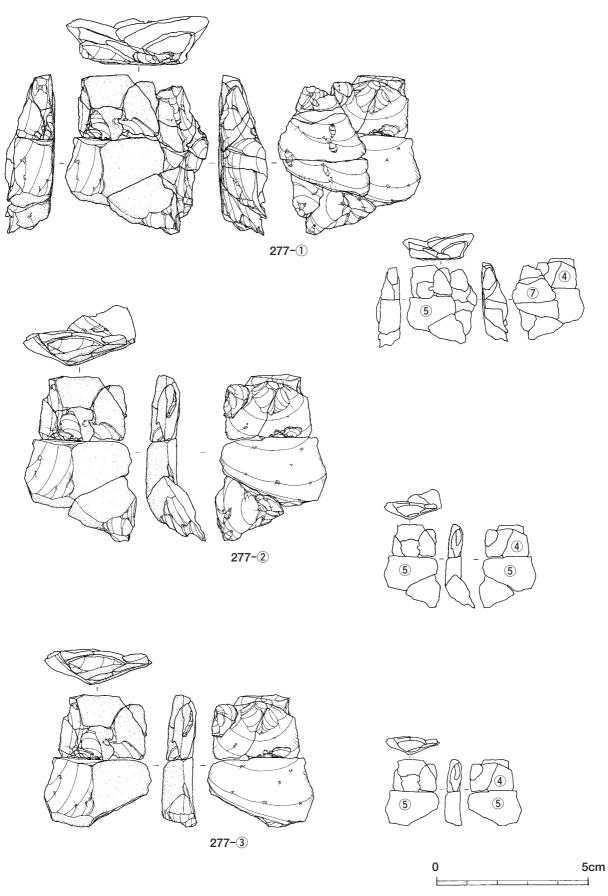
三船産黒曜石を石材とする。①から幅広剥片である②・③が剥離されている。最後に石核は分割されて④・⑤となる。

接合資料286 (第174図)

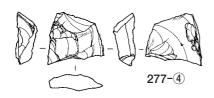
三船産黒曜石を石材とする。素材は小角礫である。打面と剥離面を交替しながら三角形状の小型 剥片やわずかに幅広の剥片を剥離している。

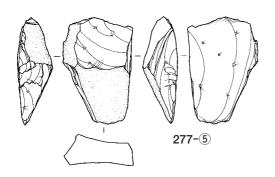
接合資料287 (第175図)

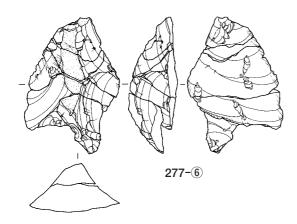
三船産黒曜石を石材とする5点の接合である。4点の剥片から構成される。①と⑤は打面の位置が異なる。②は折断されている。

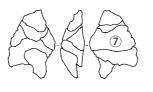


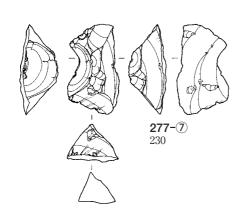
第159図 C-接合資料図(15)





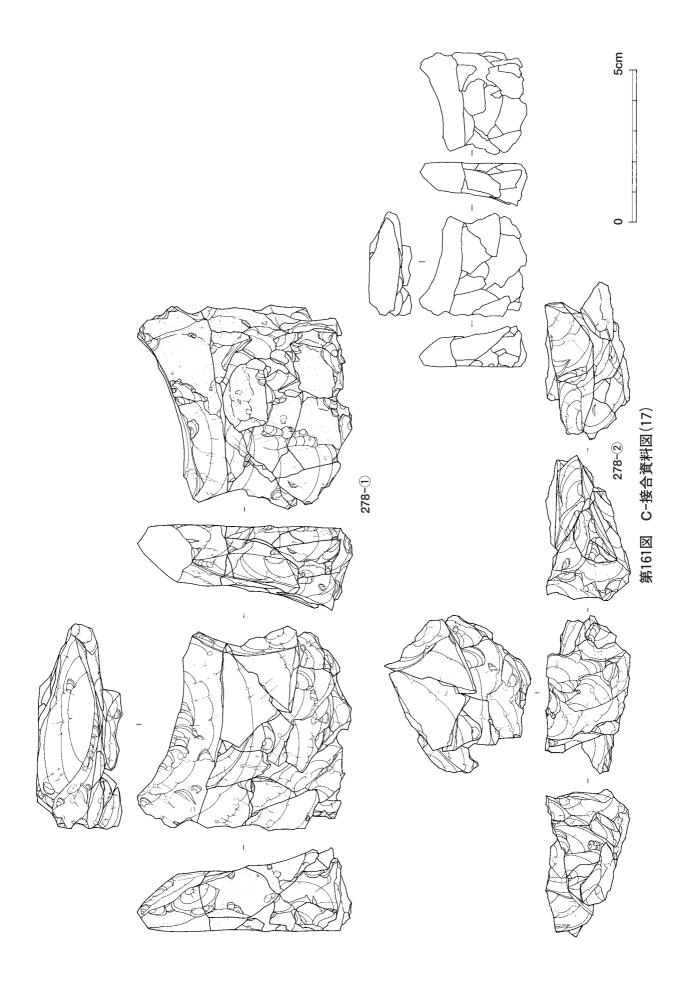


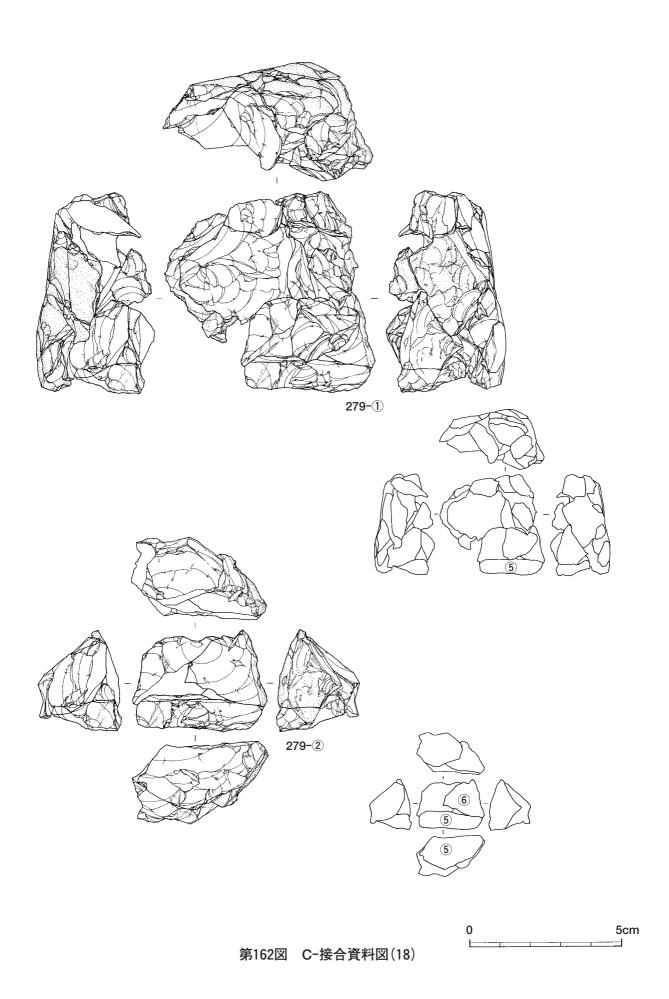




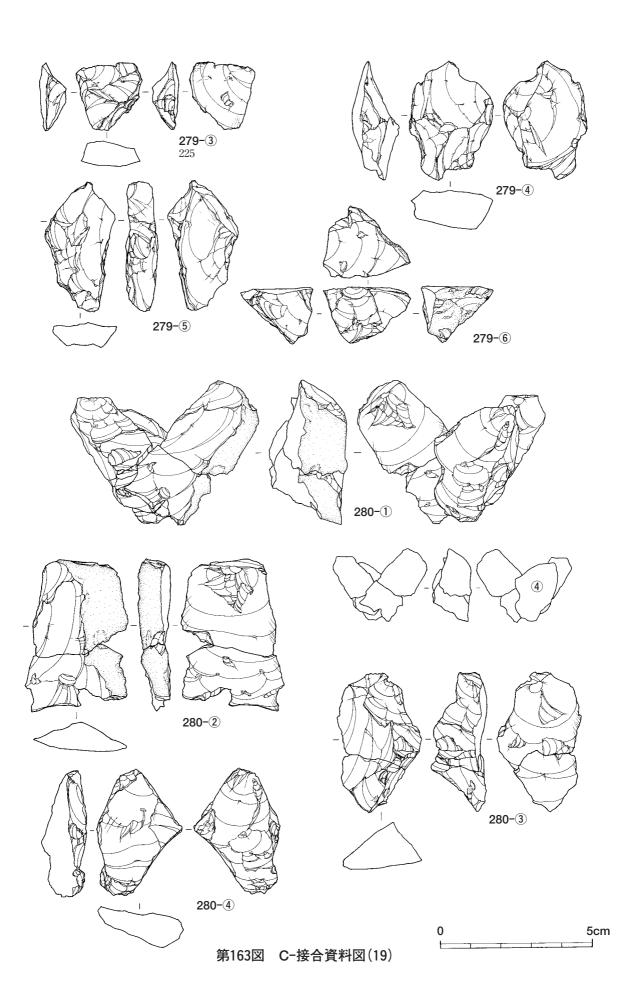
0 5cm

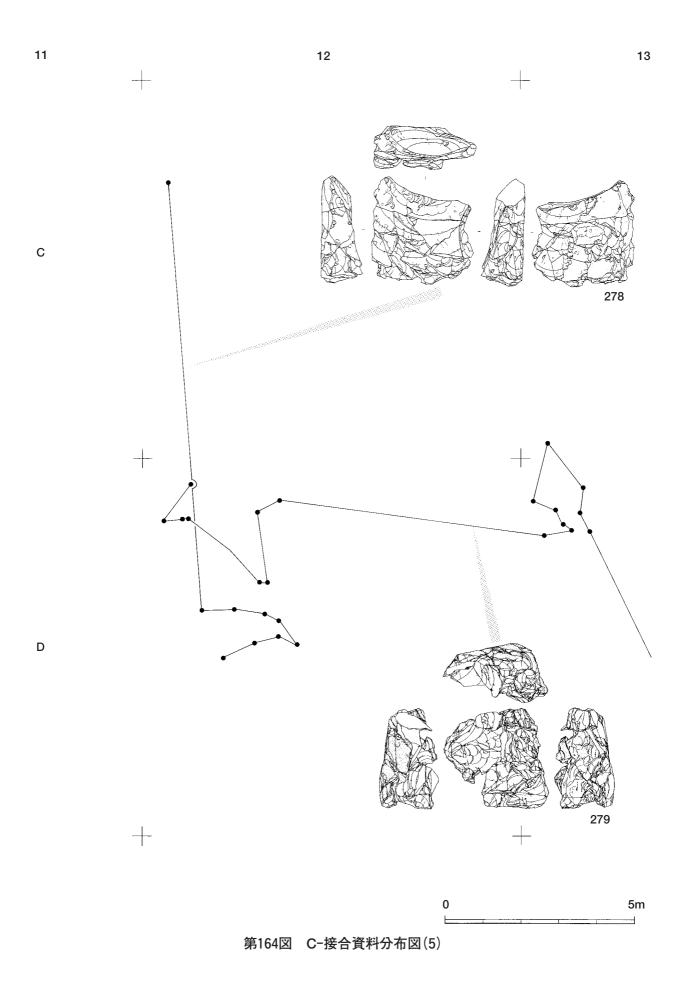
第160図 C-接合資料図(16)

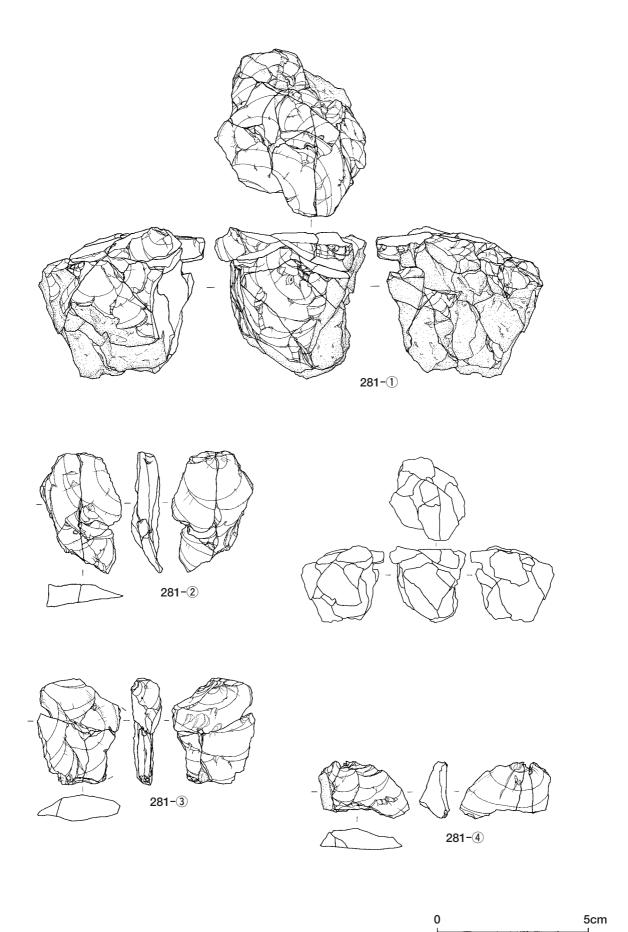




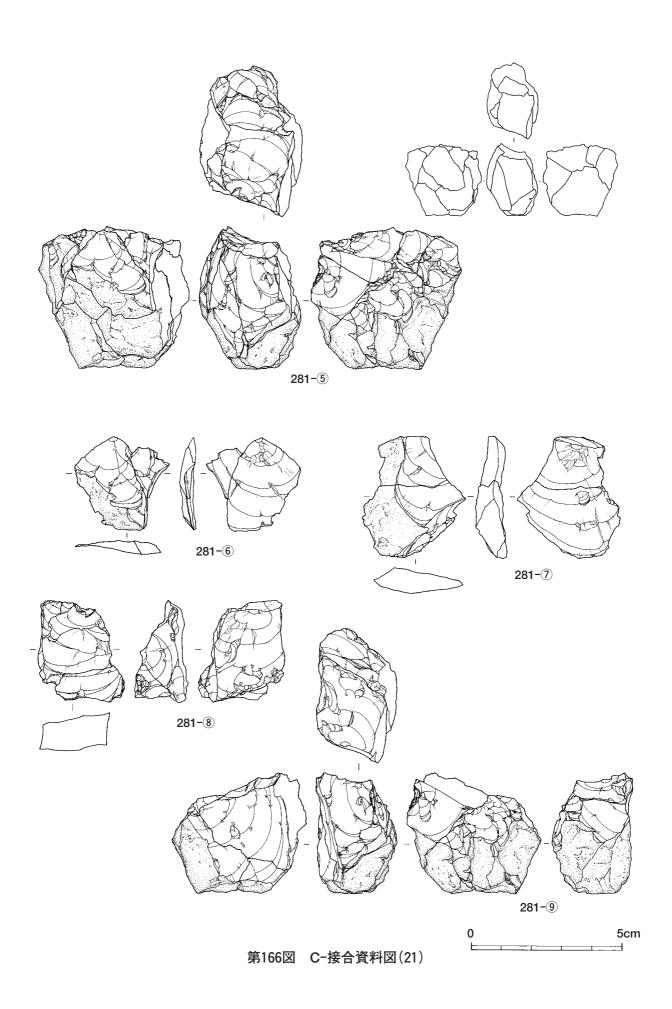
-206-



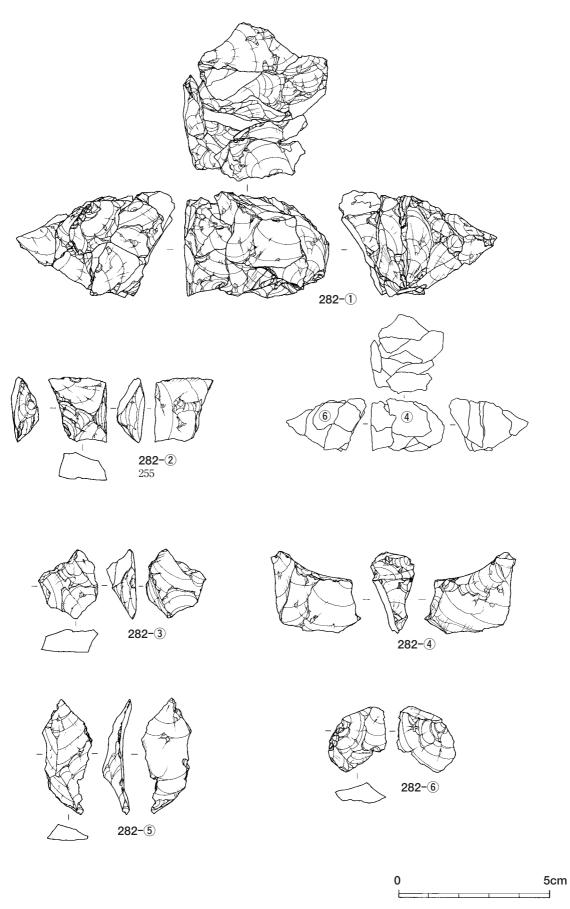




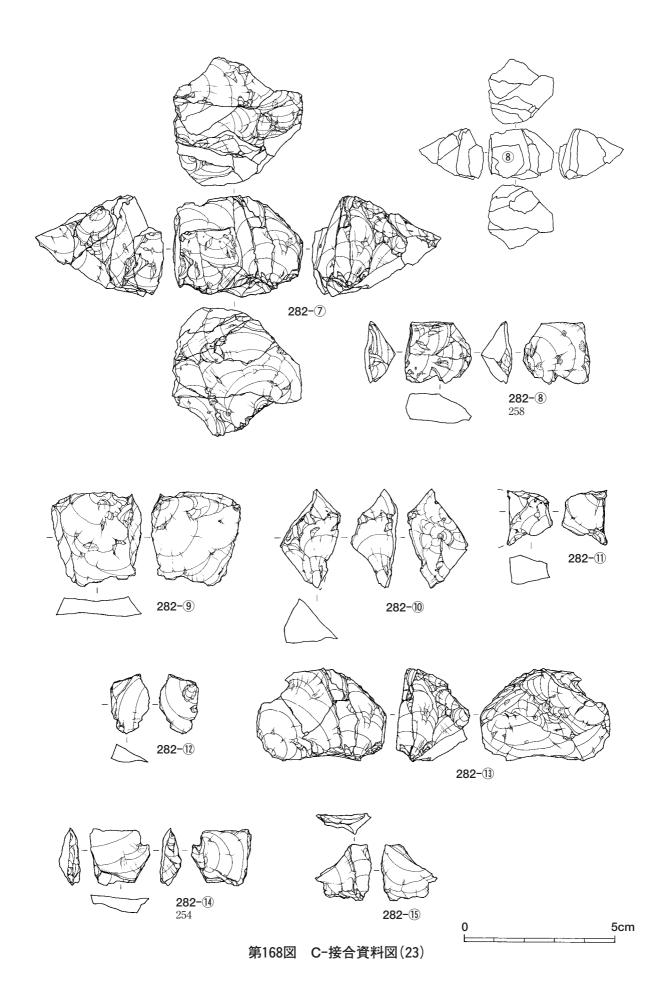
第165図 C-接合資料図(20)



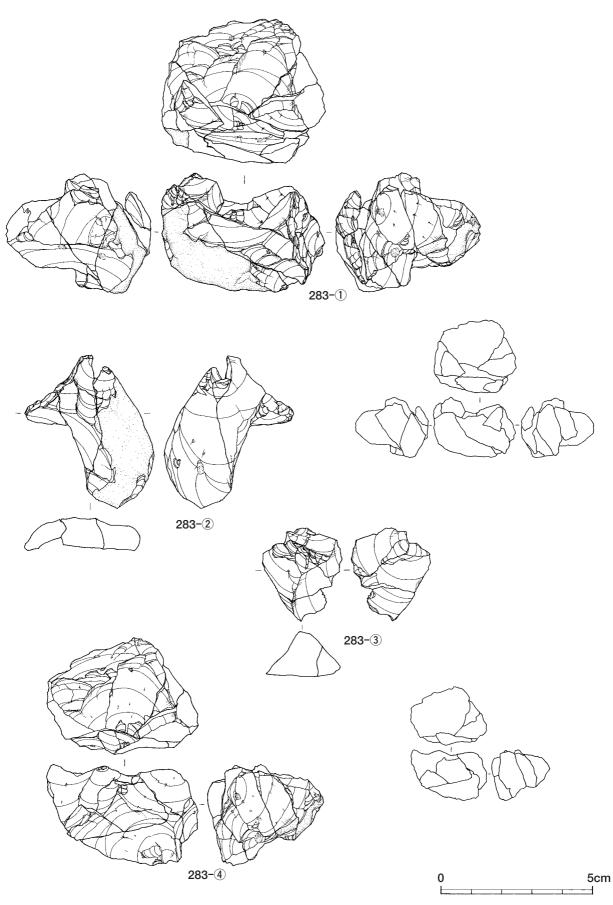
-210-



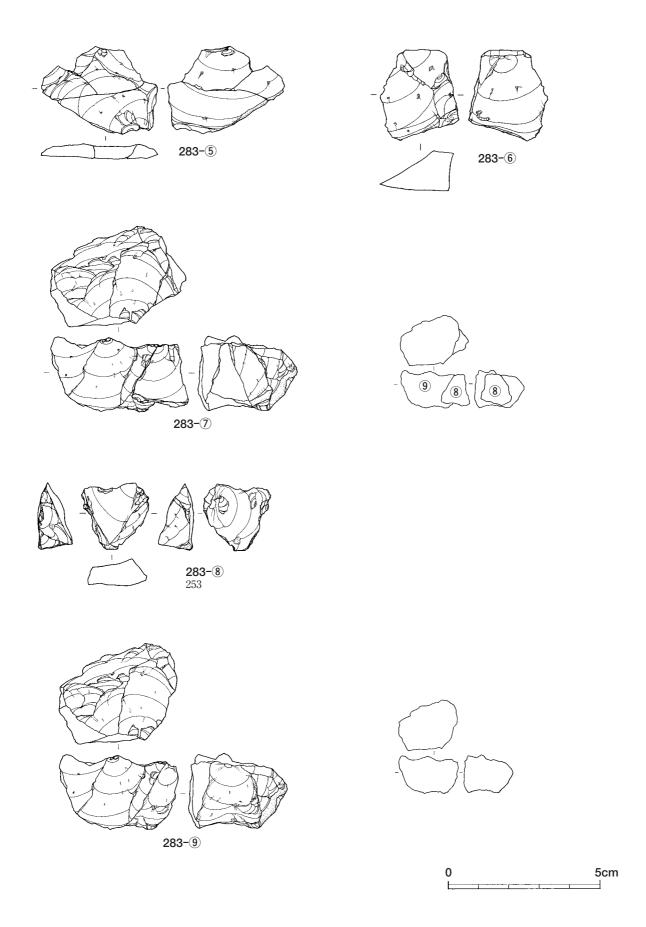
第167図 C-接合資料図(22)



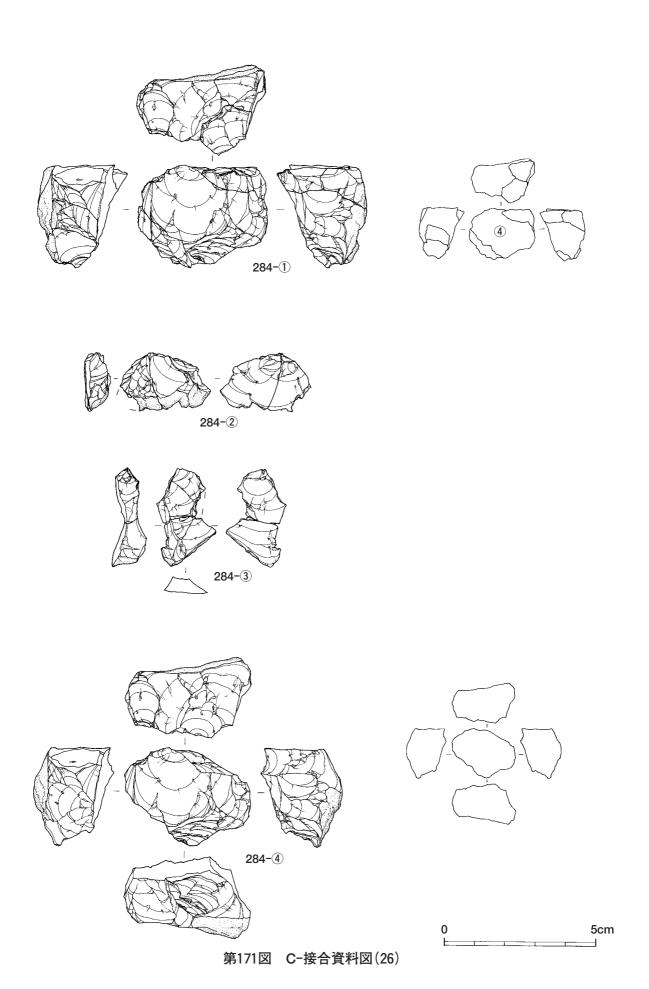
-212-



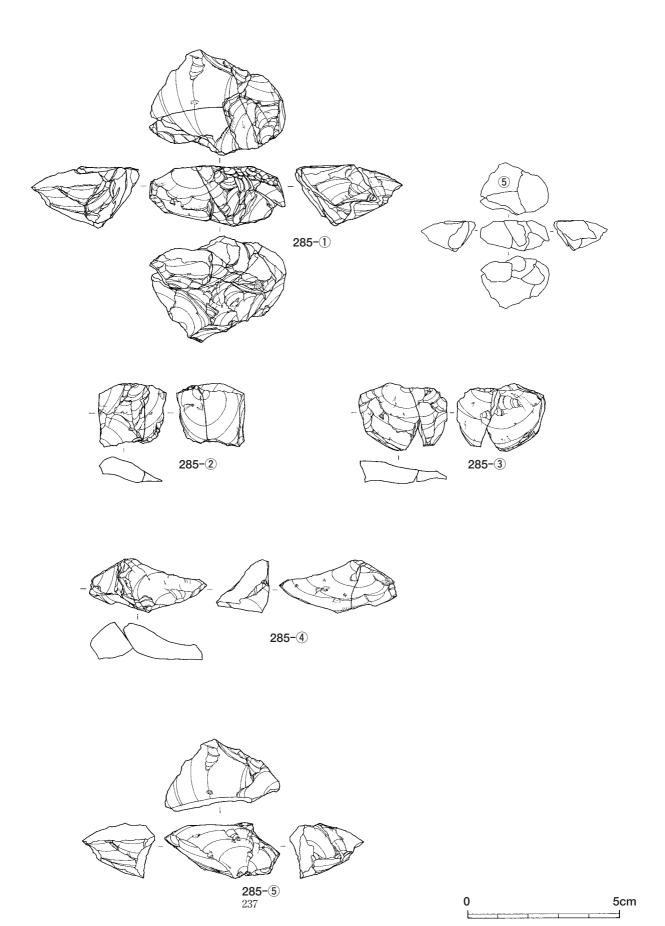
第169図 C-接合資料図(24)



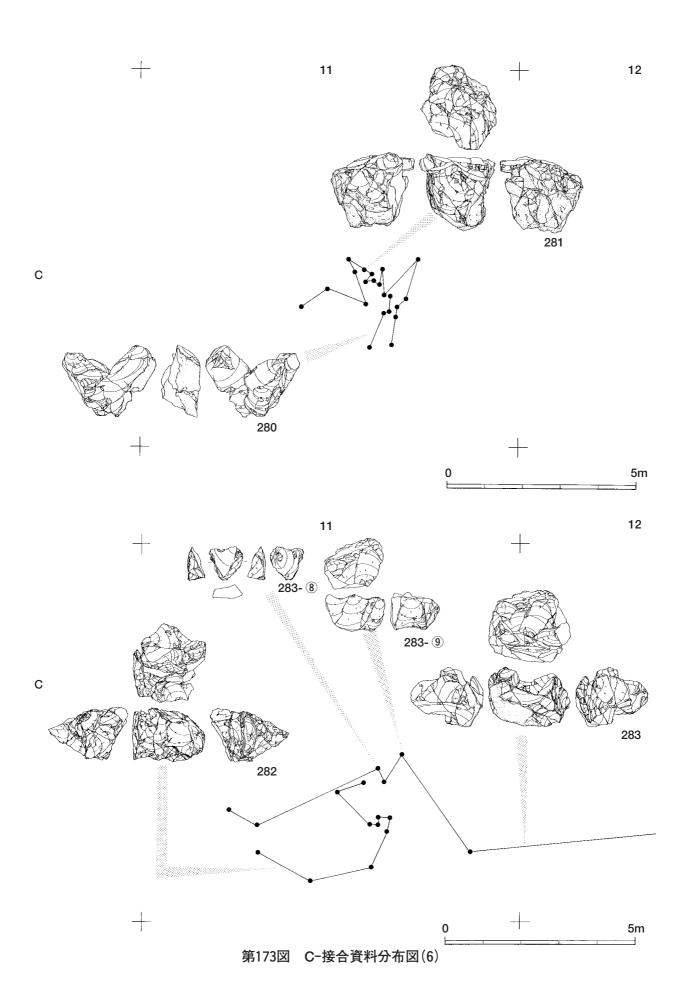
第170図 C-接合資料図(25)

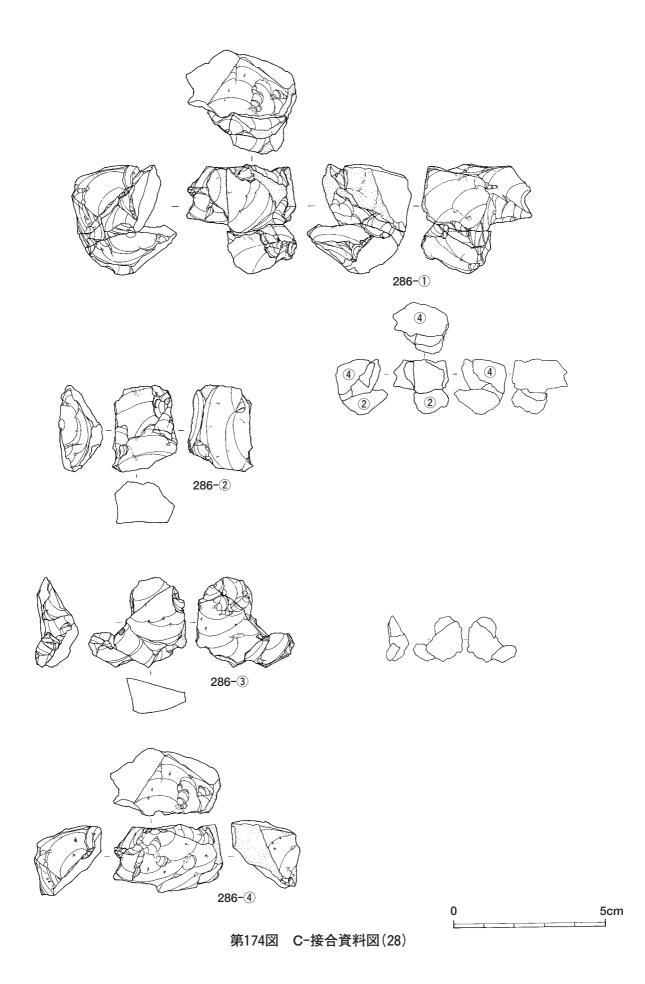


-215-

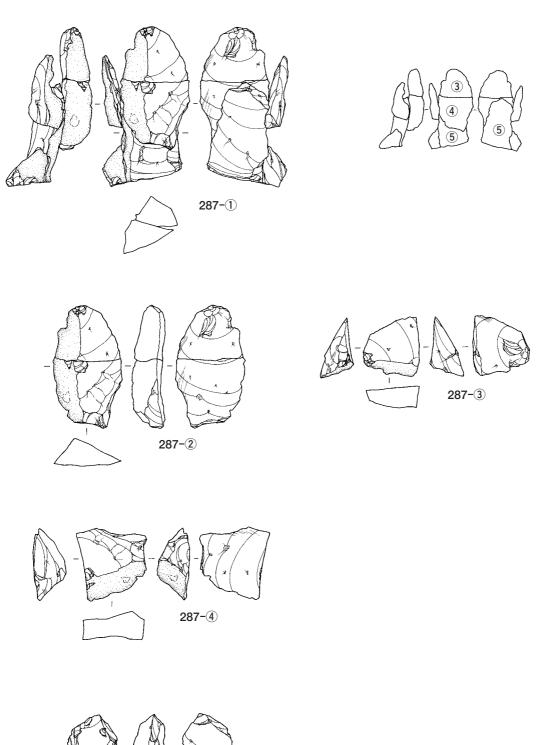


第172図 C-接合資料図(27)





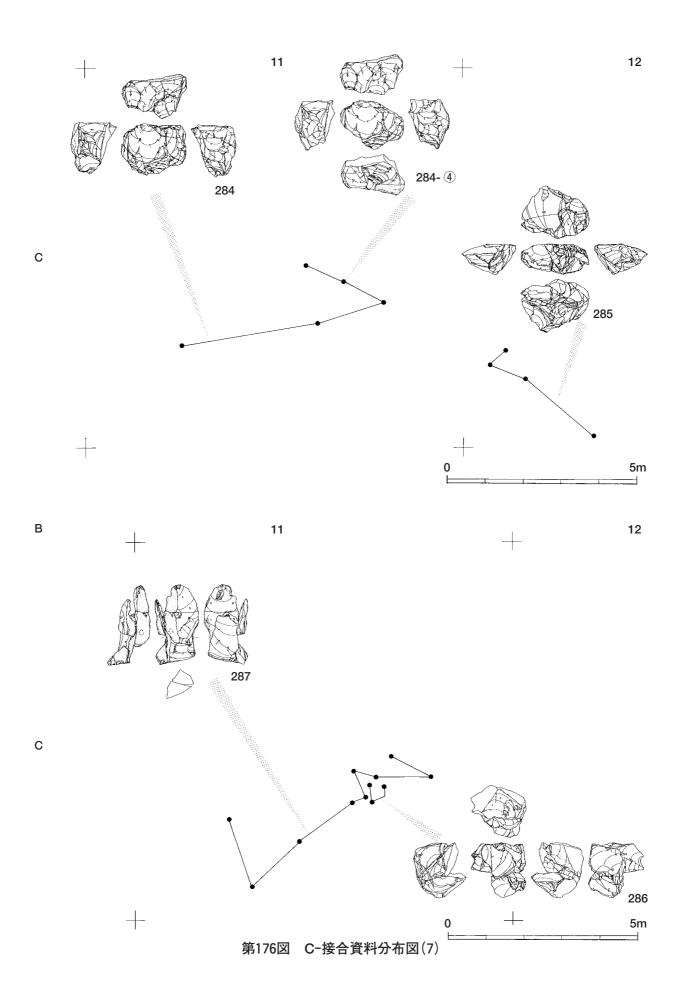
-218-

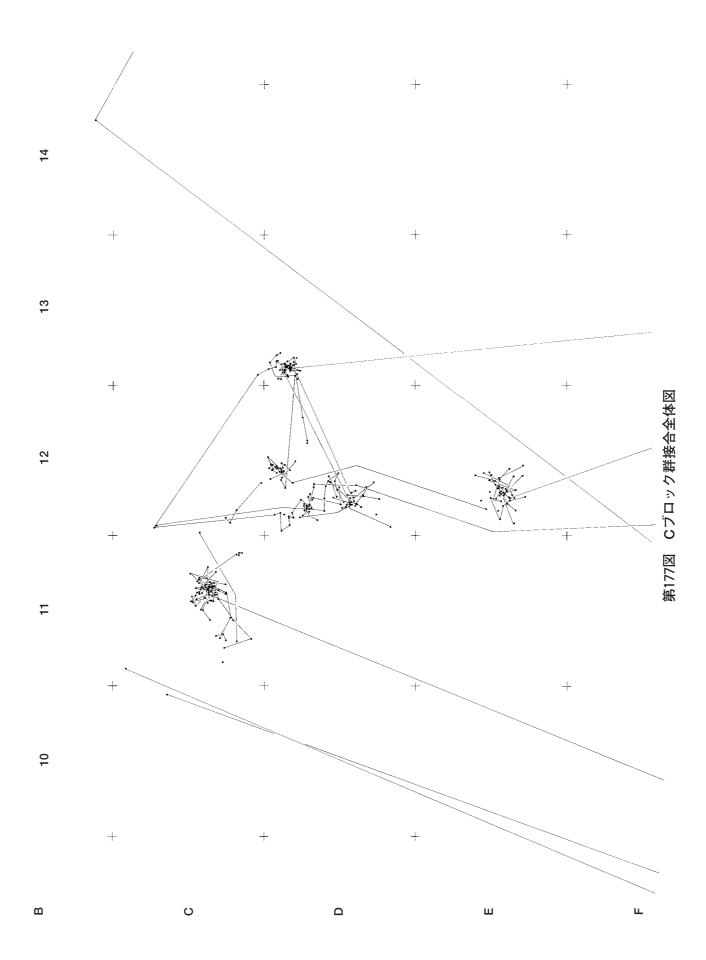






第175図 C-接合資料図(29)





4. Dブロック群

Cブロック群の北側で、E~I-8~10区に位置する。

このブロック群は、遺物が極めて集中している25ブロック群を中心とするもので、他の周囲のブロックはやや散在的な分布を示している。

石材的には、中心的な25ブロックが、石材を異にする3ヶ所の集中部に区分され、三船産黒曜石を主体とする二つのブロックと頁岩を中心とするブロックに分けられる。また周囲にやや散在的なブロックも上牛鼻産黒曜石を主体とするものや頁岩を主体とするものに分けられる。

21ブロック

 $H \cdot I - 9$ 区に位置しており、径約10m程度の広い分布範囲をもつが、明確な集中部はなく、比較的散在的な分布である。石材は多様なものが使用されている。この調査中に認識したブロックを 21 b ブロックとし、分布図作成後にH - 8 区で比較的散在的な分布が認められたことにより、H - 8 区のものを新たに21 a ブロックとした。

21 b ブロック

調査中に認識したもので17号礫群が散在する。

ナイフ形石器 (第181図288~293)

288は幅広剥片を素材とし、二側縁のブランティングにより切出し型に仕上げたものである。短辺のブランティングは内弯状に施されている。頁岩製である。

289は幅広剥片の下半を断ち切るようにブランティングを施し、切出し型にしたものであり、打面部分は平坦剥離を背面に施している。良質の頁岩製である。

290は三船産黒曜石製でブランティングを二側縁に施し切出し形にしたもので、短辺の調整はノッチ状に施されている。

291は上牛鼻産黒曜石の縦長剥片状のものを素材とし、打面を残したまま一側縁にブランティングを施したものである。292・293は先端部のみの欠損品である。

台形石器 (第181図294~300)

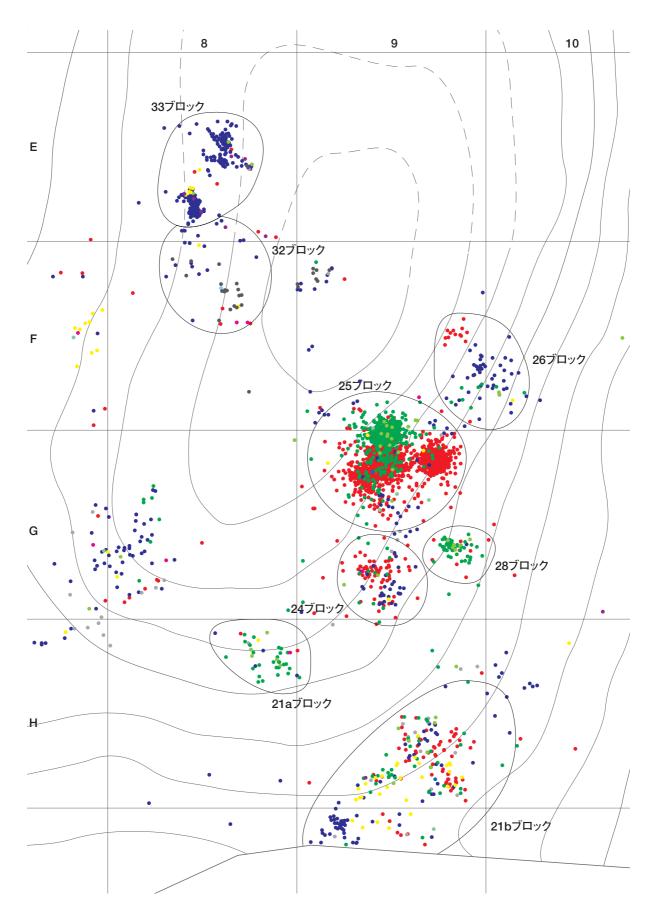
294は頁岩製で両側縁は粗いブランティングが施されたものである。なお、これは接合資料393として後述する。295は安山岩製であり、両側縁にブランティングを長く施し、短い刃部を有することから台形石器とした。

296は三船産黒曜石製の幅広剥片を素材とし、その素材の形状をほとんど変えずに、基部をブランティングと折断により整形した大型の台形石器である。

297は鉄石英製であり、折断とわずかなブランティングが施されている。298・299も両側縁を折断とブランティングにより整形したものである。300は三船産黒曜石の小剥片を素材とし、剥片末端にわずかな調整がみられる。

スクレイパー (第182・183図301~309)

301は一部に自然礫皮面の残る剥片の片側縁に粗い二次加工を施したものである。頁岩製である。 302は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、片側縁に丁寧な二次加工を施して刃部としたものであ る。303は比較的大型の三船産黒曜石製剥片を素材とし、二次加工を施したものである。304は上牛 鼻産黒曜石製である。



第178図 Dブロック群のブロックと石材分布図

305・306は頁岩製剥片の縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。

307は上牛鼻産黒曜石製,308は三船産黒曜石製で縁辺にわずかな二次加工が認められる。

309は接合資料391の一部であり後述する。

石錐 (第183図310)

310は鉄石英製の不定形剥片を使用し、打面部分にわずかな二次加工を施し、その先端部を使用したものである。

使用痕剥片 (第183図311~315)

311~315は剥片の鋭利な側縁に使用痕が観察されるものである。311~313,315は三船産黒曜石製で,314は鉄石英を石材としている。314は,先の石錐と同様に接合資料394の一部であり,その部分で説明する。

21 a ブロック

H-8区に位置しており、分布図作成後に新たに認識したブロックである。石材は頁岩が主体となっている。

ナイフ形石器 (第184図316~318)

316は上牛鼻産黒曜石製で、幅広剥片の打面側に直線的なブランティングを施し、対向する短辺に は内弯状にブランティングを施したものである。

317は切出し形を呈するものであり、接合資料392の一部であることから後述する。

318は頁岩製で、剥片の打面部に背面からブランティングを施し基部としたものである。

台形石器 (第184図319・320)

319は接合資料392の一部であり後述する。320は宮ノ上産と推定される良質な頁岩製の剥片を素材としており、折断とわずかな調整が施されたものである。

スクレイパー (第184図321・322)

321は上牛鼻産黒曜石の比較的厚い縦長剥片状のものを素材とし、鋭利な縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。

322は宮ノ上産と推定される良質な頁岩を石材とするもので、自然礫皮面が残る幅広剥片の打面 部に急角度の二次加工を施したものである。

石核 (第184図323)

323は上面と下面の一部に自然面が残る頁岩製であり、求心的に剥片剥離を行っているものである。剥離されている剥片はほとんど幅広剥片である。

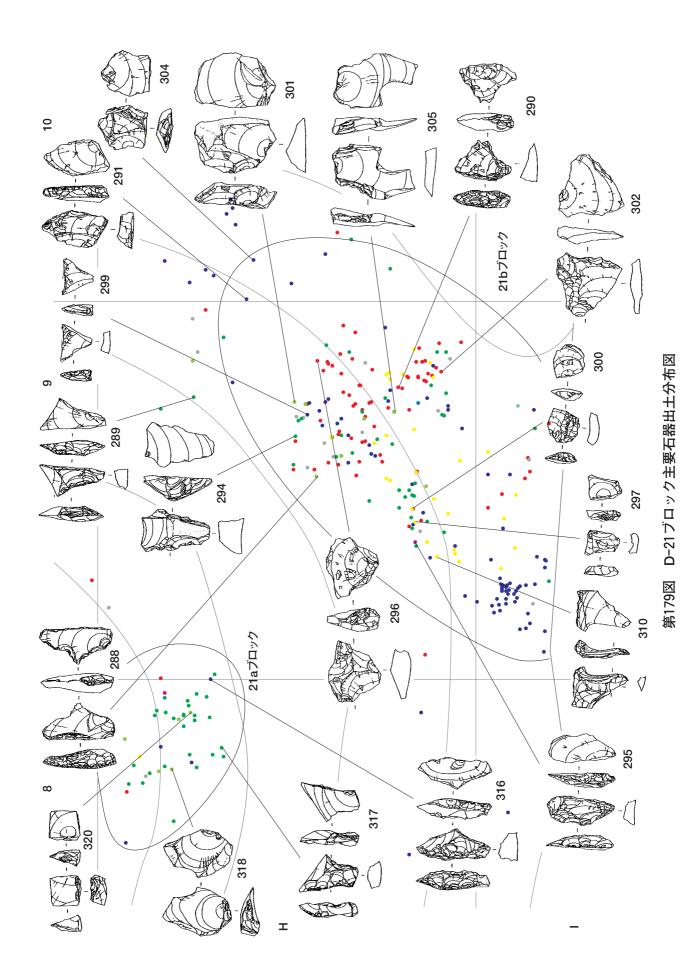
24ブロック

G-9区に位置しており、径約5m程度の円形の分布域を有する。石材は三船産黒曜石と上牛鼻産黒曜石が多い。ナイフ形石器が多く出土した。

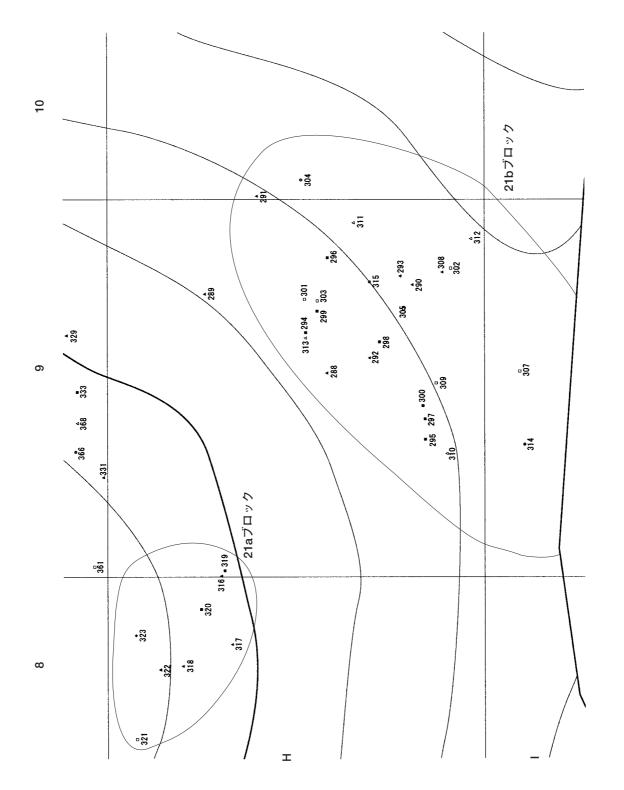
ナイフ形石器 (第187図324~334)

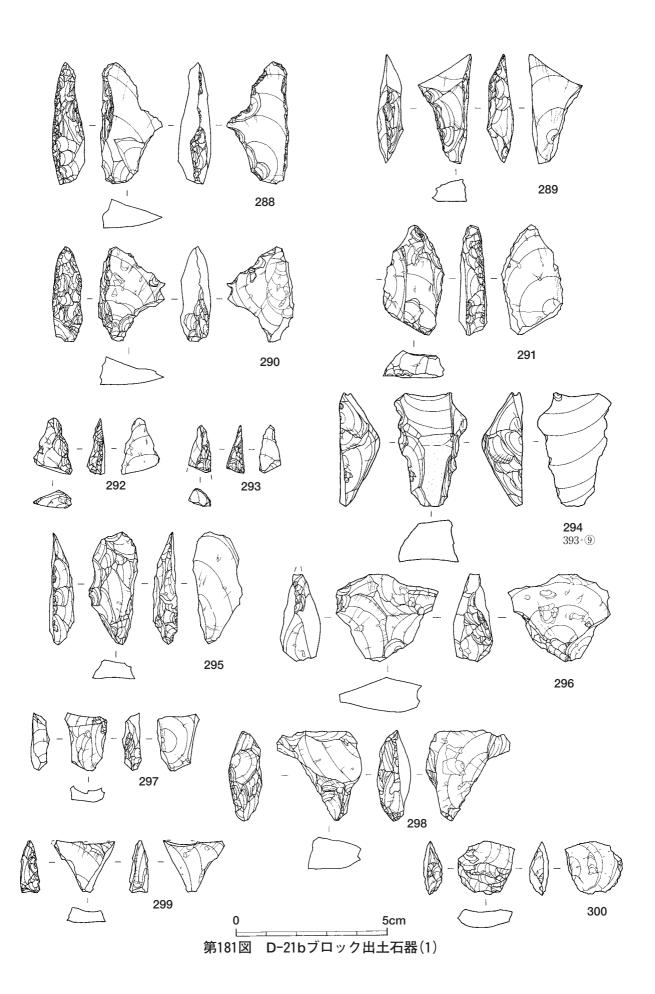
324は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材とし、剥片下半を断ち切るようなブランティング調整を施し、全体を切出し形にしている。打面はそのまま残し、背面に平坦剥離を施している。

325は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、ブランティングにより切出し形にしたもので、刃部は 台形石器に近いが、ナイフ形石器としてとらえた。

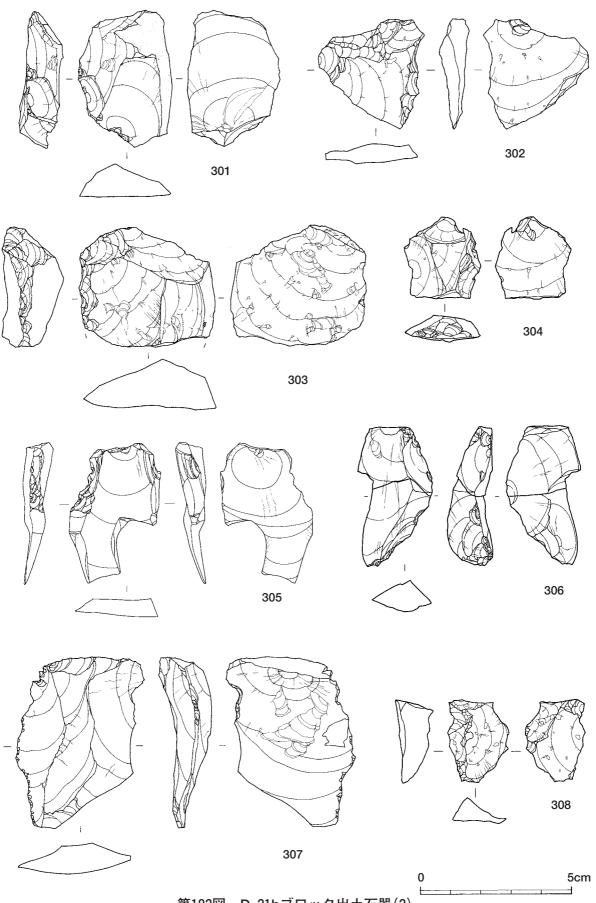


-225-

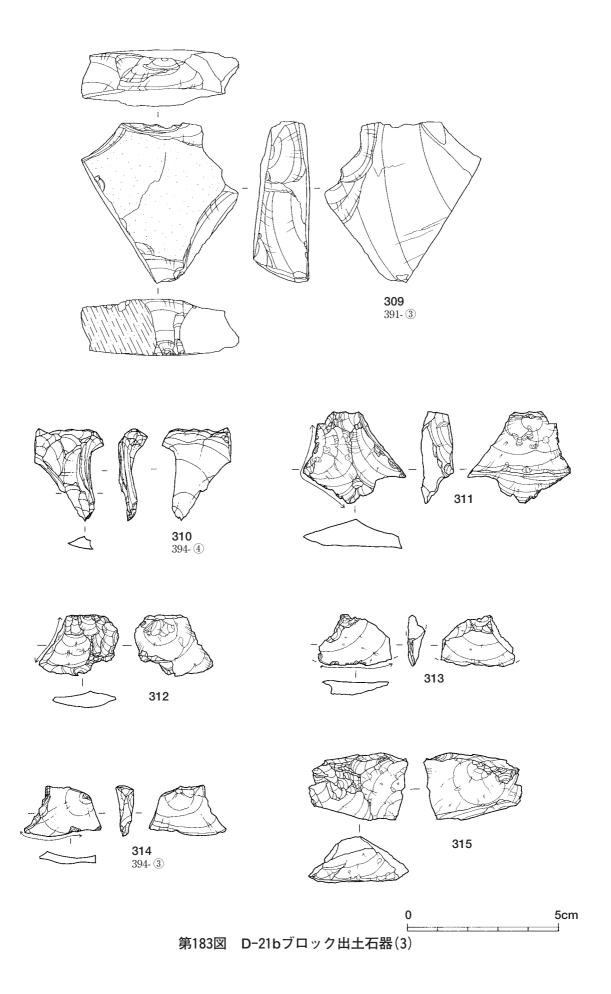




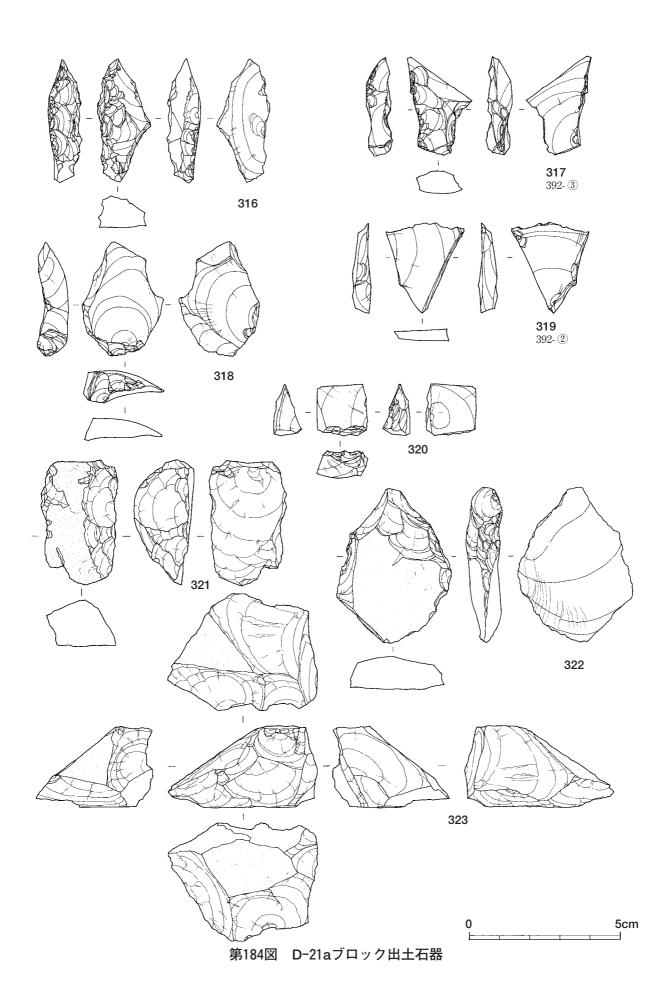
-227-



第182図 D-21bブロック出土石器(2)



-229-



-230 -

326は上牛鼻産黒曜石製で、三角形状の剥片の打面側にブランティングを施したものである。

327は良質な頁岩製剥片にブランティングを二側面に施して、細身の切出し形に仕上げたものである。基部には稜上調整も施されている。328は三船産黒曜石製で先端部のみの破損品である。

329は三船産黒曜石製の剥片を使用しており、平坦な打面を残して一側縁にブランティングを施 したものである。先端部をわずかに欠損している。330は接合資料398の一部であり後述する。

台形石器 (第187図331~334)

331は部分的に赤褐色を帯びた三船産黒曜石製であり、片側縁は急角度のブランティングが施され、他側縁は折断の後に背面側に平坦剥離を行ったものである。石材については黒曜石分析をして三船産黒曜石として判定されている。

332は頁岩製で粗い二次加工により整形したものであり、294との類似から台形石器とした。

333は三船産黒曜石製小型剥片の打面に平坦剥離を施し、末端部は折断したものである。

334は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材とし、剥片の末端部には腹面に平坦剥離を施し、打面側には背面からブランティングを施し、その後背面に平坦剥離を施したものである。

使用痕剥片(第187図335)

335は頁岩製の表皮が残る剥片が使用され、縁辺に著しい使用痕が認められるものである。下半部は折断されている。

25ブロック (第185図)

Dブロック群の中心的な位置である $F \cdot G - 9$ 区にあり、最も石器群が集中している。ブロック内には3 ヶ所の集中部が存在しており、三船産黒曜石を主体とする2 ヶ所と頁岩系石材を中心とするものがある。

ナイフ形石器 (第188図336~189図351)

336は良質な頁岩製で幅広剥片もしくは横長剥片を素材とし、丁寧なブランティングにより二側縁を加工しており、基部は鋭く尖る。刃部には著しい使用痕が認められる。

337も同質の頁岩製幅広剥片を素材としており、剥片末端部に直線的なブランティングを施し、打面側は背面から粗い調整剥離を施している。その後に打面側背面は平坦剥離を行っており、そのチップが接合している。

338も頁岩製で,ブランティングは打面側に直線状に,対向する短辺側にはノッチ状に施されている。339はやや薄い頁岩製剥片を素材とし,全体を三角形状に仕上げている。340・342・343は先端部のみの破損品で,頁岩製である。

341はブランティングが施された直線的な背縁と、折断後に平坦剥離された短辺により短い刃部を有する。

344は幅広剥片をブランティングにより二側縁加工とし、稜上の高い部分は平坦剥離が施されている。345はブランティングにより細身に仕上げられたもので、先端部には使用のためと推定される衝撃剥離が認められる。344・345は三船産黒曜石である。

346は接合資料399の一部であり、347は接合資料403の一部であり後述する。

348~351は三船産黒曜石製のもので、いずれもブランティングが施されたナイフ形石器の破損品である。349の刃部には著しい使用痕が認められる。

台形石器 (第189図352~356)

352は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、打面側にブランティングを施したものである。直線的な刃部に使用痕が認められる。

353は接合資料403の一部であり、354は接合資料404の一部であることから後述する。

355は三船産黒曜石製剥片を折断したものであり、折断面から平坦剥離が施されている。356は三船産黒曜石製のブランティングチップを利用したもので、わずかな調整加工が施されている。

掻器 (第189図357~361)

357は三船産黒曜石製剥片を使用し、末端部に急角度の二次加工を施し刃部としたものである。 358は上牛鼻産黒曜石の剥片を使用し、同様に剥片末端を刃部としたものである。359は幅広剥片の 側縁に急角度の刃部を形成している。半損品である。360は比較的大きな三船産黒曜石の剥片末端 に二次加工を施している。361も半損品であるが、急角度の刃部が形成されている。

スクレイパー (第189図362)

362は三船産黒曜石製で剥片の縁辺に二次加工が施され刃部となっている。

石錐 (第190図)

頁岩製のブランティングチップを利用したもので、二次加工により尖った機能部をもつ。接合資料402の一部である。

使用痕剥片 (第190図305~368)

いずれも鋭い縁辺に使用痕が認められるものである。これは全て接合資料400を構成するものであり、後述する。

石核 (第190図363・369・370)

363は厚みのある剥片素材であり、図の右側面が作業面に、表面が打面となる。幅広剥片が剥離されている。三船産黒曜石製である。

369は平坦な打面から、全周囲に幅広剥片が剥離されているものである。また底面にも剥離面が みられ、打面そのものも剥離面であり打面転移をひんぱんに行ったものである。三船産黒曜石製。

370はたんぱく石製であり、全面が剥離面で構成されている。一部に礫皮面が残る。全ての剥離 面で幅広剥片が剥離されている。

28ブロック

G - 9 に位置しており、25ブロックの南側にある。径約 3 m程度の円形に広がるもので、石材は 頁岩剥片が主体である。

ナイフ形石器 (第191図371)

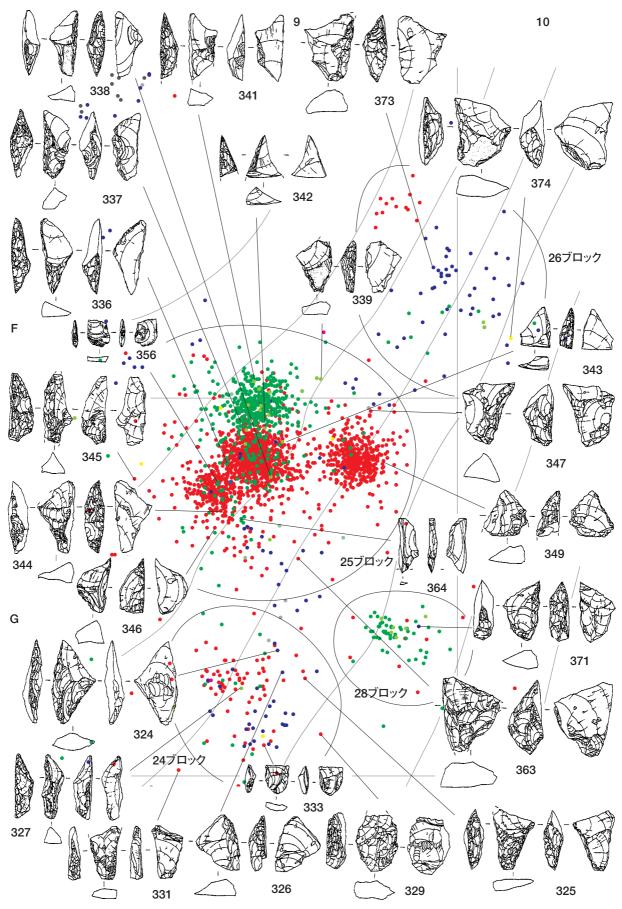
371は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材とし、ブランティング加工により二側縁加工ナイフとしている。

台形石器 (第191図372)

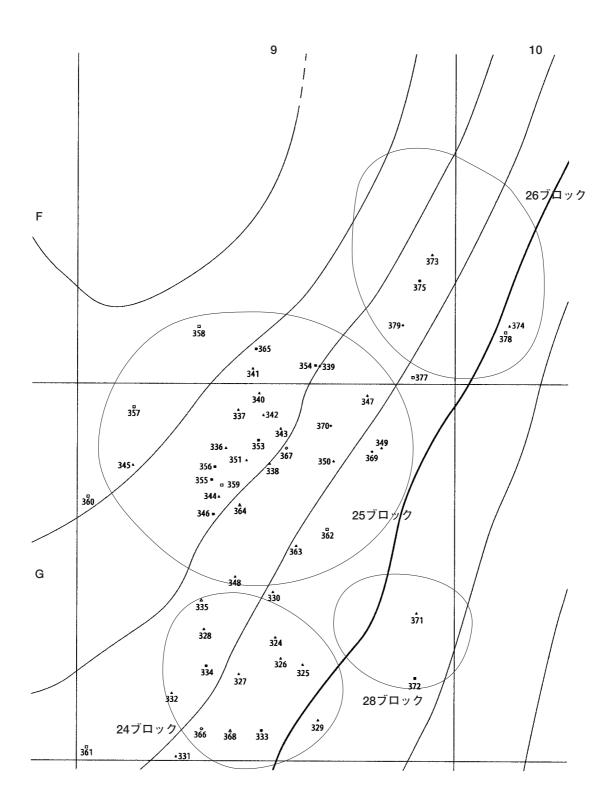
三船産黒曜石の剥片を使用しており、折断部にわずかなブランティングが施されている。刃部に は使用痕が認められる。

26ブロック

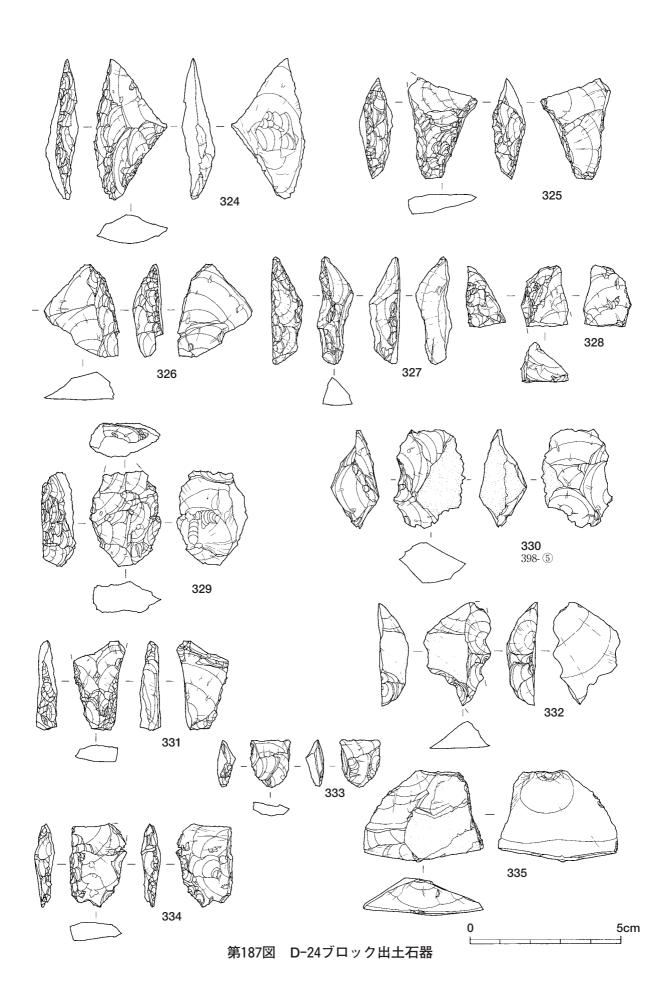
F-9・10区で、25ブロックの東側に位置している。径約5mほどの分布域に石器群はやや散在

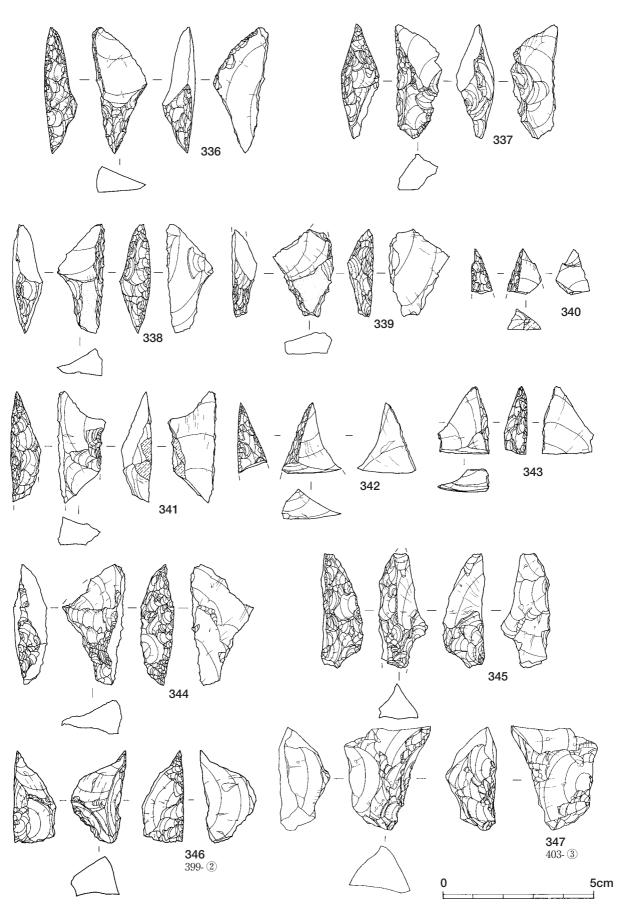


第185図 D-24・28・25・26ブロック主要石器出土分布図

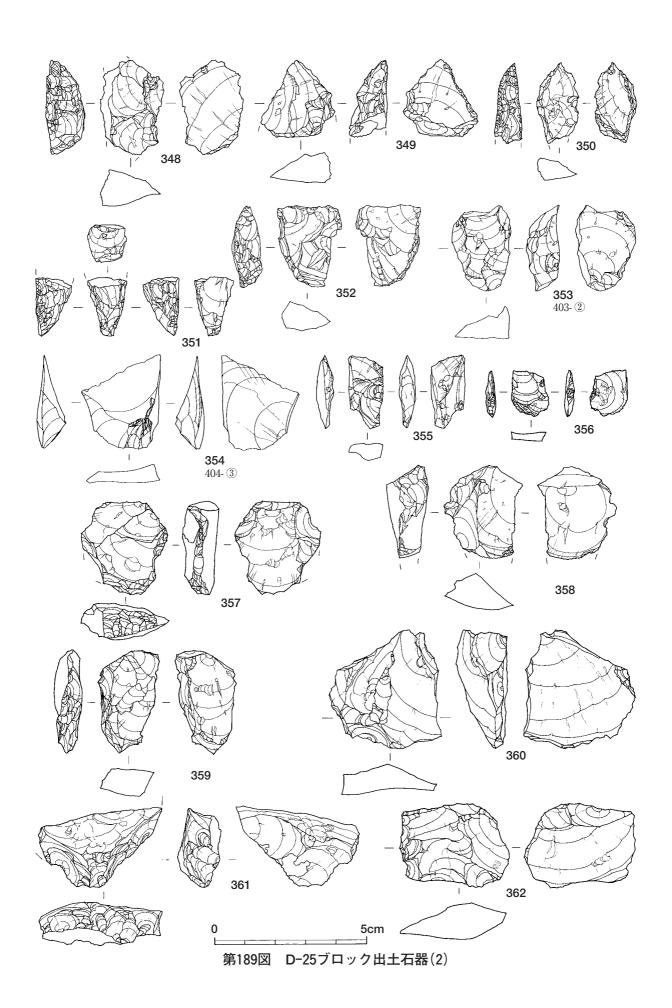


第186図 D-24・28・25・26ブロック器種別分布図

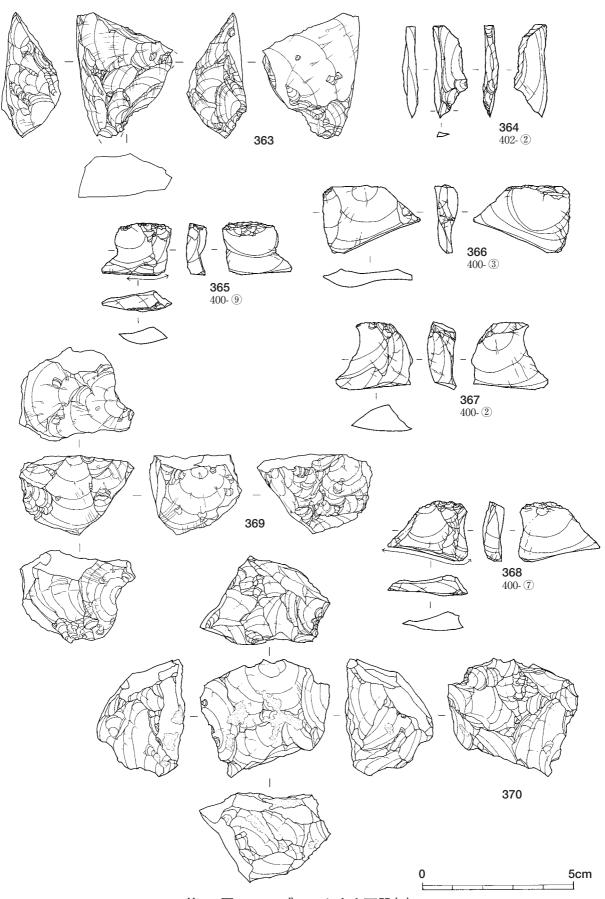




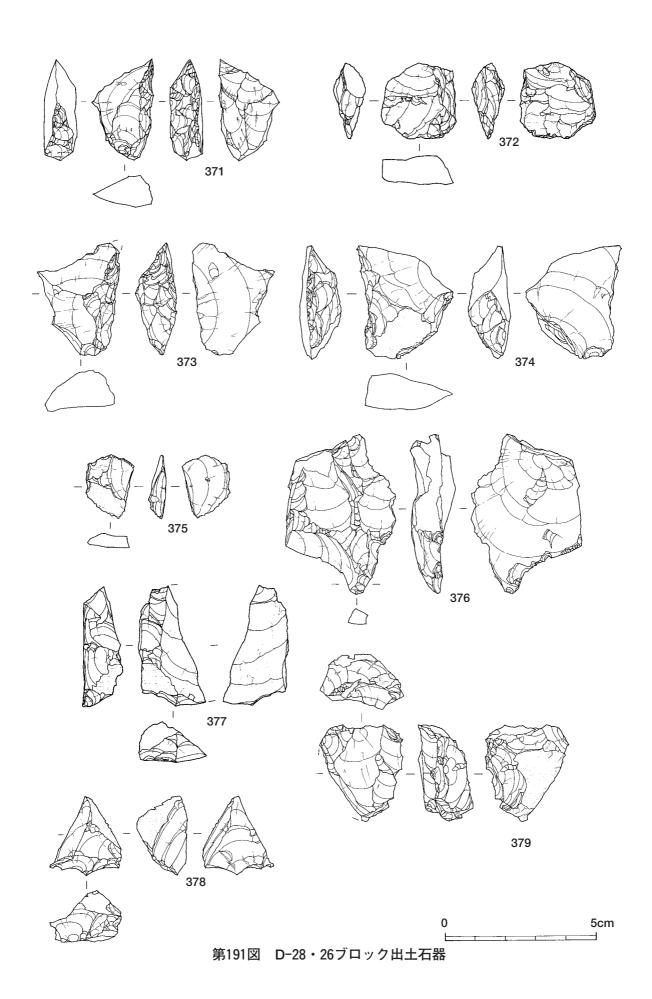
第188図 D-25ブロック出土石器(1)



-237-



第190図 D-25ブロック出土石器(3)



-239 -

的に分布している。石材は上牛鼻産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第191図373~374)

373は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材とし、打面部を断ち切るようなブランティングを直線的に施したものである。

374は鉄石英製の幅広剥片を素材とし、鋭い縁辺を刃部として残し、他の縁辺に粗いブランティングを施したものである。打面部にもブランティングが行われている。

台形石器 (第191図375)

375は上牛鼻産黒曜石の小型剥片を使用し、打面部を折断して、末端にわずかな調整加工が認められるものである。

石錐 (第191図376)

376は頁岩製の剥片を使用しており、三角形状の先端部の縁辺に細かい二次加工を施して機能部を形成したものである。

掻器 (第191図377・378)

377は上牛鼻産黒曜石製の縦長剥片を利用し、剥片末端に急角度の粗い二次加工を施して刃部としたものである。378も急角度の刃部が形成されたものである。

石核 (第191図379)

石材は上牛鼻産黒曜石であり、背面に自然面が残る。石核の最終面と考えられ、正面で小型の剥 片が剥離されており、正面の剥離面を打面として、側面で幅広剥片が最後に剥離されている。

32ブロック

E・F-8区に位置しており、径約8m程度の広さに石器群は散在的に分布している。石材は上 牛鼻産黒曜石が主体である。

台形石器 (第94図380)

玉髄質の小型剥片を使用したもので、両側縁にブランティングが施されている。打面部には背面 に平坦剥離も行われている。使用痕が著しい。

スクレイパー (第194図381~383)

381は安山岩製の小型剥片を使用したものであり、側縁に二次加工が施され刃部となっている。 382は上牛鼻産黒曜石の剥片を素材としており、剥片末端に二次加工が施されている。なお、この裏面にも二次加工が認められており、これを平坦剥離と考えると台形石器の可能性もある。

383は玉髄製剥片の縁辺に二次加工が認められる。

石核 (第194図384)

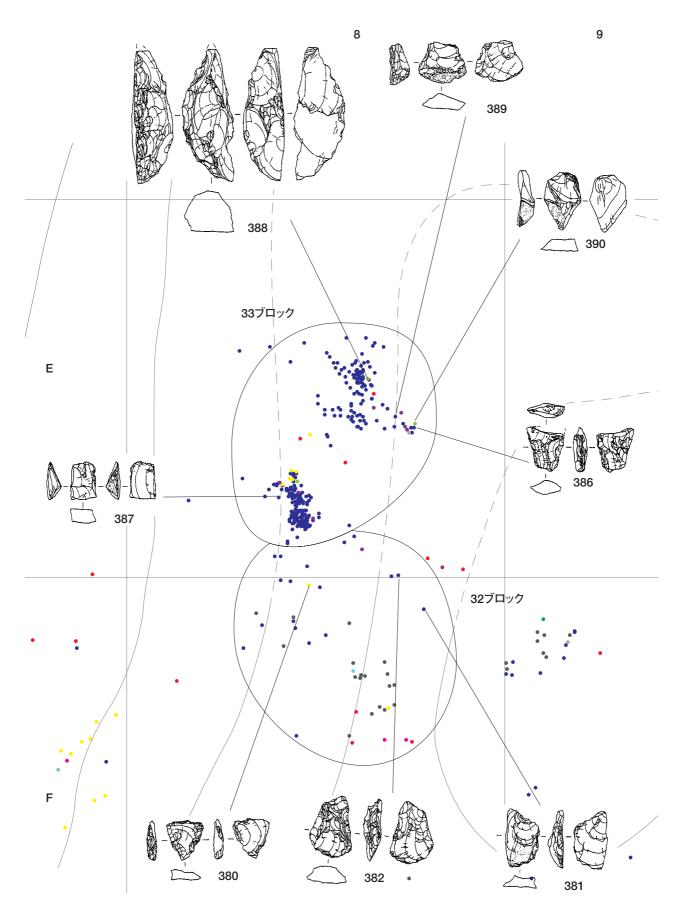
玉髄質の石材であり、平坦な節理面を打面にして、小型の縦長剥片が剥離されている。

敲石 (第194図385)

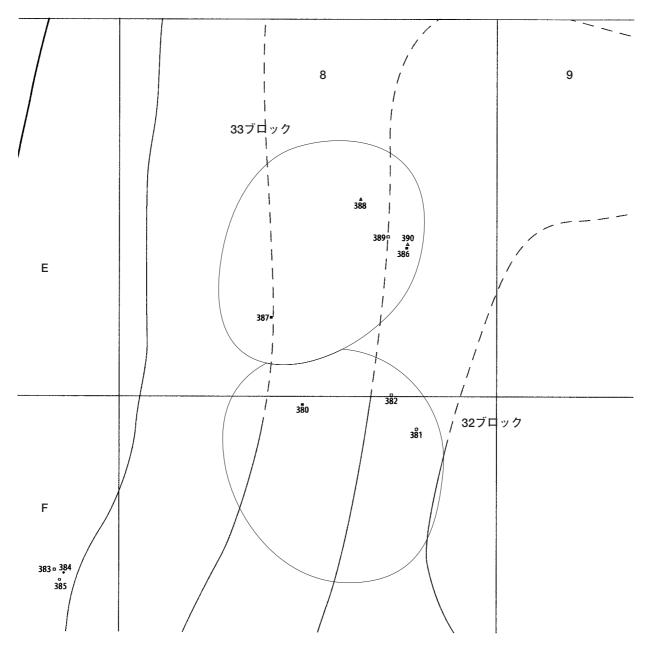
砂岩製の礫を使用しており、端部には使用痕と、使用による剥離痕が認められる。全長 7 cm を測る。

33ブロック

E-8 区で、32 ブロックの東側に位置している。径約 7 m程度の分布をもつ。分布している石材は上牛鼻産黒曜石が主体である。



第192図 D-32・33ブロック主要石器出土分布図



第193図 D-32・33ブロック器種別分布図

台形石器 (第194図386・387)

386は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材としたもので、両側縁は平坦剥離により整形されているものである。387は安山岩の縦長剥片を折断したものである。

掻器 (第194図388)

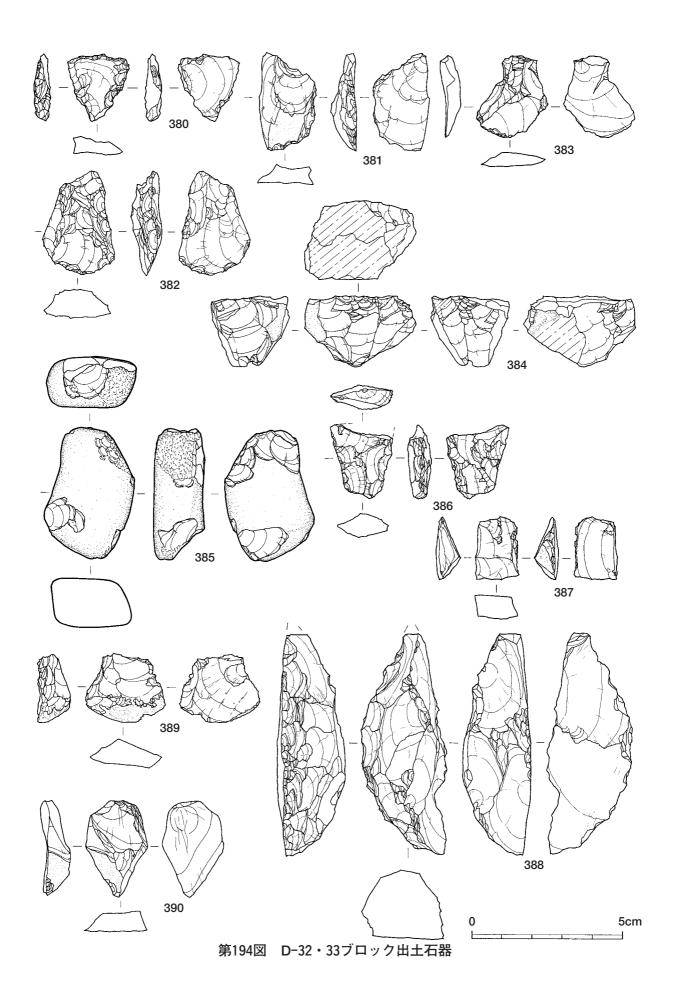
頁岩製で、大型の幅広剥片を素材とし、左側縁には鋸歯状の粗い二次加工を施している。右側縁は剥片剥離の痕が残り、石核としても利用されている。

スクレイパー (第194図389)

389は上牛鼻産黒曜石の小型剥片を利用し、縁辺に二次加工を施している。

石錐 (第194図390)

頁岩製剥片の尖った先端部に細かい二次加工が施されている。



-243-

Dブロック群接合資料

Dブロック群の接合資料は、第200図と206図・207図で示しているが、接合は各個別ブロック内で 収束するものだけでなく、近辺のブロックと接合するものもみられた。また、ブロック群を大きく 超えて他のブロックと接合するものもある。

接合全体図は第208図で示したが、これには図化していない接合資料をも含んでいる。全体的に24・25ブロックの接合が多い。

接合資料391 (第195図)

頁岩を石材とするものである。石核と剥片の接合であり、①はその接合全体図である。素材は片面に自然礫皮面を有する板状の剥片である。この板状の素材を石核として、小型の横長剥片が剥離されている。②はその一つである。

③の石核は尖った端部に細かい二次加工が施され、掻器とされている。

接合資料392 (第195図)

石材は頁岩である。21ブロックから出土したナイフ形石器と台形石器の接合資料である。①は接合図であり、裏面からわかるように、一つの石核から打面を変えて剥離されたものである。

先に剥離された剥片は、長辺側に平坦剥離が施され、短辺には腹面からのブランティングが施されて基部とされ、③のナイフ形石器となる。次に剥離された剥片は打面を折断されて②の台形石器とされている。

接合資料393 (第196図)

石材は頁岩である。21ブロックから出土した台形石器とそのリダクション剥片の接合である。

①は接合全体図であり、すでに台形石器の形状に近い。右側縁は② \rightarrow 3 \rightarrow 9 \rightarrow 5 \rightarrow 6の順に剥離されている。これはリダクションの可能性が高い。

左側縁からの⑦・⑧は最初のブランティングであろう。

接合資料394 (第196図)

鉄石英が石材である。21ブロックから出土した剥片等の接合であり、内部に石錐を含んでいる。最初に打面部の剥片剥離が行われ、次に③の剥片が剥離される。これは使用痕剥片とされている。その後、 $2 \sim 3$ 枚の剥片が剥離された後で、打面を変えて④の剥片が剥離されている。これは片面付近に細かい二次加工を施して機能部を形成している。

接合資料395 (第197図)

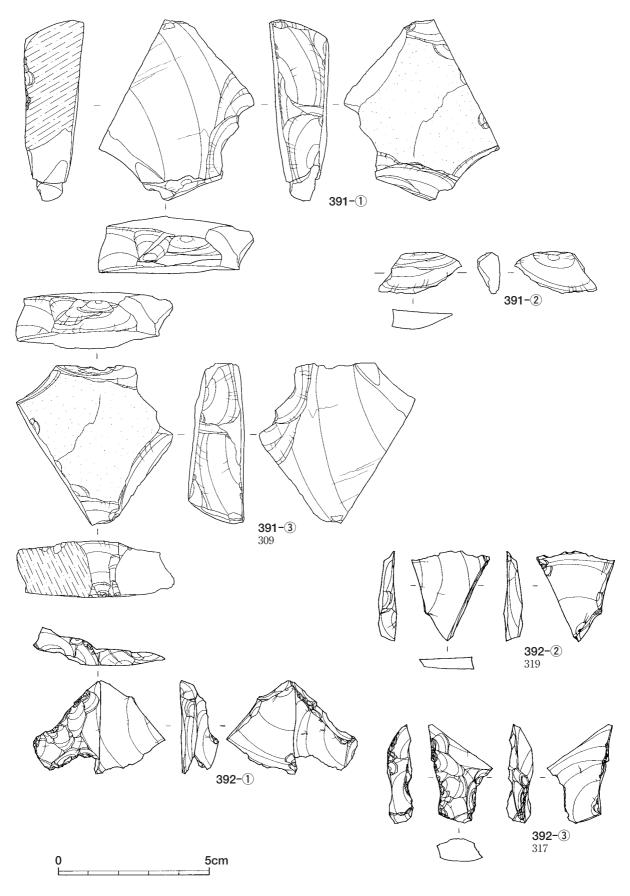
石材は三船産黒曜石である。21ブロックから出土した石核と石核の接合である。①はその接合図であり、①が分割した後にも②では、剥片剥離が行われている。前後関係は明確でないが、②からも幅広剥片が剥離されている。

接合資料396 (第197図)

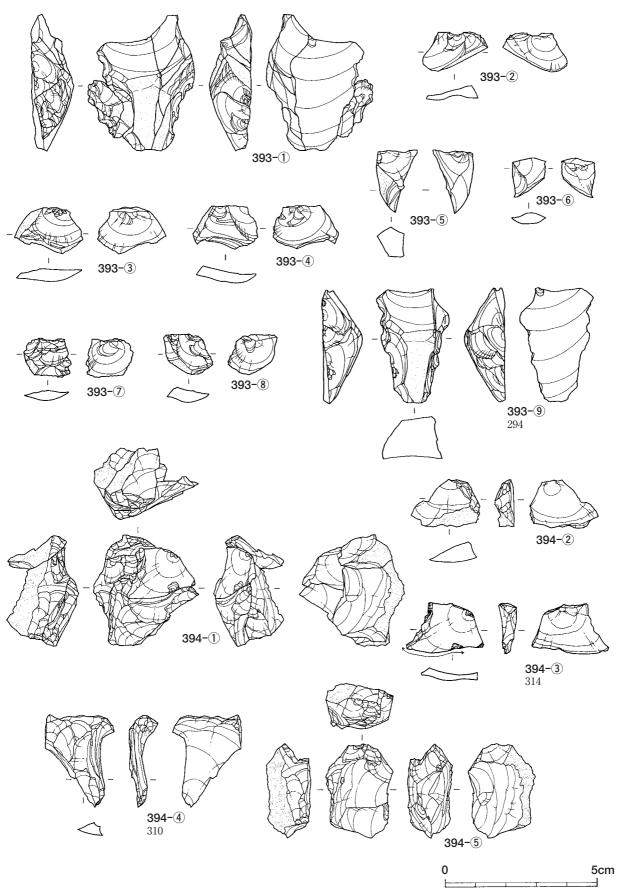
上牛鼻産黒曜石が石材である。21ブロックから出土した石核の接合である。なお、実測図作成・レイアウト後に、他の剥片と別の石核片が接合した。写真図版で示している。いずれの部分も幅広の剥片が剥離されている。

接合資料397 (第198·199図)

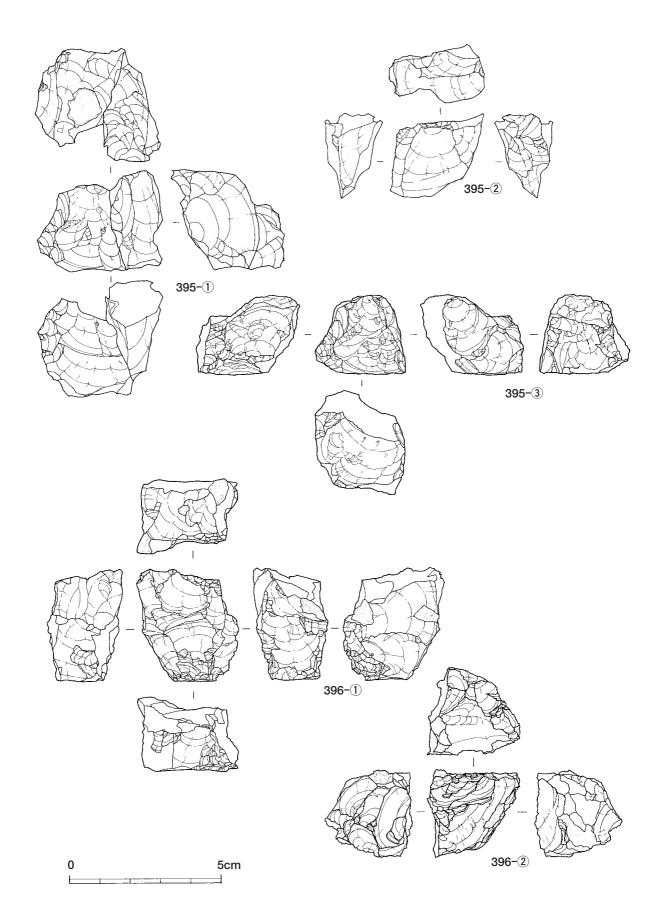
石材は頁岩である。21ブロックから出土した石核2点と剥片の接合資料である。



第195図 D-接合資料図(1)

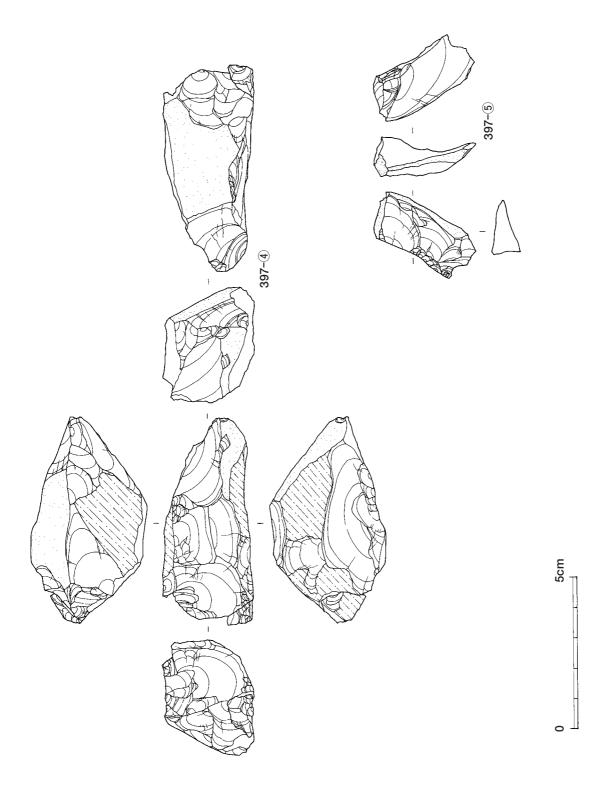


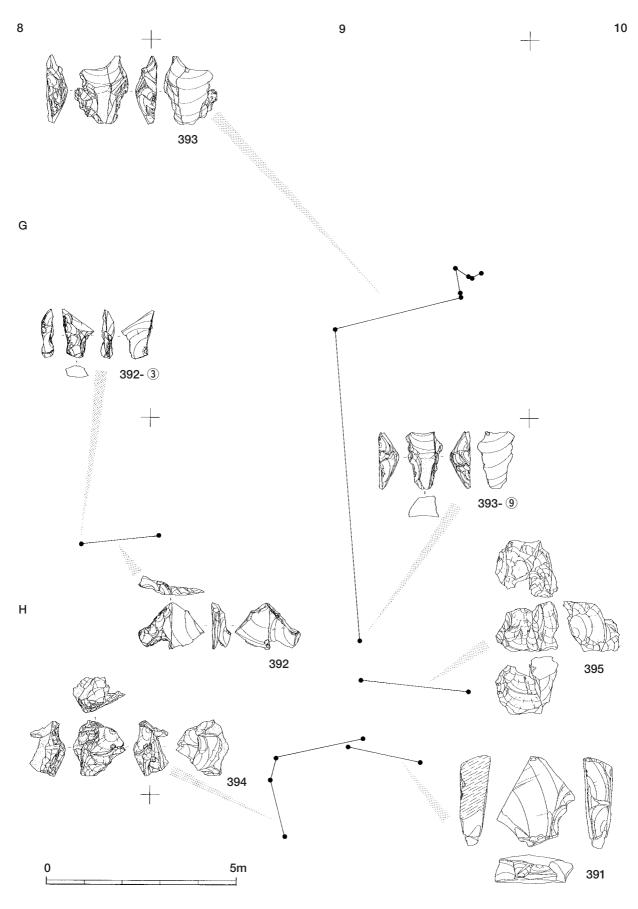
第196図 D-接合資料図(2)



第197図 D-接合資料図(3)

-248-





第200図 D-接合資料分布図(1)

- ①はその接合全体図である。まず円礫は節理面から分割されて②と④の石核になる。
- ②の石核からは③の幅広剥片が剥離されている。
- ④の石核は平坦な自然面と平坦な節理面を打面にして幅広剥片が多く剥離されている。⑤は④から剥離された不整形剥片である。

接合資料398 (第201図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。24ブロックから出土した剥片やチップの接合資料である。①がその接合図である。一枚の剥片が中間で分割され、打面側の部分②は二次加工が施され、③と④が剥離されて⑤のナイフ状の石器ができている。

接合資料399 (第201図)

石材は三船産黒曜石であり、25ブロックから出土したナイフ形石器と剥片の接合資料である。それぞれ打面が異なる剥片である。

接合資料400 (第207図)

石材は良質な頁岩である。25ブロックから出土したものである。平坦な節理面を上面と下面にもつ板状の剥片から剥離されたものである。剥片の形状から、これらはブランティングチップと理解される。しかし、比較的大きな②・③・⑦・⑨は使用痕剥片として利用されている。

接合資料401 (第203図)

これも先の400と同質の頁岩である。25ブロックから出土した。①は全体の接合図である。これは意図した剥片剥離か、あるいはブランティングチップの接合か明確ではない。このうち②は横長剥片の形態をもつもので注意される。

接合資料402 (第203図)

これも先と同様の頁岩製であり、25ブロックから出土したものである。剥片の形状からブラン ティングチップと推定される。このうち②は二次加工が施され石錐とされている。

接合資料403 (第204図)

石材は三船産黒曜石である。25ブロックから出土した台形石器とナイフ形石器の接合資料である。①は全体の接合図であり、元は一枚の三角形の剥片であった。その打面近くから②が剥離されて、一部に調整を受け台形石器とされている。

残った剥片は、②の剥離面を打面にして①の腹面を剥離し、その後にブランティングを施して、 ③のナイフ形石器となっている。

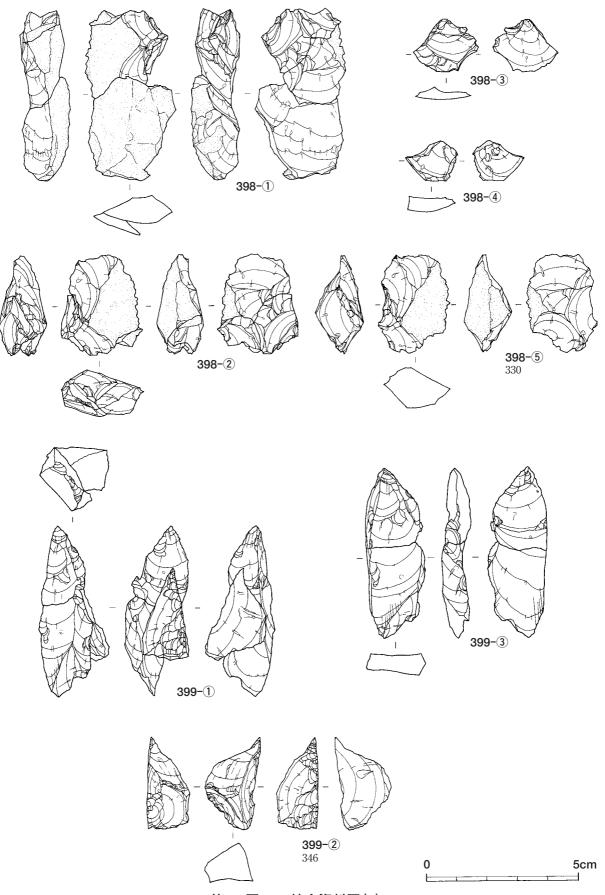
接合資料404 (第204図)

石材は頁岩である。25ブロックから出土した台形石器と剥片の接合資料である。

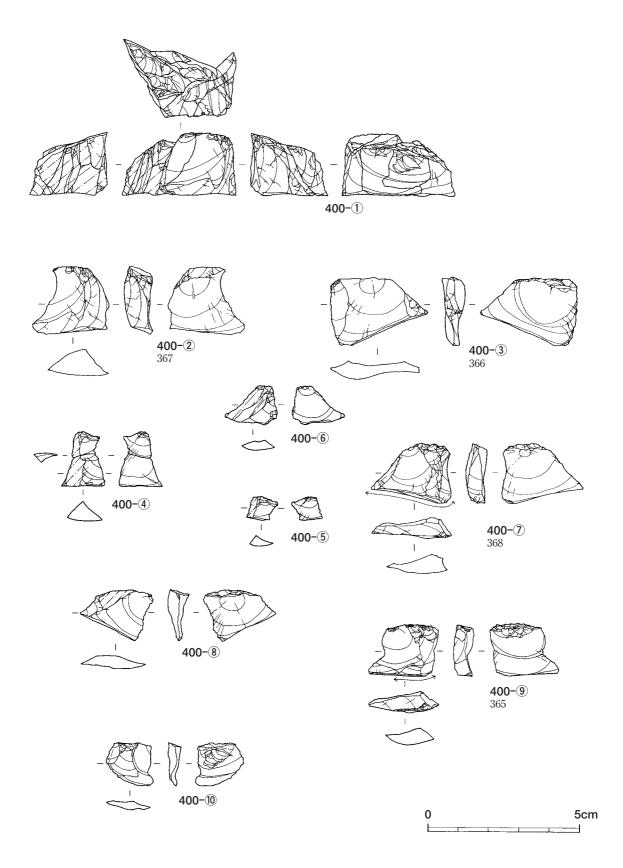
①の接合図で、これは剥片剥離時の打撃により分割したものであり、この接合により③が分割された後に、分割面に調整が施されているのが理解できた。

接合資料405 (第205図)

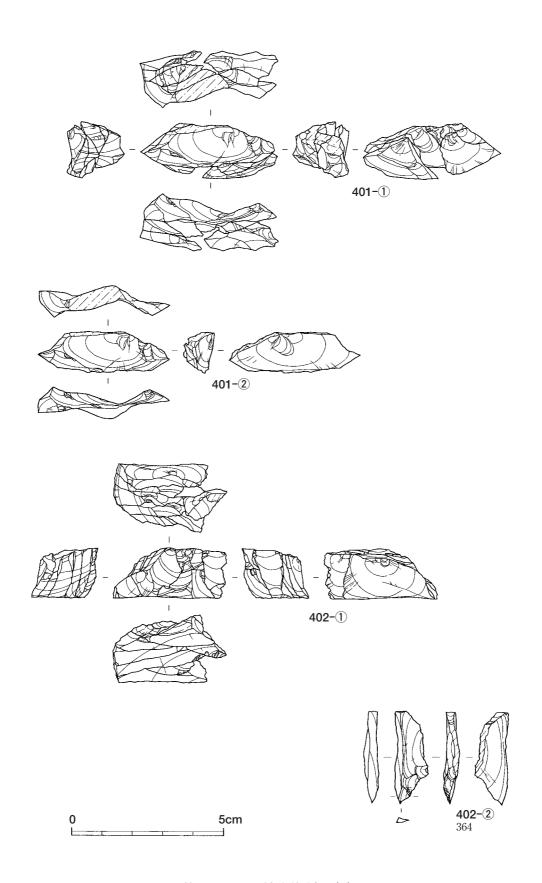
石材は頁岩である。26ブロックから出土した石核と剥片の接合資料である。剥片はいずれも横長 剥片が求心状に剥離されている。



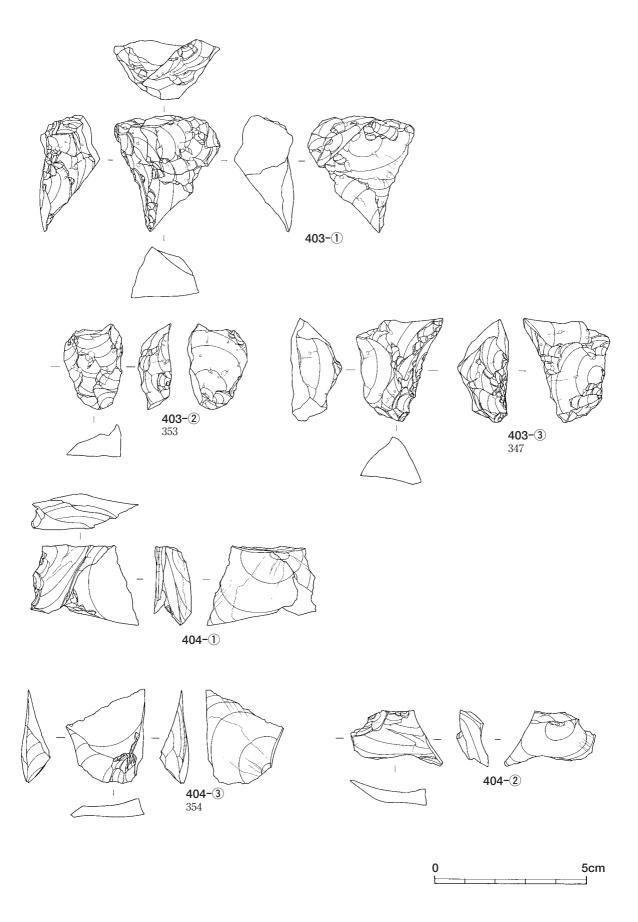
第201図 D-接合資料図(6)



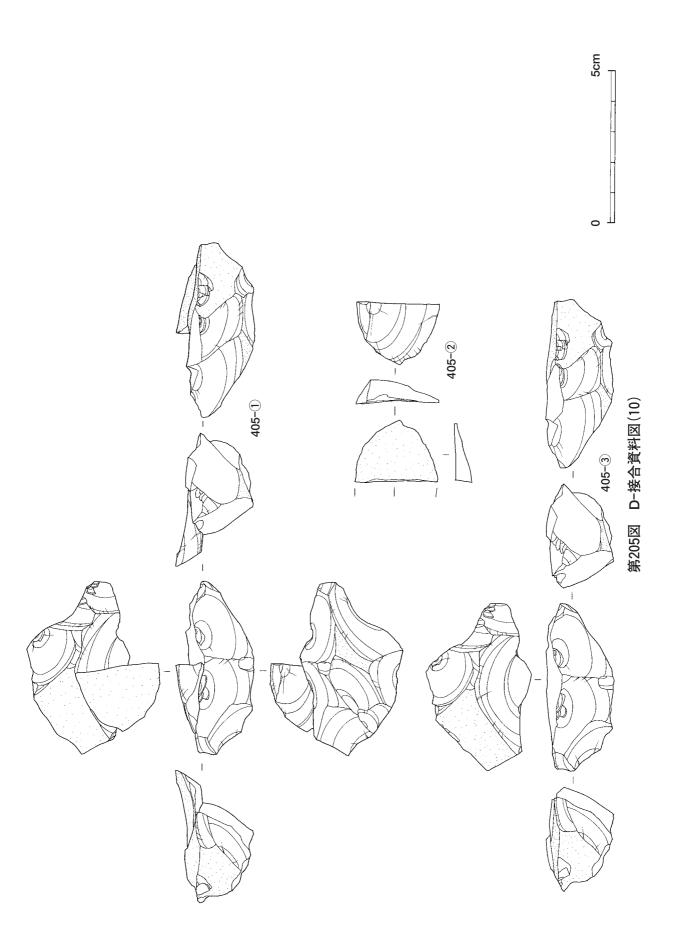
第202図 D-接合資料図(7)

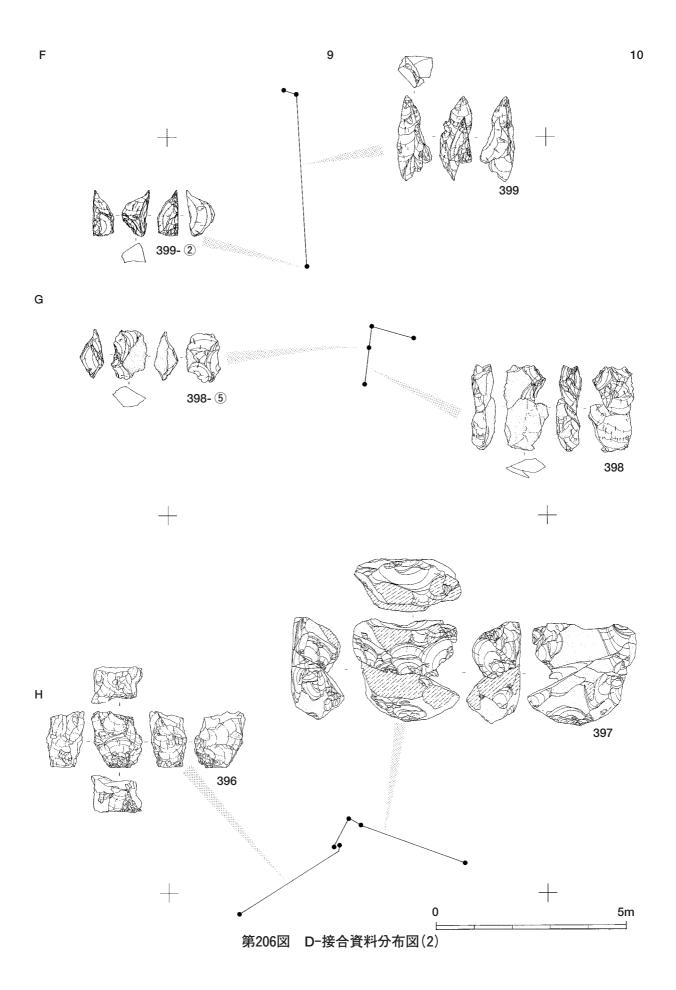


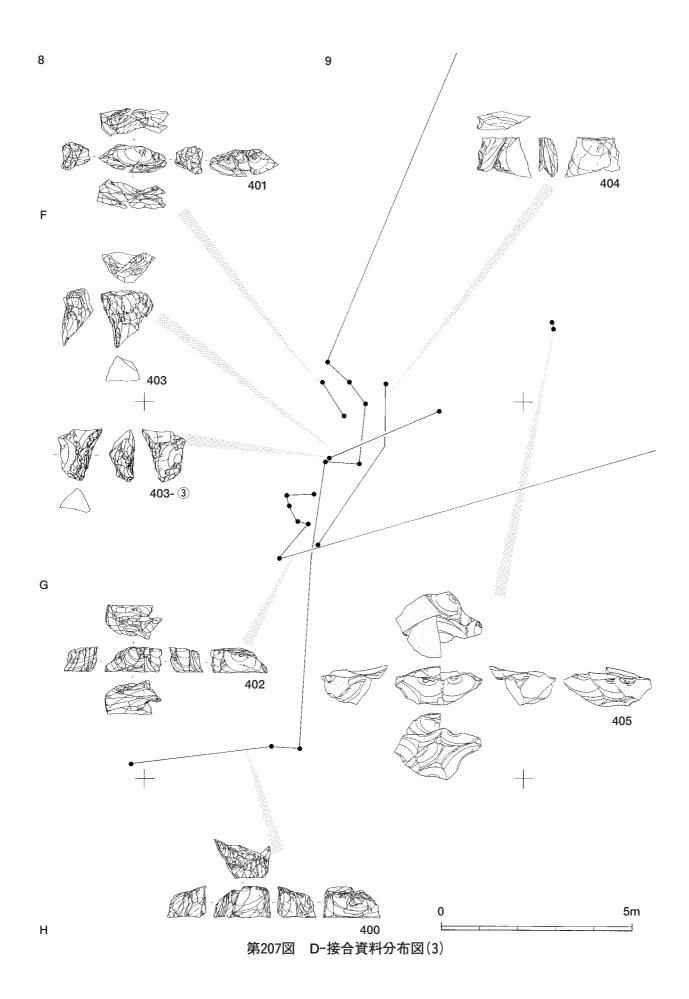
第203図 D-接合資料図(8)

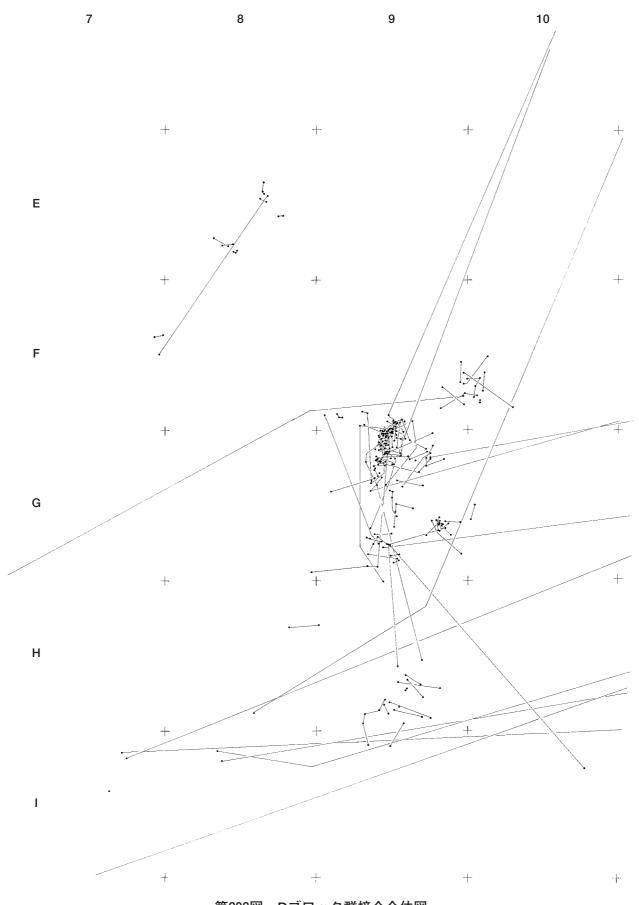


第204図 D-接合資料図(9)









第208図 Dブロック群接合全体図

5. Eブロック群の石器群

調査区全体のなかの北西部に位置する、 $G \sim K - 5 \sim 8$ 区の調査区域で、Dブロック群の西側にあるブロックのまとまりをEブロック群として識別した。

Eブロック群は、Dブロック群やFブロック群とも離れた位置にある。Eブロック群は調査時は一つの22ブロックとして認識していたもので、今回分布図を作成・検討した結果、そのなかに認められる多くの集中部をブロックとし、新たに、22ブロックと、41~49ブロックとに細別した。

石材的には個別の小ブロックが、上牛鼻産黒曜石を主体とするものと、三船産黒曜石を主体とするものと分かれて存在している。

22ブロック (第210・211図)

G-7・8区に位置しており、径約8m程度のなかに比較的散在的に分布している。石材は上牛 鼻産黒曜石と三船産黒曜石が認められる。

ナイフ形石器 (第212図406~409)

406は頁岩製の幅広剥片を素材とし、ブランティング加工を打面部の長辺は直線的に、対向する短辺はややノッチ状に施し、切出し形に仕上げたものである。

407は上牛鼻産黒曜石製であり、ブランティング加工により二側縁加工ナイフとしている。長辺 部は背面に平坦剥離も行っている。

408は縦長剥片を素材として使用し、ブランティングは一側縁のみに施されている。平坦な打面がわずかに残存している。石材は黒曜石分析の結果、三船産黒曜石と判定された。

409は良質な珪質頁岩製の縦長剥片を使用しており、粗いブランティングを二側縁に施して基部を形成している。先端部は先細りの剥片の形状を生かしているが、腹面側に丁寧な二次加工が施されている。

削器 (第212図410~411)

410は末端に自然礫皮面が残る上牛鼻産黒曜石製の縦長剥片を使用し、両側縁に二次加工を施して刃部としたものである。411も同様の上牛鼻産黒曜石製剥片の鋭利な縁片に二次加工を施して刃部としたものである。

掻器 (第212図412)

412は上牛鼻産黒曜石の剥片の末端に急角度の二次加工を施して刃部としたものである。上半部 を欠損している。

彫器 (第212図413)

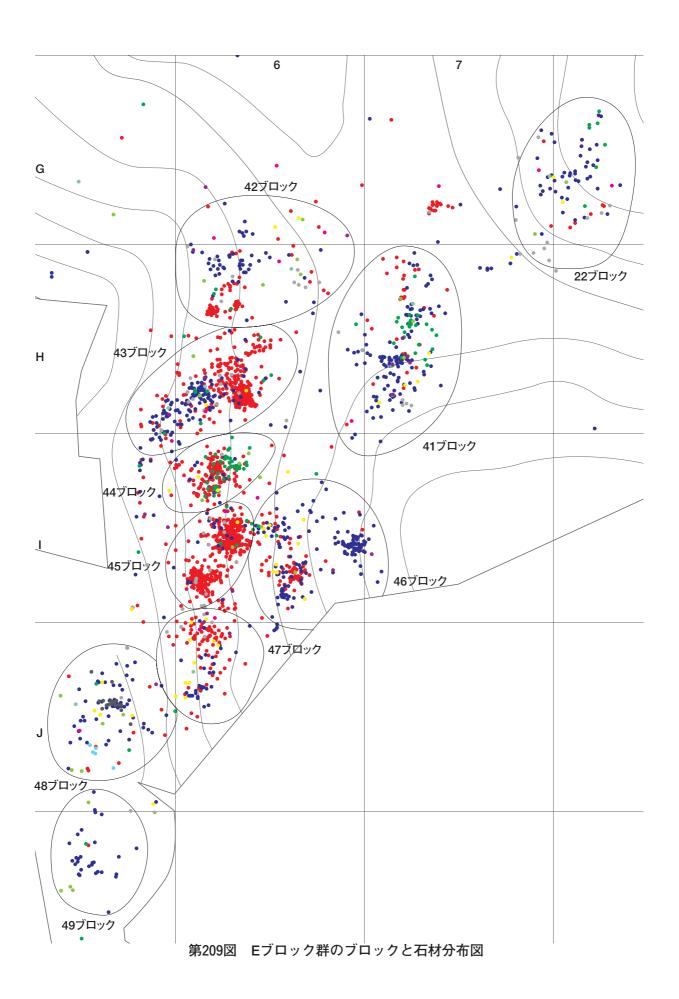
413は上牛鼻産黒曜石の剥片を使用しており、その小口部分に打面から樋状剥離を施したものである。

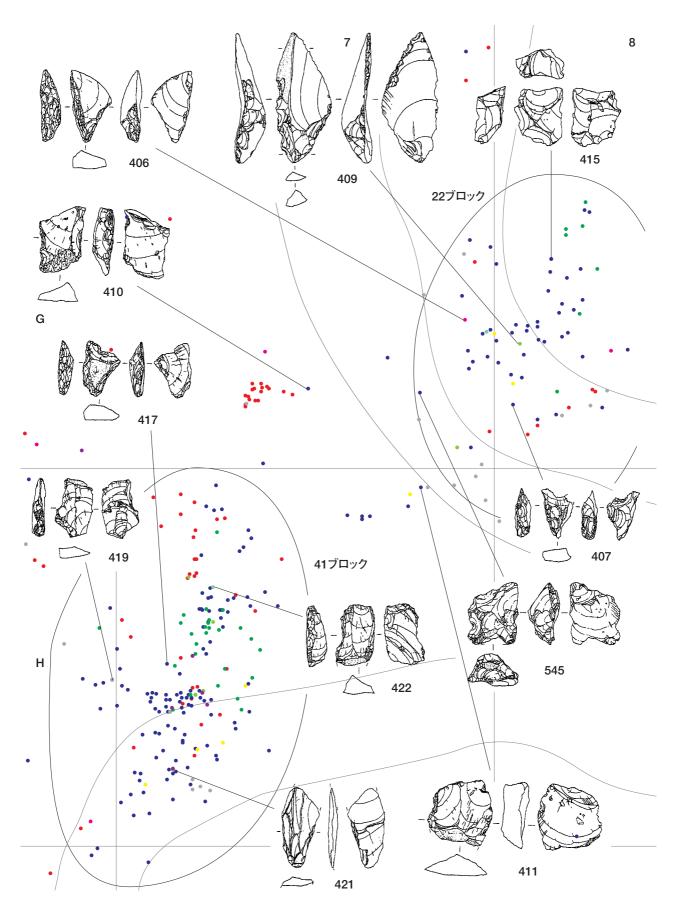
石核(第212図414~416)

414は底面に自然面が残る上牛鼻産黒曜石製で、平坦な打面から縦長剥片が正面及び両側面で連続的に剥離されている。

415は同様に上牛鼻産黒曜石製で,厚手の剥片を使用しており,腹面を求心的に剥離している。裏面にも剥離面がある。

416は玉髄製で、小型の剥片を連続的に剥離している。

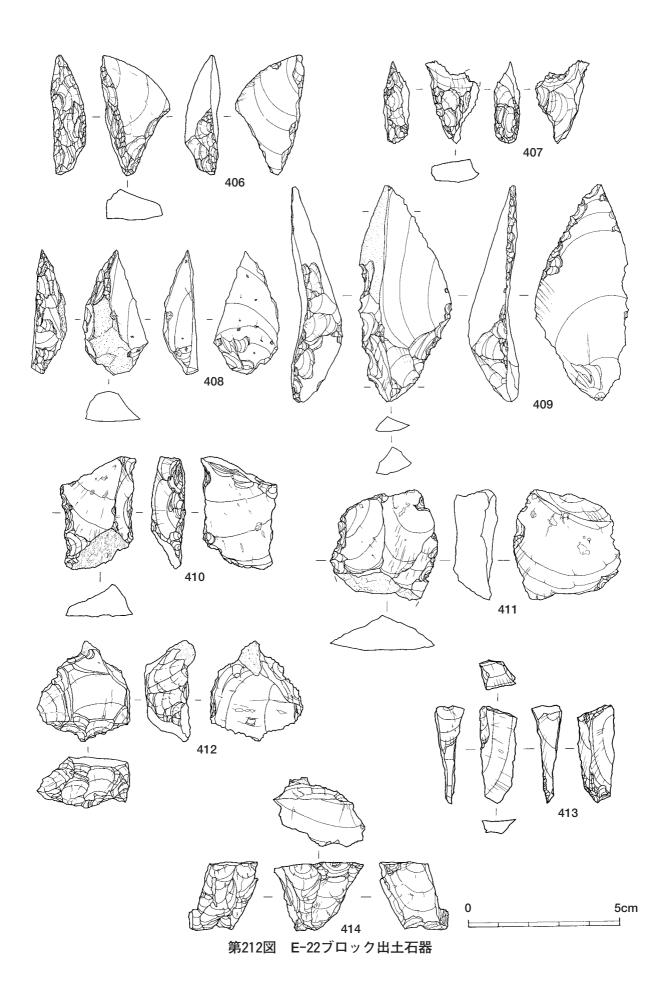




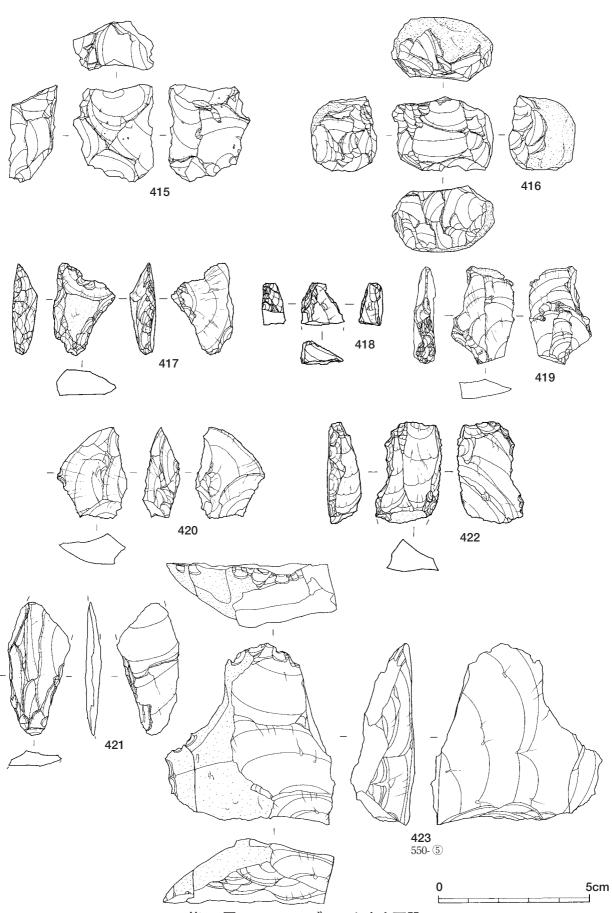
第210図 E-22・41ブロック主要石器出土分布図



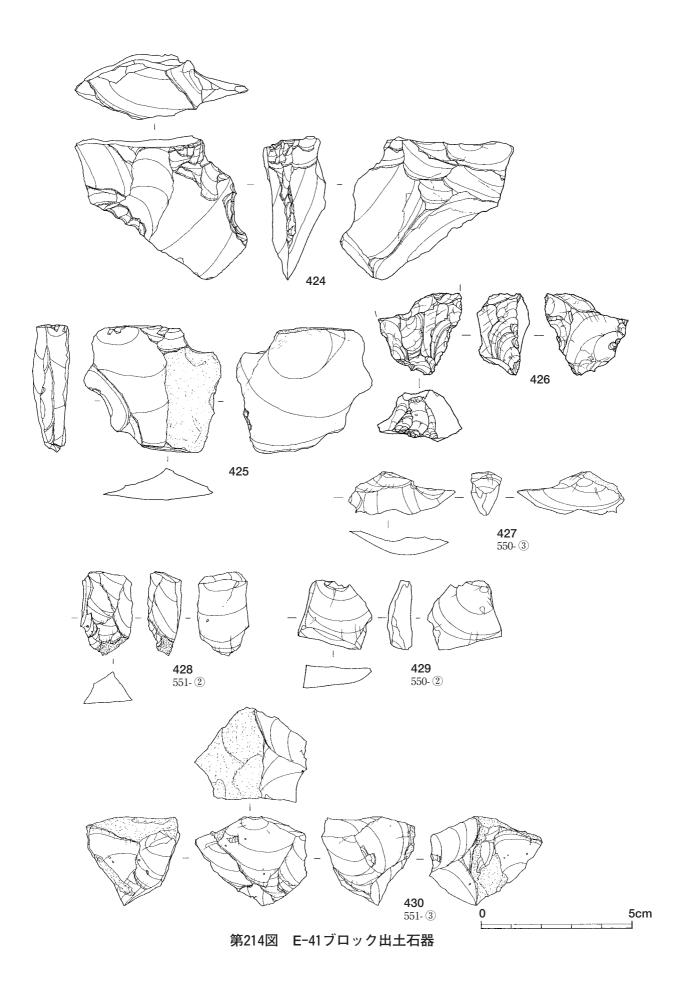
第211図 E-22・41ブロック器種別出土分布図



-264 -



第213図 E-22・41ブロック出土石器



41ブロック

 $H-6\cdot7$ 区に位置しており、径約 10×7 mほどの楕円形のなかに分布範囲をもつ。石材は多種のものが分布している。

ナイフ形石器 (第213図417~420)

417は上牛鼻産黒曜石の幅広剥片を素材とし、ブランティングにより二側縁加工の切出し形に仕上げたものである。刃部には使用痕が著しい。418は先端部のみの欠損品である。石材は上牛鼻産黒曜石である。419は上牛鼻産黒曜石の縦長剥片を素材とし、打面近くの片側にブランティングを施したもので、尖った先端部はない。

420は頁岩製の横長剥片を使用し、打面近くにわずかな調整を施したものである。

尖頭器 (第213図421)

421は粘板岩状に薄く節理面で剥離された頁岩を使用し、縁辺に二次加工を施して整形したものである。基部のみの欠損品である。

削器 (第213図422~214図425)

422は凝灰岩の剥片を素材として側辺に二次加工を施して刃部としたものである。423は比較的大型の安山岩剥片を使用し、縁辺に二次加工が施されたものである。

424は良質の頁岩剥片を使用し、縁辺に二次加工をノッチ状に施したものである。425は自然礫皮 面が残る頁岩製の幅広剥片を利用したもので鋭い縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。

二次加工のある石器 (第214図426)

426は上牛鼻産黒曜石の厚手の剥片に二次加工が認められるものである。

使用痕剥片 (第214図427~429)

いずれも縁辺に使用痕が認められるものである。427・429は接合資料550の一部であり、428は接 合資料551の一部である。後述する。

石核 (第214図430)

430は上牛鼻産黒曜石製であり、一部に自然礫皮面が残存しており、剥片素材の可能性がある。 この石核からは小型の幅広剥片や縦長状の剥片が求心的に剥離されている。

42ブロック (第217図)

G・H-6区に位置しており、径約8m程度の範囲に分布する。石材的には北西側の上牛鼻産黒曜石を主体とするまとまりと、南東部の頁岩系石材による散在的な分布とに区別できる。器種的にも両者は区別でき、ブロックとしては本来区別すべきものであろう。

台形石器 (第215図431~432)

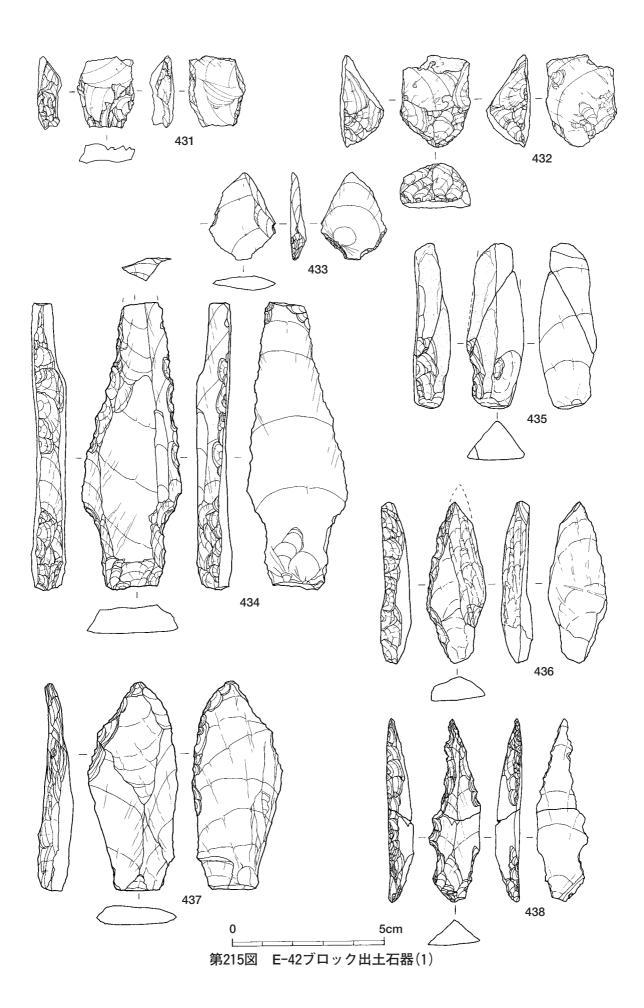
431は上牛鼻産黒曜石の剥片を素材とするものであり、打面側にブランティングを施し、他の側縁は折断後に粗い調整を施したものである。432は一側縁を折断した台形石器と認識したが、レイアウト後に接合してナイフ形石器の一部になった。接合資料559の一部であり後述する。

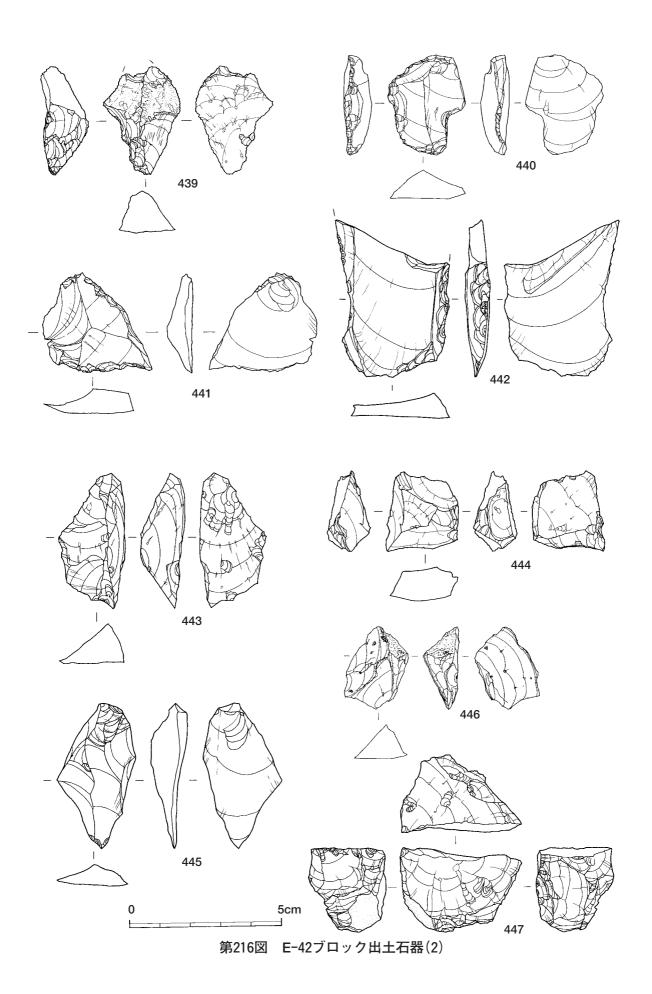
ナイフ形石器 (第215図433)

433は玉髄製の斜軸剥片を素材とし、基部近くに細かい二次加工が認められる。

剥片尖頭器 (第215図434~436)

安山岩製の大型縦長剥片を素材とするもので、平坦な打面を残して打面近くの両側縁をノッチ状





-269-

に二次加工を施したものである。また先端部近くの両側縁にも二次加工が施されている。先端部を わずかに欠損している。

435・436は黄褐色を呈する風化が著しい頁岩を使用したものであり、435はノッチ状の基部加工があり、436は片側縁の二次加工が施されている。

部分加工ナイフ形石器 (第215図437)

437は黄褐色に風化した頁岩製であり、縦長剥片を素材として剥片の形状をそのまま利用しており平坦な打面も残っている。先端部付近に二次加工が施されている。

尖頭器 (第215図438)

438は頁岩製であり、縦長剥片を素材として使用し、打面近くは細かい二次加工によりノッチ状に施して基部としている。先端部は比較的粗い二次加工を鋸歯状に施している。尖端は鋭く尖らしている。

掻器 (第216図439)

石材は上牛鼻産黒曜石製である。幅広剥片を使用し、打面部に粗い二次加工を施して刃部としている。当初ナイフ形石器と考えていたが、加工された刃部の使用痕が典型的な掻器と共通していたことから掻器とした。

スクレイパー (第216図440~442)

440は上牛鼻産黒曜石の剥片を使用し、鋭利な縁辺に二次加工を施して刃部としたものである。 一部はノッチ状になっている。接合資料552の一部であり、後述する。

441は宮ノ上産と推定される良質な頁岩製の幅広剥片を使用したもので、剥片末端に細かい二次加工を施して刃部としている。

442は粘板岩状に薄く剥がされた頁岩剥片が使用され、鋭利な縁辺に二次加工が施されたものである。上半部を欠損している。

使用痕剥片 (第216図443~446)

443~446は剥片の鋭利な縁辺に使用痕が観察されるものである。443・446は三船産黒曜石を石材とするもので、444は上牛鼻産黒曜石製である。446は接合資料561の一部であり後述する。

445は良質な頁岩製であり、先端部には細かい使用痕が認められ、また斜刃の部分にも細かい使用痕が観察される。

石核 (第216図447)

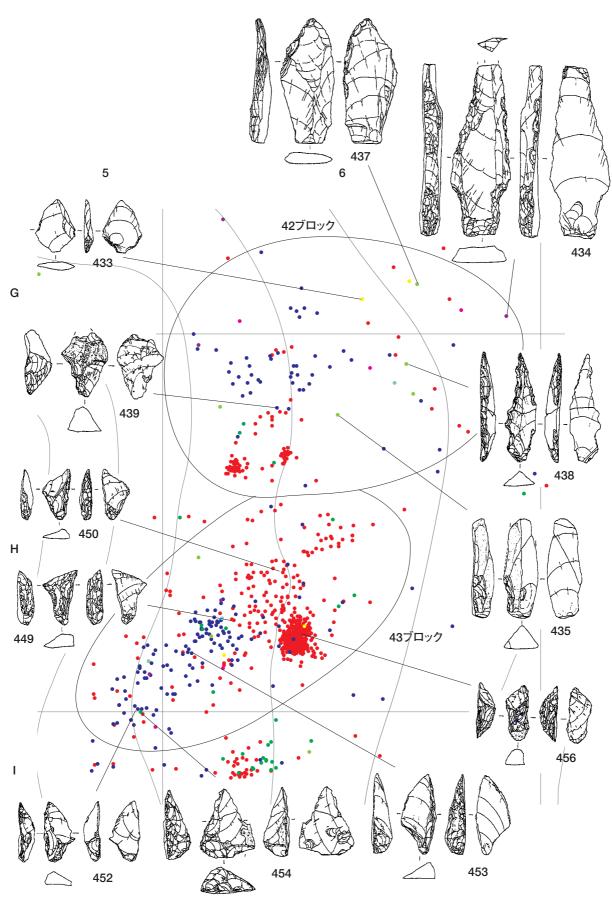
447は三船産黒曜石を石材とするものである。平坦な打面から正面は幅広剥片が剥離されており、 側面も小型の剥片が剥離されている。

43ブロック (第217・218・219図)

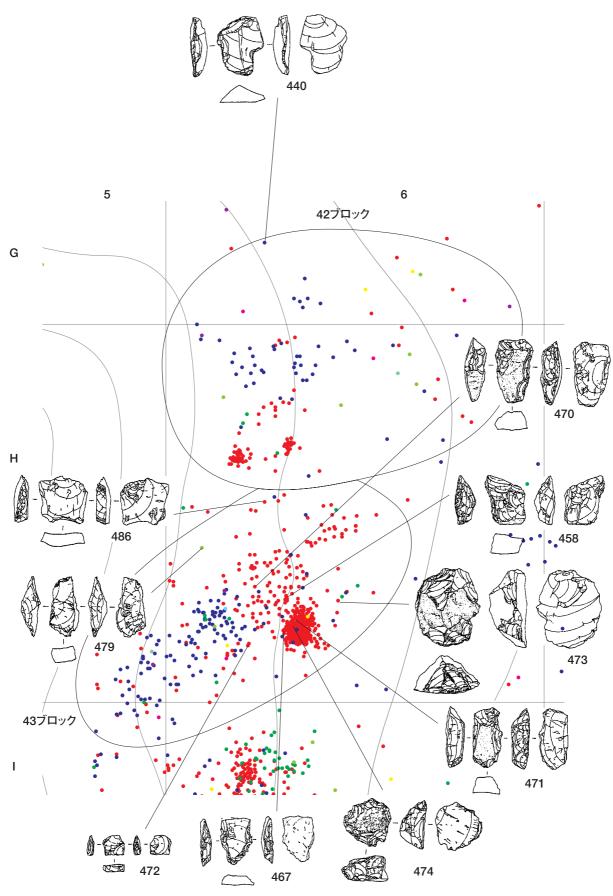
 $H \sim I - 5 \sim 6$ 区に位置しており、径約 10×5 mの楕円形の範囲に分布している。石材は西側に上牛鼻産黒曜石が、東側は三船産黒曜石が主体となっており、両者は区別できるかもしれない。ナイフ形石器、台形石器、掻器など石器が多く出土している。

ナイフ形石器 (第220図448~第221図465)

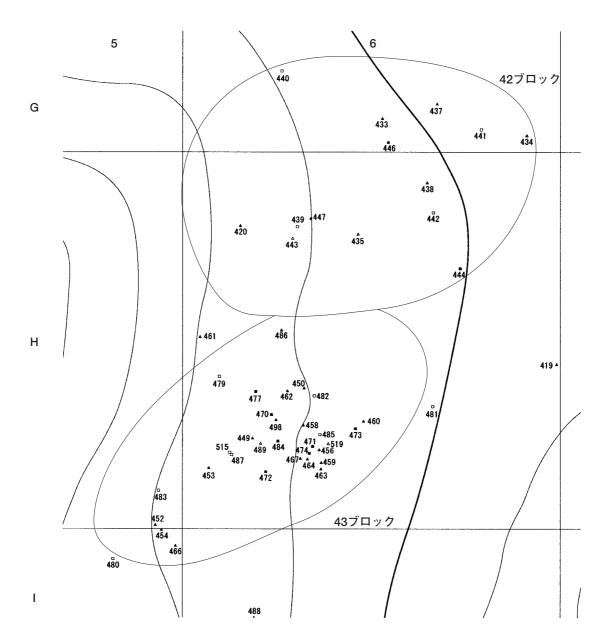
448は上牛鼻産黒曜石の剥片を素材として、ブランティング加工により切出し形に仕上げたものである。先端部は鋭く尖る。



第217図 E-42・43ブロック剥片尖頭器・ナイフ形石器出土分布図



第218図 E-42・43ブロック台形石器出土分布図



第219図 E-42・43ブロック器種別分布図

449は幅広剥片をブランティング加工により著しく変形させたもので、切出し形にしている。ブランティングは細かく丁寧であり短辺はノッチ状に施されている。

450は小型の幅広剥片を使用し、ブランティングにより三角形状に仕上げたものである。451はヒンジして曲がった幅広剥片を素材とし、打面側に鋸歯状の粗い調整加工を施したものである。

452は幅広剥片を素材とし、ブランティング加工により長辺と短辺を整形したもので、短辺はノッチ状となる。451・452は上牛鼻産黒曜石製である。

453は良質な頁岩製であり、ブランティングにより背縁とノッチ状の基部を形成している。先端は鋭く尖り、鋭利な刃部には細かい使用痕が著しく認められる。

454は接合資料559の一部であり後述する。455は上牛鼻産黒曜石製であり、ブランティングによる背縁加工の後に、稜上からの調整剥離も施されて、短い刃部となる。

456は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、ブランティングにより刃部が短い切出し形に仕上げ

ている。稜上剥離も施されている。

457は三船産黒曜石製の幅広剥片を素材とし、両側縁はブランティングにより切出し形に仕上げたものである。458も同様の剥片を使用して、打面はそのままで末端部にブランティングを施したものである。

459~463はブランティングが施されたナイフ形石器の先端部である。459は上牛鼻産黒曜石製。 460は接合資料557の一部であり後述する。461~463は三船産黒曜石製である。

464・465はナイフ形石器の基部の破損品である。466は折断と調整加工がみられる。

台形石器 (第222図467~472)

467は三船産黒曜石の薄い剥片を利用し、ブランティングにより整形したものである。468はブランティングと折断により整形したものであり、接合資料554の一部であることから後述する。

469は三船産黒曜石の剥片を使用したもので、打面はそのまま残して背面に平坦加工を施しており、対辺は直線状のブランティングが施されている。

470は三船産黒曜石の自然礫皮面が残る剥片を使用したもので、剥片の打面はそのままでわずかに背面に平坦剥離がみられ、他方の縁辺は比較的粗いブランティングにより整形している。

471は剥片の打面側の半分以上を折断して、剥片末端に粗いブランティングを施したものである。 472は小型剥片を折断と細かい二次加工により整形したものである。

掻器 (第222図473~第223図477)

473は厚手の縦長剥片を使用し、剥片の打面近くと末端部に丁寧で急角度の二次加工を施し刃部としたものである。石材は上牛鼻産黒曜石製である。474も急角度の刃部を形成している。

475は良質のやや厚みのある幅広剥片を使用し、片側縁から先端部にかけて急角度で丁寧な二次加工を施して刃部としている。

476は上牛鼻産黒曜石製のやや厚みのある剥片を使用し、同様に先端部に急角度の刃部を形成したものである。477も縁辺に急角度で丁寧な二次加工を施して刃部としたものである。これらの剥片はいずれも自然礫皮面が残存した外側の剥片が利用されている。

スクレイパー (第223図478・482)

478は上牛鼻産黒曜石のやや大きな幅広剥片を使用したものであり、剥片末端には細かい二次加工により刃部が形成されている。

482は珪質分の強い良質な頁岩製であり、幅広剥片を利用し、剥片の鋭い末端の縁辺部に細かい二次加工を施して刃部としたものである。また二次加工が施されていない縁辺も、加工部と刃部角が同様であり使用痕が顕著である。

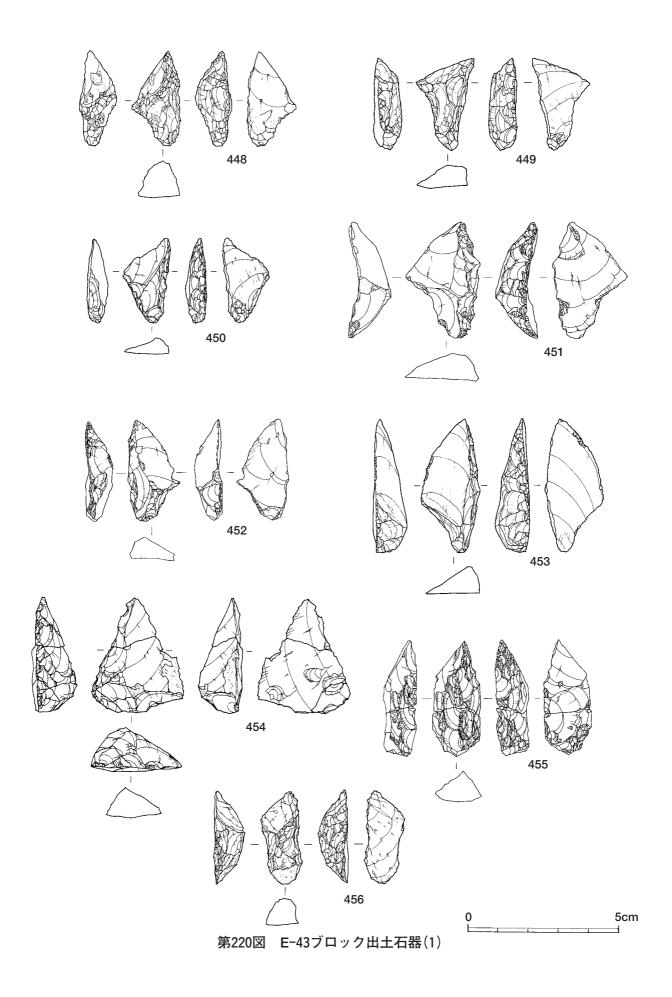
使用痕剥片 (第223図479)

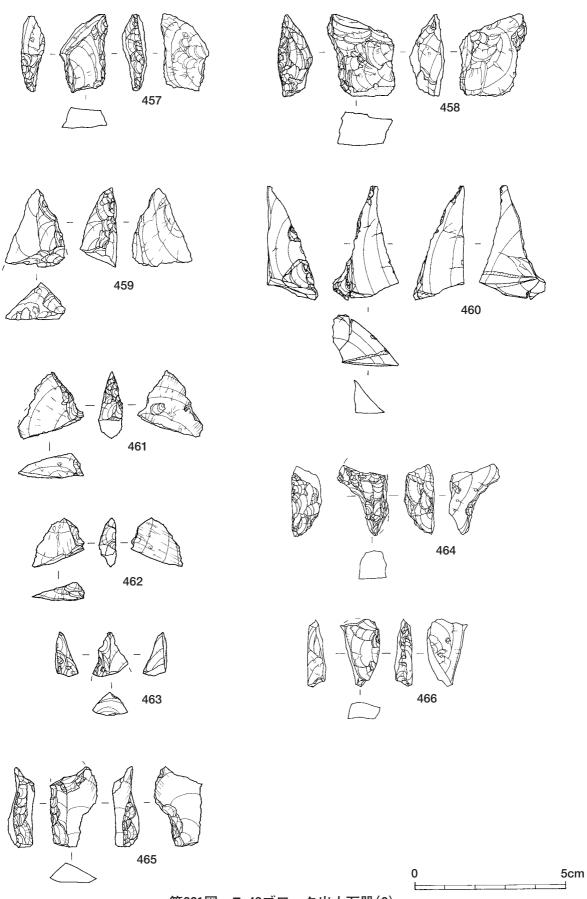
479は三船産黒曜石の剥片を使用したもので、下半を折断したものである。折断面に調整加工は みられないが、使用痕の位置から台形石器的な使用が考えられる。

480は剥片の末端部であり使用痕が認められるものである。接合資料553の一部であることから後述する。

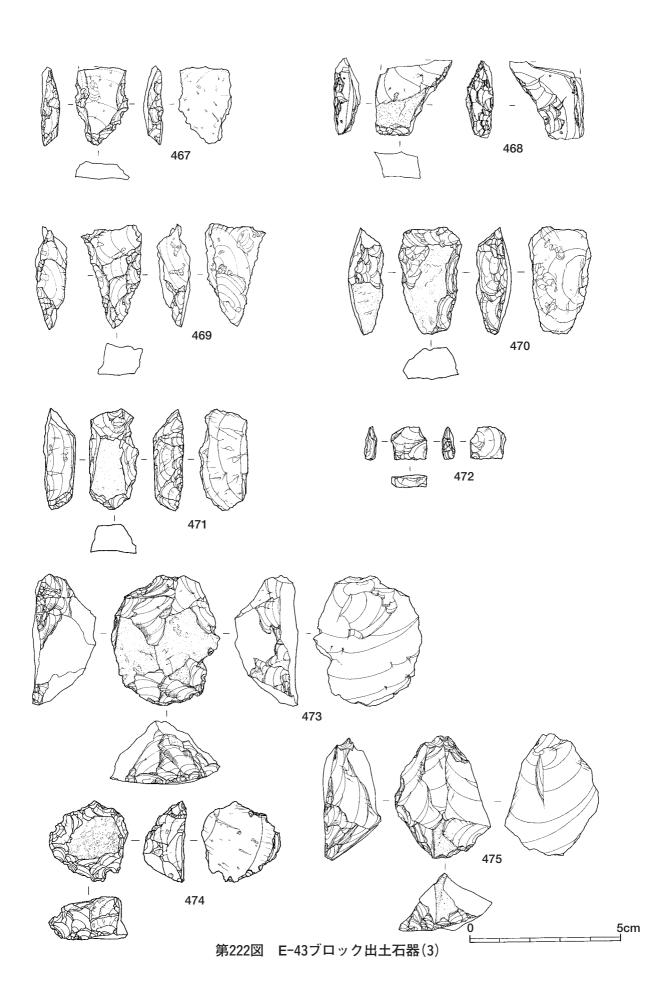
彫器 (第223図481)

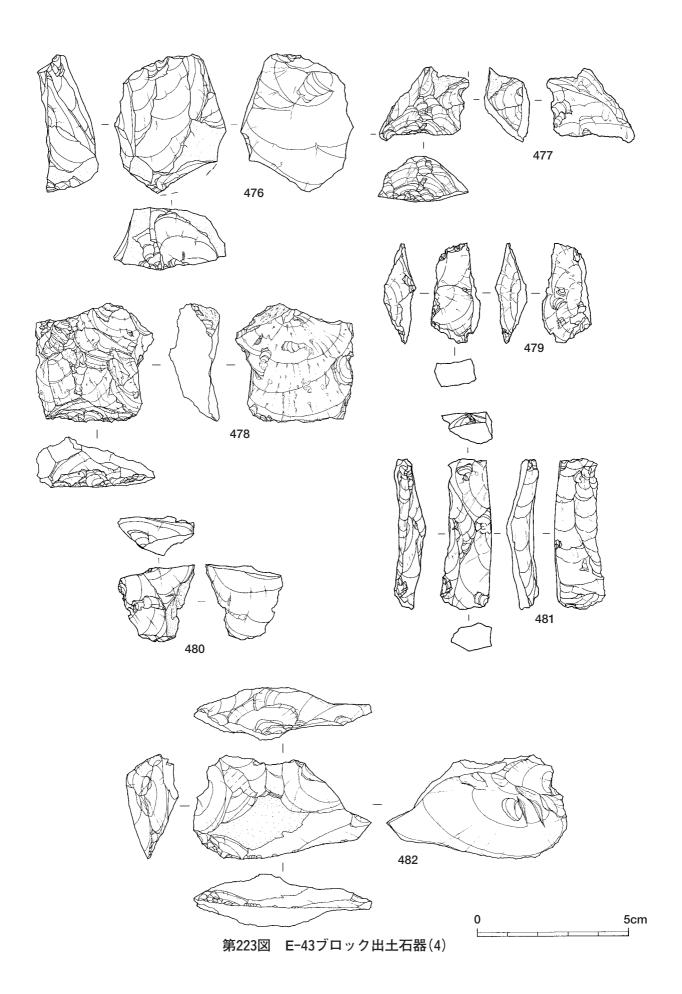
481は三船産黒曜石製の剥片が利用され、右側面に樋状剥離が認められるものである。





第221図 E-43ブロック出土石器(2)





44ブロック

I-6 区に位置しており、径約 5×4 m程度の楕円形の範囲に分布し、43ブロックと45ブロックに挟まれている。石材は三船産黒曜石が主体である。

ナイフ形石器 (第227図483)

石材は上牛鼻産黒曜石である。先端部を欠損しているが、縦長剥片と推定される剥片が使用され 片側縁に粗い調整を施したものである。

台形石器 (第227図485~490)

485は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、ブランティングにより両側縁をノッチ状に整形した ものである。刃部をわずかに欠損する。

486は幅広剥片を素材とするもので、平坦な打面はそのまま残し、剥片末端にブランティングを施 し側縁としている。

487は上青木・桑ノ木津留産黒曜石を石材とし、両側縁はブランティング加工と折断により形成したものである。刃部を欠損している。

488は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、折断と粗いブランティングにより両側縁を整形したものである。

彫器 (第227図489)

489は三船産黒曜石製で、幅広剥片にブランティングにより両側縁を整形した台形石器として製作されたものであったが、左側面から刃部面左側に数回の樋状剥離が認められるものである。リダクションによる転用の可能性が高い。

二次加工石器 (第227図490)

490は三船産黒曜石製で二次加工が施されたものである。

使用痕剥片 (第227図484)

484は折断による台形石器として考えていたが、接合資料555の一部であり後述するが、鋭い縁辺には著しい使用痕が認められる。

45ブロック

I-6 区に位置しており、44ブロックの西側にある。径 5 m程度の分布範囲があり、そのなかに集中部が 2 ヶ所認められる。石材は両集中部とも三船産黒曜石が主体である。

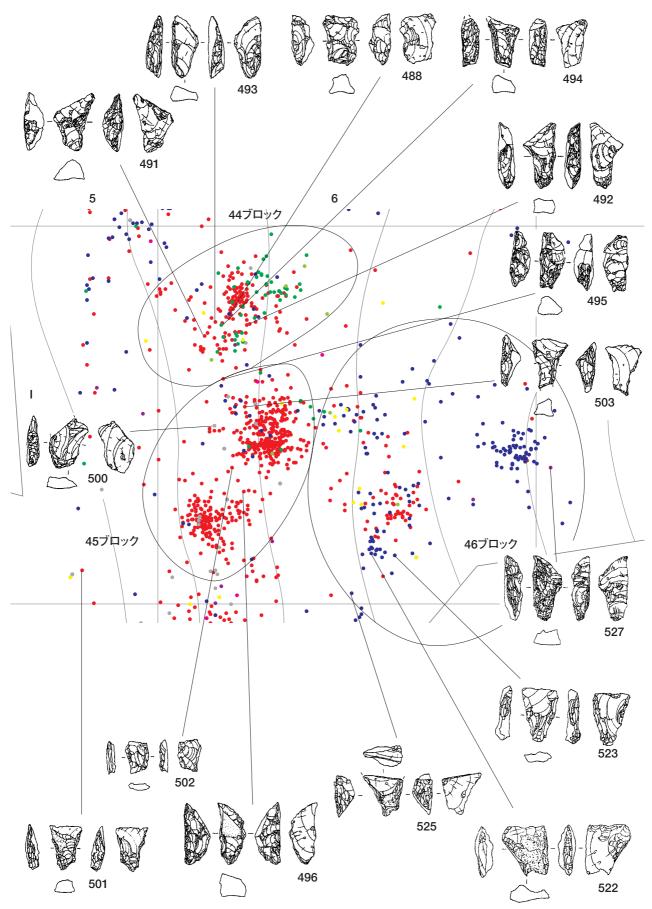
ナイフ形石器 (第227図491~228図500)

491は三船産黒曜石の幅広剥片を使用し、比較的粗いブランティング加工により三角形状に仕上げたものである。刃部には丁寧な二次加工が施されている。

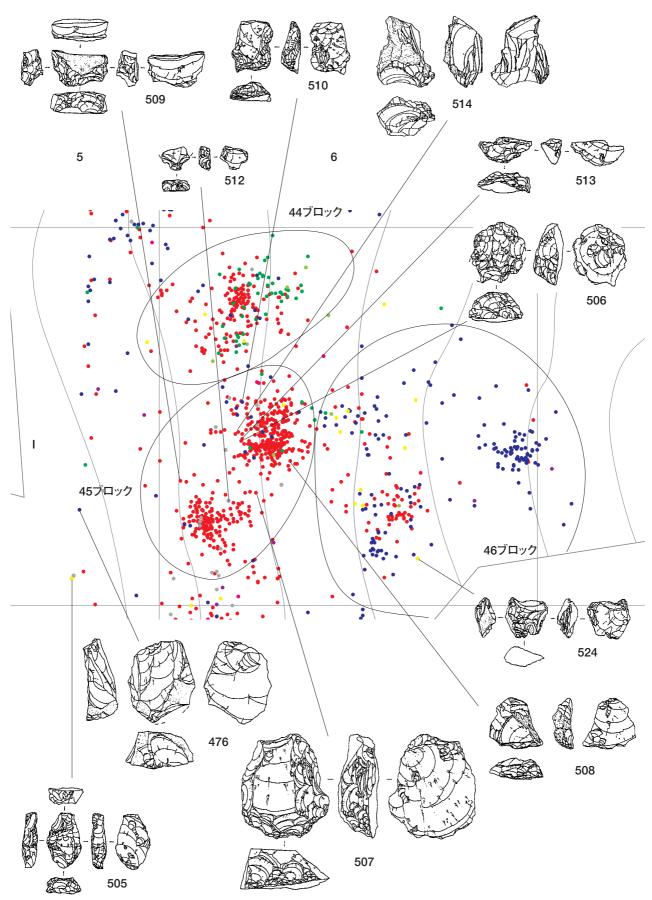
492は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、丁寧なブランティングを長辺には直線状に、また短辺はノッチ状に施して着柄が意識された基部とされている。

493はブランティング加工により切出し形に仕上げたもので、494もブランティング加工により切出し形に整形したナイフ形石器である。稜上からの調整も顕著である。

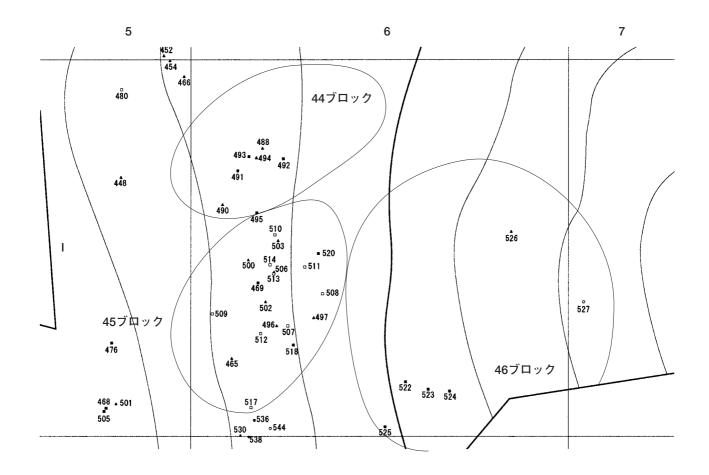
495と496はブランティングを二側縁に施し、短い刃部を形成している。497はわずかにブランティングが施されている。499は小型の剥片を使用しており、短辺のブランティングはノッチ状に加工されている。



第224図 E-44・45・46ブロックナイフ形石器・台形石器出土分布図



第225図 E-44・45・46ブロック掻器・削器出土分布図



第226図 E-44・45・46ブロック器種別分布図

498は三船産黒曜石の幅広剥片が使用され、打面側のブランティングは直線的に、短辺はノッチ状に整形されている。

500も三船産黒曜石の幅広剥片を素材としたもので、打面側のみにブランティングが施されているものである。先端部を欠損している。

台形石器 (第228図501~504·515)

501は三船産黒曜石製の幅広剥片を素材とし、ブランティング加工により端正な台形に整形したものである。刃部には使用痕が認められる。

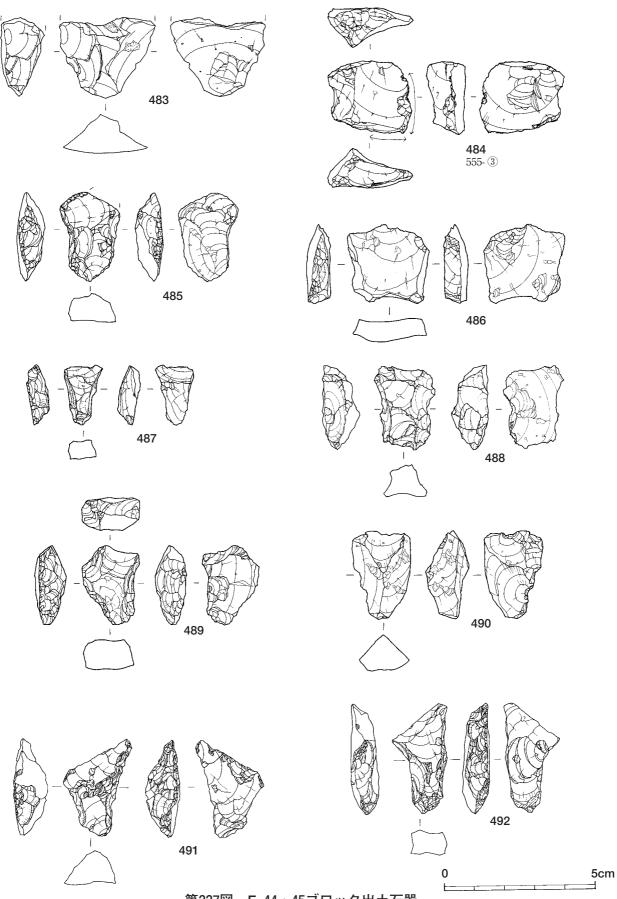
502は上牛鼻産黒曜石の小型剥片を素材としたものであり、打面部のみで下半は折断されている。 折断部と打面の背面には細かい平坦剥離が施されている。503は三船産黒曜石の幅広剥片を素材と し、打面部と末端部をブランティング加工によりノッチ状に整形して基部としたものである。

504は玉髄質の石材で、やはり幅広剥片を素材としたものである。打面部のブランティングは直線状に施され、末端のブランティングはノッチ状に施されて基部を形成している。

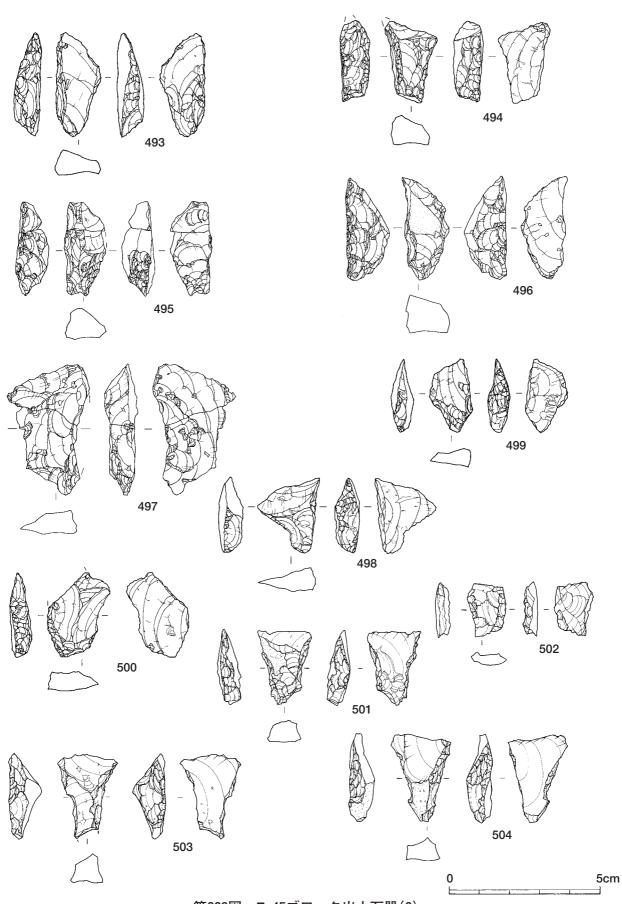
515は幅広剥片を使用したもので、わずかに調整加工が認められる。

彫器 (第229図505)

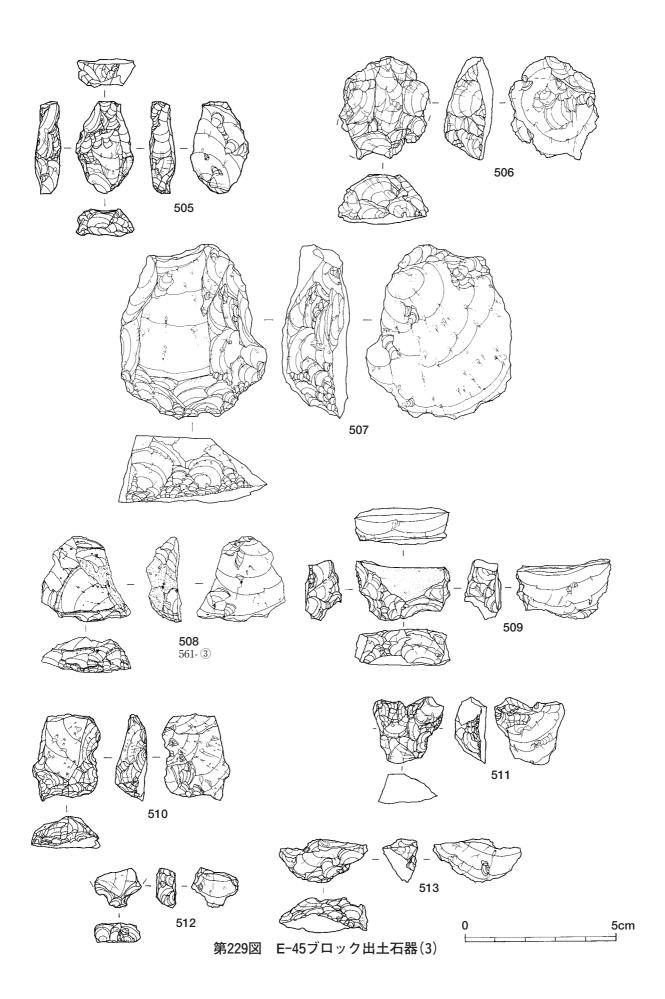
石材は三船産黒曜石を使用している。素材は中心軸がわずかにはずれた縦長状の剥片であり全体的な整形加工は認められない。図の正面図は打面を下に置いたものであり、剥片末端(図の上)に

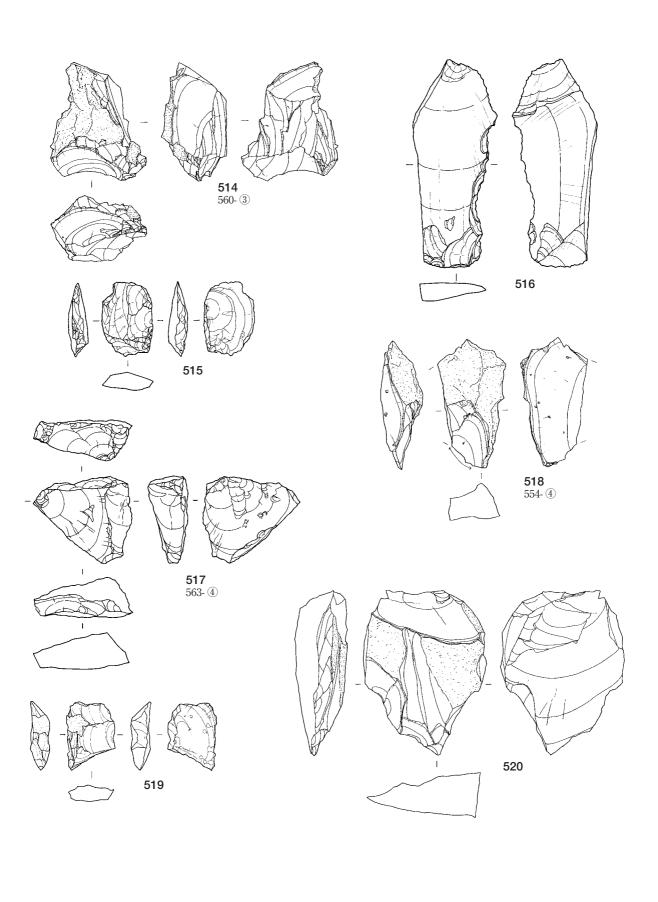


第227図 E-44・45ブロック出土石器



第228図 E-45ブロック出土石器(2)





0 5cm

第230図 E-45ブロック出土石器(4)

右側縁方向から3回の細かい樋状剥離が認められる。

また、剥片の打面部(正面図の下の部分)には、逆に左側縁方向からの細い樋状剥離が認められ、 上下両端の彫器面を有する彫器となる。

掻器 (第229図506~第230図514)

506は平坦な打面が残るやや厚い剥片を使用したものであり、打面以外の両側面と末端部に粗い 二次加工が施されている。先端部は鋸歯状の粗い剥離がみられリダクションが進行したと思われ る。石材は黒曜石産地分析をした結果、三船産黒曜石と判定された。

507は同様に三船産黒曜石製の大型の剥片を使用したもので、剥片末端に比較的粗い二次加工が施されて半円状の刃部とされている。刃部には著しい使用痕が認められる。これは使用による変形を受ける以前の最初の掻器の大きさが理解できる資料である。

508は三船産黒曜石の幅広剥片を素材とし、剥片末端に急角度の二次加工を施し刃部としたものである。刃部には使用痕が認められる。接合資料561の一部である。

509は上牛鼻産黒曜石の剥片を利用して、剥片末端に刃部を付けたものである。

510は三船産黒曜石の打面部と側縁に急角度の二次加工を施して刃部としたものである。

511~513は破損品であるが、粗い急角度の二次加工により刃部が形成されたものである。

514は上牛鼻産黒曜石製で、幅広剥片を剥離した石核を掻器として転用したものと思われ、部分的 に二次加工が施されており、使用痕が認められる。

二次加工のある石器 (第230図516)

516は節理状に薄く剥離された粘板岩製で、二次加工が施されている。

使用痕剥片 (第230図517~520)

517は三船産黒曜石の剥片が使用され、縁辺に使用痕が認められる。なお本資料は接合資料563の一部であり後述する。518も接合資料554の一部であり後述する。

519は三船産黒曜石製で一部に使用痕が認められる。520は自然面が残る頁岩製の幅広剥片が利用されており使用痕が認められる。

46ブロック

I-6区に位置しており、径約6×4m程度の分布域を有する。石材は上牛鼻産黒曜石と三船産 黒曜石の両方が認められる。

台形石器 (第233図521~525)

521は上牛鼻産黒曜石の剥片を使用しているものであり、両側縁の加工は、打面側にスクレイパーエッジ状の二次加工を施し、裏面には平坦剥片が施されている。他方の側縁は折断の後に背面に平坦加工が施されているものである。

522は上牛鼻産黒曜石製であり、打面部は斜めに折断して、表裏両面に平坦剥離を施している。そして他方の縁辺はスクレイパーエッジ状の二次加工を行い基部としている。

523は玉髄質の石材による剥片を素材とし、両側縁の調整は急角度のブランティングではなく、スクレイパーエッジ状の調整加工となっている。

524は上牛鼻産黒曜石の小型剥片が使用され、末端に平坦剥離が施されている。

525は破損品と思われる。ナイフ形石器の可能性もある。

敲石 (第233図526)

526は安山石製の小円礫が利用されたもので長軸の先端部に敲打痕が認められる。半損品であり、 全長は不明である。

47ブロック

J − 6 区に位置する。径約 5 m程度の範囲に石器群が分布するものである。分布石材は三船産黒曜石が主体となっている。

ナイフ形石器 (第233図527・528)

527は三船産黒曜石を石材とする剥片が素材とされているもので、ブランティング加工により切出し形に仕上げられる。稜上調整も顕著に施されている。

528はやや厚めの三船産黒曜石剥片を使用したものでブランティングにより整形されている。これは接合資料565の一部であり後述する。

台形石器 (第233図529・530)

529は上牛鼻産黒曜石の小型剥片を使用しており、平坦剥離状のわずかな調整加工により整形したものであり、刃部には使用痕が認められる。

530は両側縁を表裏両面の平坦剥離により整形した台形石器である。刃部は直線的とはならず、 基部も丸く仕上げられている。

スクレイパー (第234図531~535)

531は三船産黒曜石の自然礫皮面が残る剥片の末端に二次加工を施し刃部としたものである。

532は凝灰岩製剥片に二次加工を施したものである。533は剥片の縁辺に鋸歯状の二次加工を施して刃部としたものである。534は粘板岩製で二次加工が施されている。535も縁辺に二次加工が施され刃部となっている。

掻器(第234図536)

536は上牛鼻産黒曜石製で、剥片末端に急角度の二次加工が施されている。半損品である。

使用痕剥片 (第234図537~540)

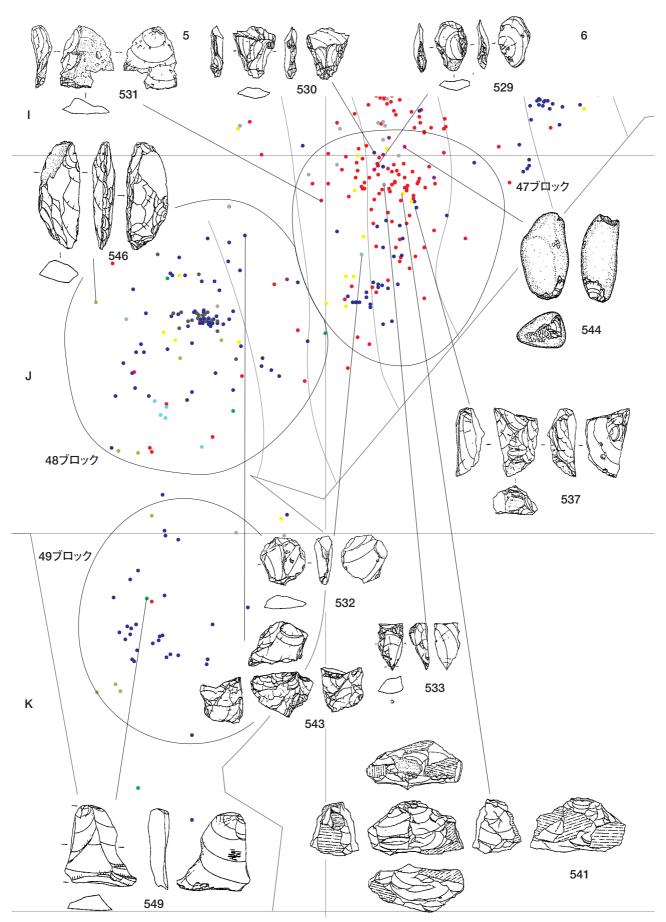
頁岩製であり、いずれも鋭利な縁辺に使用痕が観察されるものである。これらは全て接合資料としての564を構成するものであり、後述する。

石核(第235図541~543・545)

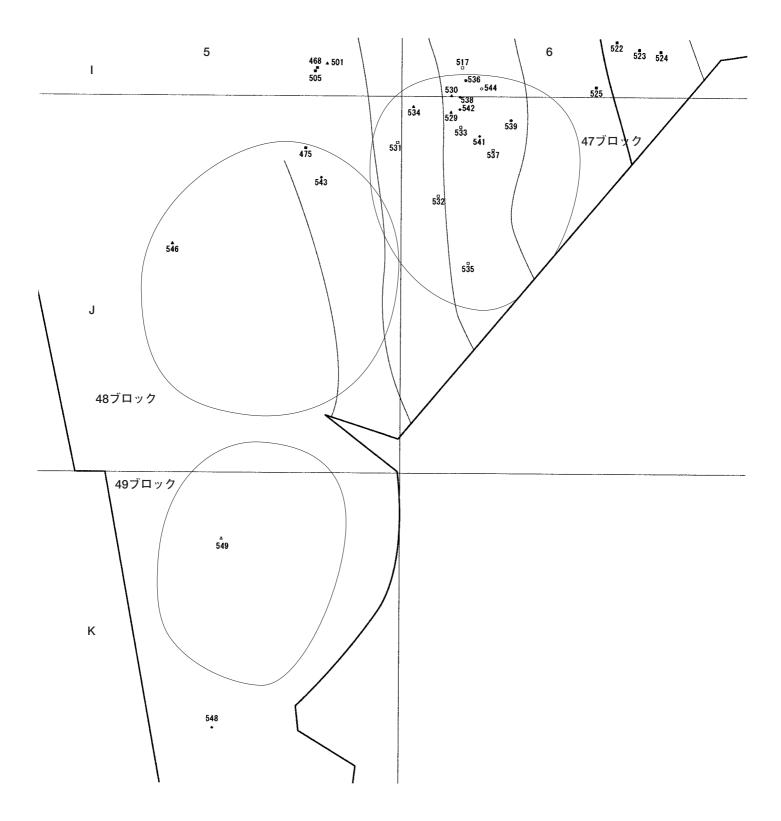
541は白色を呈するたんぱく石を石材とするものである。図の打面部に一部礫皮面が残存している。剥片剥離面は正面にみられ、比較的小型の剥片が剥離されている。背面や下面には節理面があるが、人為的な剥離面か明確でははない。

542は三船産黒曜石を石材とするものであり、石核の最終的なものと考えられる。本遺跡 I 文化層出土石核の特徴的な形態であり、図の正面では上方からの剥離があり、右側面では左方向からの剥離が行われている。また打面でも左方向からの剥離が行われて、全ての面で剥片剥離が行われている。最終的にはこのような断面三角形になるものが多い。なお、この石核には小型三角形の剥片が接合したが図化できなかった。

543は上牛鼻産黒曜石製である、剥離面である平坦な打面から、正面の小型剥片剥離が行われており、右側面や左側面も剥離面となっている。



第231図 E-47・48・49ブロック主要石器出土分布図



第232図 E-47・48・49ブロック器種別分布図

545は上牛鼻産黒曜石製である。平坦な剥離面を有することから、剥片素材の石核と考えられる。 この平坦面を打面にして、求心的に小型の幅広剥片が剥離される。

さらに、縁辺には使用痕が認められることから、最終的に転用されたものである。

敲石 (第235図544)

安山岩礫を使用したもので、長軸の両端に使用の痕跡が認められる。全長約9㎝ 程度である。

48ブロック

J-5区に位置しており、径約6m程度の円形に石器群が分布する。分布石材は、上牛鼻産黒曜石が主体であったが、明確な石器は少ない。

二次加工剥片 (第236図546)

粘板岩状の薄く剥がれる頁岩製であり、縁辺にわずかな二次加工が認められる。

敲石 (第236図547)

安山岩製であり、長軸の折れた端部上に敲打痕が観察される。赤褐色に変色しており、破損後に 礫群の礫として使用されたものと思われる。

49ブロック

K-5 区に位置しており、径約 4 m程度に遺物がわずかに散布していた。石材は上牛鼻産黒曜石製が多かった。

石核 (第236図548)

石英製であり石核として割られた可能性がある。

使用痕剥片(第236図549)

良質の頁岩製であり、剥片末端の縁辺に使用痕が認められる。

Eブロック群の接合資料

Eブロック群の接合資料も、他ブロックと同様に各個別ブロック内で接合が収束するものと、近接するブロックのものと接合するものがみられた。

図化できた接合資料は、第246図から249図で示した。また接合した石器資料全体を図化できず、 これも含めて第250図でEブロック群の接合全体を示した。

以下は各接合資料の説明である。

接合資料550 (第237図)

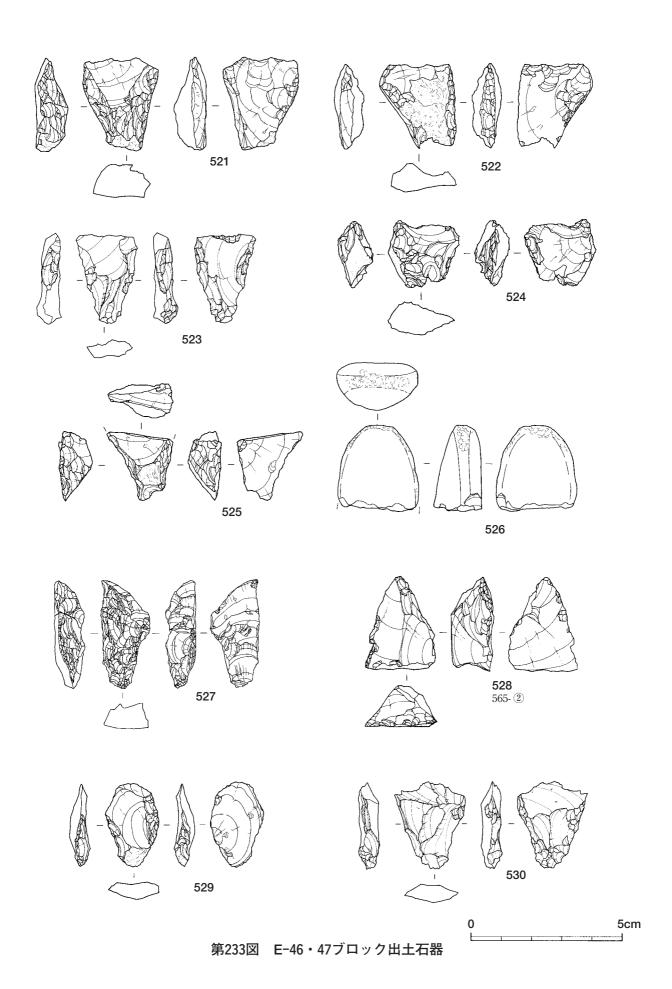
石材は安山岩である。44・43ブロックから出土した石核や剥片・使用痕剥片などの接合資料である。①はその全体接合図であり、元は自然礫皮面が残る比較的大型の剥片であったことが理解できる。図の正面図にみられるように、上端と左側端部に二次加工が施されているが、それが何時か明確ではない。①の裏面である主要剥離面を打面にして②が剥離される。これは使用痕剥片となる。

次にその剥離面を打面にして③の横長剥片が剥離されて、次に④が剥離される。最終的には⑤の 状況となる。

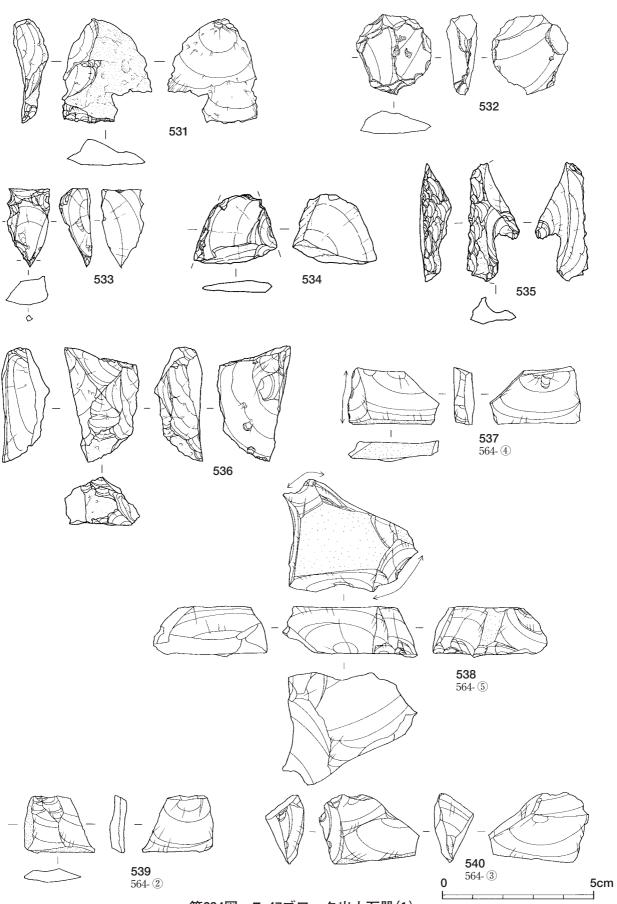
接合資料551 (第238図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。41ブロックから出土した石核と剥片の接合資料である。

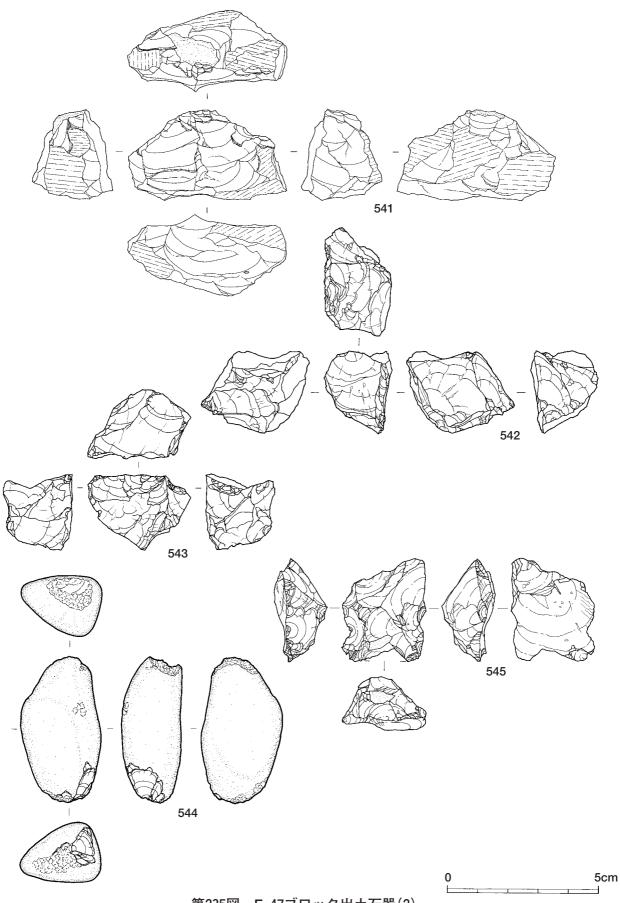
①はその接合図である。石核は部分的に自然礫皮面を残している。その他の面は全て剥離面によ



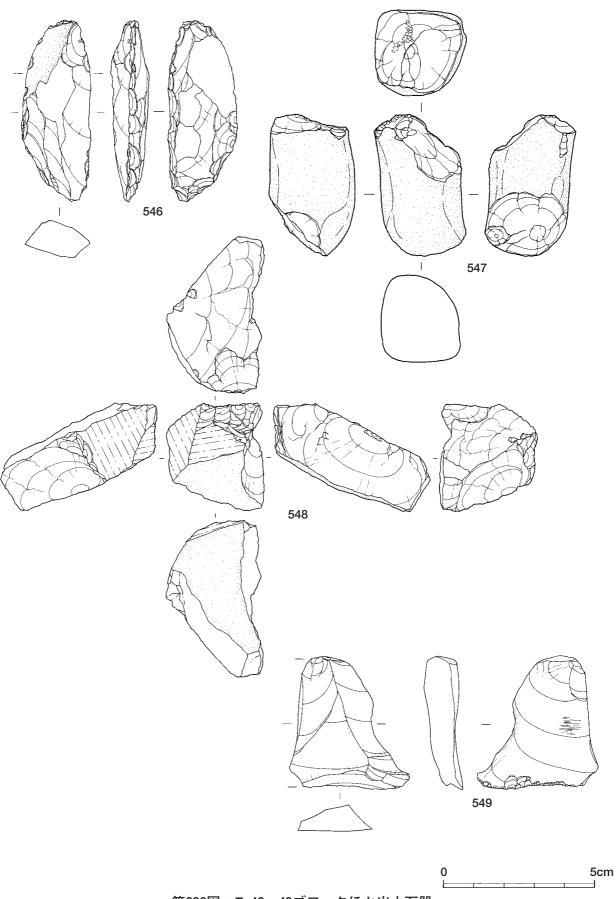
-292-



第234図 E-47ブロック出土石器(1)



第235図 E-47ブロック出土石器(2)



第236図 E-48・49ブロックほか出土石器

り構成されている。図の正面では三角形状の剥片が剥離されている。その左右がそれ以前に剥離された面であり、その石側の剥離面を打面にして②が剥離されている。

③は残された石核である。

接合資料552 (第238図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。42ブロックから出土したスクレイパーと剥片の接合資料である。

- ①は接合図であり②と③が連続的に剥離されたものである。②は使用されていない。
- ③は剥離後に二次加工が施されてスクレイパーとされている。

接合資料553 (第238図)

石材は三船産黒曜石である。42・43ブロックから出土したスクレイパーと剥片の接合資料である。 ①はその接合図であり、個別に剥離されたものである。

- ②は石核本体から直接剥離されたものでなく、②を含む縦長剥片状のものが先に剥離され、②の 剥離面と背面の状況から、剥片本体のブランティングチップとして剥離された可能性が高い。
 - ③は縁辺に二次加工が認められ、スクレイパーが破損したものと考えられる。

接合資料554 (第239図)

石材は三船産黒曜石である。43・45ブロックから出土した台形石器と剥片の接合資料である。

- ①はその接合図であり、台形石器の製作過程が理解できる資料である。比較的大きな剥片が剥離され、自然礫皮面の多い末端部は折断により除去される。剥離面の状況から刃部は欠損しているが、推定される長さからは台形石器であることが理解できる。
 - ③が台形石器であり、打面部はブランティングが施される。
- ④は折断された末端部であるが使用痕剥片となっている。②は次の段階で石核から剥離されたもので、打面部が折れたものである。

接合資料555 (第239図)

石材は三船産黒曜石である。43・45ブロックなど約10m離れた剥片の接合資料である。

- ①は接合図であり、3枚の剥片から構成される。最初に小型剥片が剥離されているが、これは図化していない。次に剥離されたのが、最も大きな縦長剥片であり、これが折断されて③と④になる。
- ③はそのまま使用痕剥片となり、④も先端部に使用痕が認められる。

最後に②が剥離されている。

接合資料556 (第240図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。43ブロックから出土した石核と剥片の接合資料である。

- ①が接合図であり、自然礫皮面が残る剥片素材の石核であったことが理解される。これから剥離されている剥片は、いずれも小型のものであり、目的剥片の形状がわかる。
 - ②→③→④と順に剥離されて, ⑤の石核となる。

接合資料557 (第240図)

石材は、黒褐色を呈する良質の頁岩である。43ブロックを中心に、一部は41ブロックから出土した。

①の接合全体図で理解されるように、本接合資料はナイフ形石器のブランティング過程と、その リダクションを示すものである。 本資料によりブランティングチップの大きさや、ブランティング加工の状況がよく分かる。

②は最終的なナイフ形石器の先端部片である。

接合資料558 (第241図)

石材は頁岩である。42・44ブロックから出土した剥片の接合資料である。

- ①は接合全体図であり、石核本体は角礫であったことが理解される。
- ③の断面と④・⑤の打面の位置が異なることから、その間で打面部の剥離が行われたことを示している。剥離された剥片はいずれも幅広剥片であるが、使用されていない。

接合資料559 (第242図)

石材は三船産黒曜石である。42・44ブロックから出土したナイフ形石器を含む剥片の接合資料である。これらは自然礫皮面の部分が意図的に取り除かれていった状況が理解される。

④はこれらと接合したナイフ形石器である。ブランティング調整を左側縁と下縁に施されて三角 形状に仕上げられている。

接合資料560 (第234図)

石材は上牛鼻産黒曜石である。44・45ブロックから出土した石核と剥片の接合資料である。

- ①の接合図の正面で②の小型の剥片が剥離されている。
- ③の残りの石核であるが、縁辺に二次加工と使用痕が認められる。

接合資料561 (第243図)

石材は三船産黒曜石である。44・45ブロックから出土したスクレイパーと剥片の接合資料である。

- ①の接合図で両剥片の打面位置が異なっている。
- ③の剥離後に末端部に二次加工を施されて石器となる。

接合資料562 (第244図)

石材は三船産黒曜石である。45ブロック出土の掻器とチップの接合である。リダクションの可能性もある。

接合資料563 (第244図)

石材は三船産黒曜石である。45ブロックから出土した剥片の接合資料である。

- ①の接合図により、同一打面から連続して剥離されたものである。
- ②は剥離後に折断されているのか、破損したのか明確ではない。
- ③も折断され、そのうち④は使用痕剥片となっている。

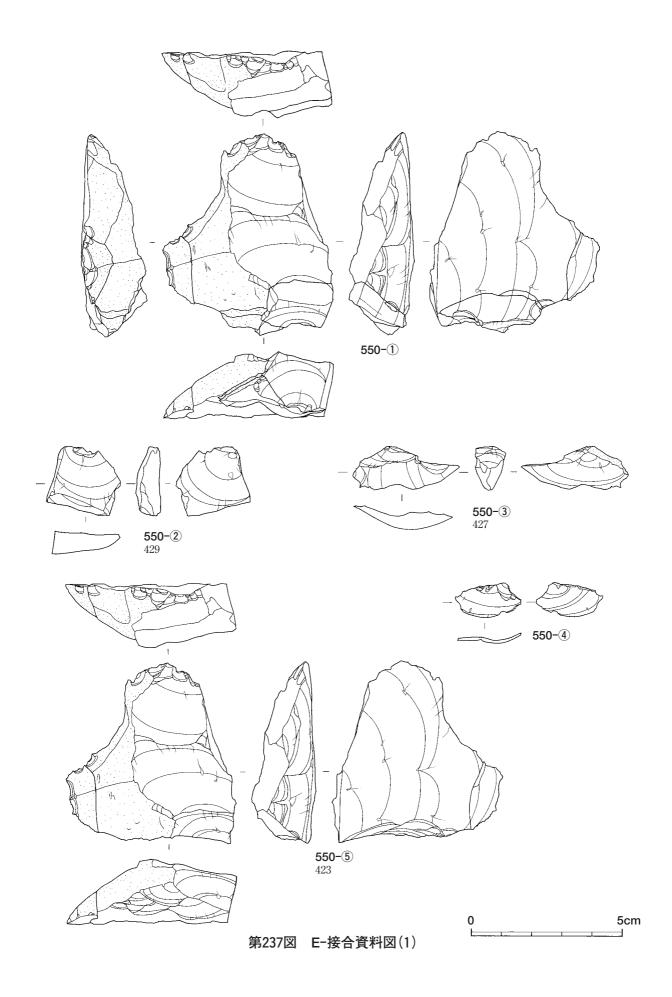
接合資料564 (第245図)

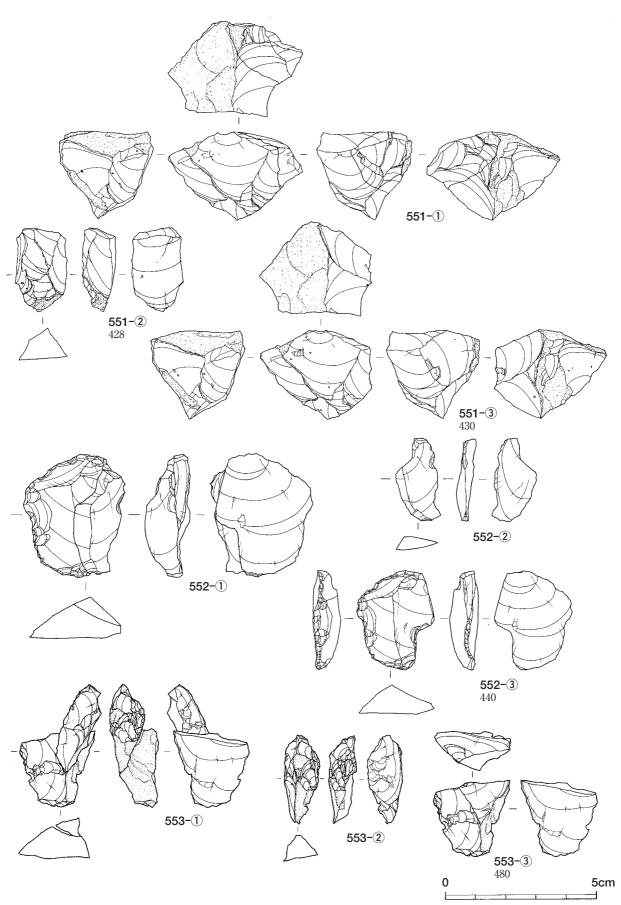
石材は頁岩である。47ブロックから出土した石核と剥片の接合資料である。

①の板状石核から小型の剥片が順次剥離されている。そのほとんどの剥片は使用痕剥片とされており、残った石核⑤も使用痕が認められる。

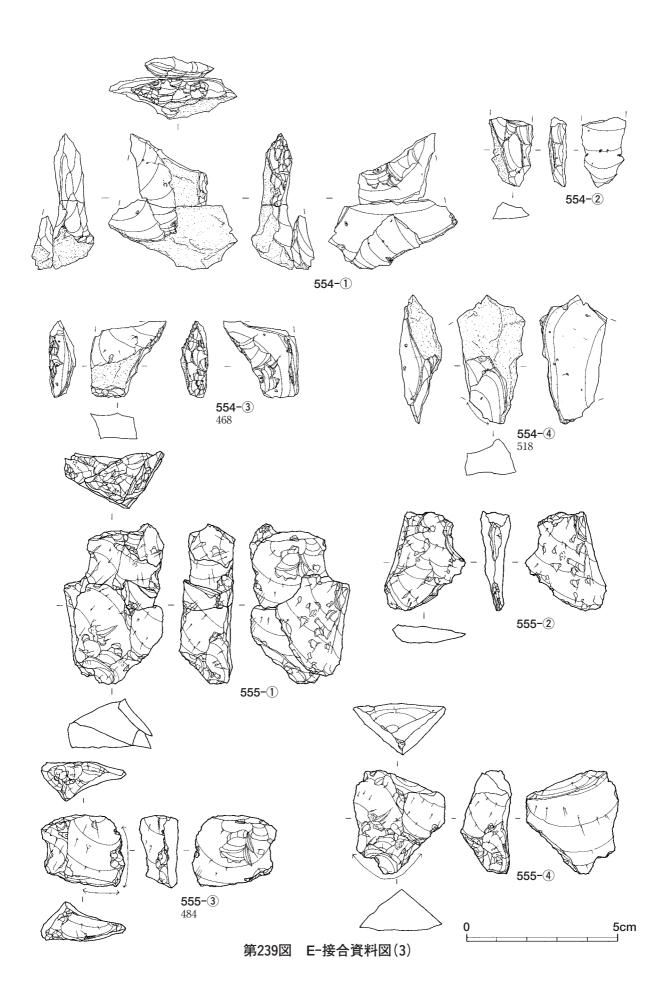
接合資料565 (第245図)

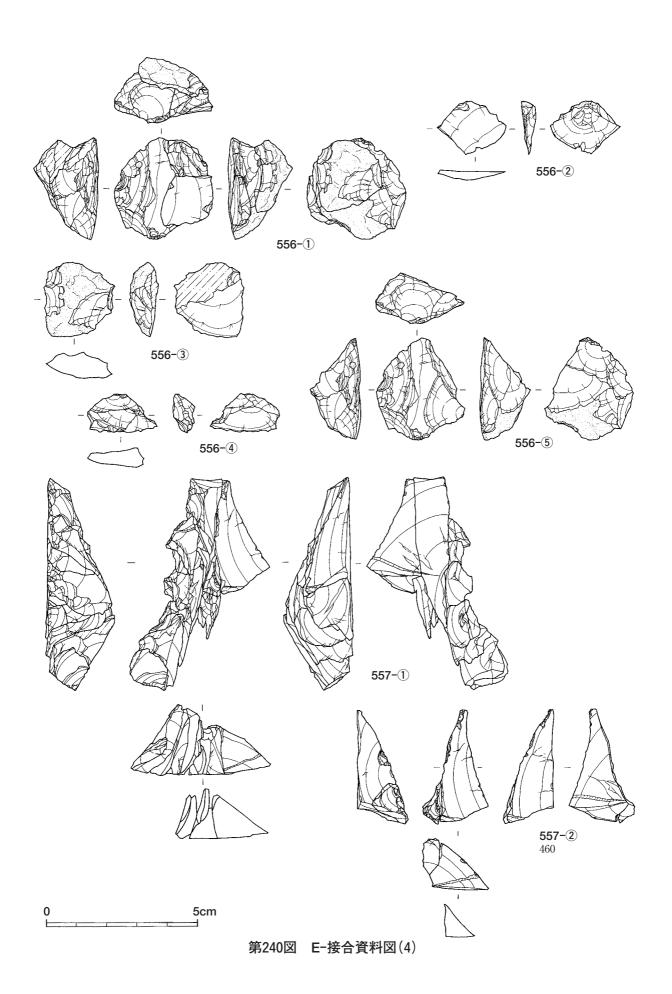
石材は三船産黒曜石である。ナイフ形石器とブランティングチップの接合資料である。



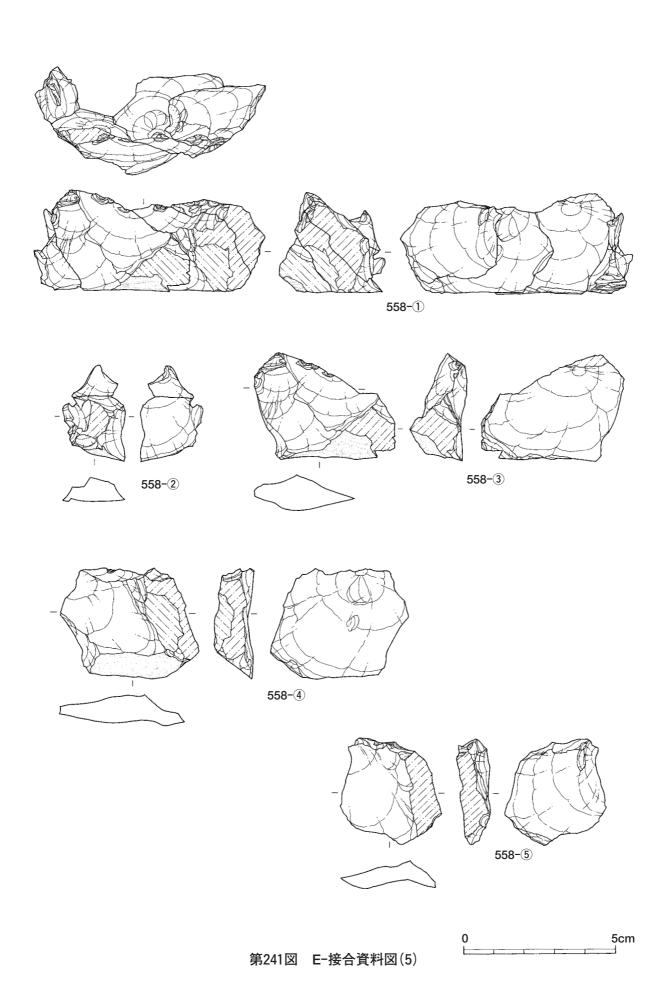


第238図 E-接合資料図(2)

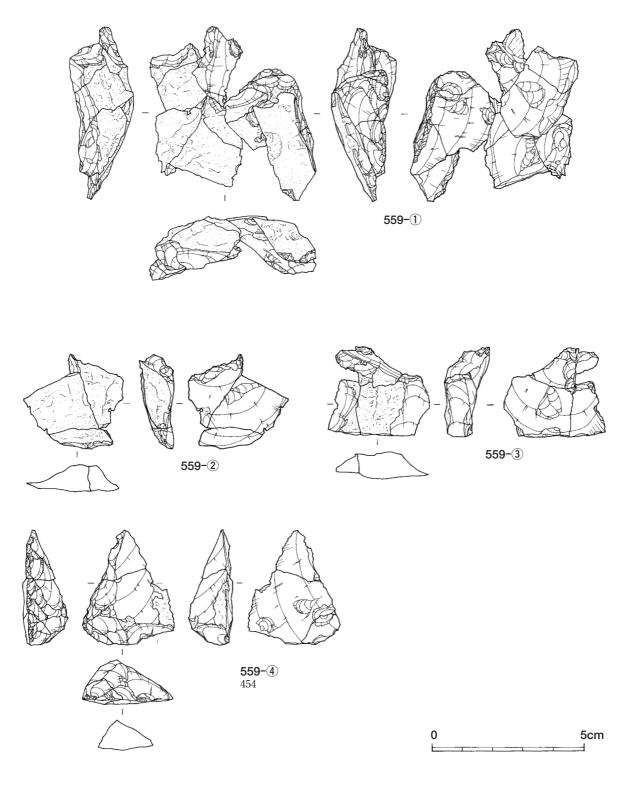




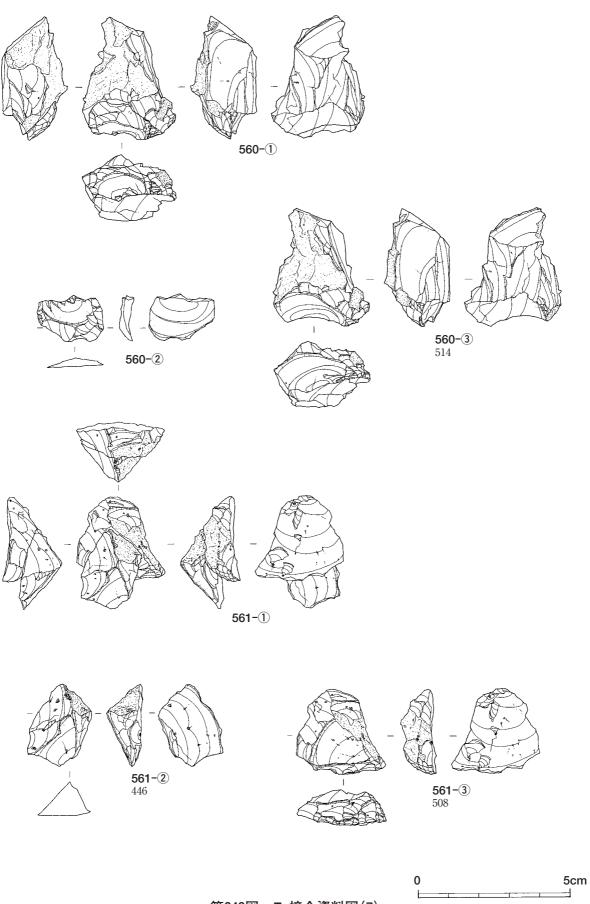
-301-



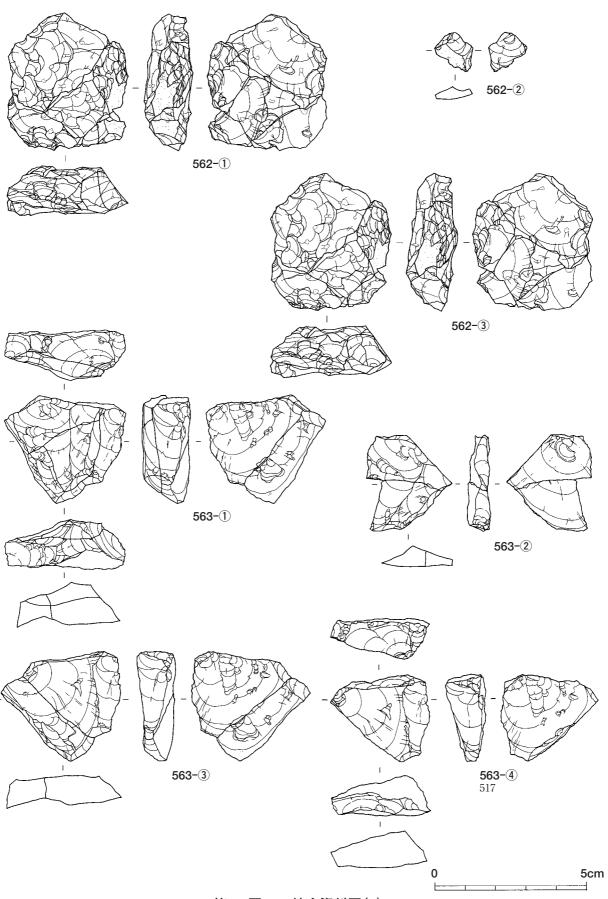
-302 -



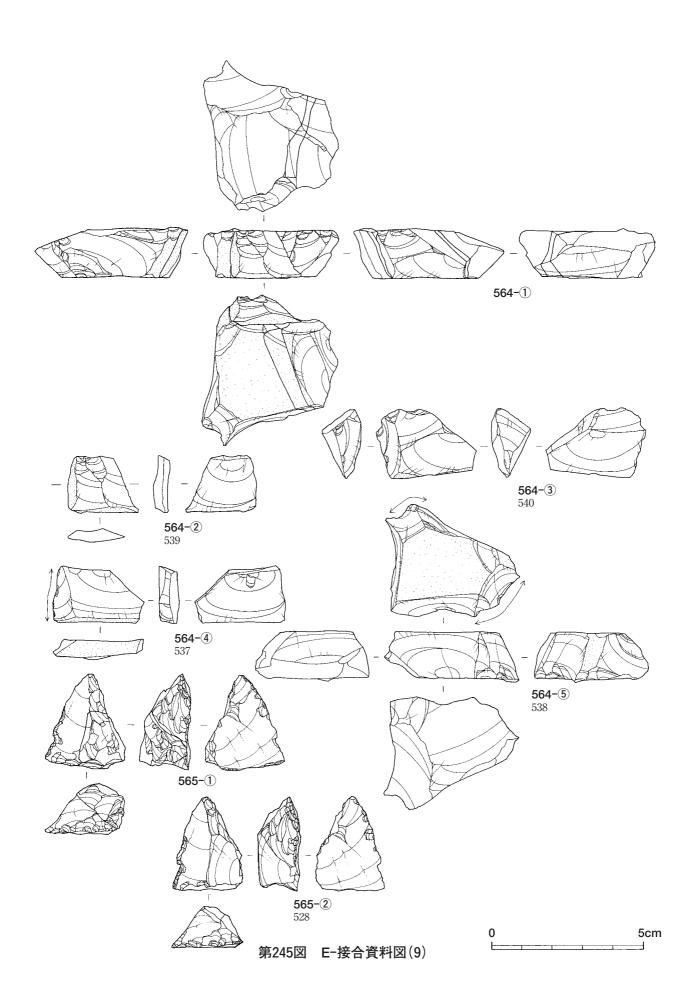
第242図 E-接合資料図(6)

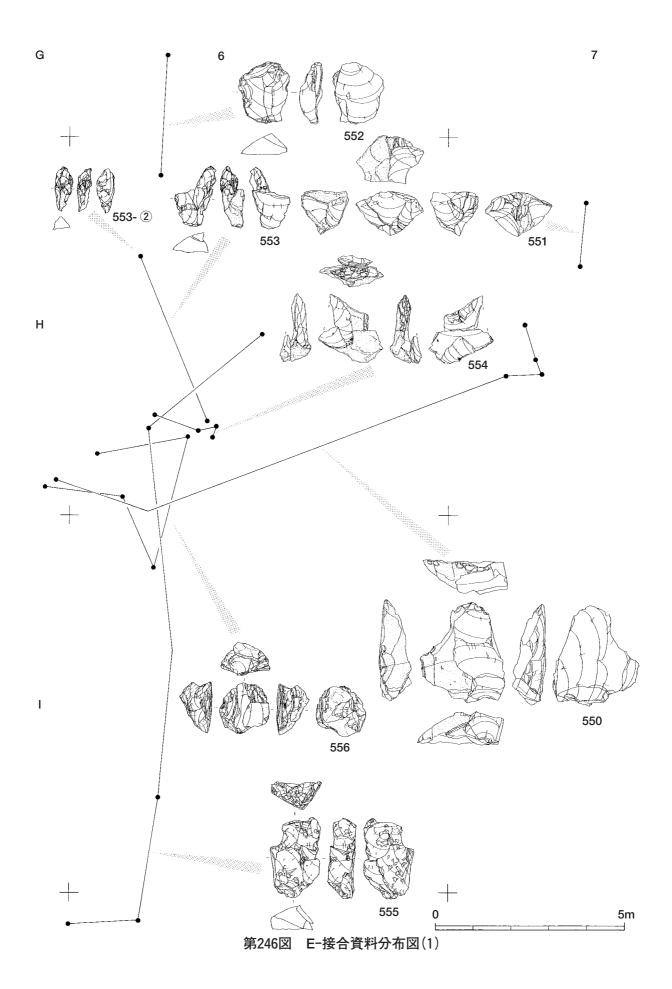


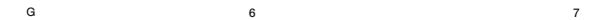
第243図 E-接合資料図(7)

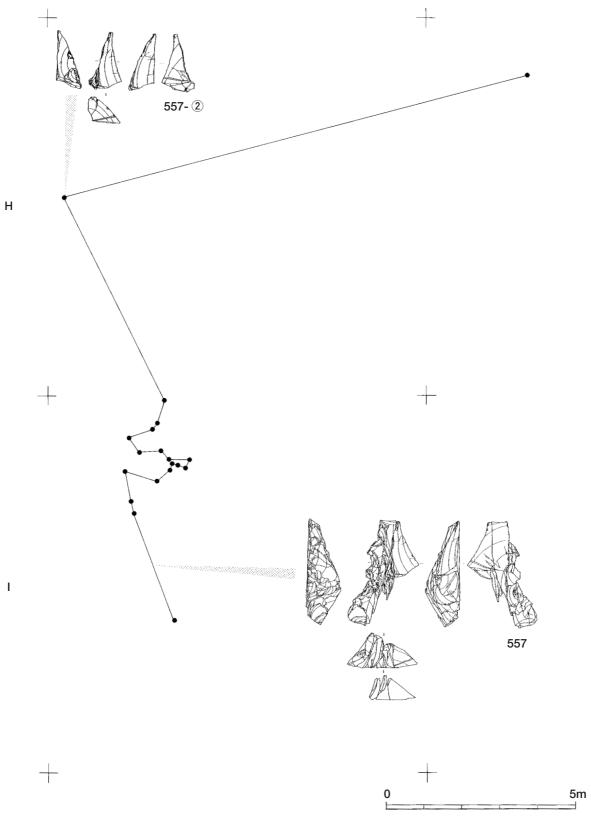


第244図 E-接合資料図(8)





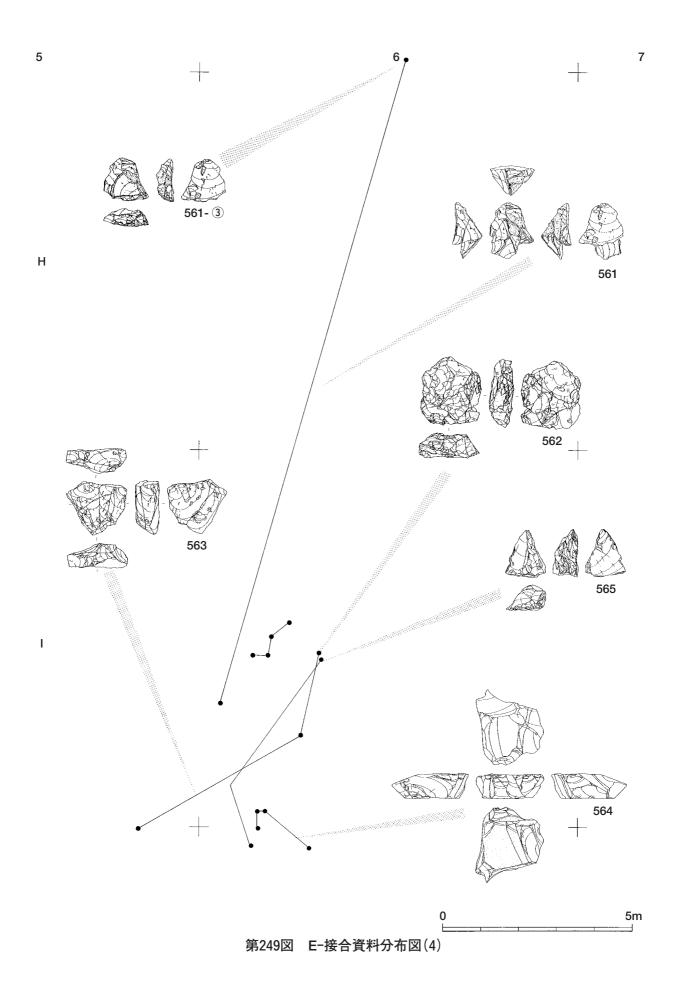


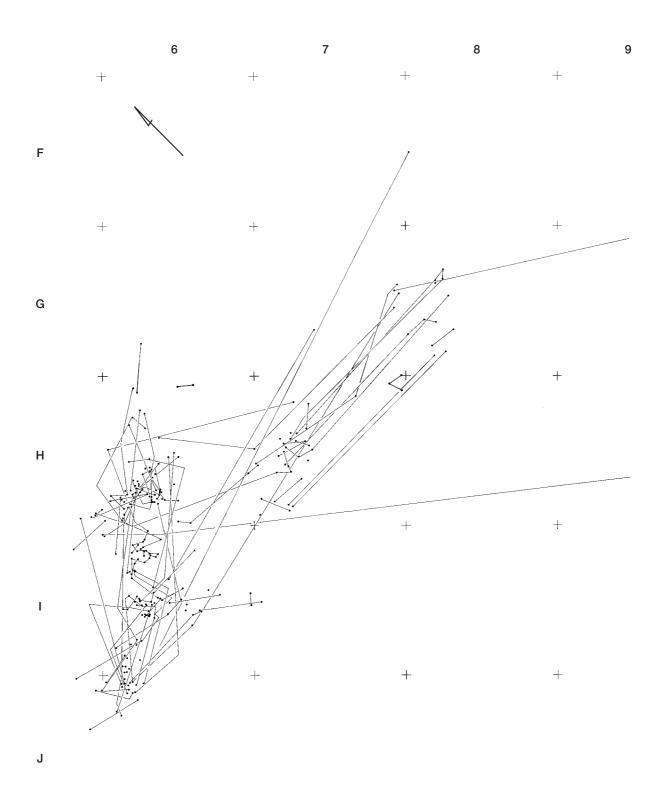


第247図 E-接合資料分布図(2)



-309 -





第250図 Eブロック群接合全体図

6. Fブロック群の石器群

調査区域の北側に位置するD・E-5・6区に所在するブロックを便宜的にFブロック群とした。 ただし、この二つのブロックの関係については、これまでのA~Eブロック群と異なり、両方の距離 が離れており、また石材的にはまったく異なるものである。それぞれのブロックの石材は上牛鼻産 黒曜石と三船産黒曜石である。

50ブロック (第252図・253図)

D-6区に位置しており、径約5m程度の円形に分布しており、石器群の集中度は高い。石材は 上牛鼻産黒曜石が主体である。

51ブロック

E-5区に径約2m程度の三船産黒曜石を主体とする集中部がある。またのその周辺の径約15m程度に上牛鼻産黒曜石が散在している。

このF地区については、 W層の層が薄く、 またシラスの堆積がなく岩盤が浅く露出した部分であるため、 出土状況は W層 ~ IX 層となっている。 以下はF地区出土の石器である。

ナイフ形石器 (第254図568・569)

568は上牛鼻産黒曜石製であり、幅広剥片の打面部にブランティングを施したものである。

569は表面が黄褐色に風化した頁岩の横長剥片を素材としたもので、粗い調整加工が施されている。先端部と基部は欠損している。

掻器 (第254図570~571)

570は三船産黒曜石製の幅広剥片を使用したものであり、剥片末端に粗い二次加工を施して刃部としている。

571は白色を呈するたんばく石製の剥片を使用し、周辺に粗い二次加工を施したものである。

石核(第254図572)

572は頁岩のやや厚みのある剥片を素材とした石核である。剥片の主要剥離面を底面とし、打面は作業面方向からの2回の剥離により形成し、その稜線がある頂部から横長剥片が剥離されている。剥離された横長剥片は底面を取り込むことになる。いわゆる瀬戸内技法に属する技術である。

573は頁岩製であり、平坦な剥離面を打面にし、正面の幅広剥片が剥離されている。また一つの剥離面を打面にして側面の剥離が行われている。

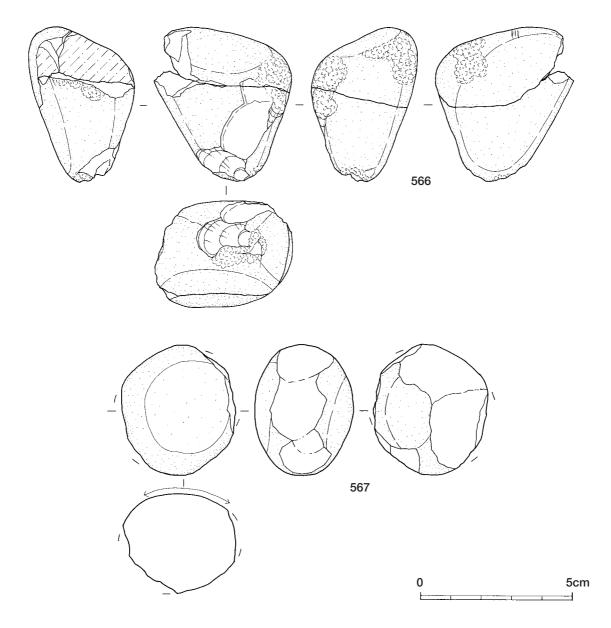
574は上牛鼻産黒曜石製で上面と下面に自然礫皮面が残存するものである。平坦な自然面を打面 にして、正面に剥離が行われている。

Fブロック群の接合資料

Fブロック群の接合資料は多くなかった。

接合資料575 (第255・256図)

石材はたんぱく石である。石核と剥片の接合資料である。①はその接合図である。図で示しているように、底面には自然礫面があり、打面の上面は節理面である。この節理面を打面にせいて剥離が行われているが、石質の関係では剥離と節理が区別しにくいものとなっている。



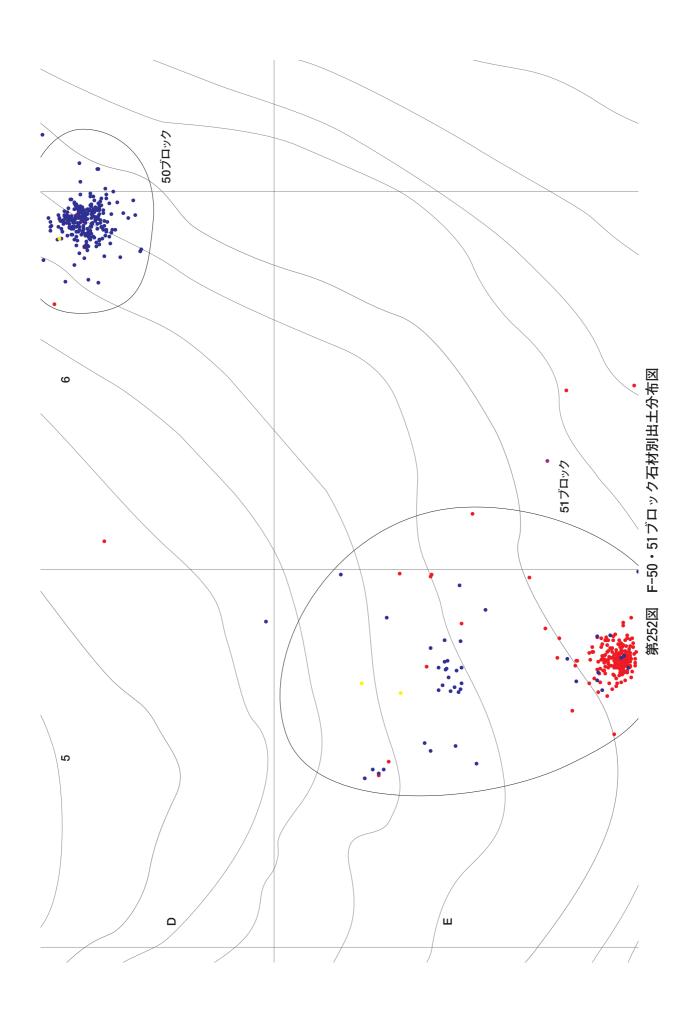
第251図 A~Eのブロック外出土石器

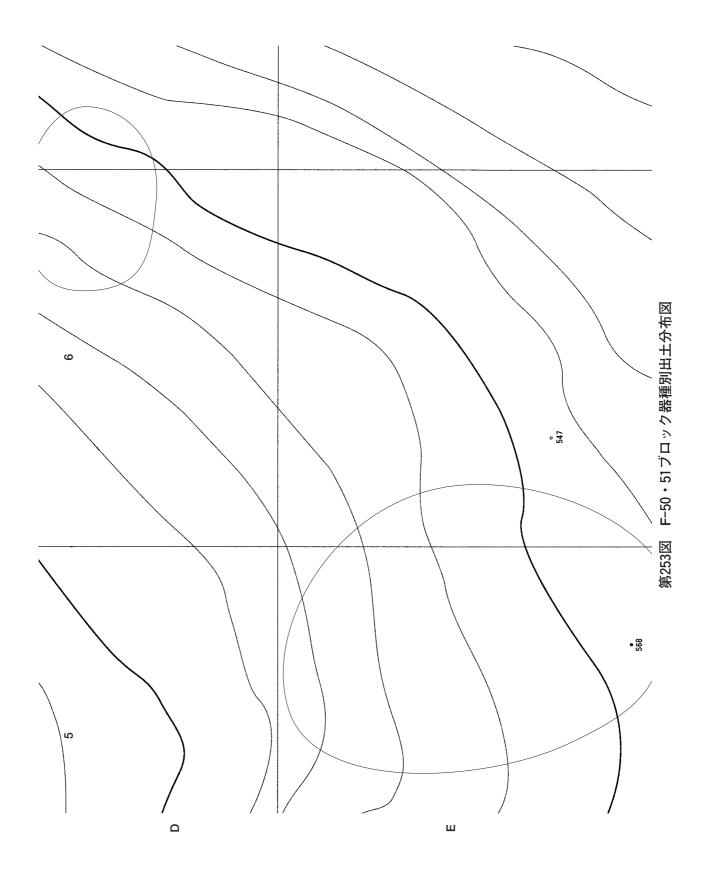
- ②は剥離された剥片の一つである。
- ③は最終的な石核の形状である。

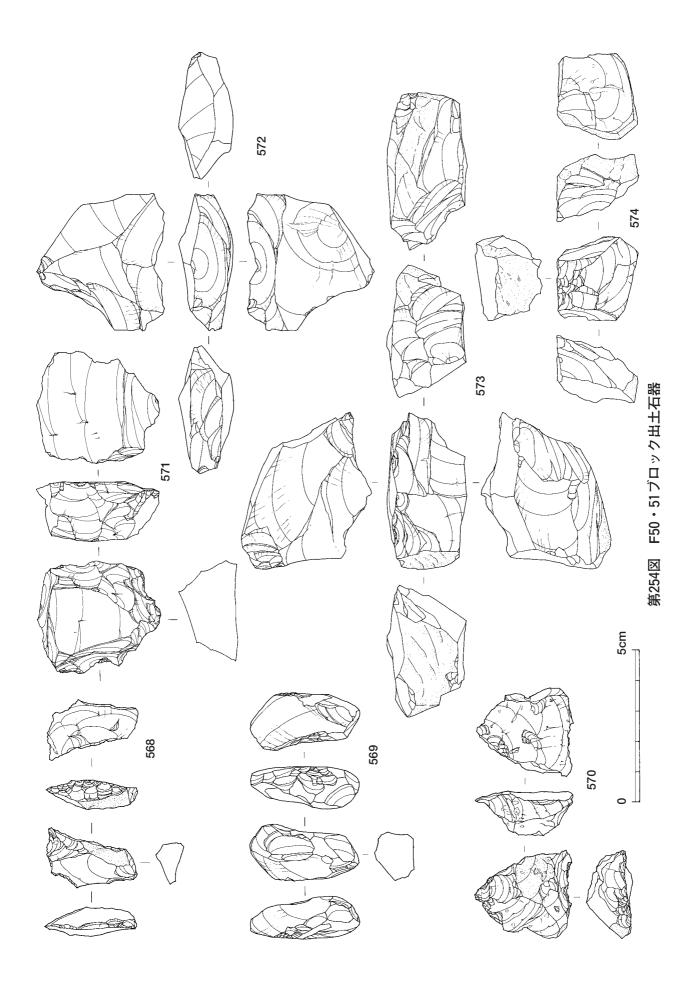
ブロック外の石器 (第251図566・567)

566は砂岩製のハンマーストーンである。突出している部分に敲打痕が認められる。二分されていたものが接合した。

567は安山岩製のハンマーストーンである。

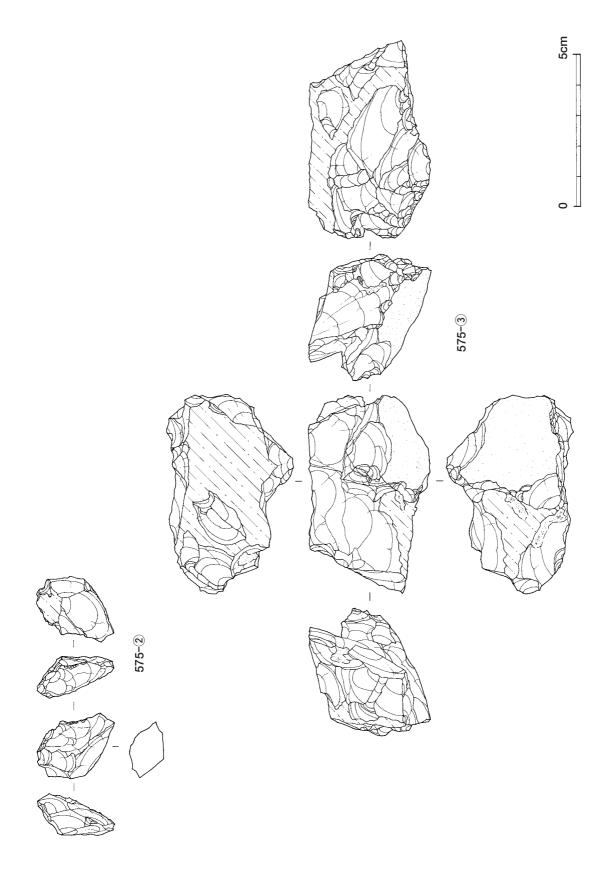






-316-

-317-



-318-

第 4 表 第 I 文化層石器一覧表(1)

	ঠা	_		""	1146	見公(1)							
挿図番号	番号	킂	(番号	;)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	1				19	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.40	2.50	1.20	7.86	47431	
	2				19	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.40	2.00	1.05	4.91	48381	基部
	3				19	折断台形	OB上牛鼻	3.10	2.50	1.25	9.90	47830	
-	4				12	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.95	2.25	1.20	接合	42107	
61	5				12	基器	OB上牛鼻	3.55	3.55	1.00	10.04	40874	
	6		106	3	12	加工のある石器	OB上十昇	4.25	2.10	1.20	9.88	42117	
	7		100	-	12	削器	OB上牛鼻	6.70	4.45	1.90	接合	42113	
	8		100	2		スクレイパー	OB上十鼻			0.50			
			106		12			2.30	1.85		接合	42480	
	9				11	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.50	2.20	1.20	8.91	40962	
	10		110	4	11	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	2.00	1.50	6.56	42541	
62	11				11	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.20	1.90	1.20	5.89	40969	
02	12		107	3	11	UF	OB上牛鼻	4.00	2.50	1.45	接合	41214	
	13		107	2	11	台形石器	OB上牛鼻	3.85	3.10	1.60	接合	41262	
	14		108	2	11	石核	黒色頁岩	10.70	3.80	3.20	107.67	41259	
	15				20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.90	2.10	1.50	12.01	60747	
	16				20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.40	1.70	1.30	5.87	55471	
	17				20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.10	1.90	1.00	5.94	60503	
	18				20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.70	1.50	1.10	4.45	59174	
-	19				20	ナイフ形石器	OB上十昇	1.50	2.20	1.10	0.99	58732	
CF .													
65	20				20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.90	1.45	1.20	2.78	55448	基部
	21		***	_	20	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.20	3.15	1.30	10.58	59165	
	22		111	2	20	台形石器	OB上牛鼻	3.50	2.00	1.20	7.99	55491	
	23				20	折断台形	OB上牛鼻	2.50	3.40	1.30	接合	55494	
	24				20	ノッチ	OB上牛鼻	1.80	2.70	0.90	2.57	60549	
	25				20	UF	OB上牛鼻	1.90	1.70	0.80	1.88	60571	
	26				20	UF	頁岩	3.80	3.40	1.20	13.46	55428	
	27				20	折断剥片	OB上牛鼻	2.60	3.60	0.85	接合	61232	
	28				20	 石核	OB上牛鼻	3.05	3.70	4.10	接合	59026	
66	29				10	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.40	2.40	1.25	11.55	40523	
	30				10	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.85	1.85	1.25	6.50	42236	
	31				10	台形石器	ギョクズイ	3.15	2.40	1.30	7.54	40537	
	32				10	スクレイパー	ギョクズイ	3.10	3.15	1.15	7.80	40539	
	33				10	スクレイパー	安山岩	5.80	4.55	1.20	26.77	40532	
	34		108	3	10	スクレイパー	黒色頁岩	5.80	3.90	2.30	30.51	40556	
	35				8	ナイフ形石器	珪質頁岩	6.95	2.00	0.70	7.49	41614	
67	36				8	台形石器	珪質頁岩	1.90	1.55	0.50	接合	41290	
	37		114	2	8	UF	珪質頁岩	2.00	2.05	0.50	2.37	接合資料2点	接合(41288・41290)
	38		114	4	8	UF	珪質頁岩	3.45	3.00	0.80	7.90	41615	
	39		112	4	8	石核	OB上牛鼻	3.50	4.90	4.80	77.56	41630	
	40				9	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.60	2.00	1.00	5.06	40512	
	41				9	ナイフ形石器	OB淀姫	4.10	2.70	1.15	9.19	40455	分析No.60
	42				9	UF	砂岩	4.00	2.40	0.73	6.70	40401 • 40414	
	43				9	グレイバー	ギョクズイ	3.20	1.90	0.70	4.74	40463	
70	44				9	スクレイパー	黄色珪質頁岩	6.60	3.20	1.00	14.06	40518	
/ /													
	45		440	_	9	UF	OB上牛鼻	2.00	2.00	0.60	1.85	40459	
	46		116	4	9	ナイフ形石器	珪質頁岩	2.90	2.85	1.00	5.11	42088	
	47			_	9	敲石	花崗岩	5.70	4.40	3.60	128.56	40475	
	48		115	4	13	台形石器	珪質頁岩	3.60	3.00	0.90	7.36	43811	
	49				35	ナイフ形石器	OB三船	3.10	1.60	1.20	4.56	99394	
	50				35	ナイフ形石器	OB三船	4.20	2.30	1.30	10.29	99396	
	51			L	35	ナイフ形石器	OB三船	2.20	1.40	0.50	12.60	103563	
	52		119	5	35	ナイフ形石器	OB日東	1.80	2.65	1.30	5.27	106831	
74	53				35	石錐	OB三船	1.80	0.70	0.55	0.52	106787	
	54				35	スクレイパー	OB日東	4.10	4.80	1.20	18.45	99446	分析No.58
	55				35	折断ナイフ形石器	OB日東	3.40	1.10	1.80	接合	99412	
	56				36	ナイフ形石器	頁岩	5.60	3.40	1.70	24.36	99449	峠山
	57				36	UF	頁岩	3.30	4.40	1.20	16.29	99458	
						ナイフ形石器				0.90	4.87		分析No 57
	58			_	34		OB日東 ギュクブイ	3.60	2.10			99286	分析No.57
	59				34	折断台形	ギョクズイ	3.50	2.40	1.40	10.86	99386	
	60				34	ナイフ形石器	OB三船	2.10	1.70	0.70	1.62	103631	
	61				34	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.00	2.60	1.20	13.34	106428	
75	62				34	スクレイパー	OB日東	6.80	2.90	1.90	27.73	99378	
	63			L	34	使用痕剥片	OB日東	2.80	3.10	1.20	8.44	99254	
	64		117	2	34	ナイフ形石器	OB日東	5.50	3.25	1.20	20.01	接合資料2点	接合 (99412・103614)
	65		118	2	34	石核	OB日東	3.50	2.10	1.80	10.11	99340	接合 (99315)
	_	_	_	_	34	石核	OB日東	4.30	3.70	2.10	26.19	99315	接合 (99340)
	66				31	ナイフ形石器	OB三船	3.90	1.80	0.90	5.06	92487	
-	67				31	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.60	2.00	1.00	5.62	100000	
78	68				31			4.60	2.80			92491	
						ナイフ形石器	黒色珪質頁岩			1.00	接合		
	69				31	ナイフ形石器	たんぱく石	3.20	1.90	0.70	3.61	93268	

第5表 第I文化層石器一覧表(2)

知り公	//	, Т	XII	が自	一台	見公(4)							
挿図番号	番	号	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	70				31	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.10	1.85	0.60	2.88	93954	
	71				31	ナイフ形石器	たんぱく石	3.20	1.50	0.70	2.45	105997	
	72				31	ナイフ形石器	たんぱく石	2.10	1.40	0.50	1.13	93952	先端
78	73				31	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.45	2.20	1.00	3.26	92501	先端
, 0	74				31	台形石器	OB上牛鼻	1.80	1.90	0.60	1.79	93995	70710
	75				31	台形石器	頁岩	3.30	1.60	0.60	3.32	93970	
	76				31	ナイフ形石器	OB上牛鼻	5.70	3.40	1.60	接合	93945	
	_												
	77				31	削器	OB上牛鼻	6.10	4.00	1.20	25.00	93260	
	78				31	スクレイパー	ギョクズイ	5.20	4.20	1.40	16.77	93274	
	79				31	削器	頁岩	2.95	2.00	1.00	4.48	106366	
	80		121	4	31	ナイフ形石器	ギョクズイ	3.40	1.40	0.30	3.29	93261	
	81				31	スクレイパー	ギョクズイ	2.90	1.80	1.00	4.60	93273	
	82				30	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.50	1.50	1.10	4.02	92439	
79	83				30	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.10	1.60	1.20	接合	92475	
	84				30	台形石器	OB上牛鼻	1.60	1.40	0.90	2.15	92447	
	85				30	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.80	1.50	0.60	1.31	93158	先端
	86				30	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	1.70	1.10	4.03	106796	70-10
	87				30	折断台形	OB上牛鼻	3.20	2.40	1.30	9.18	92473	
	88				30	折断UF	OB上牛鼻	3.90	2.70	1.10	10.45	105943	
	89				30	折断台形	OB上牛鼻	2.30	1.90	0.60	2.23	93930	
	90				30	スクレイパー	OB上牛鼻	4.60	3.00	1.65	15.22	92436	
	91				30	UF	OB上牛鼻	4.45	2.60	1.20	12.64	105858	
	92				29	ナイフ形石器	OB不明	3.70	2.10	0.80	4.59	106364	
	93	L		L	29	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.00	2.00	0.90	6.48	92407	
	94				29	掻器	OB上牛鼻	2.55	2.40	0.90	5.68	104311	
80	95		123	2	29	掻器	頁岩	4.50	3.20	1.60	17.71	106040	
	96				29	削器	ギョクズイ	3.70	3.10	0.70	5.72	93071	
	97				29	スクレイパー	OB上牛鼻	4.90	2.40	1.30	接合	92414	
	98				29	スクレイパー	OB桑ノ木津留	4.20	2.40	0.70	5.09	93066	
	99				29	ナイフ形石器	安山岩	4.20	3.10	1.50	13.25	92410	
	100				29	UF	鉄石英	3.15	1.80	0.90	5.02	93048	
						_							
	101			-	5	削器	頁岩	4.20	4.60	1.70	35.21	22332	
	102		125	5	5 • 6		OB上牛鼻	4.40	3.10	1.10	12.45	接合資料2点	接合(5-22352・6-22633)
83	103		125	3	5 • 6	台形石器	OB上牛鼻	6.00	3.00	1.30	18.43	接合資料2点	接合(5-22353・6-22615)
	104		124	3	6	掻器	OB上牛鼻	2.40	3.90	2.30	25.71	22651	
	105		125	6	6	石錐	OB上牛鼻	3.80	4.05	1.00	13.28	22618	
	106	1			12	接合資料	OB上牛鼻	4.45	3.70	1.45	20.62	接合資料3点	接合(42480・42117・42495)
	106	2	8		12	スクレイパー	OB上牛鼻	2.25	1.60	0.50	1.92	42480	
	106	3	6		12	加工のある石器	OB上牛鼻	4.25	2.10	1.20	9.88	42117	
84	106	4			12	UF	OB上牛鼻	4.00	2.25	1.10	8.82	42495	
	107	1			11	接合資料	OB上牛鼻	3.60	4.50	2.50	26.31	接合資料2点	接合 (41262・41214)
	107	2	13		11	スクレイパー	OB上牛鼻	3.60	3.50	1.60	16.30	41262	
	107	3	12		11	剥片	OB上牛鼻	3.45	3.10	1.40	10.01	41214	
	108	1	- '-		11	接合資料	黒色頁岩	13.35	4.80	2.79	138.18	接合資料2点	接合 (41259・40556)
05			1.4										後日 (41239・40330)
85	108	2	14		11	石核	黒色頁岩	10.70	3.80	3.20	107.67	41259	
	108	3	35		8	スクレイパー	珪質頁岩	6.95	2.00	0.70	7.49	40556	
	109	1			11	接合資料	OB上牛鼻	3.10	5.50	1.70	22.66	接合資料 6 点	
	109	2			11	剥片	OB上牛鼻	2.30	1.20	0.40	0.66	40986	
86	109	3			11	剥片	OB上牛鼻	2.90	2.30	0.80	3.58	42572	
00	109	4			11	剥片	OB上牛鼻	3.00	3.40	1.00	7.84	43834	
	109	5			11	剥片	OB上牛鼻	3.00	2.60	1.15	4.95	40965	
	109	6			11	剥片	OB上牛鼻	2.00	3.10	1.00	5.63	接合資料2点	接合(40995・40994)
	110	1			11	接合資料	OB上牛鼻	3.85	3.60	2.00	18.34	接合資料 5 点	接合 (40963・42562・42565他)
	110	2			11	剥片	OB上牛鼻	1.80	2.60	1.55	5.86	40963	(
	110	3			11	剥片	OB上牛鼻	1.90	2.00	1.30	3.88	接合資料2点	接合 (42562・42565)
87		_	10										13K D (42302 - 42303)
	110	4	10		11	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	2.00	1.50	6.56	42541	+±∧ /FF404 FF404\
	111	1			20	接合資料	OB上牛鼻	7.10	3.30	1.40	18.71	接合資料2点	接合 (55464・55491)
	111	2	22		20	台形石器	OB上牛鼻	3.50	2.00	1.20	7.99	55491	
89	112	1			8	接合資料	OB上牛鼻	4.20	5.90	5.30	105.91	接合資料3点	接合(注記不明・40???・41630
	112	2		\perp	8	剥片	OB上牛鼻	2.30	4.70	2.90	18.03	注記不明	
90	112	3		\perp	8	剥片	OB上牛鼻	4.00	2.30	1.80	10.32	40???	
	112	4	39		8	石核	OB上牛鼻	3.50	4.90	4.80	77.56	41630	
	113	1			10	接合資料	OB上牛鼻	5.30	4.60	1.70	30.49	接合資料3点	接合(40551・40548・40547)
	113	2			10	二次加工剥片	OB上牛鼻	2.70	3.40	1.40	10.75	40551	
	113	3			10	剥片	OB上牛鼻	4.08	2.48	1.37	13.90	40548	接合 (40547)
	-	-		-	10	剥片	OB上牛鼻	2.90	2.40	1.43	5.84	40547	接合 (40548)
91		1	<u> </u>	-									
	114	1		-	8	接合資料	珪質頁岩	3.50	3.90	0.95	11.02	接合資料4点	接合 (41288・41290・41282他)
	114	2	37		8	UF	珪質頁岩	2.00	2.05	0.50	2.37	接合資料2点	接合 (41288・41290)
						mer co							
	114	3	38		8	剥片 UF	珪質頁岩 珪質頁岩	1.95 3.45	1.60 3.00	0.30	0.75 7.90	41282 41615	

第6表 第I文化層石器一覧表(3)

弗 0 衣	牙	, I	又10	川	口品—	「夏衣(3)							
挿図番号	番 -	号	(番号)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
92	115	1			8 • 13	接合資料	珪質頁岩	6.25	7.30	4.05	168.65	接合資料16点	接合 (43774・43775・43807他)
92	115	2			13	接合資料	珪質頁岩	4.50	6.85	3.25	70.05	接合資料 6 点	接合 (43774・43830・44301他)
	115	3			13	接合資料	珪質頁岩	3.40	6.35	2.25	56.44	接合資料 6 点	接合(43775・43798・43800他)
	115	4	48		13	台形石器	珪質頁岩	3.60	3.00	0.90	7.36	43811	
93	115	5			13	剥片	珪質頁岩	2.20	3.50	0.95	6.77	43786	
	115	6			13	剥片	珪質頁岩	1.70	2.40	0.50	1.40	43827	
	115	7			13	剥片	珪質頁岩	2.10	5.00	2.50	26.63	接合資料2点	接合(43807・43778)
	116	1			9 • 14	接合資料	珪質頁岩	3.55	3.00	1.85	16.52	接合資料5点	接合(40456・42088・44030他)
	116	2			9	剥片	珪質頁岩	3.60	2.40	0.90	5.22	40456	
	116	3			9	剥片	珪質頁岩	1.30	2.20	0.45	1.23	接合資料2点	接合(40435・40465)
	116	4	46		9	ナイフ形石器	珪質頁岩	2.90	2.85	1.00	5.11	42088	
95	116	5	172		9	使用痕剥片	珪質頁岩	2.70	3.55	0.85	4.96	44030	
	117	1			35 • 34	接合資料	OB日東	7.65	7.00	3.20	109.81	接合資料5点	接合 (99412・99401・99431他)
	117	2	64		34	ナイフ形石器	OB日東	5.50	3.25	1.20	20.01	接合資料2点	接合(99412・103614)
	117	3			35	剥片	OB日東	2.90	3.00	1.20	6.01	99401	
	117	4			35	剥片	OB日東	3.00	1.20	0.50	0.94	99431	
	118	1			34	接合資料	OB日東	4.60	4.30	2.65	44.02	接合資料 4 点	接合 (99340・99380・92538・他)
	118	2	65		34	石核	OB日東	4.30	3.70	2.10	26.19	99315	接合 (99340)
96	-	-	-	-	34	石核	OB日東	3.50	2.10	1.80	10.11	99340	接合 (99315)
	118	3			34	剥片	OB日東	1.30	1.80	0.80	1.71	99380	
	118	4			34	剥片	OB日東	2.70	3.00	1.10	6.01	92538	
	119	1			35	接合資料	OB日東	3.80	2.85	1.85	11.46	接合資料4点	接合(106831・99407・106774他)
	119	2			35	剥片	OB日東	2.70	1.40	1.20	3.20	注記不明	
	119	3			35	剥片	OB日東	1.00	2.10	0.90	1.27	注記不明	
97	119	4			35	剥片	OB日東	2.00	2.40	0.60	1.90	注記不明	
37	119	5	52		35	ナイフ形石器	OB日東	1.80	2.65	1.30	5.27	106831	
	120	1			31	接合資料	タンパク石	6.50	3.75	1.50	30.45	接合資料2点	接合(106099・92537)
	120	2			31	使用痕剥片	タンパク石	4.40	3.70	1.35	17.14	106099	
	120	3			31	スクレイパー	タンパク石	4.30	3.05	1.50	13.31	92537	
	121	1			9 • 31	接合資料	ギョクズイ	5.80	2.90	1.20	13.56	接合資料5点	接合(93264・40457・93261他)
	121	2			31	剥片	ギョクズイ	4.45	1.50	0.90	4.20	接合資料2点	接合 (93264・93261)
	121	3			9 • 31	剥片	ギョクズイ	5.80	2.40	0.60	9.26	接合資料3点	接合(40457・99995・注記不明)
98	121	4	80		31	ナイフ形石器	ギョクズイ	3.40	1.40	0.30	3.29	93261	
90	122	1			30	接合資料	OB上牛鼻	3.70	2.90	3.30	25.21	接合資料 4 点	接合(105866・93149・105857他)
	122	2			30	剥片	OB上牛鼻	2.80	2.20	1.00	2.34	接合資料2点	接合(105866・105868)
	122	3			30	剥片	OB上牛鼻	2.00	2.20	0.70	1.93	93149	
	122	4			30	石核	OB上牛鼻	2.75	3.20	2.60	20.94	105857	
	123	1			29	接合資料	頁岩	7.40	4.45	2.55	55.89	接合資料 3 点	接合(106040・93042・93040)
	123	2	95		29	掻器	頁岩	4.50	3.20	1.60	17.71	106040	
	123	3			29	剥片	頁岩	3.80	2.20	1.10	6.83	93042	
99	123	4			29	剥片	頁岩	7.40	2.90	2.20	31.35	93040	
	124	1			6	接合資料	OB上牛鼻	3.75	3.80	2.20	29.47	接合資料 2 点	接合 (22650・22651)
	124	2			6	剥片	OB上牛鼻	2.10	2.85	0.90	3.76	22650	
	124	3	104		6	掻器	OB上牛鼻	2.40	3.90	2.30	25.71	22651	
	125	1			5 • 6 • 29	接合資料	OB上牛鼻	3.50	7.30	5.10	57.90	接合資料13点	接合 (6-22640・6-22627・29-92426他)
	125	2			5 • 6 • 29	接合資料	OB上牛鼻	6.00	3.00	1.35	20.76	接合資料 6 点	接合 (6-22628・6-22644・6-22780他)
101	125	3	103		5 • 6	台形石器	OB上牛鼻	6.00	3.00	1.30	18.43	接合資料 2 点	接合 (5-22353・6-22615)
101	125	4			6	剥片	OB上牛鼻	3.70	3.10	1.10	15.30	接合資料 2 点	接合 (22618・22641)
	125	5	102		5 • 6	接合資料	OB上牛鼻	4.40	3.10	1.10	12.45	接合資料 2 点	接合 (5-22352・6-22633)
	125	6	105		6	石錐	OB上牛鼻	3.80	4.05	1.00	13.28	22618	
	126		180	2	18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	2.20	1.30	5.58	48812	
	127				18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.40	1.70	1.25	6.90	50534	
	128				18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.70	1.30	0.90	1.96	50505	基部
	129				18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.50	1.50	0.90	2.69	48285	基部
	130				18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.50	1.40	0.90	1.57	50599	基部
108	131				18	ナイフ形石器	OB三船	2.70	1.90	0.75	3.21	48672	
	132				18	折断台形	OB上牛鼻	2.10	1.95	0.50	1.81	48905	
	133				18	石錐	OB上牛鼻	3.50	1.00	0.90	2.56	48652	
	134		181	2	18	彫器	OB上牛鼻	3.45	1.80	0.90	4.43	50674	
	135				18	UF	OB上牛鼻	4.30	1.80	0.90	4.31	55387	
	136				18	掻器	OB上牛鼻	2.15	4.25	3.40	19.93	48882	
	137				18	剥片	サヌカイト	5.05	6.15	1.45	21.42	48614	
	138				18	石核	OB上牛鼻	4.80	5.40	4.00	接合	49861	
	139				17	ナイフ形石器	珪質頁岩	4.65	3.35	1.00	11.53	47343	
	$\overline{}$				ブロック外	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.70	2.40	1.10	6.15	44443	
100	140			_		/s #/ == 00	OB日東	2.00	1.60	0.50	1.13	47378	
109	140 141		182	3	17	台形石器	Obux						
109			182	3	17	カガロ器 スクレイパー	頁岩	3.50	4.45	1.00	13.75	47368	
109	141		182	3					4.45 2.70	1.00 0.65	13.75 4.55	47368 47332	
109	141 142		182	3	17	スクレイパー	頁岩	3.50		-			

第7表 第I文化層石器一覧表(4)

弗 / 衣	স	, 1	XIL	が自	口	- 夏衣(4)							
挿図番号	番	号	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	146				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.50	2.70	0.90	6.32	46475	基部
	147				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.05	2.00	1.70	7.74	45102	基部
	148				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	5.00	2.95	1.45	14.88	45650	
	149				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.40	1.90	1.15	4.05	44805	
112	150				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.75	2.50	1.25	接合	47021	
	151				16	ナイフ形石器	OB桑ノ木津留	1.95	1.90	0.70	2.11	45652	先端
	152				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	5.30	2.95	1.90	接合	44450	半製品
	153				16	剥片尖頭器	頁岩	7.15	2.70	1.25	18.69	44455	1 3244
	154						OB上牛鼻	3.30	2.30	0.80	6.13		
					16	削器						45152	中山ム
	155				16	削器	安山岩	2.10	1.15	0.60	1.10	45250	割れ
	156				16	UF	鉄石英	3.30	3.75	1.00	7.10	44855	
	157				16	彫器	OB上牛鼻	2.95	2.05	1.20	5.78	44983	
	158				16	石錐	安山岩	3.25	2.40	0.80	接合	45958	
113	159		183	4	16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.90	2.40	1.20	9.65	46981	
	160				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	1.70	1.25	6.48	44850	
	161				16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.45	1.80	0.90	3.47	44685	基部
	162				16	スクレイパー	OB上牛鼻	5.80	3.50	1.50	20.73	接合資料2点	接合 (46774・46122)
	163				16	UF	ギョクズイ	4.80	3.50	1.40	18.50	45680	
	164				16	石錐	OB上牛鼻	2.20	3.45	0.85	5.43	44719	
	165				23	ナイフ形石器	OB上牛鼻	5.40	2.30	1.25	12.54	87753	
	166				23	ナイフ形石器	黒色珪質頁岩	5.10	3.00	1.05	11.28	69000	
	167				23	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.60	2.30	0.95	1.71	69265	
	168		186	3	23	UF	OB上牛鼻	3.10	2.90	1.70	12.85	69268	
115				-									
	169		187	2	23	石核	黒色珪質頁岩	3.40	5.30	4.50	86.29	69011	
	170		185	2	23	石核	黒色珪質頁岩	7.60	4.15	3.60	接合	69010	
	171				14	削器	OB上牛鼻	4.60	2.80	1.15	接合	44027	
	172		116	5	9	スクレイパー	珪質頁岩	2.70	3.55	0.85	4.96	44030	
	173		189	7	27	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.40	1.80	1.70	接合	87684	
	174		188	6	27	掻器	OB上牛鼻	2.60	3.40	0.95	接合	97750	
	175				27	石核	OB上牛鼻	3.30	3.70	3.10	35.17	87693	
118	176				3	ナイフ形石器	ギョクズイ	3.00	1.95	0.85	3.37	21091	
	177				3	尖頭器	珪質頁岩	3.80	2.60	1.15	6.82	21082	
	178				3	UF	OB上牛鼻	3.65	2.00	0.95	5.37	21094	
	179				3	スクレイパー	OB上牛鼻	2.80	1.90	1.20	4.99	21093	
	180	1			18	接合資料	OB上牛鼻	4.90	3.10	2.10	14.97	接合資料2点	接合 (48883・48812)
	180	2	126		18	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.70	2.20	1.30	5.58	48812	132 (10000 10012)
	180	3	120		18	剥片	OB上牛鼻	3.70	2.60	1.40	9.39	48883	
		1											±±△ (F0C74 FC124)
110	181		104		18	接合資料	OB上牛鼻	3.50	2.70	0.90	7.44	接合資料2点	接合(50674・56134)
119	181	2	134		18	彫器	OB上牛鼻	3.45	1.80	0.90	4.43	50674	
	181	3			18	剥片	OB上牛鼻	3.50	1.60	0.70	3.01	56314	
	182	1			17	接合資料	OB日東	2.90	2.00	0.60	2.60	接合資料2点	接合 (47099・47378)
	182	2			17	台形石器	OB日東	1.85	1.55	0.55	1.47	47099	
	182	3	141		17	台形石器	OB日東	2.00	1.60	0.50	1.13	47378	
	183	1			16	接合資料	OB上牛鼻	5.00	4.70	2.20	38.25	接合資料5点	接合 (46279・96919・46981他)
	183	2			16	剥片	OB上牛鼻	3.10	2.10	0.60	3.11	46279	
	183	3			16	剥片	OB上牛鼻	5.10	4.15	1.10	21.33	接合資料2点	接合 (96919・91504)
120	183	4	159		16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.90	2.40	1.20	9.65	46981	
	183	5			16	剥片	OB上牛鼻	2.15	2.30	1.20	4.16	45675	
	184	1			16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.05	2.65	1.95	接合	接合資料2点	接合 (45100・46176)
	184	2			16	ナイフ形石器	OB上牛鼻	-	-	-	-	46176	接合 (45100)
	185	1			23	石核	黒色珪質頁岩	7.80	4.50	3.50	接合	接合資料3点	接合 (69010・69055・69263)
	185	2	170		23	石核	黒色珪質頁岩	7.60	4.15	3.60	接合	69010	
121	185	3			23	剥片	黒色珪質頁岩	2.30	3.30	1.00	接合	69055	
	185	4			23	剥片	黒色珪質頁岩	2.10	2.60	0.80	接合	69263	
	186	1			23		A B 工具具石	5.70	4.35	4.65			接合 (69049・69028・69281他)
						接合資料					72.35	接合資料7点	1支口 (いついゅう * ひろいとの * ひろとの11位)
	186	2	100		23	剥片	OB上牛鼻	4.85	3.05	1.40	20.25	69049	
	186	3	168		23	UF	OB上牛鼻	3.10	2.90	1.70	12.85	69268	In A (0000
122	186	4			23	剥片	OB上牛鼻	4.00	3.20	1.00	12.61	接合資料2点	接合 (69028・69056)
	186	5		_	23	剥片	OB上牛鼻	3.40	2.30	1.20	4.54	69281	
	186	6			23	剥片	OB上牛鼻	3.40	2.20	0.60	19.59	69040	
	186	7			23	剥片	OB上牛鼻	4.50	2.70	1.70	2.51	69026	
	187	1		\Box	23	石核	黒色珪質頁岩	4.10	5.30	4.40	接合	接合資料2点	接合 (69011・69264)
124	187	2	169		23	石核	黒色珪質頁岩	3.40	5.30	4.50	86.29	69011	
	187	3			23	剥片	黒色珪質頁岩	3.90	3.60	0.90	13.33	69264	
	188	1			27	接合資料	OB上牛鼻	2.80	5.60	2.90	21.32	接合資料 8 点	接合 (87740・95605・95640他)
	188	2			27	剥片	OB上牛鼻	2.80	2.50	0.50	2.51	87745	
	188	3			27	剥片	OB上牛鼻	2.20	2.30	0.50	1.76	95605	
125	188	4			27	剥片	OB上牛鼻	2.20	4.30	0.90	7.48	接合資料4点	接合 (95640・87740・95678他)
	188	5			27	剥片	OB上牛鼻	2.30	1.80	0.90	1.71	95530	12 [(00040 0) 140 - 300/0[B)
		-											
	188	6			27	剥片	OB上牛鼻	3.50	2.20	1.00	7.86	97750	

第8表 第I文化層石器一覧表(5)

为 0 	71.		<u> </u>	<u>ار ح</u>	1110	見公(3)							
挿図番号	番 -	号	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	189	1			27	接合資料	OB上牛鼻	4.30	2.75	2.10	17.09	接合資料7点	接合 (95686・95500・95652他)
	189	2			27	剥片	OB上牛鼻	1.70	2.45	0.40	1.63	95686	
	189	3			27	剥片	OB上牛鼻	1.75	1.65	0.45	0.82	95500	
125	189	4			27	剥片	OB上牛鼻	2.05	1.65	0.35	0.98	95652	
	189	5			27	剥片	OB上牛鼻	2.10	2.75	0.40	2.40	接合資料2点	接合(96919・91504)
	189	6			27	剥片	OB上牛鼻	0.80	1.25	0.30	0.25	96291	
	189	7			27	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.40	1.85	1.80	11.01	87684	
	190				4	ナイフ形石器	OB三船	3.35	1.40	1.10	3.48	18381	
	191				4	ナイフ形石器	OB三船	2.90	2.15	1.40	6.01	21365	
	192				4	ナイフ形石器	OB三船	1.90	1.55	0.90	1.40	20982	
	193				4	ナイフ形石器	OB三船	2.00	1.55	0.75	1.20	18308	
	194				4	ナイフ形石器	OB三船	2.10	0.95	0.60	0.76	18341	
	195		265	4	4	ナイフ形石器	OB三船	3.20	2.25	1.20	接合	18314	
	196				4	ナイフ形石器	OB三船	1.40	0.90	0.40	0.29	18405	
131	197				4	ナイフ形石器	OB三船	2.40	2.40	0.80	4.04	22039	
131	198				4	台形石器	OB三船	1.60	1.30	0.50	0.80	18311	
	199		267	6	4	台形石器	OB三船	3.00	1.45	0.65	接合	18319	
	200		263	4	4	台形石器	OB三船	2.40	1.40	1.00	2.80	18243	
	201				4	台形石器	OB三船	2.55	2.20	0.75	3.64	20905	
	202		268	3	4	台形石器	OB三船	2.80	2.60	1.20	7.47	18360	
	203				4	台形石器	OB三船	3.25	2.10	0.95	接合	18393	
	204		269	3	4	台形石器	OB三船	2.50	1.90	0.80	接合	21345	接合 (20904)
	205		268	4	4	スクレイパー	OB三船	2.40	2.50	1.00	3.47	注記不明	
	206		269	2	4	削器	OB三船	3.15	2.90	1.10	接合	20904	接合 (21345)
	207				4	削器・ノッチ	OB三船	3.50	2.60	1.30	7.60	21296	
	208		264	3	4	折断・ノッチ	OB三船	2.40	1.85	1.00	接合	20928	接合 (18362)
	209		270	9	7	ナイフ形石器	OB三船	2.80	2.00	0.90	3.40	26783	
	210				7	ナイフ形石器	OB三船	3.10	1.75	0.15	3.60	26794	
	211				7	ナイフ形石器	OB三船	2.70	2.35	1.10	接合	26769	
132	212		275	3	7	ナイフ形石器	OB三船	2.40	1.50	1.30	4.20	26796	
	213		274	5	7	ナイフ形石器	OB三船	3.25	1.85	1.00	接合	31535	未製品
	214		276	4	7	台形石器	OB三船	2.40	2.30	1.10	3.90	26771	
	215				7	削器	OB桑ノ木津留	1.80	1.40	0.32	0.81	27147	
	216				7	掻器	OB上牛鼻	4.00	3.10	1.25	13.54	26727	
	217				7	掻器	頁岩	3.55	2.80	1.55	接合	26736	
	218				7	掻器	OB三船	2.90	2.90	1.30	9.26	32772	未製品
	219				7	削器	OB三船	2.50	1.75	0.90	3.19	26714	
	220				7	掻器	OB三船	6.30	7.70	1.90	85.76	27156	
	221				2	ナイフ形石器	OB三船	3.10	1.60	1.20	4.05	21422	
	222				2	ナイフ形石器	黒色頁岩	4.10	1.35	0.70	3.41	105849	
133	223				2	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.50	2.10	0.70	3.25	105848	
	224		271	11	2	台形石器	OB三船	4.50	2.90	1.00	7.40	17688	
	225		279	3	2	台形石器	OB三船	2.30	2.20	0.90	3.40	22114	
	226				2	ナイフ形石器	OB桑ノ木津留	1.85	2.45	0.75	2.25	17740	
	227		273	2	2	台形石器	OB三船	2.20	2.40	0.80	3.07	17718	
	228		271	2	1	ナイフ形石器	OB三船	2.70	2.00	1.30	5.20	21118	
	229		266	2	1	ナイフ形石器	OB三船	3.40	2.20	1.00	5.60	21110	接合 (21110・21036)
	230		277	7	1 • 2 • 3	使用痕剥片	OB三船	3.00	1.70	1.30	4.20	注記不明	
	231				39	ナイフ形石器	OB三船	2.70	1.50	1.10	3.16	105150	
	232				40	ナイフ形石器	OB三船	3.00	1.80	0.85	4.41	105166	
134	233				39	ナイフ形石器	OB三船	2.10	1.50	0.80	1.59	105466	
	234				39	台形石器	OB三船	2.50	2.40	0.90	3.22	105471	
	235				39	台形石器	OB三船	2.30	1.90	0.80	2.41	105471	
	236		270	7	39	台形石器	OB三船	2.30	1.90	1.00	2.20	105152	
	237		285	5	39	石核	OB三船	1.80	3.80	2.40	10.40	104794	
	238		200	-	39	敲石・ハンマーストーン	砂岩	3.55	3.05	1.70	13.58	106474	
	239				38	ナイフ形石器	OB三船	2.60	1.80	0.70	2.76	104869	
	240				38	ナイフ形石器	OB三船	2.30	1.50	0.70	1.96	105056	
	241				38	ナイフ形石器	ギョクズイ	3.80	2.10	1.35	10.92	103030	
	241				38	ナイフ形石器	マョクスイ OB三船	3.60	2.10	1.33	6.75	104617	
	242				38	ナイフ形石器	OB上作鼻	3.10	1.30	1.00	4.43	105279	
	243				38	ナイフ形石器	OB三船	3.10	1.80	1.00	5.91	104813	
139	245				38	ナイフ形石器	OB三船	1.40	0.80	0.40	0.34	105684	甘如
	246			-	38	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.10	1.80	0.80	2.55	105067	基部
	247			-	38	ナイフ形石器	OB三船	1.95	1.85	0.70	1.92	105304	** ***
	248			-	38	ナイフ形石器	OB三船	1.70	2.05	0.60	2.87	104936	基部
	249				38	ナイフ形石器	OB三船	2.20	1.40	1.00	2.35	105299	基部
	250				38	折断台形	OB三船	2.40	1.70	0.90	2.74	105782	
	251				38	台形石器	OB三船	2.15	1.90	0.80	1.84	105398	
	252	I		1	38	台形石器	OB上牛鼻	2.15	2.10	0.70	2.27	105329	I

第9表 第I文化層石器一覧表(6)

カッベ	21.	<u> </u>	<u> </u>	7/日	1146	見公(0)							
挿図番号	番号	릉	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	253		283	8	38	台形石器	OB三船	2.20	2.20	1.20	3.80	104922	
	254		282	14	38	折断台形	OB三船	1.80	1.85	0.60	接合	105761	
	255		282	2	38	台形石器	OB三船	2.20	2.00	0.90	3.00	105554	
	256				38	折断台形	OB三船	3.50	1.50	0.55	3.78	105409	
	257				38	折断台形	OB三船	2.60	2.50	0.70	3.76	105696	
140	258		282	8	38	台形石器	OB三船	2.10	2.20	1.00	3.40	105030	
	259		_		37	ナイフ形石器	頁岩	2.00	1.90	0.70	1.63	104791	先端
	260				37	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.95	1.10	1.00	1.60	105094	基部
	261				37	スクレイパー	OB上十昇	3.30	2.70	1.60	10.89	104749	金田
	262				37	石核	頁岩	5.80	5.40	3.00	85.23	104765	
	263	1			4	接合資料	OB三船	4.60	3.70	1.30	10.50	接合資料5点	接合 (21301・21347・18243他)
		2				剥片		2.70	2.60	0.70			
	263	_			4		OB三船				3.80	21301	接合 (21347)
	263	3			4	接合資料	OB三船	3.90	2.40	0.90	6.70	18342	接合 (21282・18243)
141	263	4	200	_	4	台形石器	OB三船	2.40	1.40	1.00	2.80	18243	
	264	1			4	接合資料	OB三船	3.50	3.20	1.30	8.80	接合資料5点	接合(18369・20928・18362他)
	264	2			4	剥片	OB三船	2.90	1.50	1.20	3.30	18369	接合(215??・注記不明)
	264	3	208		4	スクレイパー	OB三船	3.50	2.30	1.20	5.50	20928	接合 (18362)
	265	1			4	接合資料	OB三船	4.10	4.30	1.80	17.00	接合資料4点	接合(20999・18365・18314他)
	265	2			4	剥片	OB三船	2.30	2.20	0.70	2.40	20999	
	265	3			4	接合資料	OB三船	4.10	4.30	1.30	14.60	18314	接合(18365・不明)
142	265	4	195		4	ナイフ形石器	OB三船	(3.20)	(2.30)	(1.20)	5.50	18314	
	266	1			1	接合資料	OB三船	3.60	2.90	1.00	7.30	接合資料3点	接合 (21110・21036・注記不明)
	266	2	229		1	ナイフ形石器	OB三船	3.40	2.20	1.00	5.60	21110	接合 (21036)
	266	3			1	剥片	OB三船	2.70	1.30	0.80	1.70	注記不明	
	267	1			4	接合資料	OB三船	5.90	4.40	1.80	21.10	接合資料 9 点	接合 (21353・18319・注記不明他)
	267	2			4	剥片	OB三船	1.30	1.80	0.30	0.50	注記不明	24 (2100)
	267	3			4	スクレイパー	OB三船	2.90	2.20	0.90	4.10	21353	接合 (注記不明)
143	267	4			4	剥片	OB三船	3.90	3.30	1.00	9.90	注記不明	18 T (X180 1 191)
	267	5			4	接合資料	OB三船	3.60	3.40	1.00	6.60	18319	接合(注記不明2点)
		_	100	-									按白 (注記小明 2 点)
	267	6	199		4	台形石器	OB三船	3.00	1.50	0.70	2.60	18319	₩ A (10000 `>=7.780 0 E(IL)
	268	1		_	4	接合資料	OB三船	4.00	3.40	1.85	13.36	接合資料4点	接合(18360・注記不明2点他)
	268	2			4	剥片	OB三船	3.90	2.85	1.25	9.89	接合資料3点	接合(18360・注記不明 2 点)
	268	3	202		4	台形石器	OB三船	2.80	2.60	1.20	7.47	18360	
144	268	4	205		4	スクレイパー	OB三船	2.40	2.50	1.00	3.47	注記不明	
	269	1			4	接合資料	OB三船	3.2	4.3	1.72	15.85	接合資料2点	接合 (21345・20904)
	269	2	206		4	削器	OB三船	3.15	2.90	1.10	接合	20904	接合 (21345)
	269	3	204		4	台形石器	OB三船	2.50	1.90	0.80	接合	21345	接合 (20904)
	270	1			1.2.7.39	接合資料	OB三船	7.69	6.25	5.69	142.80	接合資料40点	接合(26740・21428・31548他)
146	270	2			1•2•7	剥片	OB三船	4.90	4.20	3.50	29.40	接合資料7点	接合(26740・21428・17660他)
140	270	3			1•2•7	剥片	OB三船	4.90	4.10	0.80	19.10	26740	接合(17660・32317・21317他)
	270	4			2	剥片	OB三船	2.60	3.70	1.50	10.30	21428	接合(不明)
	270	5			1-2-7-39	接合資料	OB三船	6.90	5.90	4.40	113.40	接合資料33点	
147	270	6			7	剥片	OB三船	3.70	4.40	2.00	22.40	31548	接合 (31501)
	270	7	236		39	台形石器	OB三船	2.30	1.90	1.00	2.20	105152	
	270	8			1-2-7-39	接合資料	OB三船	5.80	5.80	4.40	84.00	28点接合	
	270	9	209		39	ナイフ形石器	OB三船	2.80	2.00	0.90	3.40	26783	
148	270	10			1.2.7.39	剥片	OB三船	4.50	3.40	1.00	15.90	21543	接合(他4点)
	270	11			1.2.7.39	剥片	OB三船	4.50	2.90	1.00	7.40	注記不明	接合(注記不明3点)
	270	12			1.2.7.39	石核	OB三船	3.20	5.80	3.10	41.60	12点接合	
	271	1			1 • 2	接合資料	OB三船	4.00	5.00	4.10	49.40	接合資料11点	
	271	2	228		1	ナイフ形石器	OB三船	2.70	2.00	1.30	5.20	21118	
150	271	3			1	剥片	OB三船	2.90	1.50	1.10	3.30	21179	
	271	4			1 • 2	剥片	OB三船	2.90	1.50	0.40	1.00	接合資料 8 点	接合(17688・31120・17750他)
	271	5	-		1 • 2		OB三船	4.40	4.50	3.60	39.90	13950	3×日(1/000:31120・1//30世)
		_				剥片							
	271	6			1 • 2	剥片	OB三船	2.00	1.30	0.40	0.80	注記不明	+±∧ /1775^\
	271	7			2	剥片	OB三船	3.20	2.30	0.60	3.10	31120	接合 (17750)
151	271	8			1	剥片	OB三船	2.30	2.30	1.30	4.50	20946	
	271	9			1 • 2	剥片	OB三船	3.10	2.50	1.10	8.50	注記不明	
	271	10		_	1 • 2	接合資料	OB三船	3.20	4.00	2.30	21.30	17688	接合 (17681)
	271	11	224		2	台形石器	OB三船	2.00	1.90	1.10	2.60	17688	
	271	12			1	石核	OB三船	3.20	4.00	1.90	18.70	17681	
153	272				1 • 2	接合資料	OB三船	-	-	-	-	接合資料20点	接合(17694・21119・20941他)
	273	1		\Box	2	接合資料	OB三船	2.20	3.90	2.90	13.93	接合資料2点	接合(17718・17743)
	273	2	227		2	台形石器	OB三船	2.20	2.40	0.80	3.07	17718	
	273	3			2	剥片	OB三船	3.75	2.20	1.90	10.86	17743	
	274	1			7	接合資料	OB三船	5.20	3.50	3.60	12.00	接合資料 5 点	接合(27142・31534・26708他)
154	274	2			7	剥片	OB三船	2.60	2.70	1.20	4.60	27142	
	274	3			7	剥片	OB三船	2.20	1.60	0.50	1.10	31534	
	274	4			7	剥片	OB三船	2.20	2.10	0.80	2.50	26708	
	274	5	213		7	ナイフ形石器	OB三船	3.20	1.80	1.10	3.80	31535	
	L/+	J	213	_		ノーノハバ山倉庁		J.20	1.00	1.10	3.00	31333	1

第10表 第 I 文化層石器一覧表(7)

弗IU衣	牙	, I	又化	3口码-	「見衣(/)							
挿図番号	番	号	(番号)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	275	1		7	接合資料	OB三船	2.80	4.70	4.00	32.80	接合資料 6 点	接合(32831・26796・20199他)
	275	2		7	接合資料	OB三船	2.80	3.90	3.40	25.60	32831	接合 (20199)
155	275	3	212	7	ナイフ形石器	OB三船	2.40	1.50	1.30	4.20	26796	
155	275	4		7	剥片	OB三船	1.90	1.80	0.90	3.00	注記不明	
	275	5		7	剥片	OB三船	3.10	2.60	1.50	12.30	32831	
	275	6		7	石核	OB三船	2.50	3.50	1.70	13.30	20199	
	276	1		7	接合資料	OB三船	4.10	7.50	4.40	72.10	接合資料13点	接合(26754・26771・注記不明他)
156	276	2		7	スクレイパー	OB三船	3.10	2.70	1.50	8.50	26754	
	276	3	04.4	7	剥片	OB三船	3.40	2.80	1.40	9.00	注記不明	
	276	4	214	7	台形石器	OB三船	2.40	2.30	1.10	3.90	26771	1÷ A ('\====================================
157	276 276	5 6		7	石核 剥片	OB三船 OB三船	4.10 2.40	5.10 1.90	4.00 1.30	47.10 4.30	注記不明注記不明	接合(注記不明7点)
	276	7		7	サイフ形石器	OB三船	3.20	1.70	0.90	3.60	注記不明	
	277	1		1.2.3	接合資料	OB三船	5.30	4.70	1.60	31.20	接合資料12点	
159	277	2		1.2.3	接合資料	OB三船	5.50	3.70	2.00	18.80	注記不明	接合(注記不明7点)
155	277	3		1.2.3	接合資料	OB三船	4.40	3.60	1.20	13.70	注記不明	接合(注記不明5点)
	277	4		1.2.3	剥片	OB三船	1.70	1.90	0.70	1.80	注記不明	1英日 (江町·1·9) 3 /K/
	277	5		1	剥片	OB三船	3.50	2.30	1.20	8.50	注記不明	
160	277	6		1 • 2	剥片	OB三船	4.50	3.20	1.70	12.40	注記不明	
	277	7	230	1.2.3	使用痕剥片	OB三船	3.00	1.70	1.30	4.20	注記不明	接合(注記不明5点)
	278	1		7 • 39	接合資料	OB三船	7.10	6.80	2.80	99.40	接合資料19点	接合(32768・31563・26758他)
161	278	2		7 • 39	接合資料	OB三船	2.80	5.20	4.80	48.07	接合資料 9 点	接合(105146・26749・26730他)
100	279	1		2 • 39	接合資料	OB三船	6.70	6.90	3.90	99.10	接合資料27点	接合(21565・22114・注記不明他)
162	279	2		2	石核	OB三船	3.40	4.50	2.80	29.80	21565	接合 (21565・注記不明12点)
	279	3	225	2	台形石器	OB三船	2.30	2.20	0.90	3.40	22114	
	279	4		39	二次加工剥片	OB三船	3.90	2.80	1.60	11.90	注記不明	
	279	5		2	二次加工剥片	OB三船	4.30	2.40	1.10	9.70	21565	
163	279	6		39	石核	OB三船	1.90	2.90	2.40	8.20	注記不明	
103	280	1		38	接合資料	OB三船	4.80	6.20	2.60	42.80	接合資料5点	接合(105291・105293・注記不明他)
	280	2		38	剥片	OB三船	5.10	3.40	1.10	15.50	注記不明	接合(注記不明5点)
	280	3		38	剥片	OB三船	4.60	2.80	1.90	15.50	105291	接合(105803)
	280	4		38	剥片	OB三船	4.20	2.90	1.50	11.80	105293	
	281	1		38	接合資料	OB三船	5.00	5.00	5.50	95.30	接合資料22点	
165	281	2		38	剥片	OB三船	4.00	2.70	1.00	6.80	105764	接合(他4点)
	281	3		38	剥片	OB三船	3.50	(2.80)	1.00	7.60	105198	接合(105439・104884)
	281	4		38	剥片	OB三船	1.90	3.00	1.00	4.00	105490	接合(他3点)
	281	5		38	石核	OB三船	4.70	3.40	5.00	71.90	10点接合	1+ A (((L O F)
166	281 281	6 7		38	剥片	OB三船 OB三船	3.10 4.00	3.20 3.40	1.00	3.30 8.80	105679	接合(他2点)
100	281	8		38	剥片	OB三船	3.40	2.90	1.70	11.80	104907 105663	接合(他2点)
	281	9		38	石核	OB三船	4.00	2.70	4.40	40.30	105555	接合(105555・105208・104928)
	282	1		38	接合資料	OB三船	3.50	4.80	5.30	56.70	接合資料13点	J&日(100000 100200 104020)
	282	2	255	38	台形石器	OB三船	2.20	2.00	0.90	3.00	105554	
	282	3		38	石錐	OB三船	2.30	2.00	1.00	2.70	注記不明	
167	282	4		38	剥片	OB三船	2.70	3.00	1.50	5.80	注記不明	
	282	5		38	剥片	OB三船	3.80	1.70	1.00	2.30	105630	
	282	6		38	剥片	OB三船	2.20	2.00	0.70	2.10	105703	
	282	7		38	接合資料	OB三船	3.40	4.30	4.20	40.80	8 点接合	
	282	8	258	38	台形石器	OB三船	2.10	2.20	1.00	3.40	105030	
	282	9		38	使用痕剥片	OB三船	3.10	3.00	0.70	6.40	105360	
	282	10		38	剥片	OB三船	3.30	2.00	1.50	4.70	-	
168	282	11		38	剥片	OB三船	(1.80)	(1.50)	1.00	2.40	-	
	282	12		38	剥片	OB三船	2.00	1.30	0.60	0.90	105625	
	282	13		38	石核	OB三船	3.10	4.30	2.40	22.90	105761	接合(105567・注記不明)
	282	14	254	38	台形石器	OB三船	1.90	2.00	0.70	2.00	105761	
	282	15		38	剥片	OB三船	1.90	1.90	0.70	1.30	105567	1 A (104000 105400 105441(ib)
	283	1		38	接合資料	OB三船	3.90	5.40	4.80	70.30	接合資料11点	接合(104839・105430・105441他)
169	283	2		38	剥片	OB三船	5.00	4.30	1.10	16.60	104839	接合(注記不明2点)
	283	3 4		38	剥片 石核	OB三船 OB三船	3.10	2.60 5.00	1.50 3.80	7.80 45.90	105430 104887	接合(注記不明 2 点) 接合(105441・105745・104912他)
	283	5		38	剥片	OB三船	2.90	3.90	0.50	6.70	104887	接合(注記不明2点)
	283	6	 	38	剥片	OB三船	3.00	2.60	1.30	8.80	105745	
170	283	7		38	石核	OB三船	2.50	4.50	3.30	30.40	103743	接合 (104912)
	283	8	253	38	台形石器	OB三船	2.20	2.20	1.20	3.80	104922	22 (101012)
		9		38	石核	OB三船	2.50	3.90	3.30	26.60	104887	
	283			+				4.30	3.00	34.90	接合資料 5 点	接合(105300・105053・10557他)
	283 284	1		38	接合資料	OB三船	3.40		3.00			
		_		38	接合資料	OB三船	2.00	3.00	0.90	4.00	105300	接合 (105063)
171	284	1									<u> </u>	
171	284 284	1 2		38	剥片	OB三船	2.00	3.00	0.90	4.00	105300	接合(105063)

第11表 第 [文化層石器一覧表(8)

わロ女	, A	э т	スル	ノ百	一台	見公(0)							
挿図番号	番	号	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	285	2			39	剥片	OB三船	2.10	2.30	0.90	3.50	104803	接合 (注記不明)
172	285	3			39	剥片	OB三船	2.30	2.90	0.80	3.80	105137	接合 (注記不明)
1/2	285	4			39	剥片	OB三船	1.80	3.90	1.70	6.20	105407	接合 (注記不明)
	285	5	237		39	石核	OB三船	1.80	3.80	2.40	10.40	104794	
	286	1			38	接合資料	OB三船	3.60	3.60	3.50	28.50	接合資料5点	接合(104946・105203・注記不明他)
174	286	2			38	剥片	OB三船	2.90	2.20	1.40	8.10	104946	接合(注記不明3点)
174	286	3			38	剥片	OB三船	3.00	3.20	1.40	7.60	注記不明	
	286	4			38	石核	OB三船	2.30	3.60	2.30	12.80	105203	
	287	1			38	接合資料	OB三船	5.30	2.90	2.90	15.10	接合資料 5 点	接合 (105633・105410・105213他)
	287	2			38	剥片	OB三船	4.10	2.30	1.10	7.90	105633	接合 (105410)
175	287	3			38	台形石器	OB三船	2.00	1.90	1.10	3.10	105633	
	287	4			38	台形石器	OB三船	2.40	2.30	1.10	4.80	105410	
	287	5			38	剥片	OB三船	3.30	2.10	1.10	5.60	105213	
	288				21	ナイフ形石器	頁岩	3.50	2.05	1.10	6.60	57551	
	289				21	ナイフ形石器	珪質頁岩	3.10	1.80	0.90	3.96	58889	
	290				21	ナイフ形石器	OB三船	3.15	2.20	0.90	4.63	57389	
	291				21	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.65	2.00	0.90	6.43	61109	
	292				21	ナイフ形石器	OB三船	1.90	1.30	0.60	0.43	58877	
	293				21			1.60	0.70	0.60	0.38	57384	先端
101			202			ナイフ形石器	たんぱく石						プログ語
181	294		393	9	21	台形石器	珪質頁岩	3.80	2.30	1.40	9.08	57557	
	295				21	台形石器	安山岩	3.70	1.60	0.80	4.24	58864	
	296				21	台形石器	OB三船	2.90	3.30	1.25	9.11	57374	
	297				21	台形石器	鉄石英	2.05	1.40	0.60	1.42	58972	
	298				21	台形石器	OB上牛鼻	3.00	2.80	1.10	6.14	57371	
	299				21	台形石器	OB上牛鼻	1.70	2.00	0.60	1.25	57518	
	300				21	台形石器	OB三船	1.80	1.80	0.60	5.89	58906	
	301				21	スクレイパー	白色頁岩	4.55	3.05	1.25	15.76	57515	
	302				21	スクレイパー	OB三船	3.60	3.50	0.90	7.63	58836	
	303				21	削器	OB三船	4.00	4.45	1.09	32.50	57512	
182	304				21	折断	OB上牛鼻	2.70	2.50	0.80	接合	60915	
102	305				21	スクレイパー	頁岩	4.65	3.05	1.00	9.05	58803	
	306				21	スクレイパー	頁岩	4.60	2.40	1.41	12.07	57545 • 57532	
	307				21	ノッチ・UF	OB上牛鼻	5.65	4.20	1.50	接合	61105	
	308				21	ナイフ形石器	OB三船	2.25	2.00	1.20	3.68	57393	
	309		391	3	21	掻器	頁岩	5.25	5.20	1.90	56.14	58950	
	310		394	4	21	UF	鉄石英	3.00	2.30	0.95	3.45	58862	
	311				21	UF	OB三船	3.10	3.40	1.00	6.55	58831	
183	312				21	UF	OB三船	2.00	2.60	0.60	2.28	58841	
	313				21	UF	OB三船	1.70	2.40	0.55	1.49	58882	
	314		394	3	21	使用痕剥片	鉄石英	1.65	2.55	0.55	1.66	60970	
	315			Ť	21	折断	OB三船	2.25	3.20	1.43	9.30	58832	
	316				21	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.60	1.80	1.10	6.41	64569	
	317		392	3	21	ナイフ形石器	珪質頁岩	3.25	1.60	3.10	4.77	64581	
	318		332	-	21	ナイフ形石器	白色頁岩	3.80	2.60	1.00	7.93	64588	
	319		392	2	21		珪質頁岩		1.89		3.77		
184	320		392	2	21	台形石器		2.95		4.43		64568 64853	
							黒色頁岩	1.70	1.60	0.90	3.10		
	321				21	スクレイパー	OB上牛鼻	4.10	2.50	1.90	19.72	64596	
	322			-	21	ナイフ形石器	珪質頁岩	5.10	3.80	1.10	19.31	64591	
	323			-	21	石核	頁岩 OD L H 自	4.00	4.90	2.65	41.62	64576	
	324			-	24	ナイフ形石器	OB上牛鼻	4.60	2.40	0.90	6.59	84000	
	325			-	24	ナイフ形石器	OB三船	3.30	2.20	1.10	5.74	92259	4-40
	326				24	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.00	2.60	0.90	4.84	84002	先端
	327				24	ナイフ形石器	頁岩	3.50	1.20	1.00	3.27	92287	d 10
	328				24	ナイフ形石器	OB三船	2.00	1.60	1.20	2.92	84037	先端
187	329				24	ナイフ形石器	OB三船	3.15	2.30	1.10	7.67	84064	分析No.52
	330		398	5	24	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.25	2.40	1.50	7.78	96675	
	331				24	ナイフ形石器	OB三船	2.90	1.70	0.60	2.91	84077	分析No.53
	332				24	ナイフ形石器	白色頁岩	3.40	2.20	0.90	4.74	84053	
	333	L		L	24	台形石器	OB三船	1.50	1.30	0.55	0.84	94618	
	334			L	24	台形石器	OB上牛鼻	2.70	1.85	0.60	3.06	84048	
	335				24	折断UF	珪質頁岩	3.00	3.90	1.10	13.76	92303	
	336				25	ナイフ形石器	黒色珪質頁岩	4.15	1.80	1.00	5.01	96580	
	337				25	ナイフ形石器	黒色珪質頁岩	3.70	1.50	1.20	接合	103086	
	338				25	ナイフ形石器	頁岩	3.60	1.50	1.00	3.76	94529	
	339				25	ナイフ形石器	頁岩	1.85	2.00	0.80	3.70	94341	
					25	ナイフ形石器	頁岩	1.50	1.10	0.70	0.69	103079	先端
188	340		ı	-				3.70	1.60	1.00	4.81	84205	
188	340				25	ナイフ形石器	自労						
188	341				25 25	ナイフ形石器	頁岩 百岩			-			
188					25 25 25	ナイフ形石器 ナイフ形石器 ナイフ形石器	見岩 頁岩 頁岩	2.30	1.89	0.90	1.93	99508 95130	先端

第12表 第 I 文化層石器一覧表(9)

为1230	713		~ IL	<i>,,</i> ,,	1146	見公(3)							
挿図番号	番号	킂	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	345				25	ナイフ形石器	OB三船	3.75	1.60	1.30	5.88	84231	
188	346		399	2	25	台形石器	OB三船	3.00	1.80	1.40	5.41	95186	
	347		403	3	25	ナイフ形石器	OB三船	3.60	2.70	1.60	接合	92053	
	348				25	ナイフ形石器	OB三船	3.10	2.00	1.30	6.16	92242	
	349				25	ナイフ形石器	OB三船	2.50	2.45	1.20	4.73	92021	先端
	350				25	ナイフ形石器	OB三船	2.60	1.40	0.90	2.34	96634	先端
	351				25	ナイフ形石器	OB三船	1.90	1.30	1.15	2.38	95095	基部
	352				25	台形石器	OB三船	2.70	2.15	0.95	4.54	接合資料2点	接合 (96227・99655)
	353		403	2	25	台形石器	OB三船	2.80	1.95	1.10	4.91	96612	
	354		404	3	25	台形石器	黒色頁岩	3.30	2.75	0.90	接合	96439	
189	355				25	折断台形	OB三船	2.40	1.10	0.50	1.29	97529	
	356				25	台形石器	OB三船	1.50	1.25	0.30	0.47	96548	
	357				25	掻器	OB三船	3.05	2.80	1.15	9.36	84233	
	358				25	スクレイパー	OB上牛鼻	3.05	2.60	1.40	7.94	84191	
	359				25	スクレイパー	OB三船	3.40	2.05	0.90	5.72	96566	
	360				25	スクレイパー	OB三船	3.90	3.60	1.65	18.80	95227	
	361				25	掻器	OB上牛鼻	2.70	4.10	1.40	10.82	103065	
	362				25	スクレイパー	OB三船	2.80	3.60	1.20	10.03	84096	
	363		400		25	折断ナイフ形石器	OB三船	4.20	3.25	1.90	17.53	92086	
	364		402	2	25	UF石錐	珪質頁岩	3.00	1.10	0.50	1.20	84116	
	365		400	9	25	台形石器	珪質頁岩	1.70	2.30	0.70	2.12	84195	
190	366		400	3	25	剥片	珪質頁岩	2.20	3.20	0.75	3.63	103055	
	367 368		400	7	25 24	剥片 UF	珪質頁岩 珪質頁岩	2.20 1.95	2.50 2.65	0.95	4.22 2.76	96095 84073	
	369		400	/	25	石核	在貝貝石 OB三船	3.80	3.10	2.60	25.69	92024	
	370				25	石核	たんぱく石	3.00	4.30	3.90	37.34	92069	
	371				28	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.30	1.90	1.10	6.54	92316	
	372				28	折断台形	OB三船	2.50	2.50	1.10	5.13	92327	
	373				26	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.40	3.70	1.35	8.29	84269	
	374				26	ナイフ形石器	鉄石英	3.70	2.80	1.40	12.78	92000	
191	375				26	折断台形	OB上牛鼻	2.10	1.50	0.50	1.46	91986	
131	376				26	石錐	頁岩	5.30	3.60	1.30	19.96	84291	
	377				26	掻器	OB上牛鼻	4.00	2.20	1.20	8.04	99222	
	378				26	掻器	OB上牛鼻	2.60	2.30	0.65	6.17	96907	
	379				26	石核	OB上牛鼻	2.85	1.85	3.20	13.14	91981	
	380				32	台形石器	ギョクズイ	2.20	2.00	0.50	2.09	96974	
	381				32	削器	OB上牛鼻	3.20	1.80	0.80	4.03	92948	
	382				32	削器	OB上牛鼻	3.40	2.40	0.90	7.14	95005	
	383				32	削器	ギョクズイ	2.70	2.30	0.60	2.85	92973	
	384				32	石核	ギョクズイ	3.70	2.60	2.30	22.49	92971	
194	385				32	敲石	砂岩	7.00	4.80	2.75	122.22	92972	
	386				33	台形石器	OB上牛鼻	2.50	2.00	0.80	3.15	94777	
	387				33	折断台形	OB上牛鼻	2.10	1.40	0.80	接合	96348	
	388				33	三稜尖頭器	頁岩	7.30	2.80	2.25	47.67	95939	
	389				33	削器	OB上牛鼻	2.30	2.60	1.00	5.56	94785	
	390				33	RF	頁岩	3.10	2.00	0.80	接合4.50	94780	
	391	1			21	接合資料	頁岩	6.00	5.20	2.00	58.09	接合資料2点	接合 (58838・58950)
	391	2			21	剥片	頁岩	1.40	2.70	0.80	1.95	58838	
195	391	3	309		21	掻器	頁岩	5.25	5.20	1.90	56.14	58950	
	392	1			21	接合資料	珪質頁岩	3.10	2.70	7.44	8.54	接合資料2点	接合(64568・64581)
	392	2	319		21	台形石器	珪質頁岩	2.95	1.89	4.43	3.77	64568	
	392	3	317		21	ナイフ形石器	珪質頁岩	3.25	1.60	3.10	4.77	64581	
	393	1			21 • 24 • 28	接合資料	珪質頁岩	4.50	3.50	1.40	16.52	接合資料 8 点	接合(94613・96695・92312他)
	393	2			24	剥片	珪質頁岩	1.30	2.10	0.50	0.70	94613	
	393	3			28	剥片	珪質頁岩	1.50	2.20	0.40	1.67	96695	
-	393 393	5			28	剥片	珪質頁岩 珪質頁岩	1.40 2.10	2.20 1.30	0.50 1.00	1.13	92312 96953	
-	393 393	7			28	剥片	珪質頁岩 珪質頁岩	1.30	1.10	0.35	0.48	96685 92309	
196	393	8			28	剥片	珪質頁岩	1.30	1.10	0.50	0.70	94629	
	393	9	294		21	台形石器	珪質頁岩	3.80	2.30	1.40	9.08	57557	
	394	1	204		21	接合資料	鉄石英	3.60	3.50	2.35	15.78	接合資料4点	接合 (58894・60970・58862他)
-	394	2		\vdash	21	剥片	鉄石英	1.60	2.30	0.70	1.62	58894	22 (0000 TOOOZ (B)
}	394	3	314		21	使用痕剥片	鉄石英	1.65	2.55	0.70	1.66	60970	
-	394	4	310		21	UF	鉄石英	3.00	2.30	0.95	3.45	58862	
}	394	5	3.0		21	剥片	鉄石英	3.10	2.20	1.50	9.05	58951	
	395	1			21	接合資料	OB三船	3.35	4.10	3.20	37.90	接合資料2点	接合 (57381・58918)
}	395	2			21	剥片	OB三船	-	-	-	-	57381	
197	395	3			21	石核	OB三船	-	-	-	-	58918	
	396	1			21	石核	OB上牛鼻	2.45	3.30	3.70	接合	61098	
	550	- 1				- L-1/2	- フレエー斧	2.73	5.50	3.70	18.0	01000	

第13表 第 I 文化層石器一覧表(10)

知1330	713				1110	- 見 久 (10)							
挿図番号	番号	号	(番号	;)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
197	396	2			21	石核	OB上牛鼻	2.90	3.10	2.90	接合	58867	
	397	1			21	接合資料	珪質頁岩	6.75	7.10	3.50	177.51	接合資料5点	接合 (58194・58914・58837他)
198	397	2			21	石核	珪質頁岩	3.20	6.90	4.10	82.30	58194	
	397	3			21	RF	珪質頁岩	2.10	3.10	1.00	6.27	58915	
199	397	4			21	石核	珪質頁岩	3.00	6.80	3.85	72.42	接合資料2点	接合 (58912・58947)
	397	5			21	剥片	珪質頁岩	3.35	2.85	1.25	6.52	58837	
	398	1			24	接合資料	OB上牛鼻	5.60	3.00	1.65	20.42	接合資料4点	接合 (83999・92235・96675他)
	398	2			24	剥片	OB上牛鼻	3.30	2.70	1.50	10.21	接合資料3点	接合 (96675・83999・92235)
	398	3			24	剥片	OB上牛鼻	1.70	2.15	0.41	1.35	83999	
201	398	4			24	剥片	OB上牛鼻	1.30	1.70	0.50	1.08	92235	
	398	5	330		24	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.25	2.40	1.50	7.78	96675	
	399	1			25	接合資料	OB三船	5.60	2.10	2.30	13.29	接合資料3点	接合 (84192・95186・注記不明他)
	399	2	346		25	台形石器	OB三船	3.00	1.80	1.40	5.41	95186	
	399	3			25	剥片	OB三船	5.60	2.00	1.00	7.88	接合資料2点	接合 (84192・注記不明)
	400	1	007		24 • 25	接合資料	珪質頁岩	2.05	3.75	2.60	16.86	接合資料9点	接合(96095・103055・84197他)
	400	2	367		25	剥片	珪質頁岩	2.20	2.50	0.95	4.22	96095	
	400	3	366		25	剥片	珪質頁岩	2.20	3.20	0.75	3.63	103055	h
	400	4			25	剥片	珪質頁岩	1.80	1.95	0.70	1.19	接合資料2点	接合 (84197・94365)
202	400	5			25	剥片	珪質頁岩	0.80	1.05	0.30	0.23	84197	
	400	6	000		25	剥片	珪質頁岩	1.30	1.70	0.30	0.55	102880	
	400	7	368		24	UF	珪質頁岩	1.95	2.65	0.70	2.76	84073	
	400	8	207		25	剥片	珪質頁岩	1.70	2.40	0.65	1.54	84200	
	400	9 10	365	_	25 25	台形石器	珪質頁岩	1.70	2.30	0.70	2.12	84195	
						剥片	珪質頁岩	1.50	1.55		0.62	103064	接合 (99610・96481・92059他)
	401	2			25 25	接合資料	珪質頁岩 珪質頁岩	1.80	4.60	1.85	8.89	接合資料7点	接音 (99610・96481・920591世)
203	401 402	1			25	接合資料	珪質頁岩	1.30	4.30 3.80	1.00 2.20	3.20 11.63	99596 接合資料 9 点	接合 (92244・99906・98995他)
	402	2	364		25	UF石錐	珪質頁岩	3.00	1.10	0.50	1.20	84116	
	402	1	304		25	接合資料	び OB三船	3.85	3.50	1.95	14.74	接合資料2点	接合 (96612・92053)
	403	2	353		25	台形石器	OB三船	2.80	1.95	1.10	4.91	96612	
	403	3	347		25	ナイフ形石器	OB三船	3.60	2.70	1.60	接合	92053	
204	404	1	347		25	接合資料	黒色頁岩	2.65	3.55	1.20	7.64	接合資料 2 点	接合 (95146・96439)
	404	2			25	剥片	黒色頁岩	1.85.	3.00	1.10	2.84	95146	1女日(33140:30433)
-	404	3	354		25	折断ナイフ形石器	黒色頁岩	3.30	2.75	0.90	接合	96439	
	405	1	334		26	接合資料	頁岩	5.80	2.60	4.40	35.38	接合資料2点	接合 (91997・84284)
205	405	2			26	剥片	頁岩	2.75	2.10	0.80	2.79	91997) <u>JR (31337 04204)</u>
-500	405	3			26	石核	頁岩	5.60	2.20	3.45	32.59	84283	
	406	_			22	ナイフ形石器	編砂岩	3.95	2.30	1.10	7.50	66150	
	407				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.75	1.80	0.90	3.40	66089	
	408				22	ナイフ形石器	OB三船	4.10	2.20	1.20	6.60	63490 • 65187	
	409				22	ナイフ形石器	黒色頁岩	7.15	3.10	1.70	23.70	66123	
212	410				22	削器	OB上牛鼻	3.70	2.50	1.10	9.09	92913	
	411				22	削器	OB上牛鼻	3.70	3.50	1.35	15.67	66056	
	412				22	掻器	OB上牛鼻	3.35	3.00	1.40	13.17	66113	
	413				22	彫器	OB上牛鼻	3.20	1.20	0.95	2.74	66108	
	414				22	石核	OB上牛鼻	2.40	3.00	2.30	11.61	66083	
	415				22	石核	OB上牛鼻	3.20	2.65	1.60	11.05	66141	
	416				22	石核	ギョクズイ	3.30	2.50	2.15	22.04	66057	
	417				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.05	2.00	0.80	4.28	67933	
	418				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	1.40	1.40	0.70	1.21	67105	先端
213	419				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.20	2.00	0.55	4.38	69752	
	420				22	ナイフ形石器	頁岩	3.00	2.30	1.10	5.72	96954	
	421				22	尖頭器片	頁岩	4.40	2.10	0.55	3.67	66285	
	422				22	削器	凝灰岩	3.40	2.10	1.10	6.39	67948	
	423		550	5	22	掻器	安山岩	6.00	5.60	2.10	53.56	68253 • 68264	
	424				22	スクレイパー	頁岩	5.75	4.70	2.10	36.59	67098	
	425				22	スクレイパー	頁岩	4.20	4.50	1.20	21.22	68177	
	426				22	掻器	OB上牛鼻	2.70	2.80	1.70	9.39	68150	
214	427		550	3	22	剥片	OB上牛鼻	1.40	3.50	1.00	2.42	68179	
	428		551	2	22	剥片	OB上牛鼻	2.75	1.70	1.10	4.92	67319	
	429		550	2	22	剥片	OB上牛鼻	2.30	2.40	0.80	3.96	67064	
	430		551	3	22	石核	OB上牛鼻	3.70	2.90	3.00	24.85	68192	
	431				22	台形石器	OB上牛鼻	2.40	1.90	0.55	3.79	95549	
	432				22	台形石器	OB三船	3.00	2.30	1.40	接合	96957・注記不明	64975と接合されて(454・559-4)
	433				22	ナイフ形石器	ギョクズイ	2.90	2.20	0.50	2.23	92879	
215	434			_	22	剥片尖頭器	安山岩	9.50	3.30	1.10	37.37	92900	
	435				22	剥片尖頭器	頁岩	5.45	1.90	1.20	13.65	96964	
	436				22	剥片尖頭器	頁岩	5.40	1.90	1.00	9.22	95550	
	437				22	部分加工ナイフ	頁岩	6.85	2.90	1.10	16.66	92890	
	438				22	剥片尖頭器	頁岩	6.00	1.70	1.80	接合	67967	

第14表 第 I 文化層石器一覧表(11)

加144	21.1	- ^	U/E	11111	見久(11/							
挿図番号	番号	(者	5号)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	439			22	掻器	OB上牛鼻	3.60	2.50	1.40	7.83	96958	
	440	552	3	22	スクレイパー	OB上牛鼻	3.25	2.60	0.95	6.30	92864	
	441			22	削器	縞砂岩	3.30	3.55	0.80	6.87	92893	
	442			22	削器	黒色頁岩	5.20	4.80	0.80	12.86	67964	
216	443			22	加工UF	OB三船	4.40	2.20	1.40	9.30	96969	
	444			22	折断台形	OB上牛鼻	2.70	2.35	1.40	7.85	67954	
	445			22	UF	縞砂岩	4.80	2.60	1.15	9.15	92876	
	446	561	2	22	剥片	OB三船	2.70	2.10	1.20	4.00	92880	
	447			22	石核	OB三船	2.60	4.00	2.80	23.04	92860	
	448			22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.15	1.65	1.20	4.27	65640	
	449			22	ナイフ形石器	OB三船	3.00	1.90	0.80	3.38	67179	
	450			22	ナイフ形石器	OB三船	2.75	1.50	0.65	2.03	67293	
	451			22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.80	2.50	0.90	6.83	65625	
220	452			22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.35	1.70	0.70	3.55	68002	
	453			22	ナイフ形石器	黒色珪質頁岩	4.40	1.90	1.10	6.50	65624	
-	454	559	4	22	ナイフ形石器	OB三船	3.80	3.00	1.45	9.71	接合資料 3 点	接合(64975・96957・注記不明)
-	455			22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	3.80	1.60	1.00	5.73	65622 • 65581	
	456			22	ナイフ形石器	OB三船	3.05	1.40	0.90	3.37	66846	
-	457			22	ナイフ形石器	OB三船	2.50	1.60	0.70	2.39	67159	
-	458			22	ナイフ形石器	OB三船	2.70	2.20	1.10	5.82	65740	
-	459		-	22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.60	1.90	1.15	3.66	65876	
}	460	557	2	22	ナイフ形石器	珪質頁岩 OR=#\	3.75	2.20	1.65	4.79	63097	生神
221	461 462		+	22	ナイフ形石器	OB三船 OB三船	2.20 1.60	2.10 1.70	0.75	2.14 0.87	63099	先端 先端
	463			22		OB三船	1.45	1.10	0.50	0.87	65838	先端
-	464			22	ナイフ形石器	OB三船	2.30	1.70	0.70	2.50	66413 65642	7C ym
+	465		+	22	ナイフ形石器	編砂岩	2.70	1.55	0.90	2.69	65623	基部
	466			22	ナイフ形石器	OB三船	2.70	1.30	0.60	1.42	66837	本 即
	467			22	台形石器	OB三船	2.60	1.75	0.55	2.59	67165	
	468	554	3	22	台形石器	OB三船	2.60	2.55	0.90	4.42	65867	
+	469	354	Ť	22	台形石器	OB三船	3.40	2.00	1.05	5.61	68034	
+	470	_	+	22	台形石器	OB三船	3.55	2.05	1.10	7.98	63104	分析No.62
222	471			22	台形石器	OB三船	3.35	1.60	1.00	5.88	66298)) ·///140.02
	472			22	台形石器	OB三船	1.10	1.10	0.35	0.52	65919	
	473			22	掻器	OB上牛鼻	4.30	3.60	2.10	28.51	68263	
	474			22	掻器	OB上牛鼻	2.70	2.60	1.30	8.36	65637	母指状
	475			22	掻器	頁岩	4.00	3.10	1.80	18.74	65918	
	476			22	掻器	OB上牛鼻	4.60	4.70	1.70	27.05	67109	
	477			22	掻器	OB三船	2.50	2.95	1.45	6.38	65896	
	478			22	スクレイパー	OB上牛鼻	3.90	3.90	1.65	18.20	67192	
223	479			22	折断台形	OB三船	3.40	1.60	1.00	3.81	67169	
	480	553	3	22	スクレイパー	OB三船	2.50	2.50	1.40	25.50	65874	
	481			22	彫器	OB三船	4.95	1.70	0.90	7.20	65939	
	482			22	スクレイパー	頁岩	3.45	5.95	1.70	25.50	67188	
	483			22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.60	3.15	1.50	7.90	65469	
	484	555	3	22	UF	OB三船	2.40	2.70	1.30	7.06	67310	
	485			22	ナイフ形石器	OB三船	2.90	2.00	0.90	4.48	63177	
	486			22	台形石器	OB三船	2.70	2.70	0.80	5.89	65440	
227	487			22	台形石器	OB三船	1.95	1.25	0.50	1.31	65781	
	488			22	台形石器	OB三船	2.80	2.00	1.10	6.40	65789	
	489			22	彫器	OB三船	2.60	1.90	1.00	4.58	65790	
	490	_		22	折断台形	OB三船	2.90	1.90	1.40	5.29	65261	
	491			22	ナイフ形石器	OB三船	3.20	2.30	1.00	4.47	75418 • 66974	
	492			22	ナイフ形石器	OB三船	3.65	1.80	0.80	4.95	63433	
-	493	_		22	ナイフ形石器	OB三船	3.40	1.50	0.80	3.75	66984	
-	494	-	+	22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.70	1.70	1.00	3.66	66880	
	495			22	ナイフ形石器	OB三船	3.10	1.40	1.00	3.65	65650 • 65217	
}	496		-	22	ナイフ形石器	OB三船	3.40	1.50	1.30	5.74	65244	
}	497	_	+	22	ナイフ形石器	OB三船	4.30	2.75	0.80	7.60	66629 • 66603	
228	498	_	+	22	ナイフ形石器	OB三船	2.45	2.10	0.80	2.41	63442	Atena ca
-	499		+	22	ナイフ形石器	OB三船	2.45	1.40	0.75	1.61	72748	分析No.64
}	500		-	22	ナイフ形石器	OB三船	2.80	2.00	0.60	2.99	65671	
}	501		-	22	台形石器	OB三船	2.40	1.80	0.70	2.78	72749	
+	502		+	22		OB上牛鼻	1.80	1.30	0.40	1.12	63610	
}	503	_	+	22	台形石器	OB三船 维工苗	2.80	2.00	0.95	3.70	67245	
	504 505	-	+	22	台形石器 彫器	鉄石英 OB三船	2.90	2.00 1.90	0.75	3.20 4.61	72750	
}	505	_	+	22		OB三船	3.05		1.50		66710 65184	分析No. 66
229	506	_	+	22	掻器 掻器	OB三船	3.40 5.75	3.95 4.90	2.10	13.96 65.30	65184 66280	73 WINO. 00
ŀ		EC1	3	22				-		-		
	508	561	3		掻器	OB三船	2.85	2.95	1.15	6.84	65242	1

第15表 第 I 文化層石器一覧表(12)

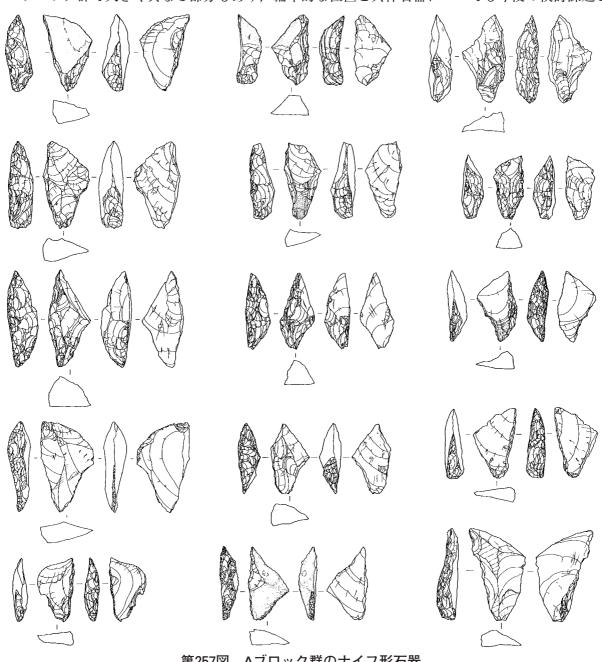
分り公	স্		<u> Л</u> І	一百	1146	見公(12)							
挿図番号	番号	릉	(番号	클)	ブロック	器 種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
	509				22	掻器	OB上牛鼻	2.00	3.10	1.10	7.01	65258	
	510				22	掻器	OB三船	2.85	2.20	1.00	6.00	65223	
229	511				22	掻器	OB三船	2.20	2.30	1.00	4.25	66653	
	512				22	掻器	OB三船	1.30	1.50	0.60	1.24	65657	先端
	513				22	掻器	OB三船	1.40	2.90	1.10	接合	65245	先端
	514		560	3	22	掻器	OB上牛鼻	3.90	3.15	2.10	18.93	66917	
	515				22	台形石器	OB三船	2.26	2.40	1.70	0.60	65234	
	516				22	削器	粘板岩	6.90	2.80	0.57	接合	72727	
230	517		563	4	22	折断台形	OB三船	2.90	3.20	1.20	9.49	65186	
230	518		554	4	22	使用痕剥片	OB三船	4.25	2.22	1.40	8.49	65914	
	_		334	4						0.55			
	519				22	台形石器	OB三船	2.30	1.65		2.39	65665	++ A (05105 05104)
	520				22	使用痕剥片	珪質頁岩	5.40	4.05	1.70	35.34	接合資料2点	接合 (65165・65164)
	521				22	台形石器	OB上牛鼻	3.10	2.50	1.00	6.82	65679	
	522				22	台形石器	OB上牛鼻	2.80	2.50	0.95	5.61	65134	
	523				22	台形石器	ギョクズイ	2.95	2.10	0.50	3.53	65132	
	524				22	台形石器	OB上牛鼻	2.20	2.30	1.10	4.24	72706	
233	525				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.30	2.20	1.10	3.43	65120	基部
233	526				22	敲石・ハンマーストーン	安山岩	2.85	2.70	1.50	14.93	65003	
	527				22	ナイフ形石器	OB三船	3.50	1.60	0.80	4.91	75413 • 75416	
	528		565	2	22	ナイフ形石器	OB三船	1.10	2.60	1.60	8.92	72735	
	529				22	ナイフ形石器	OB上牛鼻	2.70	1.70	0.60	2.32	72736	
	530				22	台形石器	OB上牛鼻	2.90	2.30	0.60	4.10	72754	
	531				22	削器	OB三船	3.45	2.90	1.00	6.73	75421	分析No.65
	532				22	スクレイパー	凝灰岩	2.60	2.45	1.00	3.92	77045	33 - 13 Thailes
	533				22	スクレイパー	OB三船	2.60	1.40	1.10	3.27	73987	
					22	尖頭器	N 板岩		2.70			72739	
	534							2.30		0.35	接合		
234	535				22	削器	OB上牛鼻	3.90	1.70	1.00	3.35	72809	
	536				22	掻器	OB上牛鼻	3.80	2.35	1.50	接合	72779	
	537		564	4	22	剥片	安山岩	1.90	3.00	0.70	4.13	72729	
	538		564	5	22	石核	安山岩	3.70	4.50	1.65	31.78	73985	
	539		564	2	22	剥片	安山岩	1.90	2.35	0.50	2.18	72772	
	540		564	3	22	剥片	安山岩	2.30	3.30	1.30	6.97	73730	
	541				22	石核	ギョクズイ	5.25	3.00	2.70	35.49	72784	
	542				22	石核	OB三船	3.10	2.25	2.70	接合	72734	
235	543				22	石核	OB上牛鼻	3.70	3.40	2.70	15.98	72756	
	544				22	敲石	砂岩	7.80	4.35	3.25	125.99	73961	
	545				22	掻器	OB上牛鼻	3.40	2.75	1.70	12.28	66105	
	546				不明	尖頭器	頁岩	9.60	3.70	1.95	80.00	135563	
	547				不明	敲石	安山岩	7.50	4.90	4.60	220.00	135597	
236	548				不明	石核	珪岩	8.30	5.20	3.60	180.00	135325	
	549				不明	使用痕剥片	珪質頁岩	4.40	3.95	1.25	14.29	135673	
	550	1			22	接合資料	安山岩	6.70	5.60	2.20	60.44	接合資料5点	接合(67064・68179・67185他)
	550	2	429		22	剥片	安山岩	2.30	2.40	0.80	3.96	67064	19年(07004 00173 0710318)
237		_			22		安山岩						
23/	550	3	427			剥片		1.40	3.50	1.00	2.42	68179	
	550	4			22	剥片	安山岩	1.10	2.20	0.40	0.50	67185	
	550	5	423		22	掻器	安山岩	2.33	1.42	0.64	1.64	68253	
	551	1			22	接合資料	OB上牛鼻	4.40	2.90	3.10	29.77	接合資料2点	接合 (67319・68192)
	551	2	428		22	剥片	OB上牛鼻	2.75	1.70	1.10	4.92	67319	
	551	3	430		22	石核	OB上牛鼻	3.70	2.90	3.00	24.85	68192	
	552	1			22	接合資料	OB上牛鼻	3.25	2.75	1.20	7.87	接合資料2点	接合 (92857・92864)
238	552	2			22	剥片	OB上牛鼻	2.70	1.50	0.60	1.57	92857	
	552	3	440		22	スクレイパー	OB上牛鼻	3.25	2.60	0.95	6.30	92864	
	553	1			22	接合資料	OB三船	4.10	2.20	1.62	8.00	接合資料2点	
	553	2			22	ブランディングチップ	OB三船	3.00	1.20	0.90	-	67380	
	553	3	480		22	スクレイパー	OB三船	2.50	2.50	1.40	-	65874	
	554	1			22	接合資料	OB三船	4.50	4.20	2.05	14.58	接合資料 3 点	接合 (65867・65914・65884)
	554	2			22	剥片	OB三船	2.31	1.40	0.60	1.67	65884	,
	554	3	468		22	台形石器	OB三船	2.60	2.55	0.90	4.42	65867	
	554	4	518		22	使用痕剥片	OB三船	4.25	2.22	1.40	8.49	65914	
239	555	1			22	接合資料	OB三船	5.30	3.30	1.85	25.83	接合資料5点	接合 (73977・65897・72766他)
	555	2			22	剥片	OB三船	3.25	2.70	1.00	5.22	72766	(35057 /27001B)
	555	3	484		22	UF	OB三船	2.40	2.70	1.30	7.06	67310	
		_	404										
	555	4			22	剥片	OB三船	3.40	3.00	1.70	11.84	66646	1# A (0F000 00010 0000-11)
	556	1		_	22	接合資料	OB上牛鼻	3.35	3.30	2.15	18.10	接合資料 4 点	接合 (65868・66910・68003他)
	556	2			22	剥片	OB上牛鼻	1.75	2.30	0.50	1.18	65868	
	556	3			22	剥片	OB上牛鼻	2.45	2.30	0.95	4.57	66910	
				1	22	剥片	OB上牛鼻	1.30	2.30	0.70	1.53	68003	
240	556	4			- 22	9971	05117						
240		5			22	石核	OB上牛鼻	3.40	2.90	1.65	10.82	67191	
240	556	_						3.40 7.00	2.90 4.15	1.65 2.30	10.82 23.29	67191 接合資料19点	接合 (63138・65615・66181他)

第16表 第 I 文化層石器一覧表(13)

挿図番号	番	号	(番号	-)	ブロック	器種	石 材	長さ	幅	厚さ	重さ	取上番号	備考
241	558	1			22	接合資料	流紋岩	3.30	7.60	3.50	55.38	接合資料5点	接合 (67313・66266・65257他)
	558	2			22	剥片	流紋岩	3.20	2.10	0.80	4.44	接合資料2点	接合 (66899・67397)
	558	3			22	剥片	流紋岩	3.50	4.70	1.90	22.18	65257	
	558	4			22	剥片	流紋岩	3.65	4.60	1.80	20.52	66266	
	558	5			22	剥片	流紋岩	3.50	3.35	1.10	8.24	67313	
242	559	1			22	接合資料	OB三船	5.75	5.55	2.15	28.34	接合資料10点	接合 (65743・64992・65863他)
	559	2			22	剥片	OB三船	3.10	3.30	1.20	6.94	接合資料3点	接合 (64992・65863・注記不明)
	559	3			22	剥片	OB三船	3.00	3.35	1.50	8.99	接合資料3点	接合(6515?・65159・注記不明)
	559	4	454		22	ナイフ形石器	OB三船	3.80	3.00	1.45	9.71	接合資料3点	接合(64975・96957・注記不明)
243	560	1			22	掻器	OB上牛鼻	4.10	3.00	2.15	20.06	接合資料2点	接合 (65607・66917)
	560	2			22	剥片	OB上牛鼻	1.50	2.15	0.50	1.13	65607	
	560	3	514		22	掻器	OB上牛鼻	3.90	3.15	2.10	18.93	66917	
	561	1			22	接合資料	OB三船	3.70	2.90	1.95	10.84	接合資料2点	接合 (92880・65242)
	561	2	446		22	剥片	OB三船	2.70	2.10	1.20	4.00	92880	
	561	3	508		22	掻器	OB三船	2.85	2.95	1.15	6.84	65242	
244	562	1			22	接合資料	OB三船	4.50	4.00	1.60	28.48	接合資料6点	接合 (66740・65243・66737他)
	562	2			22	剥片	OB三船	1.30	1.30	0.40	0.43	66740	
	562	3			22	スクレイパー	OB三船	4.50	4.00	1.70	28.05	接合資料5点	接合 (65243・68737・66713他)
	563	1			22	接合資料	OB三船	3.60	4.00	1.60	18.41	接合資料 4 点	接合 (66198・72752・65186他)
	563	2			22	剥片	OB三船	3.20	2.80	0.80	4.34	接合資料2点	接合 (66198・注記不明)
	563	3			22	剥片	OB三船	3.60	4.00	1.30	14.07	接合資料2点	接合 (72752・65186)
	563	4	517		22	UF	OB三船	2.90	3.20	1.20	9.49	65186	
245	564	1			22	接合資料	安山岩	1.70	4.50	5.00	45.06	接合資料 4 点	接合(72772・72730・72729他)
	564	2	539		22	剥片	安山岩	1.90	2.35	0.50	2.18	72772	
	564	3	540		22	剥片	安山岩	2.30	3.30	1.30	6.97	73730	
	564	4	537		22	剥片	安山岩	1.90	3.00	0.70	4.13	72729	
	564	5	538		22	石核	安山岩	3.70	4.50	1.65	31.78	73985	
	565	1			22	接合資料	OB三船	3.10	2.20	1.35	接合	接合資料2点	
	565	2	528		22	ナイフ形石器	OB三船	1.10	2.60	1.60	8.92	72735	
251	566				21	敲石	砂岩	8.10	7.25	5.10	350.00	接合資料2点	接合 (72735・65654)
	567				ブロック外	磨石・敲石	安山岩	6.90	6.10	5.25	280.00	129907	
254	568				ブロック外	台形石器	OB上牛鼻	2.40	1.60	0.80	1.99	135417	
	569				ブロック外	ナイフ形石器	凝灰質頁岩	3.60	1.85	1.30	10.26	110843	
	570				ブロック外	掻器	OB三船	3.20	2.95	1.50	10.87	110807	
	571				ブロック外	スクレイパー	タンパク石	3.20	3.00	1.50	16.37	111304	
	572				ブロック外	石核	頁岩	4.50	4.20	1.80	30.69	110834	
	573				ブロック外	石核	頁岩	2.60	5.15	4.35	62.91	124509	
	574				ブロック外	石核	OB上牛鼻	2.70	2.80	2.25	14.92	110804	
255	575	1			ブロック外	接合資料	タンパク石	4.50	6.70	3.25	92.97	110833	
256	575	2			ブロック外	剥片	タンパク石	2.55	2.15	1.40	5.05	110812	
	575	3			ブロック外	石核	タンパク石	4.20	6.50	4.20	92.97	110833	
29	576				39	石核	安山岩	10.70	4.70	3.10	134.62	3925	

第4節 小結

- 第1文化層の課題のいくつかについて提示しておく。
- ①礫群では、接合の実施により、礫群の前後関係が理解できるものも見られた。使用の方法やブ ロック間との関連も問題となる。
- ②石器石材は多種のものが認められており、ブロックにより明確な差異も認められた。特定のブ ロックでは日東産黒曜石も多く、集団の移動経路や領域などについて検討できる状況となった。 ブロックによる石材差は、その形成時期の差についても検討が必要なことを示唆している。
- ③第 I 文化層はA T直上の時期であり、調査中から狸谷型ナイフ形石器が多数出土しているとし て注目されてきた。しかし、狸谷型のバラエティとして考えていた形態の差異はブロック間や ブロック群で大きく異なる部分もあり、編年的な位置と共伴石器についても今後の検討課題と



第257図 Aブロック群のナイフ形石器



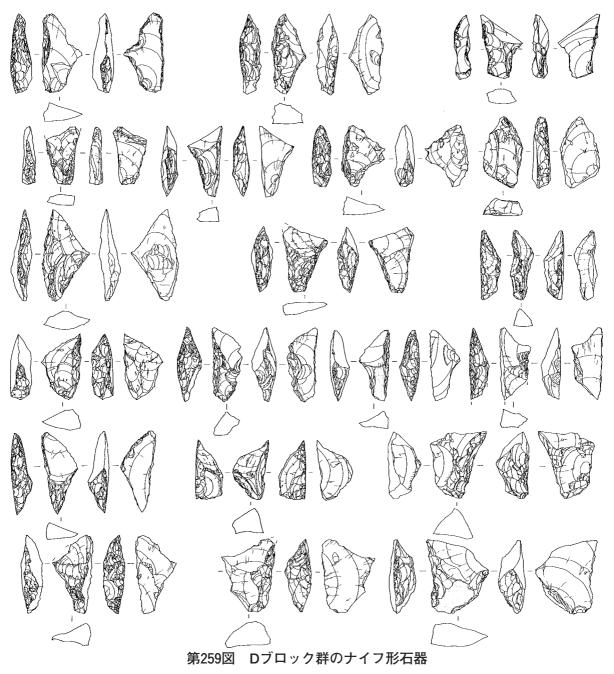
第258図 B, Cブロック群のナイフ形石器と台形石器

して追求していく必要がある。各ブロック群のナイフ形石器については再掲した。

④今回,接合作業を実施することで多くの接合資料を得ることができた。石核となる礫の大きさ,石核から素材剥片としての剥片剥離,そしてナイフ形石器や台形石器の製作までが複数の接合資料により,その一端が明らかとなった。

I文化層の剥片剥離技術を分析・解明するためには、今しばらくの時間が必要である。ここではその見通しを指摘するにとどめたい。これまでAT直上期の狸谷型ナイフ形石器を含む石器群の剥片剥離については、不明確であり、一般的に不定形剥片を素材とすると考えられてきた。

しかし、今回の接合資料の結果、幅広剥片を効率的に連続生産していることが明らかとなり、 かなり意識的に計算された剥片剥離技術であることが指摘できる。今後時間をかけて分析・検 討する必要がある。



最後に第Ⅰ文化層の位置づけに関して若干ではあるが触れておきたい。

仁田尾遺跡第 I 文化層はナイフ形石器と台形石器を主要石器とする石器群であった。ナイフ形石器は切出し形のものであり、そのうち幅広剥片を素材として二側縁加工で短辺をノッチ状に整形する特徴をもつ厚高のものは、狸谷型ナイフ形石器として呼称されている。

本遺跡出土のナイフ形石器はA~Eの5ヵ所のブロック群として識別されており、各々のブロック群では石器の接合も顕著に認められており、ブロック群のなかの各ブロックについては石材が共通しているものは同時性が高いと考えられる。ブロック群のうちA・B・D・Eの各ブロック群のナイフ形石器については、これまで理解されていた狸谷型ナイフ形石器に該当するものと考えられる。これらの石器群の組成はナイフ形石器、台形石器、掻器、削器、彫器などであった。

しかし、Cブロック群の石器群については、使用石材が三船産黒曜石を主体とするものであり、ナイフ形石器の形態は切り出し形であるが比較的小さく、また幅も狭いもので台形石器との区別が困難なものも多い。さらに器種的には台形石器の組成比率が高い。このようなナイフ形石器や石器群の特徴は狸谷型ナイフ形石器のバラエティと考えるより、狸谷形ナイフ形石器とは異なる切り出し形石器の一群として捉えた方がよさそうである。

ただし、切り出し形を呈することから狸谷型ナイフ形石器とはかなり近接した時期の可能性が考えられる。

狸谷型ナイフ形石器を主体とする石器群は、近年南九州の多くの遺跡で出土例が増加している。 箕作遺跡で狸谷型ナイフ形石器を主体とする石器群が出土して注目された後、宮崎県野首第2遺跡でも狸谷型ナイフ形石器の単独器種のみが主体となって出土している。これらの出土例などから、狸谷型ナイフ形石器は剥片尖頭器や三稜尖頭器とは時期を異にするものであることが明らかとなってきている。編年的な位置づけに関しては、AT直上の時期であり、剥片尖頭器を主体とする石器群の前段階として位置づけられるものである。

本遺跡で検出された礫群の炭化物による年代測定結果は、第 X 章で掲載しているように、複数実施しており、BP25120±120年(AMS)、BP26120±870年、26390±1810年、27760±1180年(ベーター)という年代が得られている。AT上位の石器群については剥片尖頭器を主体とする桐木耳取遺跡のBP23000~24290年(AMS)や桐木耳取遺跡でBP24650~24690年(AMS)という測定年代がある。そのまま測定年代を比較するわけにはいかないが、剥片尖頭器を主体とする石器群と狸谷型ナイフ形石器を主体とする石器群との編年的な前後関係を検討する比較材料とはなろう。

参考文献

橘 昌信 1990「AT (姶良Tn火山灰)上位のナイフ形石器文化」『史学論叢』21

松藤和人 1992「南九州における姶良Tn火山灰降灰直後の石器群の評価をめぐって」『考古学と生活文化』

宮田栄二 2006a「剥片尖頭器石器群とその前後の石器群について―南九州における最新の調査成果から―」『縄文 の森から』第4号

宮田栄二 2006c「九州東南部の地域編年」『旧石器時代の地域編年的研究』同成社

宮田栄二 2007「剥片尖頭器と三稜尖頭器の出現及び展開」『九州旧石器』第11号